C-Class

取扱説明書

表記と記載内容について

マーク	内容
*	オプションや仕様により異なる装備には * マークが付いています。
⚠	**警告** 重大事故や命にかかわるけがを未然に防ぐために必ず守っていただきたいことです。
(環境マーク)	**環境** 環境保護のためのアドバイスや守っていただきたいことです。
!	**注意** けがや事故、車の損傷を未然に防ぐため、必ず守っていただきたいことです。
i	**知識** 知っていると便利なことや、知っておいていただきたいことです。
▶	操作手順などを示しています。
(▷ ページ)	関連する内容が他のページにもあることを示しています。

お客様へ

このたびはメルセデス・ベンツ車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書は、車の取り扱い方法をはじめ、機能を十分に発揮させるための情報や、危険な状況を回避するための情報、万一のときの処置などを記載しています。

車をご使用になる前に、本書を必ずお読みください。

- 取扱説明書は、いつでも読めるように必ず車内に保管してください。
- この取扱説明書には、日本仕様とは異なる記述やイラスト、操作方法などが含まれている場合があります。
- 表紙の画像はイメージであり、日本仕様とは異なる場合があります。
- この取扱説明書には、日本仕様には設定されない装備の記述が含まれている場合があります。
- この取扱説明書には、走行速度が100km/h を超えたときの車両機能や状態などについての記述がありますが、公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。
- 装備や仕様の違いなどにより、一部の記述やイラストが、お買い上げいただいた車とは異なることがあります。
- スイッチなどの形状や装備、操作方法などは予告なく変更されることがあります。
- オーディオやナビゲーションに関しては、別冊の「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。
- 車を次のオーナーにお譲りになる場合は、車と一緒にすべての取扱説明書と整備手帳をお渡しください。
- ご不明な点は、お買い上げの販売店またはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ⓘ メルセデス・ベンツ日本㈱ 公式サイト
http://www.mercedes-benz.co.jp/

メルセデス・ベンツ日本株式会社

ア

カ

サ

タ

ナ

ハ

マ

ラ

ワ

A

E

N

S

数字

環境保護について

Daimler AG では、大気汚染の抑制、資源の有効利用をはじめとする環境保護対策に取り組んでいます。環境保護のため、お車をご使用になるときは以下の点にご協力ください。

- 短距離短時間の走行を控えることで、燃料の余分な消費を抑えられます。
- タイヤの空気圧が適正であることを確認してください。
- 停車したままの暖機運転は必要ありません。
- 急発進や急加速は避けてください。
- エンジン回転数がその車の許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- 不必要な荷物を載せたままにしないでください。
- スキーラックやルーフラックが必要でないときは、車から取り外してください。
- 長時間の停車時は、エンジンを停止してください。
- メルセデス・ベンツ指定サービス工場で適切な時期に点検整備を受けてください。
- エンジン始動時は、アクセルペダルを踏み込まないでください。
- 慎重に運転をし、前車との車間距離を適切に保ってください。

環　境

Daimler AG は、資源を有効活用するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

安全のために

警告ラベル

車両には警告ラベルが貼付されています。警告ラベルには危険な状況を回避するための情報や、車を安全に使用するための情報などが記されています。警告ラベルは絶対にはがさないでください。

走行する前に

点検と整備

日常点検や定期点検は、使用者自身の責任において実施することが法律で義務付けられています。これらの点検項目については、別冊の「整備手帳」をお読みください。

夏季の取り扱い

- 夏を迎える前にエアコンディショナーの冷媒に不足がないか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
- オーバーヒートの予防策として、いつもより頻繁に冷却水量を点検してください。

日ごろの状態と異なるとき

エンジンをかけたとき、いつもと異なる音やにおいを感じたり、駐車していた場所に水やオイルの跡が残っているときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ドアを開くと

ドアを開くと、一部の装置が自動的に動き始め、作動音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

タイヤの点検

タイヤの空気圧や溝の深さが十分あり、タイヤに損傷や異常な摩耗がないことを点検してください。タイヤの空気圧が低かったり、損傷したタイヤで走行すると、タイヤが破裂したり、火災が発生するなど、事故を起こすおそれがあります。

運転席足元に注意

- 運転席の足元には、物を置かないでください。ペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。
- フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

シートベルトは必ず着用

走行を開始する前に、すべての乗員がシートベルトを着用してください。

車庫内では

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

ウォーミングアップ（暖機運転）

エンジンが冷えているときでも、停車したままでの暖機運転は必要ありません。エンジンの始動後は、急加速を避けて車をウォーミングアップしてください。

荷物を積むとき

- 荷物はできるだけトランクまたはラゲッジルームに積んでください。
- 車内に荷物を積むときは、動かないように確実に固定してください。急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- 後席ヘッドレストの後方のスペース（セダン）や、ラゲッジルームカバー（ステーションワゴン）の上に荷物を置かないでください。急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- 鋭い角のあるものは、角の部分に必ずカバーをしてください。
- 荷物をシートのバックレストよりも、高く積み上げないでください。

燃えるものは積まない

燃料を入れた容器や可燃性のスプレー缶などを積まないでください。万一のときに引火や爆発のおそれがあります。

子供を乗せるとき

子供にも必ずシートベルトを着用

- 子供であっても、シートベルトを正しく着用し、シートやヘッドレストが正しい位置になっていることを大人が確認してください。正しくシートベルトが着用できない小さな子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 乳児や子供を抱いたり、ひざの上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や事故のとき、大人と車の間に挟まれて重大なけがをするおそれがあります。

小さな子供にはチャイルドセーフティシート

6 歳未満の子供にはチャイルドセーフティシート（▷40 ページ）を使用することが法律で義務付けられています。

子供は後席に

- 子供はできるだけ後席に乗せてください。助手席では、子供の動きが気になったり、子供が運転装置に触れるなど、運転の妨げになることがあります。
- チャイルドセーフティシートは、必ず後席の左右いずれかに装着してください。やむを得ず助手席に装着するときは、車の進行方向に向けてチャイルドセーフティシートを装着し、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。
- 子供を助手席に座らせるときは、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。エアバッグの作動時に大きな衝撃を受けるおそれがあります。

子供には操作させない

- ドアやドアウインドウは大人が開閉してください。子供が操作すると、身体を挟んだり、けがをするおそれがあります。
- リアドアやリアドアウインドウのチャイルドプルーフロック（▷45 ページ）を活用してください。

ドアウインドウやスライディングルーフ * の開口部から身体を出さない

子供がドアウインドウやスライディングルーフの開口部から身体を出さないように注意してください。けがをするおそれがあります。

車から離れるとき

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

また、炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

オートマチック車の取り扱い

運転する前に、オートマチック車の特性や操作上の注意を理解し、正しく操作してください。「走行と停車」もあわせてお読みください（▷120 ページ）。

オートマチック車の特性

クリープ現象：エンジンがかかっているとき、セレクターレバーが P、N 以外に入っていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

エンジンの始動前

- ブレーキペダルは必ず右足で操作してください。不慣れな左足で操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- ブレーキペダルを踏み込んだときに、ペダルが一定のところで停止することやペダルの踏みしろの量を確認してください。

エンジンの始動

セレクターレバーが P に入っていることを確認して、ブレーキペダルを確実に踏んでエンジンを始動します。アクセルペダルを踏む必要はありません。

発進

- エンジンが適正なアイドリング回転数になっていることを確認してください。
- セレクターレバーを D、R に入れるときは、必ずブレーキペダルを十分に踏み込んでください。
- アクセルペダルを踏んだまま、セレクターレバーを動かさないでください。車が急発進するおそれがあります。
- 急な上り坂で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままアクセルペダルを静かに踏み込み、車がわずかに動き出すのを確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。

走行中

- 走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため事故につながったり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなったり、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。また、安全装備が作動しなくなるおそれがあります。

停車

- 停車中はエンジンの空ぶかしをしないでください。万一、セレクターレバーが走行位置に入ると、車が急発進して事故を起こすおそれがあります。
- 急な上り坂などでは、アクセルペダルの踏み加減によって停止状態を保たないでください。トランスミッションに負担がかかり、過熱や故障の原因になります。
- 完全に停車する前に、セレクターレバーを P に入れないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

駐車

- 駐車時や車から離れるときは、必ずセレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせて、エンジンを停止してください。
- 後退したあとは、すぐにセレクターレバーを P か N に戻すように心がけてください。R に入っていることを忘れてアクセルペダルを踏み込み、車が後退して事故を起こすおそれがあります。

こんなことにも注意

運転するときの注意事項

- 服用後の運転が禁止されている薬や、酒類を飲んだ後は絶対に運転しないでください。
- ペダル操作の妨げになるような靴（厚底靴など）やサンダル履きで運転しないでください。

日射に関する注意事項

- ウインドウなどに吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズの働きをして、火災が発生するおそれがあります。
- メガネやサングラスを車内に放置しないでください。炎天下では車内が高温になるため、レンズやフレームが変形したり、ひび割れするおそれがあります。

ライターに関する注意事項

- ライターを車内に放置しないでください。炎天下の車内は非常に高温になるため、ライターが発火したり爆発するおそれがあります。
- ライターをグローブボックスや小物入れなどに入れたままにしたり、車内に落としたままにしないでください。

  荷物を押し込んだときやシートを操作したときにライターの操作部に触れてライターが誤作動し、火災が発生するおそれがあります。

違法改造はしない

- 違法改造はしないでください。違法改造や純正でない部品の使用は、保証の適用外になるだけでなく、事故の原因になります。
- 定期交換部品などは純正品だけを使用し、燃料や油脂類などは指定品を使用してください。
- 燃料やオイルの添加剤などは一切使用しないでください。故障の原因になります。
- 無線機やオーディオなどの電装品を取り付けたり取り外すときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

自動車電話、携帯電話の使用

運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話を使用しないでください。道路交通法違反になります。なお、ハンズフリー機能は使用できますが、注意力が散漫になり事故の原因になります。安全な場所に停車してから使用してください。

COMAND システムの操作

COMAND システムの操作は、できるだけ走行中を避け、安全な場所に停車してから操作してください。走行中に COMAND ディスプレイを見るときは、必要最小限（約 1 秒以内）にとどめてください。

きびしい条件下での運転

発進、停止を繰り返す市街地走行、山間部や路面の悪い道路などきびしい条件下での走行が多いときは、タイヤやエアクリーナー、エンジンオイル、エンジンオイルフィルター類の点検整備や交換を、定期的な交換時期よりも早く行なうことが必要になります。

車両に保存されるデータ

故障データ

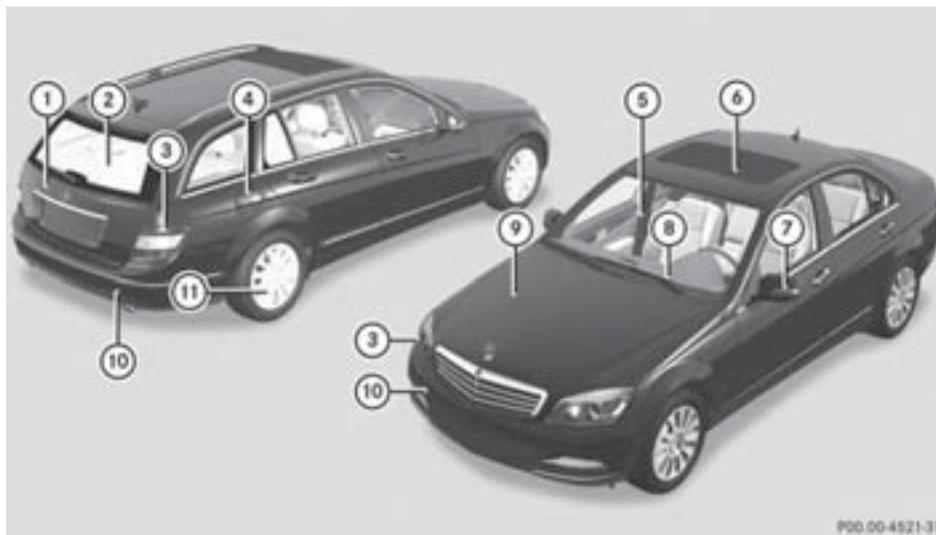
車両には、故障時や異常時のデータを保存する機能があります。

保存されたデータは、安全装備などが作動するとき、または故障や異常の原因の特定、車両開発などに使用されます。データを使用して、車両の過去の移動経路を調べることはできません。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、故障診断機によって読み取られたデータは、使用後に消去されます。

データが保存されるその他の装備

COMAND システムでは、ナビゲーションや電話などでデータを保存したり、編集することができます。詳しくは、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

外観

	名称	ページ
①	トランク	70
	テールゲート	73
	応急用スペアタイヤ *	287
	車載工具	287
	バッテリー *	342
		361
②	リアデフォッガー	194
		204
③	ヘッドランプ	101
		323
	テールランプ	324
④	燃料給油フラップ	243
⑤	デフロスター	193
		203
⑥	スライディングルーフ *	208
⑦	ドアミラー	91

	名称	ページ
⑧	ワイパー	112
⑨	ボンネット	246
	エンジンオイル	250
		359
	ブレーキ液	254
		361
	ウォッシャー液	256
		361
	冷却水	252
		360
	バッテリー *	342
		361
⑩	けん引フック	347
⑪	タイヤとホイール	257
	パンクしたとき	326

* オプションや仕様により、異なる装備です。

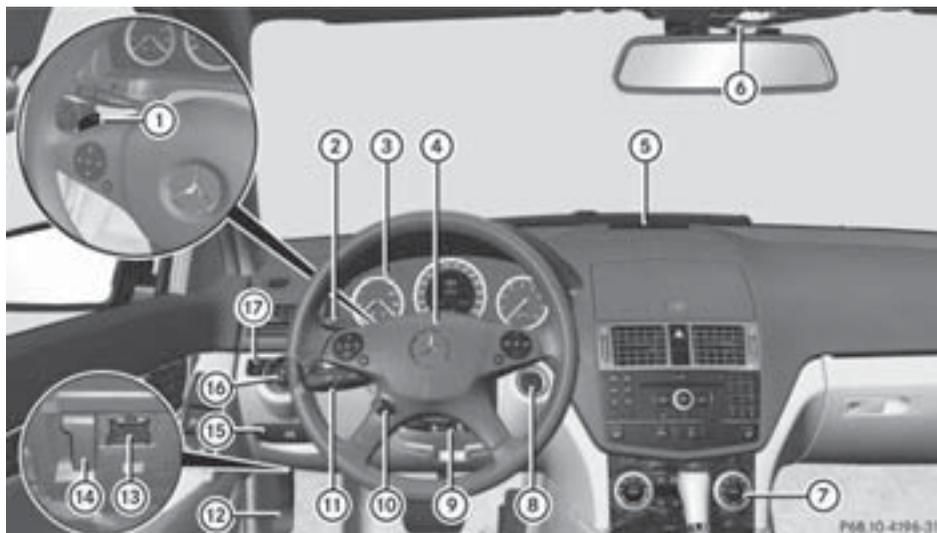
インストルメントパネル

右ハンドル車

	名称	ページ
①	前席上方の操作部	27
②	パークトロニックインジケーター / 作動表示灯 *	173
③	クルーズコントロールレバー / 可変スピードリミッターレバー	165 169
④	メーターパネル	23
⑤	ホーン / 運転席エアバッグ	35
⑥	パドル *	131 133
⑦	フロントフォグランプスイッチ * リアフォグランプスイッチ	101 101
⑧	ランプスイッチ	101
⑨	パーキングブレーキ解除ハンドル	124

	名称	ページ
⑩	ボンネットロック解除レバー	247
⑪	診断ソケット	
⑫	エンジンスイッチ キーレスゴースイッチ *	77 78
⑬	ステアリングロック解除ハンドル *	88
⑭	ステアリング調整レバー *	89
⑮	コンビネーションレバー (ヘッドランプ / 方向指示 / ワイパー / リアワイパー *)	104 105 112 114
⑯	パーキングブレーキペダル	124
⑰	エアコンディショナーコントロールパネル	187 197

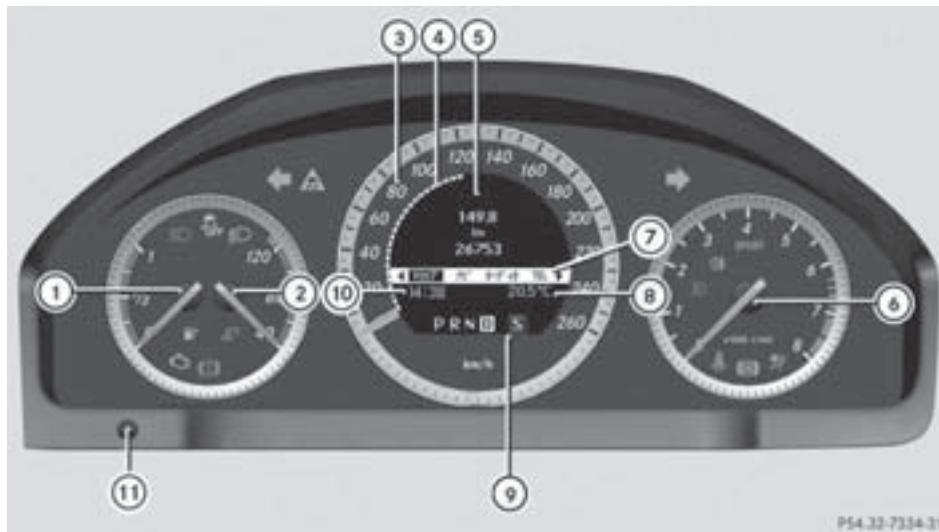
* オプションや仕様により、異なる装備です。

左ハンドル車

	名称	ページ
①	パドル *	131 133
②	クルーズコントロールレバー / 可変スピードリミッターレバー	165 169
③	メーターパネル	23
④	ホーン / 運転席エアバッグ	35
⑤	パークトロニックインジケーター / 作動表示灯 *	173
⑥	前席上方の操作部	27
⑦	エアコンディショナーコントロールパネル	187 197
⑧	エンジンスイッチ キーレスゴースイッチ *	77 78
⑨	ステアリングロック解除ハンドル *	88

	名称	ページ
⑩	ステアリング調整レバー	89
⑪	コンビネーションレバー (ヘッドランプ / 方向指示 / ワイパー / リアワイパー *)	104 105 112 114
⑫	パーキングブレーキペダル	124
⑬	診断ソケット	
⑭	ボンネットロック解除レバー	247
⑮	パーキングブレーキ解除ハンドル	124
⑯	ランプスイッチ	101
⑰	フロントフォグランプスイッチ * リアフォグランプスイッチ	101 101

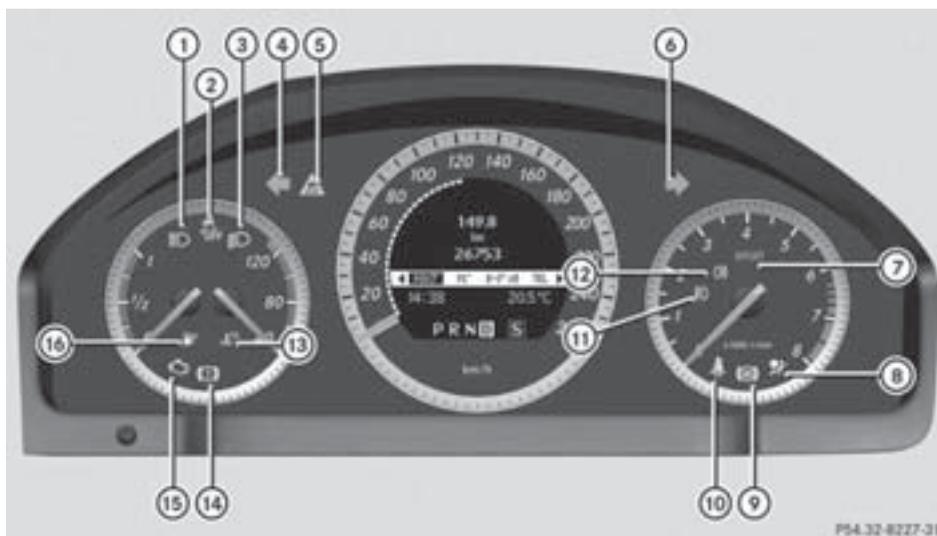
* オプションや仕様により、異なる装備です。

メーターパネル

メーターパネル

	名称	ページ
①	燃料計	136
②	エンジン冷却水温度計	136
③	スピードメーター	136
④	クルーズコントロール / 可変スピードリミッターインジケーター	166 170
⑤	マルチファンクションディスプレイ	138
⑥	タコメーター	137

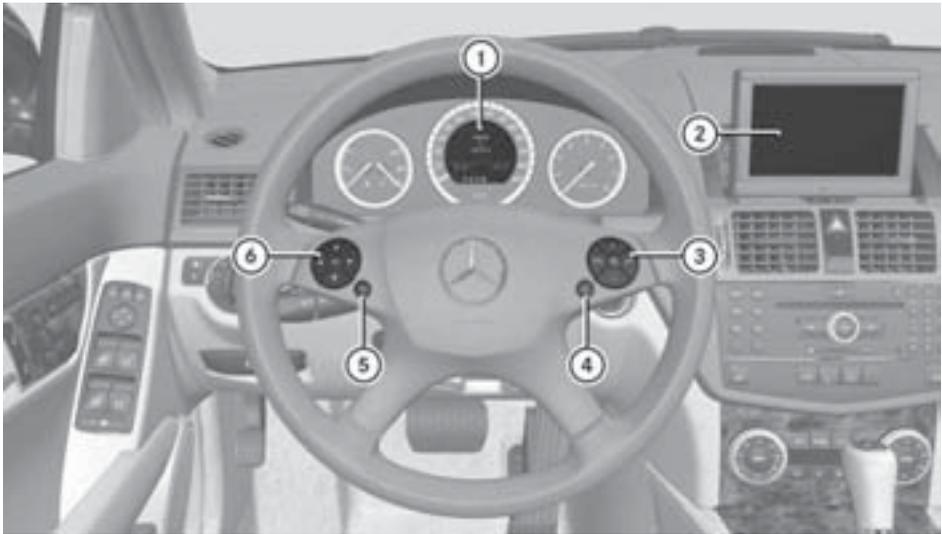
	名称	ページ
⑦	メニューリスト	139
⑧	サブメーター	153
⑨	走行モード表示 シフト位置表示 ギアレンジ表示 ギア表示 *	127 127 130 132
⑩	時計	136
⑪	メーターパネル照度調整ノブ	136

* オプションや仕様により、異なる装備です。

表示灯 / 警告灯

	名称	ページ
①	ハイビーム表示灯	104
②	ESP® オフ表示灯	51 54
③	ヘッドランプ表示灯	102
④	方向指示表示灯（左）	105
⑤	ESP® 表示灯	48
⑥	方向指示表示灯（右）	105
⑦	スポーツハンドリングモード表示灯 *	52 304
⑧	SRS 警告灯	31

	名称	ページ
⑨	ABS 警告灯	302
⑩	シートベルト警告灯	98
⑪	フロントフォグランプ表示灯 *	103
⑫	リアフォグランプ表示灯	103
⑬	冷却水量・冷却水温度警告灯	305 306
⑭	ブレーキ警告灯	305
⑮	エンジン警告灯	306
⑯	燃料残量警告灯	307

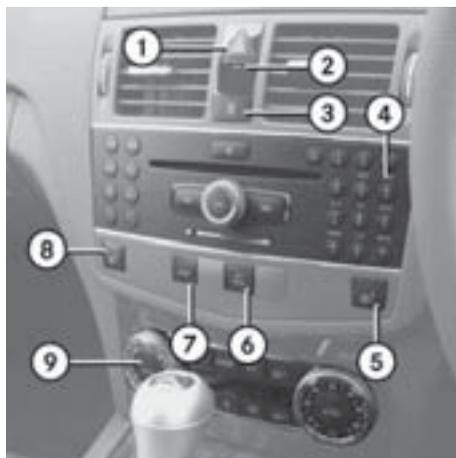
* オプションや仕様により、異なる装備です。

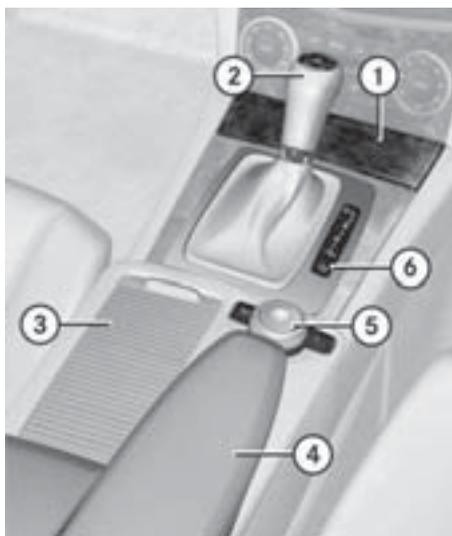
マルチファンクションステアリング

	名称	ページ
①	マルチファンクションディスプレイ	138
②	COMAND ディスプレイ	別冊
③	電話 / 音量スイッチ [電話受信] 電話を受信する [電話切断] 電話を切断する [+] 音量を上げる [−] 音量を下げる [消音] 消音する レースタイマーの操作 *	138

	名称	ページ
④	[音声認識] 音声認識スイッチ	138
⑤	[リターン] リターンスイッチ / 音声認識解除スイッチ	138
⑥	スクロールスイッチ ▲ 上にスクロールする ▼ 下にスクロールする ▶ 右にスクロールする ◀ 左にスクロールする OK 確定する	138

* オプションや仕様により、異なる装備です。

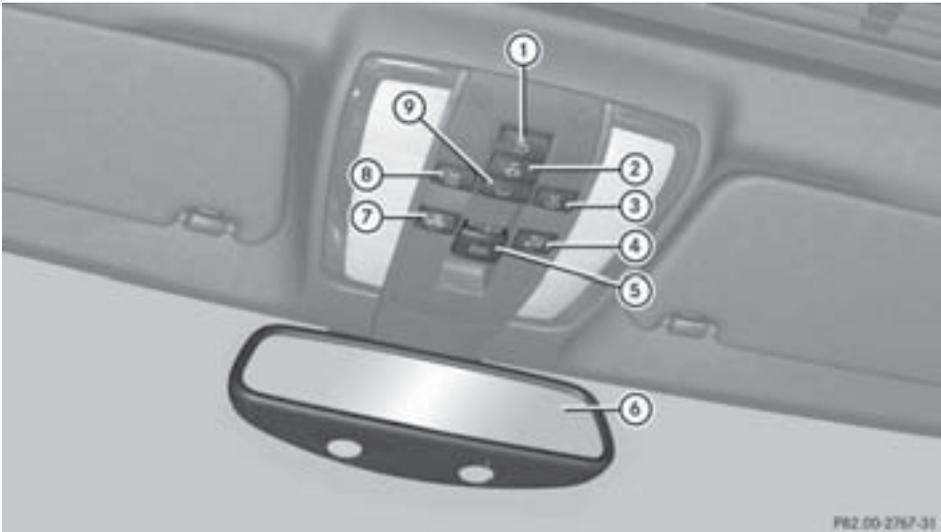
センターコンソール

センターコンソール上部

	名称	ページ
①	非常点滅灯	105
②	盗難防止警報システム表示灯 *	55
③	ESP® / スポーツハンドリングモードスイッチ *	53
④	COMAND コントロールパネル	別冊
⑤	シートヒーター（右側フロントシート）スイッチ *	86
⑥	パークトロニックオフスイッチ *	174
⑦	スペシャルスポーツモードスイッチ *	129 171
⑧	シートヒーター（左側フロントシート）スイッチ *	86
⑨	エアコンディショナーコントロールパネル	187 197

センターコンソール下部

右ハンドル車

	名称	ページ
①	灰皿 * ライター * 小物入れ * 12V 電源ソケット *	236 237 239
②	セレクターレバー	120 126
③	センターコンソールのカップホルダー * 小物入れ *	219 218
④	フロントアームレストの小物入れ	218
⑤	COMAND コントローラー	別冊
⑥	走行モード選択スイッチ	128 129 132

* オプションや仕様により、異なる装備です。

前席上方の操作部

	名称	ページ
①	リアルームランプスイッチ	109
②	点灯モード切り替えスイッチ	109
③	フロント読書灯（右側）スイッチ	109
④	けん引防止機能解除スイッチ *	57
⑤	スライディングルーフスイッチ *	209 212

	名称	ページ
⑥	ルームミラー	91
⑦	室内センサー解除スイッチ *	58
⑧	フロント読書灯（左側）スイッチ	109
⑨	フロントルームランプスイッチ	109

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ドアの操作部

運転席ドア（左ハンドル車）

	名称	ページ
①	ドアレバー	67 68
②	ドアロックスイッチ	68
③	シート調整スイッチ *	82
④	メモリースイッチ * ポジションスイッチ *	94 95 94
⑤	ドアミラー選択スイッチ ドアミラー格納 / 展開スイッチ * ドアミラー調整スイッチ	91 92 91

	名称	ページ
⑥	ドアウインドウスイッチ	116
⑦	リアドアウインドウのチャイルドプルーフロックスイッチ	45
⑧	トランクオープナースイッチ *（セダン） テールゲートスイッチ *（ステーションワゴン）	72 75

* オプションや仕様により、異なる装備です。

乗員安全装備

乗員保護装置

シートベルトやシートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッター、エアバッグは、効果を高めるために補い合い、連携する乗員保護装置です。

これらは、想定される事故の状況において、乗員が負傷する可能性を最小限に抑えて安全性を高めます。

シートベルトとエアバッグは、物が外部から車内に入り込んだときの衝撃から乗員を保護する効果はありません。

乗員保護装置を適切に機能させるため、以下のことに注意してください。

- シートやヘッドレストは正しい位置に調整してください（▷79 ～ 83 ページ）。
- シートベルトを正しく着用してください（▷96 ページ）。
- エアバッグの作動が妨げられていないことを確認してください（▷33 ページ）。
- ステアリングを正しい位置に調整してください。
- 乗員保護装置を改造しないでください。

ⓘ エアバッグはシートベルトを正しく着用しているときのみ、乗員保護機能を高めることができます。しかし、エアバッグは組み合わされることで効果を発揮する付加的な保護補助装置で、シートベルトの代わりになるものではありません。エアバッグが装備されていても、必ず乗員全員がシートベルトを正しく着用してください。

また、エアバッグは、あらゆる種類の事故で作動するわけではありません。状況によっては、乗員が正しくシートベルトを着用している場合は、エアバッグが作動しても乗員保護効果が高まらないことがあります。

以下の理由から、エアバッグはシートベルトを正しく着用している場合にのみ、シートベルトの保護機能を高めることができます。

- シートベルトを着用することで、乗員とエアバッグの適切な位置関係を保つことができます。
- シートベルトを着用することで、正面からの衝突のときなどに乗員が前方に投げ出されるのを防ぐことができます。

⚠ 事故やけがのおそれがあります

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具ならびに設備を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

⚠ けがのおそれがあります

乗員保護装置を取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。また、車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。

誤作動でけがをしたり、事故などのとき、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS（乗員保護補助装置）

SRSは以下の装備により構成されます。

- SRS 警告灯
- エアバッグ
- エアバッグコントロールユニット（クラッシュセンサーを含む）
- シートベルトテンショナー
- ベルトフォースリミッター

SRS 警告灯

イグニッション位置を **1** にすると点灯し、数秒後に消灯します。

イグニッション位置を **2** にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。

イグニッション位置が **1** か **2** のときは、一定間隔で自己診断を行ない、SRS の異常を検出します。

⚠ けがのおそれがあります

以下のようなときは、SRS に異常が発生しています。衝撃を受けてもエアバッグやシートベルトテンショナーが作動しないおそれや、不意に作動するおそれがあります。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

- イグニッション位置を **1** か **2** にしたときに SRS 警告灯が点灯しないとき
- イグニッション位置を **1** にしたときは数秒後に、イグニッション位置を **2** にしたときはエンジン始動後に SRS 警告灯が消灯しないとき
- エンジンがかかっているときなどに SRS 警告灯が点灯したとき

シートベルトテンショナーとエアバッグの作動

シートベルトテンショナーとエアバッグの作動は、衝撃の強さによって変わります。

衝突などで衝撃が発生した際、センサーは衝撃の強さや方向などを検知し、シートベルトテンショナーを作動させる必要があるか判断します。

さらに前方から一定以上の衝撃を検知したときに、運転席 / 助手席エアバッグが作動します。

ℹ 事故の状況によってはエアバッグが作動しない場合があります。

事故の際にすべてのエアバッグが作動するわけではありません。

各エアバッグの作動条件はそれぞれ異なります。

いずれのエアバッグも、衝突の最初の段階において検知された、以下の要素に基づいて作動します。

- 前方からの衝突
- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 車両への衝撃度

ℹ センサーが検知する衝撃の強さや方向は、以下の要素によって決まります。

- 衝撃の集中度 / 分散度
- 衝撃の角度
- 車体の変形度合い
- 衝突物の特性

シートベルトテンショナー / ベルトフォースリミッター

シートベルトテンショナー

シートベルトテンショナーは、車の前後方向から大きな衝撃を受けたときにシートベルトを引き込み、シートベルトの効果を高める装置です。

フロントシートベルトと左右のリアシートベルトに装備されています。

シートベルトテンショナーは、以下のときに作動します。

- イグニッション位置が **2** のとき
- SRS に異常がないとき
- フロントのシートベルトテンショナーは、シートベルトが正しくバックルに差し込まれているとき

リアシートのシートベルトテンショナーは、シートベルトの着用に関わらず作動します。

シートベルトテンショナーは、事故の状況や衝撃の強さが以下のようなときに作動します。

- 衝撃を受けた最初の段階で、車両の縦方向に急激に一定以上の衝撃を検知したとき
- 衝撃を受けた最初の段階で、車両の横方向に一定以上の衝撃を検知したとき

ベルトフォースリミッター

ベルトフォースリミッターは、シートベルトに一定以上の荷重がかかったときに作動し、乗員の胸にかかる力を分散・軽減します。

フロントシートベルトと左右のリアシートベルトに装備されています。

フロントシートベルトのベルトフォースリミッターは、運転席 / 助手席エアバッグと連動しており、乗員にかかる力を分散・軽減します。

⚠ **けがのおそれがあります**

- シートベルトテンショナーの作動時にわずかに白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

  ただし、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き換気を行なってください。
- 作動したシートベルトテンショナーは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換してください。

  未作動のシートベルトテンショナーを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。メルセデス・ベンツ指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

! 助手席に乗車していないときは、シートベルトのプレートをバックルに差し込まないでください。衝突時などに、シートベルトテンショナーが作動することがあります。

! シートベルトテンショナーの作動時に聞こえる作動音は、ごくまれに聴力に影響することがあります。

i シートベルトテンショナーは、シート位置が不適切なときや、シートベルトが正しく着用されていないときは、効果を発揮できません。

i シートベルトテンショナーは、バックレストに乗員の身体を密着させるためのものではありません。

エアバッグ

⚠ **けがのおそれがあります**

エアバッグの乗員保護機能を正しく発揮するため、以下の点に注意してください。

- 乗員全員がシートベルトを正しく着用し、バックレストをできるだけ垂直の位置にしてください。

  ヘッドレストの中央が目の高さになるように調整してください。
- 身長 150cm 未満の子供はチャイルドセーフティシートを使用して確実に身体を固定してください。
- 運転席シートは正しい位置に調整し、助手席シートはできるだけ後部に動かし、エアバッグとの間隔を確保してください。間隔が狭すぎると、エアバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- やむを得ず助手席にチャイルドセーフティシートを装着するときは、必ず前向きに装着して、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。
- 運転中はステアリングのパッド部を持ったり、身体をステアリングやダッシュボードにのせないでください。エアバッグの作動が妨げられるおそれや、エアバッグが作動したときにけがをするおそれがあります。
- 頭部をドアウインドウに寄りかけないでください。サイドバッグやウインドウバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- ドアなどの内張りに寄りかからないでください。
- 衣服のポケットなどに重い物や鋭利な物を入れないでください。
- エアバッグ作動範囲と乗員の間にペットや荷物を置かないでください。
- エアバッグ収納部やその近くに物を置かないでください。
- アシストグリップやコートフックにかたい物や鋭利な物をかけないでください。
- ウインドウやピラーの周囲にアクセサリーなどを取り付けないでください。
- ルームミラーに市販のワイドミラーなどを取り付けないでください。
- エアバッグを取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。誤作動でけがをしたり、正しく作動しなくなります。

⚠ **けがのおそれがあります**

以下のエアバッグ収納部には、バッジ、ステッカー、リモコンなどを貼付したり、市販のカップホルダーやアクセサリーなどを取り付けないでください。

- ステアリングパッド部
- ステアリングコラム下部のパネル部
- 助手席側のダッシュボードパネル部
- フロントシートのバックレスト側面
- リアシートの左右端部 *

エアバッグの作動

車が一定以上の衝撃を受けると、高温のガスが排出されて、収納されているエアバッグが瞬時にふくらみます。

これにより、乗員の身体への衝撃を分散・軽減します。

⚠ **けがのおそれがあります**

- 関連部品に身体を触れないでください。部品が熱くなっており、火傷をするおそれがあります。
- エアバッグの作動時にわずかに白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

  ただし、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き換気を行なってください。
- 作動したエアバッグは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換してください。

  未作動のエアバッグを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。メルセデス・ベンツ指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

! エアバッグは高温のガスによりふくらむため、すり傷や火傷、打撲などをすることがあります。

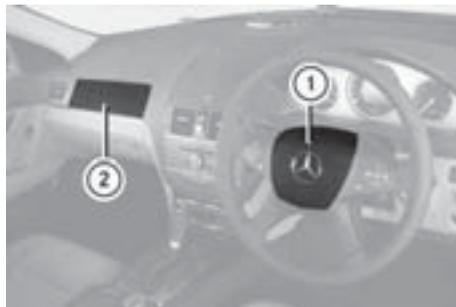
! エアバッグの作動時に聞こえる作動音は、ごくまれに聴力に影響することがあります。

ℹ エアバッグが作動すると、SRS 警告灯が点灯します。

エアバッグの種類と収納場所

エアバッグ名	収納場所
運転席エアバッグ	ステアリングパッド部
助手席エアバッグ	助手席ダッシュボードパネル部
運転席ニーバッグ	運転席足元
フロントサイドバッグ	フロントシートのバックレスト側面
リアサイドバッグ *	リアシートの左右端部
ウインドウバッグ	フロントピラーとリアピラー間のルーフライニング部

* オプションや仕様により、異なる装備です。

運転席 / 助手席エアバッグ

右ハンドル車

前方からの強い衝撃を受けると作動し、運転席 / 助手席乗員の頭部や胸部への衝撃を分散・軽減します。

運転席エアバッグ ①/ 助手席エアバッグ ② は、他のエアバッグの作動に関わらず、以下のときに作動します。

- 衝突の最初の段階で、車両の縦方向に急激に一定以上の衝撃を検知したとき
- 運転席 / 助手席エアバッグの作動が、シートベルトによる乗員保護機能を高めるとシステムが判断したとき
- シートベルトを正しく着用しているとき

車両が横転したときは、車両の縦方向に一定以上の衝撃を検知しない限り、運転席 / 助手席エアバッグは基本的に作動しません。

! 助手席に重い荷物を置かないでください。システムが助手席に乗員がいると判断し、事故のときに助手席エアバッグが作動することがあります。

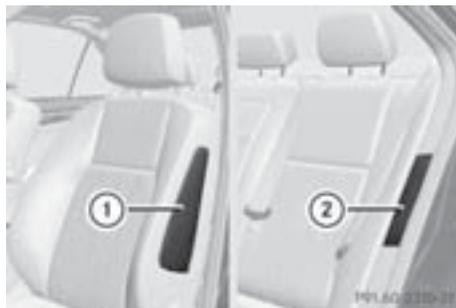
i 車の前方からの衝撃が弱いときはシートベルトテンショナーだけが作動し、運転席 / 助手席エアバッグは作動しないことがあります。

運転席ニーバッグ

左ハンドル車

運転席ニーバッグ ① は、運転席エアバッグに連動してステアリングの下方で作動し、乗員の膝から下への衝撃を分散・軽減します。

サイドバッグ

セダン

横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のフロントサイドバッグ ①/ リアサイドバッグ ②* が作動し、乗員の胸部への衝撃を分散・軽減します。

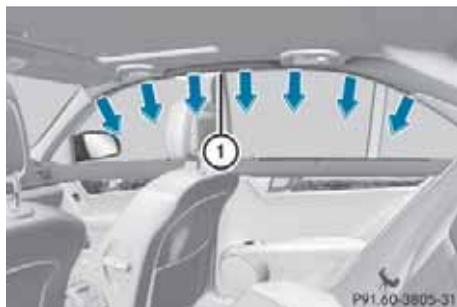
* オプションや仕様により、異なる装備です。

サイドバッグは、シートベルトの着用や運転席 / 助手席エアバッグの作動、シートベルトテンショナーの作動に関わらず、衝突の最初の段階で、横方向から一定以上の衝撃を検知したときに作動します。

⚠ けがのおそれがあります

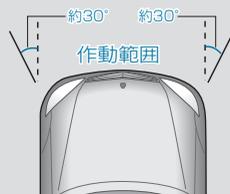
フロントシートに市販のシートカバーを使用しないでください。フロントサイドバッグの作動が妨げられるおそれがあります。

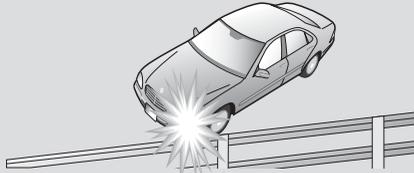
ウインドウバッグ

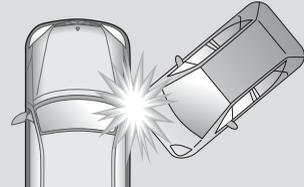
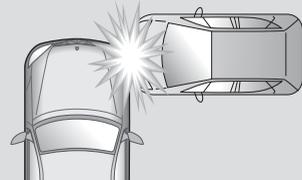
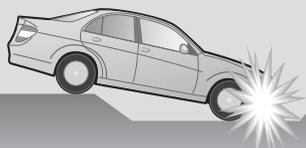
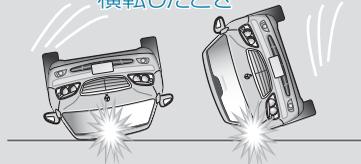
セダン

横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のウインドウバッグ ① が作動し、頭部への衝撃を分散・軽減します。

ウインドウバッグは、助手席乗員の有無、シートベルトの着用、運転席 / 助手席エアバッグの作動に関わらず、衝突の最初の段階で、横方向から一定以上の衝撃を検知したときに作動します。

エアバッグの作動条件

運転席 / 助手席エアバッグ、運転席ニーバッグが作動するとき

運転席 / 助手席エアバッグ、運転席ニーバッグが作動しないとき

運転席 / 助手席エアバッグ、運転席ニーバッグが作動しない場合があるとき

サイドバッグ、ウインドウバッグが作動するとき

サイドバッグ、ウインドウバッグが作動しない場合があるとき

いずれかのエアバッグが作動する場合があるとき

PRE-SAFE®*

PRE-SAFE® は、車が危険な状態にあることを感知したときに、乗員保護機能を高める装置です。

PRE-SAFE® は、以下のときに作動します。

- BAS が作動するような急ブレーキを効かせたとき
- アンダーステア状態やオーバーステア状態など、車の姿勢が危険な状態になったとき

PRE-SAFE® は、約 30km/h 以上で走行しているとき、以下のように作動します。

- 前席シートベルトを電動で引き込み、シートベルトテンショナーの効果を高めます。
- メモリー付パワーシート装備車では、助手席シートが不適切な位置にある場合は、助手席シートを適正な位置に調整します。
- 車が横滑りをすると、ドアウインドウとスライディングルーフ * が少し開いた状態まで自動的に閉じます。

ⓘ C 63 AMG では、ESP® の機能が解除されているときには PRE-SAFE® は作動しません。

車が危険な状態から脱すると、電動で引き込まれた前席シートベルトの張力が緩みます。また、助手席シートの位置 *、ドアウインドウやスライディングルーフ * の開き具合を再度調整することができます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

前席シートベルトの引き込みが解除されないとき

▶ シートベルトの張力が緩むまで、バックレスト角度やシートの前後位置を後方の位置に動かします。

ロック機構が解除されます。

⚠ **けがのおそれがあります**

シートを調整するときは、後席の乗員がけがをしないように注意してください。

! シート下部や後方に物がないことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

NECK PRO アクティブヘッドレスト *

NECK PRO アクティブヘッドレストは、追突など後方からの衝撃を受けたときに、フロントシートのヘッドレストが前方および上方に動くことにより、乗員の頭部をより効果的に支持し、頭部、頚部の保護度合いを高めます。

衝撃の大きさや衝撃を受けた方向によっては、NECK PRO アクティブヘッドレストが作動しないことがあります。

⚠ **けがのおそれがあります**

フロントシートに市販のシートカバーを使用しないでください。NECK PRO アクティブヘッドレストの作動が妨げられるおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

事故の際に NECK PRO アクティブヘッドレストが作動した場合は、ヘッドレストが前に動いた状態のままになります。このときは、運転席と助手席のヘッドレストをリセットしてください（▷320 ページ）。

リセットをしないと次に衝撃を受けたときに NECK PRO アクティブヘッドレストが作動せず、頭部·頸部を保護することができません。

子供を乗せるとき

シートベルトは身長 150cm 以上の乗員が使用することを前提にしています。シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。

⚠ **けがのおそれがあります**

チャイルドセーフティシートを使用している場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。

- 運転装置に触れてけがをするおそれがあります。
- 誤ってドアを開き、事故の原因になります。
- 炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。
- 寒冷時には車内が低温になり、命にかかわるおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

荷物が固定されていなかったり適切な位置に置かれていないと、以下のような場合に子供がけがをする危険性が増加します。

- 事故
- 急ブレーキ
- 急な進路変更

荷物を積むときの注意点ついて、詳しくは（▷216 ページ）をご覧ください。

チャイルドセーフティシート

⚠ けがのおそれがあります

- シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、チャイルドセーフティシートを使用してください。急な進路変更時や急ブレーキ時、事故のときなどに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- シートベルトが正しく着用できない体格の子供が、そのままシートベルトを着用すると、首を締め付けたり、腹部を強く圧迫したりして致命的なけがをするおそれがあります。
- 6 歳未満の子供を乗車させるときは、チャイルドセーフティシートを使用することが法律で義務付けられています。
- 6 歳以上の子供でも、シートベルトが正しく着用できない子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。

⚠ けがのおそれがあります

- 身長 150cm 未満の子供はチャイルドセーフティシートを使用して確実に身体を固定してください。
- 子供の体格に適合したチャイルドセーフティシートを使用し、子供を正しい姿勢で座らせ、身体をシートベルトで確実に固定してください。
- 子供を膝の上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートは、後席に装着してください。

  やむを得ず助手席に装着するときは、必ず前向きに装着して、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。
- 後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートは助手席に装着しないでください。また、タイプにかかわらず、助手席にはチャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着しないでください。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。

  チャイルドセーフティシートに関する注意事項を記載したステッカーが、助手席側サンバイザーに貼付されています。

- チャイルドセーフティシートが損傷しているときは新品と交換してください。大きな衝撃を受けたり、損傷したものは子供を保護できません。
- チャイルドセーフティシートは確実に装着してください。急ブレーキ時などに、チャイルドセーフティシートが投げ出されて乗員がけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートを使用しないときは、車から取り外すか、確実に固定してください。
- チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。チャイルドセーフティシートが確実に装着されないおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートの取り扱いや装着方法については、製品に添付されている取扱説明書をお読みください。

純正チャイルドセーフティシート

Daimler AG では、子供の体重や年齢に応じた純正チャイルドセーフティシートを用意しています。

選択の目安

シート名	体重	年齢
ベビーセーフプラス	約10kg以下または約 13kg 以下	新生児〜9 カ月位または18 ヵ月位
デュオプラス	9 〜 18kg	8 カ月〜4 歳位
キッド	15 〜 36kg	3 歳半〜12 歳位

※ チャイルドセーフティシートの種類や名称は予告なく変更されることがあります。詳しくは販売店におたずねください。

ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置

左右の後席に、ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート用の固定装置を装備しています。

⚠ けがのおそれがあります

この固定装置は、体重 22kg 以下の子供を乗車させるときに使用してください。体重 22kg 以上の子供を乗車させるときは、チャイルドセーフティシートを後席のシートベルトで固定してください。

⚠ けがのおそれがあります

チャイルドセーフティシートは、必ず製品の取扱説明書の指示に従い、左右の固定装置に装着してください。装着方法を誤ると、事故のとき、十分な効果が得られなかったり、チャイルドセーフティシートが外れるおそれがあります。

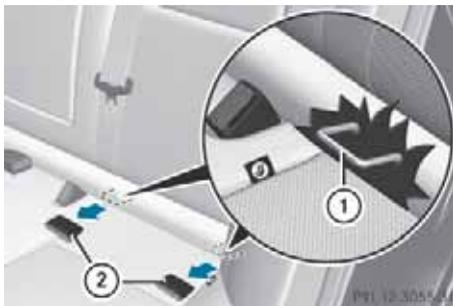
⚠ けがのおそれがあります

チャイルドセーフティシートや固定装置が事故で損傷したり強い負荷を受けた場合は、必ず新品に交換してください。

! チャイルドセーフティシートを装着するときは、中央後席のシートベルトを挟み込まないように注意してください。

⚠ けがのおそれがあります

チャイルドセーフティシート固定装置を使用して、チャイルドセーフティシートに子供を乗車させているときも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。事故の原因になったり、運転装置に触れてけがをするおそれがあります。

また、車内が高温または低温になった状態では、命に関わるおそれがあります。

固定装置を使用する

▶ 固定装置周辺のシートクッションを下方に強く押し下げながら、固定装置 ① のカバー *② を取り外します。

▶ 固定装置 ① にチャイルドセーフティシートを装着します。

⚠ けがのおそれがあります

カバー * を取り外すときは、シートクッションを強く押し下げて、カバー * の周囲を大きく開いてください。カバー * を取り外すときにけがをするおそれがあります。カバー * が取り外せないときは無理に取り外さずに、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で取り外すことをお勧めします。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

装着できる ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート

ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート用の固定装置には、カテゴリーＩのサイズ等級 A、B または B1 に属している、ユニバーサル（汎用）ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートを装着できます。

詳しくは、お買い上げの販売店またはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ℹ チャイルドセーフティシートのカテゴリーやサイズ等級については、チャイルドセーフティシート本体に装着されているステッカーやチャイルドセーフティシートの取扱説明書をご覧ください。

カテゴリー（適応体重）	**サイズ等級（装着器具タイプ）**	
キャリコット（携帯式ベッド）	G（ISO/L2) F（ISO/L1)	装着することはできません。
0（10kg まで）	E（ISO/R1）	ユニバーサル（汎用）ISO-FIX 対応であっても、固定装置で装着することはできません。
0+（13kg まで）	C（ISO/R3) D（ISO/R2) E（ISO/R1）	
Ｉ（9 ～ 18kg）	C（ISO/R3) D（ISO/R2)	
	A（ISO/F3） B（ISO/F2） B1（ISO/F2X）	ユニバーサル（汎用）ISO-FIX 対応であれば、固定装置で装着することができます。

テザーアンカー

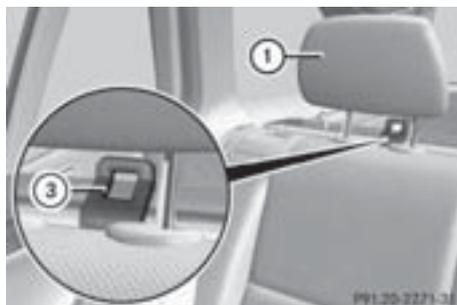
ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートの上部を固定することにより、事故のときなどにチャイルドセーフティシートの前方への移動を抑えることができます。

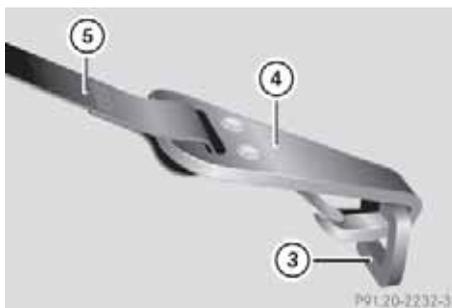
セダン

テザーアンカーは左右リアヘッドレストの後方にあります。

▶ ヘッドレスト ① を上げます。

▶ テザーアンカー ③ のカバー ② を開きます。

ステーションワゴン

テザーアンカーは左右のリアヘッドレストの後方にあります。

▶ ヘッドレスト ① を上げます。

▶ ヘッドレスト ① の 2 本の支柱の間にテザーベルト ⑤ を通します。

▶ テザーフック ④ をテザーアンカー ③ にかけます。

▶ テザーベルト ⑤ がねじれていないことを確認します。

▶ セダンはテザーアンカー ③ のカバー ② を閉じます。

▶ 必要であれば、ヘッドレスト ① を少し下げます。

テザーベルト ⑤ の動きが妨げられていないことを確認してください。

▶ 製品に付属している取扱説明書の指示に従い、テザーベルトと ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートを取り付けます。

▶ テザーベルト ⑤ が締め付けられていることを確認します。

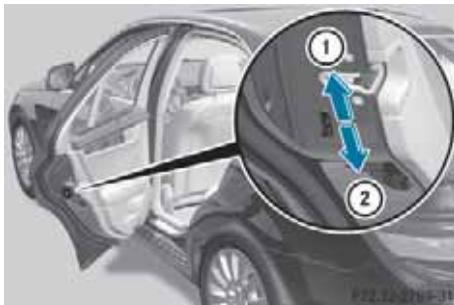
チャイルドプルーフロック

子供が後席に乗車するときは、以下のチャイルドプルーフロックを使用してください。

- リアドアのチャイルドプルーフロック
- リアドアウインドウのチャイルドプルーフロック

⚠ けがのおそれがあります

子供が後席に乗車するときは、チャイルドプルーフロックを設定してください。子供がリアドアやリアドアウインドウを開くと、事故やけがの原因になります。

リアドアのチャイルドプルーフロックを設定 / 解除する

セダン

車内のドアレバーを引いてもリアドアが開かなくなります。

▶ レバーを設定側 ① または解除側 ② に操作します。

▶ 車内のドアレバーを引いて、設定 / 解除を確認します。

ⓘ チャイルドプルーフロックが設定されていても、車が解錠されているときは、車外のドアハンドルでリアドアを開くことができます。

リアドアウインドウのチャイルドプルーフロックを設定 / 解除する

右ハンドル車

リアドアのスイッチによるリアドアウインドウの操作ができなくなります。

▶ スイッチ ② を押します。

表示灯 ① が点灯 / 消灯します。

表示灯 ① が点灯しているときは、運転席ドアのスイッチのみでリアドアウインドウを操作できます。

ⓘ 表示灯の点灯 / 消灯にかかわらず、運転席ドアのスイッチではリアドアウインドウを操作できます。

ⓘ イグニッション位置を 0 にしたり、エンジンスイッチからキーを抜いても、チャイルドプルーフロックの設定は記憶されます。

走行安全装備

走行安全装備には、以下のものがあります。

- ABS（アンチロック･ブレーキング･システム）
- BAS（ブレーキアシスト）
- アダプティブブレーキランプ
- ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）
- EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）

⚠ 事故のおそれがあります

走行安全装備が適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保、制動距離の短縮には限界があります。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。

また、タイヤのグリップが失われた状況では、走行安全装備は効果を発揮しません。

ⓘ 雪道や凍結路を走行するときは、ウィンタータイヤやスノーチェーンの装着をお勧めします。

このような路面状況では、ウィンタータイヤやスノーチェーンを装着することで、走行安全装備の効果が発揮されます。

ABS

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）は、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時など、車が不安定な状況になったときに、タイヤのロックを防ぎ、ステアリングでの車両操縦性を確保する装置です。

ABS は路面の状態に関わらず、走行速度が約 8km/h を超えると作動できるようになります。

滑りやすい路面では、軽くブレーキペダルを踏み込んだだけでも ABS は作動します。

⚠ 事故のおそれがあります

ブレーキ操作をするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。ポンピングブレーキを行なうと制動距離が長くなるおそれがあります。

⚠ 事故のおそれがあります

- ABS はブレーキ操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。

  ABS が適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。

  また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- ABS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

- ABS に異常があるときは、ブレーキペダルを強く踏み込むとタイヤはロックします。その結果、ステアリングでの車両操縦性が制限され、制動距離が長くなるおそれがあります。
- 故障により、ABS の機能が解除されたときは、BAS と ESP® の機能も解除されます。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。

! ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下のような路面が滑りやすい状況では、ABS を装備していない車と比べ制動距離が長くなることがあります。

- 雪の積もった路面や凍結した路面
- 砂利道などの荒れた路面
- 石だたみのように摩擦係数が連続して変化する路面
- スノーチェーン装着時

! マルチファンクションディスプレイに ABS に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷292、293 ページ）をご覧ください。

i ABS に異常があると、ESP® に関する故障 / 警告メッセージが表示されることがあります。すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

i バッテリー電圧が低下すると ABS が一時的に機能を停止します。電圧が回復すると、機能も元に戻ります。

ABS が作動したとき

ABS が作動すると、ブレーキペダルに脈動を感じたり車体が振動することがありますが、異常ではありません。そのままペダルを踏み続けてください。

強い制動力が必要なときは、ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込んでください。

i エンジン始動後や発進直後にブレーキペダルを踏み込むと、ペダルがわずかに振動したりモーターの音が聞こえることがありますが、これは、システムが自己診断をしているときの音で異常ではありません。

BAS

BAS（ブレーキアシスト）は、緊急ブレーキの操作時に、短い時間で大きな制動力を確保するブレーキの補助装置です。

BAS の操作は、通常のブレーキ操作と同じですが、ブレーキペダルを踏み込む速さなどをセンサーが検知して、緊急ブレーキと判断したときに自動的に作動します。

BAS はブレーキペダルから足を放せば自動的に解除されます。

⚠ 事故のおそれがあります

- BAS は緊急ブレーキの操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。BAS が作動しても制動距離の短縮には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- BAS に異常があるときもブレーキは通常通り作動しますが、緊急ブレーキ時には大きな制動力を確保できず、制動距離が長くなるおそれがあります。
- BAS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

! マルチファンクションディスプレイに ABS に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは BAS は作動しません。詳しくは（▷292、293 ページ）をご覧ください。

ℹ BAS に異常があると、ABS も正しく作動しなくなることがあります。

ℹ BAS に異常があるときは、マルチファンクションディスプレイに ABS に関する故障 / 警告メッセージが表示されますが、ブレーキは通常通り作動します。

ℹ バッテリー電圧が低下すると BAS が一時的に機能を停止します。電圧が回復すると機能も元に戻ります。

アダプティブブレーキランプ

約 50km/h 以上からの急ブレーキ時に BAS が作動すると、ブレーキランプが点滅し、後方の車両に注意を促します。停車すると、ブレーキランプは点灯に変わります。

また、約 70km/h 以上からの急ブレーキ時には、ブレーキランプの点滅に加えて、停車すると非常点滅灯が自動的に点滅します。

自動的に点滅した非常点滅灯は、非常点滅灯スイッチを押すか、再度走行を開始して走行速度が約 10km/h 以上になると、自動的に消灯します。

ESP®

ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）は、タイヤの空転時や横滑り時など、車が不安定な状況になったときに、個々のタイヤに独立してブレーキを効かせたり、エンジン出力を制御することによって、車両操縦性や走行安定性を確保しようとするシステムです。

発進時または走行中に ESP® 表示灯が点滅したときは、ESP® が作動しています。

ESP® 表示灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

⚠ 事故のおそれがあります

ESP® は車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ESP® が作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。

ESP® 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

⚠ 事故のおそれがあります

ESP® 表示灯が点滅したときは、車輪が空転しているか、車が横滑りしています。アクセルペダルを踏む力を少しゆるめてください。また、慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ
- ESP® の機能の解除

! 車輪を上げてけん引されるときは、イグニッション位置を **2** にしないでください。ESP® が作動して、接地している車輪のブレーキが作動します。また、ブレーキシステムや駆動系部品を損傷するおそれがあります。

! ESP® が故障すると、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示され、エンジンの出力が低下することがあります。走行が困難なときは、すみやかに安全な場所に停車し、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! マルチファンクションディスプレイに ESP® に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷292 ～ 294 ページ）をご覧ください。

ⓘ エンジンがかかっている状態で、駐車場などのターンテーブルで回転させたり、駐車場のらせん状のアプローチを走行しているときなどに、マルチファンクションディスプレイに ESP® に関する故障 / 警告メッセージが表示され、ESP® 表示灯や ESP® オフ表示灯、ABS 警告灯が点灯することがあります。

このようなときは、安全な場所に停車して、イグニッション位置を **0** に戻し、エンジンを再始動してください。しばらく走行すると、メッセージや表示灯、警告灯は消灯します。

ⓘ ABS が故障したときは、ESP® の機能も解除されます。

ⓘ ABS 警告灯が点灯しているときは、ESP® の機能も解除されています。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ETS

ETS は、ESP® の機能の一部です。

ETS は、滑りやすい路面などで車輪が空転したときにブレーキを効かせて発進時や加速時の駆動力を確保しようとするシステムです。

ESP® の機能が解除されている場合でも、ETS の機能は解除されません。

⚠ 事故のおそれがあります

ETS は駆動力を確保し車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ETS が適切に作動しても、駆動力の確保には限界があります。

ETS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

ESP® の機能の設定 / 解除（C 63 AMG を除く車種）

エンジンを始動したとき、ESP® は常に待機状態になります。

以下のような状況では、ESP® の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

- スノーチェーンを装着して走行するとき
- 深い雪の上を走行するとき
- 砂や砂利の上を走行するとき

このときは ESP® の機能を解除します。

⚠ 事故のおそれがあります

ESP® の機能を解除したときは、必ず路面の状況に応じた速度で慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ

⚠ 事故のおそれがあります

ESP® の機能を解除する必要がなくなったときは、ESP® を待機状態にしてください。車が不安定な状況になったときに、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができません。

ESP® の機能が解除されると、以下の状態になります。

- ESP® は作動せず、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができなくなります。
- エンジン出力の制御は行なわれず、駆動輪が空転することがあります。この空転により、駆動力を向上させることができます。
- トラクションコントロールシステムによる駆動力の確保は行なわれます。
- ブレーキを効かせたときは ESP® は自動的に作動します。

ESP® の機能を解除しているときにタイヤの空転や横滑りを検知すると、ESP® 表示灯が点滅しますが、ESP® は作動しません。

ESP® の機能を解除する

▶ マルチファンクションディスプレイで ESP® の機能を解除します(▷149 ページ)。
メーターパネルの ESP® オフ表示灯が点灯します。

ESP® を待機状態にする

▶ マルチファンクションディスプレイで ESP® の機能を設定します(▷149 ページ)。

メーターパネルの ESP® オフ表示灯が消灯します。

ESP® オフ表示灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し(点灯しないときは表示灯が故障しています)、エンジン始動後に消灯します。

⚠ 事故のおそれがあります

エンジンがかかっているときに ESP® オフ表示灯が点灯しているときは、ESP® の機能が解除されています。路面や天候の状況にあわせて慎重に運転してください。

スポーツハンドリングモード、ESP® の機能の設定 / 解除(C 63 AMG)

スポーツハンドリングモードの設定 / 解除

スポーツハンドリングモードにしたときは以下のような状態になります。

- ESP® の作動内容が制限されるため、車両操縦性と走行安定性の確保は限られたものになります。
- 駆動輪が空転した場合、限られた程度までのみエンジンの出力制御による駆動力の確保が行なわれます。また、トラクションコントロールシステムによる駆動力の確保は行なわれます。
- 急ブレーキを効かせたときは ESP® は自動的に作動します。

スポーツハンドリングモードにしているときにタイヤの空転や横滑りを検知すると、ESP® 表示灯が点滅しますが、ESP® は制限された内容で作動し、車両操縦性や走行安定性の確保は限られたものになります。

指定のサイズで 4 輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、ESP® が作動することがあります(走行中に ESP® 表示灯が点滅したままになります)。

次のような状況では、スポーツハンドリングモードにしたほうが走行しやすい場合があります。

- スノーチェーンを装着して走行しているとき
- 深い雪の上を走行するとき
- 砂や砂利の上を走行するとき

上記以外では、サーキットなどでスポーツ走行を行なうときに使用することができます。

スポーツハンドリングモードにする

▶ ESP® / スポーツハンドリングモードスイッチ ① を押します。

メーターパネルのスポーツハンドリングモード表示灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイに "SPORT handling mode" と表示されます。

ⓘ マルチファンクションディスプレイの表示を "SPORT handling mode" から他の表示に切り替えるときは、ステアリングの OK または ⮌ スイッチを押します。

ESP® を待機状態にする

▶ ESP® / スポーツハンドリングモードスイッチ ① を押します。

メーターパネルのスポーツハンドリングモード表示灯が消灯します。

ⓘ スポーツハンドリングモードにしてエンジンを停止しても、次にエンジンを始動したとき、常に ESP® は待機状態になります。

⚠ 事故のおそれがあります

スポーツハンドリングモードにしたときは、必ず路面の状況に応じた速度で慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ

⚠ 事故のおそれがあります

スポーツハンドリングモードにする必要がなくなったときは、ESP® を待機状態にしてください。スポーツハンドリングモードでは ESP® の作動内容が制限されるため、車が不安定な状況になったときは、車両操縦性や走行安定性の確保は限られたものになります。

ESP® の設定 / 解除

エンジンを始動したとき、ESP® は常に待機状態になります。

以下のような状況では、ESP® の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

- スノーチェーンを装着して走行しているとき
- 深い雪の上を走行するとき
- 砂や砂利の上を走行するとき

このときは ESP® の機能を解除します。

⚠ **事故のおそれがあります**

ESP® の機能を解除したときは、必ず路面の状況に応じた速度で慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ

⚠ **事故のおそれがあります**

ESP® の機能を解除する必要がなくなったときは、ESP® を待機状態にしてください。車が不安定な状況になったときに、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができません。

ESP® の機能が解除されると、以下の状態になります。

- ESP® は作動せず、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができなくなります。
- エンジン出力の制御は行なわれず、駆動輪が空転することがあります。
- トラクションコントロールシステムによる駆動力の確保は行なわれます。
- PRE-SAFE® の機能が解除されます。
- ブレーキを効かせたときは ESP® は自動的に作動します。

ℹ ESP® の機能を解除しているときにタイヤが空転したり横滑りをしても、ESP® 表示灯は点滅せず、ESP® も作動しません。

ESP® の機能を解除する

▶ メーターパネルの ESP® オフ表示灯が点灯するまで、ESP® / スポーツハンドリングモードスイッチ ① を押して保持します。

マルチファンクションディスプレイに "ESP-OFF" と表示されます。

ⓘ マルチファンクションディスプレイの表示を "ESP-OFF" から他の表示に切り替えるときは、ステアリングの OK または ⮌ スイッチを押します。

ESP® オフ表示灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> 走行中に ESP® オフ表示灯が点灯しているときは、ESP® の機能が解除されています。路面や天候の状況にあわせて慎重に運転してください。

ESP® を待機状態にする

▶ ESP® / スポーツハンドリングモードスイッチ ① を押します。

メーターパネルの ESP® オフ表示灯が消灯し、マルチファンクションディスプレイに数秒間 "ESP-ON" と表示されます。

EBD

EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）は、後輪のブレーキ圧を調整し、ブレーキ時の車両操縦性と走行安定性を確保しようとするシステムです。

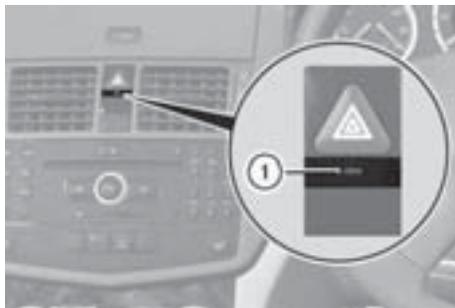
> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> EBD に異常があるときもブレーキは通常通り作動しますが、急ブレーキ時などには後輪がロックするため、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。車両操縦性の変化に注意して慎重に運転してください。

盗難防止システム *

盗難防止警報システム

盗難防止警報システムが待機状態のときに以下の状況を検知すると、サイレンが約 30 秒間鳴り、非常点滅灯が通常の 2 倍の速さで約 5 分間点滅します。また、ルームランプが約 5 分間点灯します。

- ドア、トランクまたはテールゲートが開けられたとき
- ボンネットのロックが解除されたとき

盗難防止警報システムは、車を施錠した後、エマージェンシーキーを使用して運転席ドアやトランクまたはテールゲートを解錠し、開いたときも作動します。

システムを待機状態にする

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を施錠します。

表示灯 ① が点滅し、約 10 秒後に待機状態になります。

システムが待機状態のときは、表示灯 ① が点滅を続けます。

システムを解除する

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を解錠します。

表示灯 ① が消灯します。

警報が作動したときの停止方法

▶ エンジンスイッチにキーを差します。

または

▶ キーのいずれかのボタンを押します。

キーレスゴー装備車は、以下のいずれかの操作を行なっても、警報が停止します。

- キーが左右側またはトランク / テールゲート側のキーレスゴーアンテナの検知範囲（▷63 ページ）にあるときに、ドアハンドルに触れるか、トランク / テールゲートのハンドルを引くか、テールゲートのキーレスゴースイッチ * を押す
- キーが車室内のキーレスゴーアンテナの検知範囲（▷63 ページ）にあるときに、エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押す

ⓘ システムを待機状態にするときはボンネットが確実に閉じていることを確認してください。ボンネットのロックが解除された状態でシステムを待機状態にしても、ボンネットが開けられたときに警報は作動しません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ⓘ システムが待機状態のときに車内からドアやテールゲートを開いたり、ボンネットロック解除レバーでボンネットのロックを解除すると警報が作動します。車内に人がいるときは待機状態にしないでください。

ⓘ ドアやトランクまたはテールゲートが開けられたり、ボンネットのロックが解除されて警報が作動したときは、それらをすぐに閉じても、警報は停止しません。

けん引防止機能

車を施錠して、けん引防止機能を待機状態にしたときは、車両の傾きを検知すると、サイレンが約 30 秒間鳴り、非常点滅灯が通常の 2 倍の速さで約 5 分間点滅します。また、ルームランプが約 5 分間点灯します。

例えば、けん引やジャッキアップなどにより車両が持ち上げられたときなどに警報が作動します。

システムを待機状態にする

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を施錠します。

約 30 秒後に待機状態になります。

待機状態を解除する

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を解錠します。

警報が作動したときの停止方法

▶ エンジンスイッチにキーを差します。

または

▶ キーのいずれかのボタンを押します。

キーレスゴー装備車は、以下のいずれかの操作を行なっても、警報が停止します。

- キーが左右側またはトランク / テールゲート側のキーレスゴーアンテナの検知範囲（▷63 ページ）にあるときに、ドアハンドルに触れるか、トランク / テールゲートのハンドルを引くか、テールゲートのキーレスゴースイッチ * を押す
- キーが車室内のキーレスゴーアンテナの検知範囲（▷63 ページ）にあるときに、エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押す

* オプションや仕様により、異なる装備です。

けん引防止機能を解除する

誤作動を防止するために、以下のような状況で車を施錠する場合は、けん引防止機能を解除してください。

- けん引されるとき
- カーフェリーや車両運搬車に載せて移動するとき
- 機械式駐車場などに駐車するとき

▶ イグニッション位置を **0** か **1** にするか、エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ けん引防止機能解除スイッチ ① を押します。

表示灯 ② が数秒間点灯し、その後消灯して、けん引防止機能が解除されます。

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を施錠します。

室内センサー

車を施錠して、室内センサーを待機状態にしたときは、車内で物体の動きを検知すると、サイレンが約 30 秒間鳴り、非常点滅灯が通常の 2 倍の速さで約 5 分間点滅します。また、ルームランプが約 5 分間点灯します。

例えば、ウインドウが割られたり、車内に腕を伸ばしたときなどに警報が作動します。

システムを待機状態にする

▶ システムを待機状態にする前に、室内センサーの誤作動を防止するために以下のことを確認してください。

- ドアウインドウとリアドアウインドウが完全に閉じていること
- スライディングルーフ * が完全に閉じていること
- ルームミラーやアシストグリップにマスコットなどをかけていないこと

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を施錠します。

約 30 秒後に待機状態になります。

待機状態を解除する

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を解錠します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

警報が作動したときの停止方法

▶ エンジンスイッチにキーを差します。

または

▶ キーのいずれかのボタンを押します。

キーレスゴー装備車は、以下のいずれかの操作を行なっても、警報が停止します。

- キーが左右側またはトランク / テールゲート側のキーレスゴーアンテナの検知範囲（▷63 ページ）にあるときに、ドアハンドルに触れるか、トランク / テールゲートのハンドルを引くか、テールゲートのキーレスゴースイッチ * を押す
- キーが車室内のキーレスゴーアンテナの検知範囲（▷63 ページ）にあるときに、エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押す

室内センサーを解除する

誤作動を防止するために、以下のような状況で車を施錠する場合は、室内センサーを解除してください。

- 車内に人や動物が残るとき
- ドアウインドウやリアドアウインドウを少し開いた状態で車から離れるとき
- スライディングルーフ * を少し開いた状態で車から離れるとき

▶ イグニッション位置を **0** か **1** にするか、エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ 室内センサー解除スイッチ ① を押します。

表示灯 ② が数秒間点滅し、その後消灯して、室内センサーが解除されます。

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を施錠します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

キー

リモコン機能付きのキーが 2 本付属しています。

エンジンの始動および車の解錠 / 施錠に使用します。

また、それぞれのキーにはエマージェンシーキーを収納しています。

⚠ 事故のおそれがあります

- 子供だけを残して車から離れないでください。車が施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。

  また、キーが車室内またはドア付近などの車外にあるときは、キーレスゴースイッチ * を押すことによりエンジンが始動し、事故の原因になります。
- 短時間でも、車内にキーを残したまま車から離れないでください。事故や盗難のおそれがあります。
- エンジンスイッチにキーを差し込むときは、重い物や必要以上に大きな物、ステアリングなどの操作部に接触する物をキーホルダーとして使用しないでください。

  キーホルダー自体の重みや、キーホルダーがステアリングなどに接触することでキーがまわると、エンジンが停止して事故を起こすおそれがあります。

! キーを紛失したときは、盗難や事故を防ぐため、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! キーを強い電磁波にさらすと、リモコンに障害が発生するおそれがあります。

! キーは強い衝撃や水から避けてください。故障の原因になります。

! キーの先端部を汚したり覆ったりしないでください。故障や誤作動の原因になります。

! 盗難や事故を防ぐため、車から離れるときは必ず車を施錠してください。

! 貴重品は絶対に車内に置いたままにしないでください。盗難のおそれがあります。

! 車を操作するときは、運転者は常にキーを携帯してください。

! キーを携帯電話などの電子機器や硬貨などの金属製のものと一緒に持ち運ばないでください。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作やキーレスゴー操作 * を行なうと、作動しなかったり、誤作動するおそれがあります。

! 磁気を発生する電化製品の近くにキーを置かないでください。

i 新たにキーをつくる場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ⓘ キーの電池が消耗するとキーの表示灯が点灯せず、リモコン操作やキーレスゴー操作 * ができなくなりますが、エンジンスイッチにキーを差し込むことによるイグニッション位置の選択とエンジンの始動はできます。

リモコン機能

① 施錠ボタン
② トランクオープナーボタン * / テールゲートオープナーボタン *
③ 解錠ボタン
④ 表示灯

イグニッション位置が 0 でエンジンスイッチにキーを差し込んでいないときに以下の操作ができます。

- ドア、トランクまたはテールゲート、燃料給油フラップの解錠 / 施錠
- トランクまたはテールゲートを開く *（▷70、73 ページ）
- コンビニエンスオープニング機能とコンビニエンスクロージング機能の操作（▷117、118 ページ）

操作時に表示灯 ④ が 1 回点滅します。

ⓘ バッテリーの電圧が低下したときは、キーの電池が正常でもリモコン操作はできません。

解錠する

▶ 解錠ボタン ③ を押します。

ドア、トランクまたはテールゲート、燃料給油フラップが解錠され、盗難防止警報システム *（▷55 ページ）が解除され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

また、アンサーバック機能を設定しているときは、確認音が 1 回鳴ります（▷157 ページ）。

ⓘ トランクが独立施錠（▷72 ページ）されているときは、解錠ボタン ③ を押してもトランクは解錠されません。

施錠する

▶ 施錠ボタン ① を押します。

ドア、トランクまたはテールゲート、燃料給油フラップが施錠され、盗難防止警報システム *（▷55 ページ）が待機状態になり、非常点滅灯が 3 回点滅します。

また、アンサーバック機能を設定しているときは、確認音が 3 回鳴ります（▷157 ページ）。

! リモコン操作で施錠したときは、非常点滅灯が 3 回点滅したことを確認してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

リモコン機能の設定切り替え

リモコン操作での解錠時に、運転席ドアと燃料給油フラップのみを解錠するように設定できます。

▶ 解錠ボタン ③ と施錠ボタン ① を同時に約 6 秒間押し続けます。

キーの表示灯 ④ が 2 回点滅し、設定が切り替わります。

この状態では以下のように作動します。

- 解錠ボタン ③ を 1 回押すと、運転席ドアと燃料給油フラップのみが解錠され、盗難防止警報システム(▷55 ページ)が解除され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

  また、アンサーバック機能を設定しているときは、確認音が 1 回鳴ります（▷157 ページ)。

▶ 続けて約 40 秒以内に、解錠ボタン ③ を押すと、助手席ドア、リアドア、トランクまたはテールゲートが解錠され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

また、アンサーバック機能を設定しているときは、確認音が 1 回鳴ります（▷157 ページ)。

元の設定に戻すには、再度、解錠ボタン ③ と施錠ボタン ① を同時に約 6 秒間押し続けます。キーの表示灯 ④ が 2 回点滅し、元の設定に戻ります。

ⓘ リモコン操作での解錠後約 40 秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠されます。

- ドアを開く
- トランクまたはテールゲートを開く
- エンジンスイッチにキーを差し込む
- ドアロックスイッチ（解錠）を押す
- キーが車内にあるときは、エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチ * を押す

ロケイターライティング

周囲が暗いとき、リモコン操作で車を解錠すると、以下のランプが点灯します。

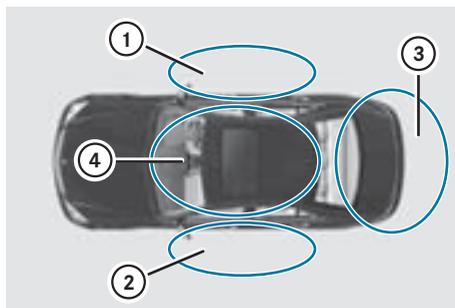
- 車幅灯
- ヘッドランプ（LED ドライビングランプ装備車）
- フロントフォグランプ * または LED ドライビングランプ *
- テールランプ
- ライセンスランプ

点灯したランプは以下のときに消灯します。

- 運転席ドアを開いたとき
- エンジンスイッチをキーに差し込んだとき
- キーレスゴースイッチ * でイグニッション位置を **1** にしたとき
- 点灯してから約 40 秒経過したとき

この機能の設定と解除については（▷155 ページ）をご覧ください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

キーレスゴー *

① 右側アンテナの検知範囲
② 左側アンテナの検知範囲
③ トランク / テールゲート側アンテナの検知範囲
④ 車室内アンテナの検知範囲

キーレスゴーは、キーを携帯することにより、キーとキーレスゴーアンテナが電波の送受信を行ない、リモコン操作をしなくても、車の解錠 / 施錠やエンジンの始動を行なうことができます。

ℹ エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、キーレスゴー操作はできません。

ℹ エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときも、エンジンがかかっているときやイグニッション位置が **2** のときは、キーレスゴー操作で施錠できません。

キーの位置により、キーレスゴー操作で行なうことができる操作が以下のように異なります。

キーが左右側アンテナまたはトランク / テールゲート側アンテナの検知範囲にあるとき

- ドアハンドルに触れると、車の施錠 / 解錠ができます。
- トランクまたはテールゲートのハンドルを引くと、トランクまたはテールゲートのみを解錠して開くことができます。
- テールゲートのキーレスゴースイッチ * を押して、テールゲートを閉じて車を施錠することができます。

ℹ キーの位置によっては、キーが検知範囲にある側と反対側のドアハンドルに触れることで、車が施錠 / 解錠されることがあります。

キーが車室内アンテナの検知範囲にあるとき

- イグニッション位置の選択ができます（▷78 ページ）。
- エンジンの始動ができます（▷78、121 ページ）。

ℹ ドア付近やルーフの上、ボンネットの上などの車外にキーがあるときも、車室内アンテナにキーが検知されることがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ 事故やけがのおそれがあります

- 埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器を装着されている方や、その他の医療用電子機器を使用されている方は、車を使用する前に、あらかじめ医師や医療用電子機器メーカーなどにキーレスゴーによる電波の影響についてご相談ください。
- 埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器を装着されている方は、キーレスゴーアンテナから約 22cm 以内に近付かないようにしてください。キーレスゴー操作を行なうときは、キーとアンテナの間で電波が送受信されるため、埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 子供だけを残して車から離れないでください。施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。

  また、ドア付近やルーフの上、ボンネットの上などの車外にキーがあるときも、キーレスゴースイッチを押すことによりエンジンが始動することがあり、事故の原因になります。
- 短時間でも、車から離れるときは、エンジンを停止して車を施錠し、キーを携帯してください。

! 手袋を着用したままドアハンドルに触れたときは、解錠しないことがあります。

! キーが左右側またはトランク / テールゲート側アンテナの検知範囲にあるときに、ドアハンドルを清掃したり、ドアハンドルに雨粒や水しぶきがかかったり物などが触れると、車が解錠されることがありますので注意してください。

i キーを車から遠ざけたときは、キーレスゴー操作で車を施錠 / 解錠したり、エンジンを始動することはできません。

i 車を長期間使用しなかったときは、ドアハンドル表面のセンサーの機能が自動的に解除されます。ドアハンドルを引いてドアを解錠してからイグニッション位置を **2** にして、センサーを待機状態にしてください。

i キーレスゴーアンテナの検知範囲内にキーがあるときは、キーを携帯していない人でも、キーレスゴー操作を行なうことができます。

i 車のバッテリーがあがったときは、キーの電池が正常でもキーレスゴー操作はできません。

解錠する（初期設定時）

▶ ドアハンドルの裏側に触れます。

ドア、トランクまたはテールゲート、燃料給油フラップが解錠され、盗難防止警報システム *（▷55 ページ）が解除され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

また、アンサーバック機能を設定しているときは、確認音が 1 回鳴ります（▷157 ページ）。

ℹ トランクが独立施錠(▷72 ページ)されているときは、ドアハンドルの裏側に触れてもトランクは解錠されません。

ℹ 解錠後約 40 秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠されます。

- ドアを開く
- トランクまたはテールゲートを開く
- エンジンスイッチにキーを差し込む
- ドアロックスイッチ(解錠)を押す
- キーが車室内にあるときは、エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチ * を押す

解錠時の設定の切り替え

① 表示灯
② 施錠ボタン
③ 解錠ボタン

運転席ドアハンドルの裏側に触れて解錠したときの作動内容を切り替えることができます。

▶ 表示灯 ① が 2 回点滅するまで、約 6 秒間施錠ボタン ② と解錠ボタン ③ を同時に押し続けます。

このときは、以下のように作動します。

▶ 運転席ドアハンドルの裏側に触れます。

運転席ドア、燃料給油フラップが解錠され、盗難防止警報システム *(▷55 ページ)が解除され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

また、アンサーバック機能を設定しているときは、確認音が 1 回鳴ります(▷157 ページ)。

初期設定に戻す

▶ 表示灯 ① が 2 回点滅するまで、約 6 秒間施錠ボタン ② と解錠ボタン ③ を同時に押し続けます。

ℹ 設定を切り替えたときも、運転席ドア以外のドアハンドルの裏側に触れることで、すべてのドアとトランクまたはテールゲート、燃料給油フラップを解錠することができます。

施錠する

右フロントドア

▶ ドアハンドルの施錠操作部①に触れます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

または

テールゲート

▶ テールゲートのキーレスゴースイッチ * ②を押します。

テールゲートが閉じます。

ドア、トランクまたはテールゲート、燃料給油フラップが施錠され、盗難防止警報システム *（▷55 ページ）が待機状態になり、非常点滅灯が 3 回点滅します。

また、アンサーバック機能を設定しているときは、確認音が 3 回鳴ります（▷157 ページ）。

! 車を施錠したときは、非常点滅灯が 3 回点滅したことを確認してください。

i キーが車室内やトランク内にあるときは、ドアハンドルやテールゲートのキーレスゴースイッチ * で施錠できません。このときは、マルチファンクションディスプレイに " キーが 車内にあります " または " キーを 認識できません " と表示されることがあります。

ただし、キーが左右側またはトランク / テールゲート側アンテナの検知範囲にあり、もう 1 本のキーが車室内にあるときは、ドアハンドルの施錠操作部に触れたり、テールゲートのキーレスゴースイッチ * を押すことで施錠できます。

i いずれかのドアが開いているときにドアハンドルの施錠操作部に触れるかテールゲートのキーレスゴースイッチ * を押すと、確認音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " ドアを閉めてから ロックしてください " と表示されます。

トランクまたはテールゲートを解錠して開く

▶ トランクまたはテールゲートのハンドルを引きます。

トランクまたはテールゲートのみが解錠されます。

EASY-PACK 自動開閉テールゲート装備車は、テールゲートのみが解錠されて自動で開きます。

▶ トランクまたはテールゲートを引き上げます。

! トランクまたはテールゲートを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ドア

⚠ **事故のおそれがあります**

ドアは確実に閉じてください。ドアの閉じかたが不完全（半ドア）な場合、走行中にドアが開くおそれがあります。

ドアを開くときは、周囲の安全を十分確認してください。

同乗者がドアを開くときは、危険がないことを運転者が確認してください。

! 車から離れるときは、エンジンを停止し、必ず施錠してください。

! ドアを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

ⓘ ドアが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

ⓘ 助手席ドアとリアドアは、開いているときにロックノブを押し込んでから閉じると施錠されます。

車内からのドアの開閉

開く

▶ ドアレバー ② を矢印の方向に引きます。

ドアが施錠されているときは、ロックノブ ① が上がり、解錠されます。

閉じる

▶ インナーグリップ ③ を持って確実に閉じます。

ⓘ 車が施錠されているときも、車内のドアレバーを引くとドアを開くことができます。

ただし、リアドアのチャイルドプルーフロックが設定されているときは、車内のドアレバーを引いてもリアドアを開くことはできません。

車外からのドアの開閉

開く

▶ ドアハンドル ① を引きます。

閉じる

▶ ドアハンドル ① を持って確実に閉じます。

車内からの解錠 / 施錠

⚠ **事故のおそれがあります**

ロックノブが下がっていても、車内のドアレバーを引くとドアは開きます。子供を乗せているときは特に注意してください。

! 施錠後は、ロックノブが完全に下がっていることを確認してください。

! ロックノブが完全に下がっていないドアがあるときは、そのドアをいったん開き、再度閉じてから施錠してください。

ドアごとの解錠 / 施錠

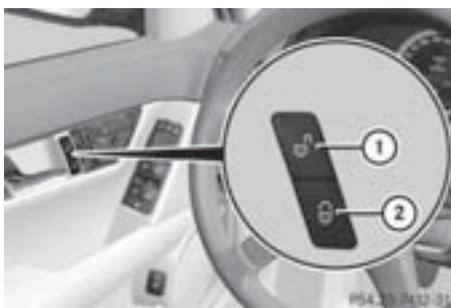
解錠する

▶ ドアレバー ② を矢印の方向に引きます。

このときドアも開きます。

施錠する

▶ ロックノブ ① を押します。

ドアロックスイッチ

すべてのドアとトランクまたはテールゲートを解錠 / 施錠できます。

ドアロックスイッチは、運転席ドアと助手席ドアにあります。

解錠する

▶ ドアロックスイッチ（解錠）① を押します。

ロックノブが上がります。

施錠する

▶ ドアロックスイッチ（施錠）② を押します。

ロックノブが下がります。

i 次のような場合はドアロックスイッチで解錠 / 施錠できません。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠しているとき
- 助手席ドアが開いているとき

運転席ドアが開いているときは、ドアロックスイッチで運転席以外のドアとトランクまたはテールゲートの解錠 / 施錠ができます。

ドアロックスイッチで燃料給油フラップの解錠 / 施錠はできません。

i トランクが独立施錠されているときは、ドアロックスイッチで解錠しても、トランクは解錠されません。

車速感応ドアロック

走行速度が約 15km/h 以上になると、ドアとトランクまたはテールゲートを自動的に施錠します。

! 車速感応ドアロックを設定した状態で、車を押すときやタイヤ交換などで車を持ち上げるとき、ダイナモメーターでパーキングブレーキをテストするときなどは、イグニッション位置を **0** にしてください。車輪が回転すると施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

i 車速感応ドアロックで施錠されているときも、車内のドアレバーを引いてドアを解錠して開くことができます。

i 車速感応ドアロックで施錠されたドアをドアロックスイッチで解錠すると、ドアを開くかエンジンを再始動するまで、車速感応ドアロックは作動しません。

車速感応ドアロックの設定 / 解除

* オプションや仕様により、異なる装備です。

車速感応ドアロックを設定する

▶ ドアロックスイッチ（施錠）② を約 6 秒間押して保持します。

車速感応ドアロックが設定され、確認音が鳴ります。

車速感応ドアロックを解除する

▶ ドアロックスイッチ（解錠）① を約 6 秒間押して保持します。

車速感応ドアロックが解除され、確認音が鳴ります。

ℹ 車速感応ドアロックはマルチファンクションディスプレイでも設定 / 解除できます（▷157 ページ）。

トランク / テールゲート

トランクの開閉（セダン）

⚠ **中毒のおそれがあります**

エンジンをかけた状態でトランクを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

⚠ **けがのおそれがあります**

- トランクを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。
- トランクに乗車しないでください。事故などのとき、けがをするおそれがあります。

  子供などがトランクに閉じ込められないように注意してください。

! トランクを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。また、トランクの周りに障害物がなく、人や物に接触するおそれがないことを確認してください。

! 強風のときにトランクを開くと、風にあおられて、トランクが不意に下がることがあります。風の強い日は十分に注意してください。

また、トランクに雪が積もっているときも同様に注意してください。

! トランクを閉じたときは、トランクが確実に閉じていることを確認してください。

! トランクが開いているときにリモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠し、トランクを閉じるとトランクは施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。

! トランクの中にキーを残したままにしないでください。トランクが施錠されるとキーが取り出せなくなります。

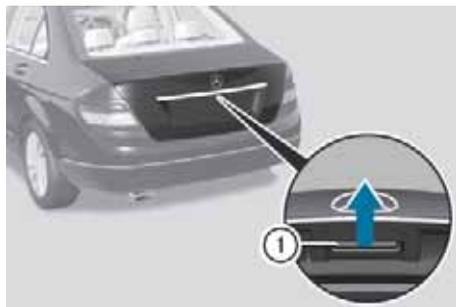
i トランクが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

i 車が施錠されているときにトランクのみを解錠して開き、再度トランクを閉じるとトランクは施錠されます。このとき、非常点滅灯が 3 回点滅します。

i 車が施錠されているときも、キーがキーレスゴー * の左右側またはトランク側アンテナの検知範囲にあるときは、トランクハンドルを引くと、トランクだけが解錠されて開きます。その状態でトランクを閉じると、トランクは施錠されます。

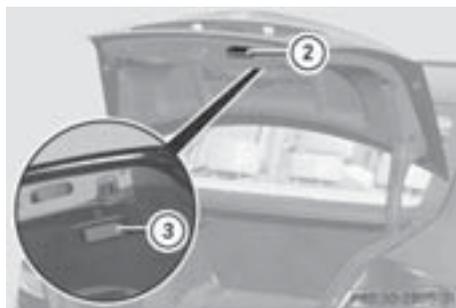
i トランクは車が解錠されているときのみ開くことができます。

i トランクの解錠は停車しているときのみ可能です。

車外からの開閉

トランクを開く

▶ キーの解錠ボタンを押します。

▶ ハンドル ① を矢印の方向に引きます。

トランクが開きます。

トランクを閉じる

▶ グリップ ② または ③* に手をかけてトランクを引き下げ、次に外側からトランクを押さえます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

車内からトランクを開く *

右ハンドル車

停車しているときは、運転席ドアのスイッチでトランクを開くことができます。

▶ トランクが開くまで、トランクオープナースイッチ ① を押し続けます。

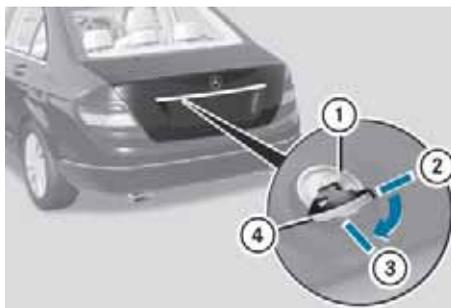
トランクが開きます。

ℹ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車が施錠されているときは、トランクオープナースイッチでトランクを開くことはできません。

リモコン操作でトランクを開く *

▶ トランクが開くまで、キーのトランクオープナーボタン（▷61 ページ）を押し続けます。

ℹ トランクが独立施錠されているときは、キーのトランクオープナーボタンを押してもトランクは開きません。

トランクの独立施錠

車の解錠 / 施錠に関わらず、トランクを独立して施錠できます。

トランクを独立施錠しているときは、トランクを開くことはできません。

トランクを独立施錠する

▶ トランクを閉じます。

▶ トランクのキーシリンダー ① にエマージェンシーキー ④（▷316 ページ）を差し込みます。

▶ エマージェンシーキー ④ を独立施錠位置 ③ にまわします。

▶ キーシリンダー ① からエマージェンシーキー ④ を抜きます。

! トランクを開いた状態でも、上記の操作を行なってトランクを閉じると独立施錠されます。このときは、エマージェンシーキーの閉じ込みに注意してください。

ℹ 駐車場などでキーを預ける場合に、この機能を使用してください。その際は、エマージェンシーキーをキー本体から取り外して携帯してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

独立施錠を解除する

▶ トランクのキーシリンダー ① にエマージェンシーキー ④（▷316 ページ）を差し込みます。

▶ エマージェンシーキー ④ を独立施錠解除位置 ② にまわします。

▶ キーシリンダー ① からエマージェンシーキー ④ を抜きます。

テールゲートの開閉（ステーションワゴン）

⚠ **中毒のおそれがあります**

エンジンをかけた状態でテールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

⚠ **けがのおそれがあります**

- テールゲートを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。
- ラゲッジルームに乗車しないでください。事故などのとき、けがをするおそれがあります。

  子供などがラゲッジルームに閉じ込められないように注意してください。

! テールゲートを開くときは、後方や上方に十分な空間があり、身体や物に接触するおそれのないことを確認してください。

! 強風のときにテールゲートを開くと、風にあおられて、テールゲートが不意に下がることがあります。風の強い日は十分に注意してください。

また、テールゲートに雪が積もっているときも同様に注意してください。

! テールゲートが開いているときにリモコン操作で施錠し、テールゲートを閉じるとテールゲートは施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。

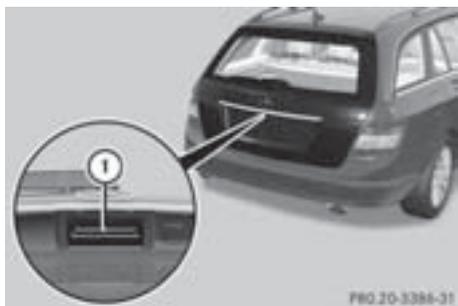
! テールゲートを閉じたときは、テールゲートが確実に閉じていることを確認してください。

! ラゲッジルームの中にキーを残したままにしないでください。テールゲートが施錠されるとキーが取り出せなくなります。

ℹ テールゲートが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

ℹ テールゲートは車が解錠されているときのみ開くことができます。

ℹ テールゲートの解錠は停車しているときのみ可能です。

EASY-PACK 自動開閉テールゲート非装備車

テールゲートを開く

▶ キーの解錠ボタンを押します。

▶ テールゲートハンドル ① を押します。

テールゲートが少し開きます。

▶ テールゲートを引き上げて開きます。

テールゲートを閉じる

▶ グリップ ① に手をかけてテールゲートを引き下げ、次に外側からテールゲートを押さえます。

ⓘ テールゲートが開いているときにリモコン操作で施錠し、テールゲートを閉じるとテールゲートは施錠されます。このとき、非常点滅灯が 3 回点滅します。

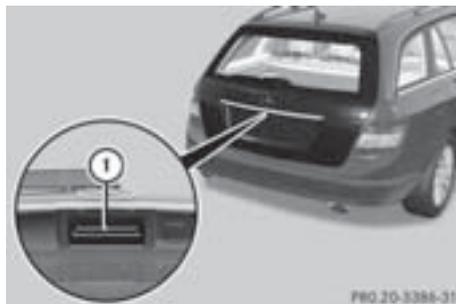
* オプションや仕様により、異なる装備です。

EASY-PACK 自動開閉テールゲート装備車

⚠ けがのおそれがあります

- テールゲートを開くときは、テールゲートの動きに注意してください。テールゲートのすぐ後方にいると、テールゲートに接触して、けがをするおそれがあります。
- テールゲートが開閉しているときに、身体や物が挟まれそうになったり、接触しそうになったときは、ただちに以下のいずれかの操作を行なってください。テールゲートの作動が停止します。
  - ◇テールゲートハンドルを引く
  - ◇キーのテールゲートオープナーボタンを押す
  - ◇運転席ドアのテールゲートスイッチを押す
  - ◇テールゲートのテールゲートクローザースイッチを押す
  - ◇テールゲートのキーレスゴースイッチ * を押す

ⓘ テールゲートが開閉しているときに障害物などとの接触を検知すると、開いているときはテールゲートはその位置で停止し、閉じているときは停止した後に自動で開きます。

テールゲートハンドルで開く

▶ キーの解錠ボタンを押します。

▶ テールゲートハンドル ① を手前に引きます。

テールゲートが自動で開きます。

キーのテールゲートオープナーボタンで開く

▶ テールゲートが開き始めるまで、テールゲートオープナーボタン ② を押し続けます。

確認音が 2 回鳴り、テールゲートが自動で開きます。

運転席ドアのテールゲートスイッチで開く

停車しているときは、運転席ドアのスイッチでテールゲートを開くことができます。

▶ テールゲートが開き始めるまで、テールゲートスイッチ ③ の上部を押し続けます。

確認音が 2 回鳴り、テールゲートが自動で開きます。

テールゲートのテールゲートクローザースイッチで閉じる

▶ テールゲートクローザースイッチ ④ を押します。

テールゲートが自動で閉じます。

運転席ドアのテールゲートスイッチで閉じる

▶ イグニッション位置が **1** か **2** のときに、テールゲートスイッチ③の下部を押し続けます。

確認音が 2 回鳴り、押している間、テールゲートが閉じます。

テールゲートを閉じて車を施錠する（キーレスゴー装備車）

▶ テールゲートのキーレスゴースイッチ⑤を押します。

テールゲートが自動で閉じます。

ドア、テールゲート、燃料給油フラップが施錠され、非常点滅灯が 3 回点滅します。

! 車を施錠したときは、非常点滅灯が 3 回点滅したことを確認してください。

i キーが車室内にあるときや、左右またはテールゲート側アンテナの検知範囲（▷63 ページ）にないときは、ドアハンドルやテールゲートのキーレスゴースイッチで施錠できません。このときは、マルチファンクションディスプレイに "キーが 車内にあります" または "キーを 認識できません" と表示されることがあります。

ただし、キーが左右側アンテナの検知範囲（▷63 ページ）にあり、もう 1 本のキーが車室内にあるときは、ドアハンドルの施錠操作部に触れることで、またキーがテールゲート側アンテナの検知範囲にあるときは、テールゲートのキーレスゴースイッチを押すことで施錠できます。

i いずれかのドアが開いているときにキーレスゴースイッチ⑤を押すと、確認音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " ドアを閉めてから ロックしてください " と表示されます。

テールゲートの開口角度の設定

上方に十分な空間がないところなどでテールゲートを開くときのために、テールゲートの開口角度を設定できます。

▶ テールゲートが開閉しているときに、以下のいずれかの操作を行なって、設定したい角度でテールゲートを停止させます。

- テールゲートハンドルを引く
- キーのテールゲートオープナーボタンを押す
- 運転席ドアのテールゲートスイッチを押す
- テールゲートのテールゲートクローザースイッチを押す
- テールゲートのキーレスゴースイッチ * を押す

▶ 確認音が 1 回鳴るまで、テールゲートクローザースイッチを押して保持します。

開口角度が設定されます。

次にテールゲートを開いたときは、設定された開口角度で停止します。

▶ 開口角度の設定を解除するときは、確認音が 2 回鳴るまで、テールゲートクローザースイッチを押して保持します。

開口角度の設定が解除されます。

ⓘ 設定した開口角度で停止した後にテールゲートハンドルを引くと、テールゲートは全開します。

ⓘ テールゲートの角度によっては、その開口角度に設定できないことがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

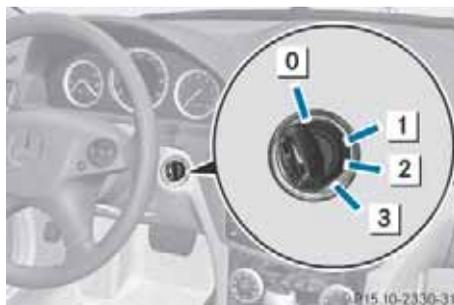
イグニッション位置

⚠ **事故やけがのおそれがあります**

ごく短時間でも、車から離れるときはエンジンスイッチからキーを抜いてください。また、子供だけを車内に残さないでください。いたずらから車の発進、火災などの事故が発生するおそれがあります。また、炎天下では車内が非常に高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

! 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

! バッテリーあがりを防止するために、駐車時は必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。

ⓘ キーの発信部が覆われていたり、汚れていると、エンジンを始動できなくなります。

イグニッション位置を選択する

エンジンスイッチに差し込んだキーをまわすと、以下のようにイグニッション位置が変更されます。

キーの位置	イグニッション位置
⓪	**0**：キーを差し込む / 抜く位置
①	**1**：イグニッション位置が **1** になります。
②	**2**：イグニッション位置が **2** になります。
③	**3**：エンジンが始動します。

ⓘ エンジンスイッチからキーを抜かずに **0** の位置で長時間放置していると、キーがまわせなくなることがあります。このときは、キーをいったん抜き、再度差し込んでからまわしてください。

キーレスゴー装備車

キーレスゴースイッチによるイグニッション位置の選択

左ハンドル車

車室内にキーがあり、エンジンスイッチにキーレスゴースイッチ①を取り付けてあるとき、キーレスゴースイッチ①を押すことにより、イグニッション位置の選択とエンジンの始動ができます。

イグニッション位置を選択する

▶ ブレーキペダルを踏んでいないときにキーレスゴースイッチ①を押すと、以下のようにイグニッション位置が変更されます。

キーレスゴースイッチの操作	イグニッション位置
1 回押す	**0** から **1** になります。
さらに 1 回押す	**1** から **2** になります。
さらに 1 回押す	**2** から **0** になります。

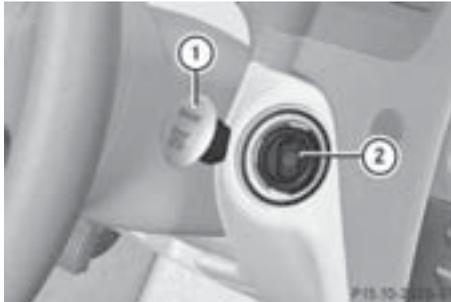
エンジンを始動する

▶ ブレーキペダルを踏んでいるときにキーレスゴースイッチ①を押します。

! ドア付近やルーフの上、ボンネットの上などの車外にキーがあるときもエンジンは始動できることがあります。車両の盗難に注意してください。

ⓘ エンジンスイッチにキーレスゴースイッチを取り付けた直後は、キーレスゴースイッチでのイグニッション位置の選択やエンジン始動ができないことがあります。

ℹ 車室内にキーがないときにキーレスゴースイッチを押すと、マルチファンクションディスプレイに" キーを認識 できません " または" スタートボタンを外し キーを入れてください " と表示されます。

キーによるイグニッション位置の選択

左ハンドル車

キーレスゴースイッチ①を取り外し、エンジンスイッチ②にキーを差し込んでまわすことにより、イグニッション位置の選択（▷78 ページ）や、エンジンの始動（▷78、121 ページ）を行なうことができます。

ℹ キーレスゴースイッチは、通常は駐車時でも取り外す必要はありません。

タッチスタート

イグニッション位置を **3** にしたり、ブレーキペダルを踏んだままキーレスゴースイッチ * を押すと、手を放しても自動的にスターターが作動し続け、エンジンが始動します。

シート

⚠ **けがのおそれがあります**

子供だけを車内に残して車から離れないでください。シート調整スイッチに触れるとシートが動き出し、けがをするおそれがあります。

⚠ **事故のおそれがあります**

運転席シートの調整は、必ず停車しているときに行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ **けがのおそれがあります**

シートを調整するときは、身体や物などが挟まれないように注意してください。

シートを調整するときは、エアバッグに関する注意もお読みください（▷33 ページ）。

⚠ **けがのおそれがあります**

ヘッドレストは、ヘッドレストの中央が目の高さになるように調整してください。事故などのときに、重大なけがをするおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! シートやシートヒーター * の損傷を防ぐため、以下の点に注意してください。

- 長時間、シートに液体が付着したままにしないでください。
- シートカバーが濡れたときなどは、シートを乾燥させるためにシートヒーターを使用しないでください。
- シートの上に重い物を載せないでください。また、シートクッションの上にナイフやくぎ、工具などの鋭利な物を置かないでください。

  シートは、できるだけ人を乗せるためだけに使用してください。
- シートヒーターの使用中は、ブランケットやコート、バッグ、シートカバー、チャイルドセーフティシートなどにより、シートを覆わないでください。

! シートを調整するときは、足元やシートの下などに物がないことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

! シートを後方に移動したり、バックレストを後方に倒すときはリアシートと接触しないように注意してください。シートやシートポケット * の収納物を損傷するおそれがあります。

フロントシートの調整（4 ウェイパワーシート）

右側シート

バックレストの角度とシートの高さは、エンジンスイッチにキーが差し込まれているときに調整できます。

i エンジンスイッチからキーを抜いてから、またはフロントドアを開閉してから約 3 分間は、バックレストの角度とシートの高さを調整できます。

バックレストの角度の調整

▶ シート調整スイッチを矢印 ① の方向に操作して調整します。

シートの高さの調整

▶ シート調整スイッチを矢印 ② の方向に操作して調整します。

シートの前後位置の調整

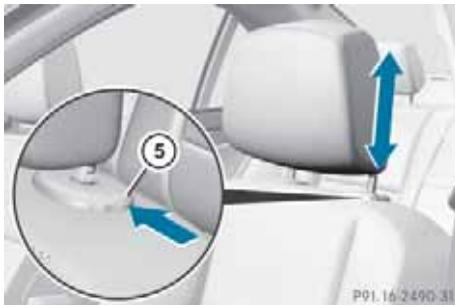
▶ レバー ④ を引き上げながらシートを前後に動かして調整します。

▶ レバー ④ を放して、シートがロックされたことを確認します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

シートクッションの角度の調整

▶ ダイヤル ③ をまわして調整します。

ヘッドレストの高さの調整

ヘッドレストを高くする

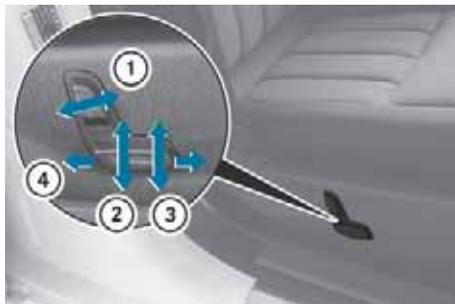
▶ ヘッドレストを引き上げます。

ヘッドレストを低くする

▶ ロック解除ボタン ⑤ を押しながらヘッドレストを押し下げます。

ヘッドレストの角度の調整

▶ ヘッドレストの下部を持って矢印の方向に動かします。

フロントシートの調整（8 ウェイパワーシート）

右側シートのスイッチ

エンジンスイッチにキーが差し込まれているとき、またはキーレスゴー操作 * でイグニッション位置を **1** か **2** にしているときに調整できます。

ℹ エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてから、またはフロントドアを開閉してから約 3 分間は、シートの調整ができます。

シートの前後位置の調整

▶ スイッチを矢印 ④ の方向に操作します。

シートの高さの調整

▶ スイッチを矢印 ② の方向に操作します。

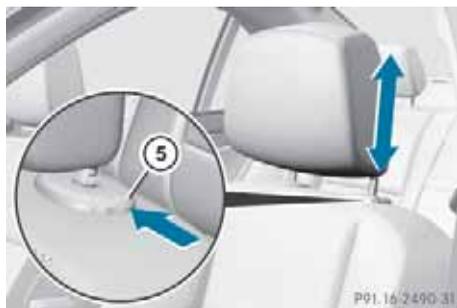
シートクッションの角度の調整

▶ スイッチを矢印 ③ の方向に操作します。

バックレストの角度の調整

▶ スイッチを矢印 ① の方向に操作します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ヘッドレストの高さの調整

ヘッドレストを高くする

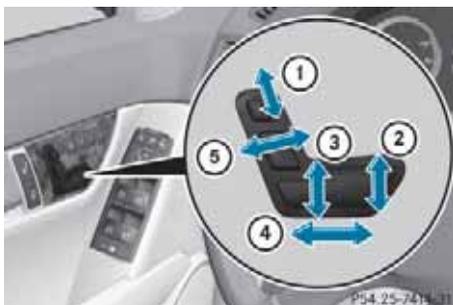
▶ ヘッドレストを引き上げます。

ヘッドレストを低くする

▶ ロック解除ボタン ⑤ を押しながらヘッドレストを押し下げます。

ヘッドレストの角度の調整

▶ ヘッドレストの下部を持って矢印の方向に動かします。

フロントシートの調整（メモリー付パワーシート）

左側シートのスイッチ

シートの前後位置の調整

▶ スイッチを矢印 ④ の方向に操作します。

ヘッドレストの高さも、連動して自動的に調整されます。

シートの高さの調整

▶ スイッチを矢印 ③ の方向に操作します。

シートクッションの角度の調整

▶ スイッチを矢印 ② の方向に操作します。

バックレストの角度の調整

▶ スイッチを矢印 ⑤ の方向に操作します。

ヘッドレストの高さの調整 *

▶ スイッチを矢印 ① の方向に操作します。

ℹ シートのメモリー機能については（▷94 ページ）をご覧ください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ⓘ 助手席シートが不適切な位置にあるときに PRE-SAFE® が作動したときは、助手席シートが適切な位置に自動的に調整されます。

ⓘ C 63 AMG にはヘッドレスト一体型バックレストが装備されています。ヘッドレストの高さおよび角度の調整をすることはできません。

ヘッドレストの角度の調整 *

P91.16-2440-31

▶ ヘッドレストの下部を持って矢印の方向に動かします。

リアヘッドレスト

ヘッドレストの高さの調整

⚠ **けがのおそれがあります**

乗車するときは、必ずヘッドレストの中央が目の高さになっていることを確認してください。事故のとき、首にけがをするおそれがあります。

P91.16-2741-31

ヘッドレストを高くする

▶ ヘッドレストを引き上げます。

ヘッドレストを低くする

▶ ロック解除ボタン ① を押しながらヘッドレストを押し下げます。

ヘッドレストの角度の調整

左右のヘッドレストは角度を調整できます。

P91.16-2750-31

▶ ヘッドレストを動かして角度を調整します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

リアヘッドレストの脱着（分割可倒式リアシート装備車）

⚠ けがのおそれがあります

リアシートに乗車するときは必ずヘッドレストを取り付けてください。事故のとき、重大なけがをするおそれがあります。

リアヘッドレストを取り外す

▶ バックレストのロックを解除して、バックレストを前方に倒します（▷222､224 ページ）。

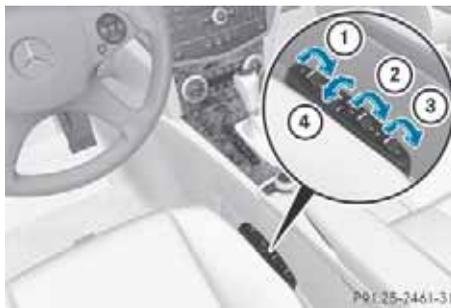
▶ ロック解除ボタン ① を押しながら、ヘッドレストを引き抜きます。

リアヘッドレストを取り付ける

▶ バックレストのロックを解除して、バックレストを前方に倒します（▷222､224 ページ）。

▶ 切り欠きのある方の支柱が右側になるようにして、ヘッドレストの支柱を取り付け穴に差し込んでロックします。

▶ バックレストを元の位置に戻して確実にロックします（▷222､224 ページ）。

マルチコントロールシートバック

左側シートのスイッチ
① シートクッション前部のサポートの調整ダイヤル
② 腰部下部のサポート調整ダイヤル
③ 腰部上部のサポート調整ダイヤル
④ バックレストのサイドクッションのサポート調整ダイヤル

シートのサポートを調整できます。

イグニッション位置が **2** のときに調整できます。

シートクッション前部のサポートを調整する

▶ ダイヤル ① を前後に操作します。

腰部下部のサポートを調整する

▶ ダイヤル ② を前後に操作します。

腰部上部のサポートを調整する

▶ ダイヤル ③ を前後に操作します。

バックレストのサイドクッションのサポートを調整する

▶ ダイヤル ④ を左右に操作します。

※ マルチコントロールシートバックは、日本仕様には装備されません。

ℹ 調整後に時間が経過するとサポートが弱くなることがあります。そのときは再度調整を行なってください。

ℹ スイッチを操作しても調整できないときは、エアタンクの圧力が低下しています。エンジンを始動してから再度調整してください。

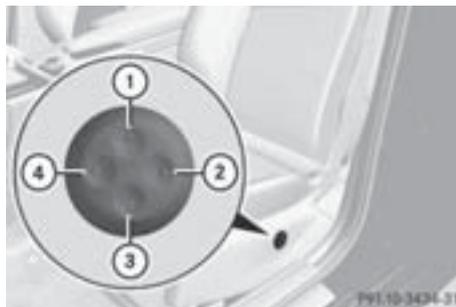
ランバーサポート *

ランバー（腰部）のサポートを調整できます。

フロントシートに装備されています。

ランバーサポートを調整する

▶ 調整レバー ① を矢印の方向に操作して調整します。

電動ランバーサポート *

左側シートのスイッチ
①③ ランバーサポートの位置の調整
② ランバーサポートの強さの調整（弱）
④ ランバーサポートの強さの調整（強）

ランバー（腰部）のサポートを調整できます。

フロントシートに装備されています。

サポートの位置を調整する

▶ スイッチ ① または ③ を押して、サポートの位置を調整します。

サポートの強さを調整する

▶ スイッチ ②（弱）または ④（強）を押して、サポートの強さを調整します。

ℹ 右側シートは、スイッチ ②（弱）と ④（強）の位置が逆になります。

ℹ 以下のときは、ランバーサポートの調整が自動的に確認されます。

- ドアが解錠されているとき
- ドアが開いているとき
- イグニッション位置が **1** のとき

必要に応じてランバーサポートを再調整してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

アダプティブバックレスト *

左側シートのスイッチ
① 腰部上部のサポート調整スイッチ
② 腰部下部のサポート調整スイッチ
③ バックレストのサイドクッション調整スイッチ

フロントシートのバックレストのサポートを調整できます。

イグニッション位置が **2** のときに調整できます。

腰部上部のサポートを調整する

▶ スイッチ ① の前部を押します。

サポートが強くなります。

または

▶ スイッチ ① の後部を押します。

サポートが弱くなります。

腰部下部のサポートを調整する

▶ スイッチ ② の前部を押します。

サポートが強くなります。

または

▶ スイッチ ② の後部を押します。

サポートが弱くなります。

バックレストのサイドクッションを調整する

▶ スイッチ ③ の前部を押します。

サポートが強くなります。

または

▶ スイッチ ③ の後部を押します。

サポートが弱くなります。

ℹ 調整後に時間が経過するとサポートが弱くなることがあります。そのときは再度調整を行なってください。

ℹ スイッチを操作しても調整できないときは、エアタンクの圧力が低下しています。エンジンを始動してから再度調整してください。

シートヒーター *

シートヒーターを使用する

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ シートヒータースイッチ ① を押します。

シートヒータースイッチ ① を押すごとに点灯する表示灯 ② の数が変わり、シートヒーターの作動が切り替わります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

シートヒーターを停止する

▶ シートヒータースイッチ ① を押して、表示灯 ② を消灯させます。

点灯している表示灯の数	作動内容
3	シートヒーターが強で作動します。 約 8 分後に自動的に中に切り替わります。
2	シートヒーターが中で作動します。 約 10 分後に自動的に弱に切り替わります。
1	シートヒーターが弱で作動します。 約 20 分後に自動的に停止します。
0	停止しています。

⚠ 火傷のおそれがあります

- シートヒーターを強で連続して使用しないでください。また、コートや厚手の衣服を着用している状態や、毛布などの保温性の高いものをシートにかけた状態でシートヒーターを使用しないでください。

  異常過熱による低温火傷（紅斑、水ぶくれ）を起こしたり、シートヒーターが故障するおそれがあります。
- 以下の事項に該当する方は、熱すぎたり、低温火傷をするおそれがありますので、十分に注意してください。
  - ◇ 乳幼児、お年寄り、病人、身体が不自由な方
  - ◇ 皮膚の弱い方
  - ◇ 疲労の激しい方
  - ◇ 眠気を誘う薬を服用された方
  - ◇ 飲酒した方

! シートに凸部のある重量物を置かないでください。故障の原因になります。

i 多くの電気装備を使用していたりバッテリーの電圧が低下すると、シートヒーターが停止して、表示灯が消灯することがあります。また、シートヒータースイッチを押しても、点灯した表示灯がすぐに消灯することがあります。電圧が回復すると、再び自動的に作動し、表示灯が点灯します。

ステアリング

⚠ 事故のおそれがあります

ステアリングの調整は、必ず停車中に行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

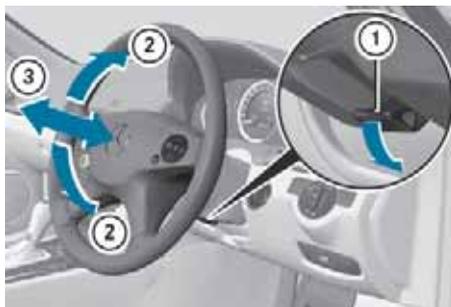
⚠ けがのおそれがあります

運転中はステアリングのパッド部を持たないでください。万一のとき、運転席エアバッグの作動を妨げるおそれがあります。

ステアリングのパッド部にカバーをしたり、バッジやステッカー、オーディオのリモコンなどを貼り付けないでください。運転席エアバッグの作動を妨げたり、作動時にけがをするおそれがあります。

! ステアリングをいっぱいにまわした状態を長く保持しないでください。ステアリング装置を損傷するおそれがあります。

! 故障などでエンジンを停止してけん引するときは、十分注意してください。エンジンが停止していると、通常のときに比べてステアリング操作に非常に大きな力が必要です。

ステアリング位置の調整（手動式）

① ロック解除ハンドル
② 上下位置の調整
③ 前後位置の調整

▶ ロック解除ハンドル ① を矢印の方向に押し下げます。

ステアリングのロックが解除されます。

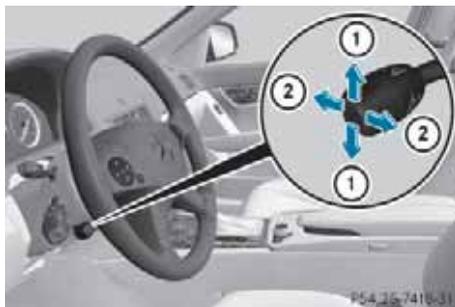
▶ ステアリングを前後上下に動かして、正しい位置に調整します。

▶ ロック解除ハンドル ① を引き上げてロックします。

▶ ステアリングが完全にロックされていることを確認します。

⚠ 事故のおそれがあります

ステアリングがロックされていない状態で走行しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

ステアリング位置の調整（電動式）

① 上下位置の調整
② 前後位置の調整

⚠ **けがのおそれがあります**

子供だけを車内に残して車から離れないでください。ステアリング調整レバーを操作することでステアリングが動きだし、ステアリングに身体を挟まれるおそれがあります。

上下位置を調整する

▶ ステアリング調整レバーを ① の方向に操作します。

前後位置を調整する

▶ ステアリング調整レバーを ② の方向に操作します。

ℹ メモリー付パワーシート装備車のステアリングの位置は、運転席シートの位置やドアミラーの角度と併せて記憶させることができます（▷94 ページ）。

イージーエントリー機能 *

イージーエントリー機能は、運転席への乗り降りを容易にする機能です。

次のいずれかの操作をすると、ステアリングが上方に移動します。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- イグニッション位置が **0** か **1** のときに運転席ドアを開く

ステアリングは、次のいずれかの操作をすると元の位置に戻ります。

- 運転席ドアが閉じた状態で、エンジンスイッチにキーを差し込む
- イグニッション位置が **0** のときは、運転席ドアを閉じてからイグニッション位置を **1** にする
- イグニッション位置が **1** のときは、運転席ドアを閉じてイグニッション位置を **2** にする

この機能の設定と解除については（▷158 ページ）をご覧ください。

ℹ ステアリングが上方の位置にあるときは、イージーエントリー機能は作動しないことがあります。

ℹ イージーエントリー機能を設定しているときは、事故などのときに運転席ドアを開くと、イグニッション位置に関わらずステアリングが上方に移動します。これにより、車外への脱出や乗員の救出を容易にします。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ **けがのおそれがあります**

子供だけを車内に残して車から離れないでください。イージーエントリー機能が作動して、ステアリングに身体を挟まれるおそれがあります。

イージーエントリー機能が作動しているときは、乗員の身体が挟まれないように注意してください。

身体が挟まれそうになったときは、以下の操作をしてください。

- ステアリング調整レバーをいずれかの方向に操作する
- 運転席ドアのいずれかのポジションスイッチ（▷94 ページ）を押す

ステアリングロック

ステアリングをロックする

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

または

▶ エンジンスイッチにキーレスゴースイッチ * を取り付けてあるときは、イグニッション位置が **0** か **1** のときに運転席ドアを開くか、運転席ドアを開き、イグニッション位置を **0** にします。

ステアリングがロックされます。

ステアリングロックを解除する

▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。

または

▶ エンジンスイッチにキーレスゴースイッチ * を取り付けてあるときは、イグニッション位置を **1** にします。

ステアリングロックが解除されます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ミラー

⚠ 事故のおそれがあります

ミラー類は必ず走行前に、後方が十分確認できるように調整してください。走行中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。

ルームミラーやドアミラーには死角があります。車線変更をするときなどは、必ずルームミラーおよびドアミラーで後方を確認してください。また、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

! ルームミラーやドアミラーの汚れを取るときにガラスクリーナーを使用するときは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に相談してください。ガラスクリーナーによっては、ミラーが変色するおそれがあります。

ルームミラー

ルームミラーの角度調整

▶ 手でルームミラーの角度を調整します。

ドアミラー

⚠ 事故のおそれがあります

ドアミラーに写った像は実際よりも遠くにあるように見えます。車線変更をするときなどは、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

! ドアミラーは車体の側面から突き出ています。すれ違いや車庫入れのとき、また、歩行者などに十分注意してください。

ℹ より広い視界を確保するため、ドアミラーの外側部分は凸面になっています。

ℹ ドアミラーにはヒーターが装着されています。外気温度が低いときにリアデフォッガーを使用したときは、自動的に温められ、凍結を防ぎます。

ドアミラーの角度調整

左ハンドル車

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ 調整する側のドアミラー選択スイッチ ① または ② を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

何も操作を行なわないと、表示灯は約 15 秒後に消灯します。

▶ ドアミラー選択スイッチの表示灯が点灯しているときに、ドアミラー調整スイッチ ③ を操作してドアミラーの角度を調整します。

ⓘ メモリー付パワーシート装備車のドアミラーの角度は、運転席シートの位置やステアリングの位置と併せて記憶させることができます（▷94 ページ）。

手動格納式ドアミラーの格納 / 展開 *

▶ 手でドアミラーを格納 / 展開します。

電動格納式ドアミラーの格納 / 展開 *

右ハンドル車

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ 格納 / 展開スイッチ ① を押します。

ドアミラーが格納 / 展開します。

! 走行するときはドアミラーを展開してください。

! ドアミラーを格納 / 展開しているときは、身体や物が挟まれないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

! 洗車機を使用するときはドアミラーを格納してください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。

! 電動格納式ドアミラーは、手で格納 / 展開しないでください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。

ⓘ 電動格納式ドアミラーは、走行速度が約 15km/h を超えると、ドアミラーを格納することはできません。

ドアミラーのリセット

電動格納式ドアミラーは、バッテリーの接続が一時的に断たれたときは、施錠時のドアミラー格納が作動しないことがあります。このようなときは、ドアミラーをリセットしてください。

▶ イグニッション位置を **1** にします。

▶ 格納 / 展開スイッチ ① を押します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

施錠時のドアミラー格納 *

電動格納式ドアミラーは、リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠すると、ドアミラーも併せて格納されます。

格納されたドアミラーは、フロントドアを開くと展開します。

この機能の設定と解除については（▷159 ページ）をご覧ください。

ℹ ドアミラー格納 / 展開スイッチでドアミラーを格納してから施錠したときは、フロントドアを開いても、ドアミラーは展開しません。

ルームミラーの防眩機能

ルームミラーの手動防眩 *

ルームミラーを防眩する

▶ ノブ ① を前後に動かします。

自動防眩ルームミラー *

周囲が暗く、イグニッション位置が **1** か **2** のときに、ルームミラーのセンサーが後続車のライトを感知すると、自動的にルームミラーと運転席側のドアミラーの色の濃度が変わり、眩しさを防止します。

ℹ セレクターレバーが **R** に入っているときは、自動防眩機能が解除されます。また、車種や仕様により、フロントルームランプが点灯しているときも、自動防眩機能が解除されます。

⚠ **けがのおそれがあります**

ミラーのガラスが損傷すると、液体が漏れ出すことがあります。この液体は物を腐食させる性質がありますので、皮膚や目に直接触れないよう注意してください。

万一、液体が目に入ったときや皮膚に付着したときは、ただちに清潔な水で十分洗い流し、医師の診断を受けてください。

! 液体が車の塗装面に付着したときは、ただちに水で湿らせた布などで拭き取ってください。塗装面を損傷するおそれがあります。

! セーフティネット（ステーションワゴン）を使用しているときなど、ルームミラーのセンサーに後続車のライトが当たらないときは、自動防眩機能が作動しないことがあります。注意して走行してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

メモリー機能 *

シート位置の記憶

運転席シートおよび助手席シートには、3 つの位置を記憶させることができます。

運転席シートでは、ステアリングの位置とドアミラーの角度も記憶させることができます。

▶ 正しいシート位置に調整します（▷82 ページ）。

運転席では、さらにステアリングの位置（▷89 ページ）、ドアミラーの角度（▷91 ページ）を調整します。

ドアミラーの角度を調整するときは、イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ メモリースイッチ ① を押します。

▶ 3 秒以内にポジションスイッチ ② の 1 ～ 3 のいずれかを押します。

ピッという確認音が鳴り、そのポジションスイッチにシート位置などが記憶されます。

右側ドアのスイッチ

⚠ **けがのおそれがあります**

子供だけを車内に残して車から離れないでください。スイッチを操作することでシートなどが動きだし、身体を挟まれるおそれがあります。

シート位置の呼び出し

⚠ **事故のおそれがあります**

運転席シートのシート位置の呼び出しは、必ず停車中に行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

▶ 呼び出したいポジションスイッチ ②（1 ～ 3 のいずれか）を押し続けます。

シートなどが動きはじめ、あらかじめ記憶させた位置になると停止します。

! バックレストを大きく後方に傾けているときは、記憶位置を呼び出す前に、バックレストを起こしてください。シートを損傷するおそれがあります。

ℹ 安全のため、ポジションスイッチ ② から手を放すとシートなどは停止します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

パーキングヘルプ機能

右ハンドル車

セレクターレバーを R に入れたときに、助手席側ドアミラーの角度があらかじめ記憶させていた角度になり、車両後方の視界を確保して、後退を容易にします。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 助手席側ドアミラー選択スイッチ ② を押します。

▶ セレクターレバーを R に入れます。

助手席側ドアミラーの角度が、あらかじめ記憶させていた角度になります。

ⓘ パーキングヘルプ機能が作動しているときは、助手席側ドアミラー選択スイッチ ② の表示灯が点灯します。

助手席側ドアミラーは次のいずれかのときに元の角度に戻ります。

- セレクターレバーを R から他の位置に入れて約 10 秒経過したとき
- 走行速度が約 10km/h 以上になったとき
- 運転席側ドアミラー選択スイッチ ① を押したとき

後退時の助手席側ドアミラー角度を記憶させる

右ハンドル車

▶ 停車して、イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ 助手席側ドアミラー選択スイッチ ①を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

ⓘ 何も操作を行なわないと、表示灯は約 15 秒後に消灯します。

▶ 助手席側ドアミラー選択スイッチの表示灯が点灯しているときに、ドアミラー調整スイッチ ② で、後退時に後方を確認しやすい角度に助手席側ドアミラーを調整します。

▶ 運転席ドアのメモリースイッチ ③ を押します。

▶ 約 3 秒以内にドアミラー調整スイッチ ② をいずれかの方向に押します。

このとき助手席側ドアミラーが動かなければ、そのときの角度に記憶されます。

ⓘ 助手席側ドアミラーが動いたときは最初からやり直してください。

▶ ドアミラー調整スイッチ ② で、走行時の角度に助手席側ドアミラーを調整します。

! 走行する前に、必ずドアミラーの角度を後方が十分確認できるように調整してください。

ⓘ 助手席側ドアミラーが後退時の角度に自動調整されているときに助手席側ドアミラーの角度を調整すると、調整した角度が新たに記憶されます。

シートベルト

シートベルトの着用

⚠ **けがのおそれがあります**

- シートベルトを正しく着用していなかったり、シートベルトがバックルに確実に差し込まれていないと、シートベルトの機能が十分に発揮されずに、致命的なけがをするおそれがあります。
- 着用前に、シートベルトやバックルに損傷や汚れがないことを確認してください。
- 乗員全員が、常にシートベルトを正しく着用していることを確認してください。
- シートベルトは身体に密着させて、ねじれのないように着用してください。
- コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。
- 肩を通るベルトは肩の中央にかけてください。絶対に首や脇の下には通さないでください。また、シートベルトを引き上げて胸に密着させてください。
- 腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。
- ペンや眼鏡など、衣類のポケットに入れたとがった物やこわれやすい物にシートベルトをかけないでください。
- シートベルトクリップなどを使用してシートベルトにたるみをつけないでください。
- 1 本のシートベルトを 2 人以上で共用したり、シートベルトと身体の間にバッグなどを挟み込まないでください。

- 子供を膝の上に座らせて走行しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに子供を保護することができず、子供と他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。
- 身長 150cm 未満の乗員または 12 歳未満の子供は、シートベルトを正しく着用することができません。必ずチャイルドセーフティシートを適切なシートに装着して、子供の安全を確保してください。

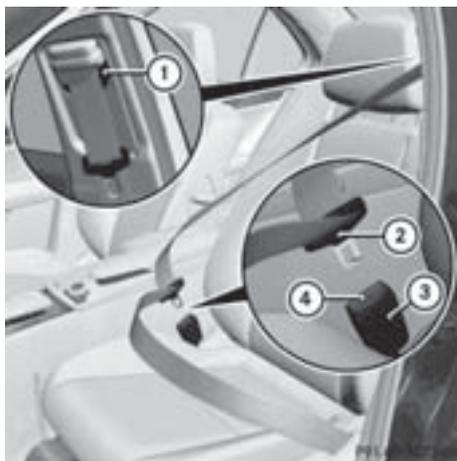
  詳しくは（▷40 ページ）をご覧ください。
- 子供が着用するときは、着用状態を運転者が確認してください。また、正しく着用できない体格の子供は適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。
- チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に添付されている取扱説明書に従ってください。
- 妊娠中の方やけがの治療中の方は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。
- シートベルトを使って、重い荷物などを固定しないでください。

⚠ けがのおそれがあります

シートベルトの効果は、バックレストができるだけ垂直に近い位置で、乗員が上体を起こして座っている場合にのみ発揮することができます。絶対にバックレストを大きく寝かせた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに致命的なけがをするおそれがあります。

⚠ けがのおそれがあります

- シートベルトが以下のようなときは、機能が十分に発揮されずに致命的なけがをするおそれがあります。
  - ◇ シートベルトが損傷しているとき
  - ◇ 事故などでシートベルトに大きな衝撃がかかったとき
  - ◇ シートベルトを改造・分解したとき
- 鋭利な部分の上にシートベルトを通さないでください。シートベルトを損傷するおそれがあります。
- シートベルトがドアやシートレールに挟まれていないことを確認してください。シートベルトを損傷するおそれがあります。
- シートベルトを改造したり分解しないでください。
- 衝突後やシートベルトが大きな衝撃を受けたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換し、関連部品の点検を受けてください。
- 純正部品以外のシートベルトは使用しないでください。
- シートベルトの強度が低下し、乗員保護機能が損なわれるため、清掃するときは以下の点に注意してください。
  - ◇ 強い酸性やアルカリ性洗剤、有機溶剤などを使用しない
  - ◇ 乾燥時にドライヤーや直射日光を当てない
  - ◇ シートベルトを漂白したり、染色しない
- シートベルトに損傷がないか、定期的に点検してください。

シートベルトを着用する

▶ フロントシートは、シートを調整し、バックレストをできるだけ垂直に近い角度にします。

▶ シートベルトをベルトアンカー ① からゆっくりと引き出します。

シートベルトがロックして引き出せないときは、シートベルトを少し戻してから、再びゆっくり引き出します。

▶ シートベルトを肩の中央にかけます。

▶ シートベルトにねじれがないことを確認して、プレート ② の先端をバックル ③ に差し込みます。

フロントシートは、テンション自動調整機能 * が作動します（▷99 ページ）。

▶ 肩を通るベルトが肩の中央にかかっていることを確認します。

また、腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかっていることを確認します。

必要に応じて、シートベルトの高さ（▷99 ページ）やシート位置（▷80 ～ 82 ページ）を調整して、ベルトを身体に密着させせます。

シートベルトを外す

▶ 手でプレート ② を持ち、バックル ③ の解除ボタン ④ を押して、シートベルトをゆっくり巻き取らせます。

シートベルト着用警告

シートベルト警告灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し、エンジンを始動してから数秒後に消灯します。

点灯しないときは警告灯の異常ですので、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジンがかかっているときに運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないときは、シートベルト警告灯が点灯します。

シートベルト警告音

運転席の乗員がシートベルトを着用せずにエンジンを始動すると、警告音が数秒間鳴り、シートベルトの着用を促します。

走行中のシートベルト警告

走行速度が約 25km/h 以上になったときに、運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないかシートベルトをバックルから外したときは、シートベルト警告灯が点滅して、断続的な警告音も鳴ります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

そのままの状態で約 60 秒間走行するか、または停車したときは警告灯は点灯に変わり、警告音も鳴り止みます。ただし、シートベルトを着用しないまま再び走行を始めて速度が約 25km/h 以上になると、この警告は繰り返し行なわれます。

ℹ 助手席に重い荷物などを積んでいると、エンジンがかかっているときにシートベルト警告が行なわれることがあります。

フロントシートベルトのテンション自動調整機能 *

フロントシートベルトにはテンション自動調整機能が装備されています。

イグニッション位置が **2** のときに、プレートの先端をバックルに差し込むと、シートベルトが身体に密着するように、自動的にシートベルトのテンション（締め付け具合）を調整します。

この機能の設定と解除については（▷158 ページ）をご覧ください。

シートベルトの高さ調整

フロントシートベルトは、高さを調整することができます。

シートベルトが首に当たったり、肩から外れたりしないように高さを調整します。

高さは 5 段階に調整できます。

シートベルトの高さを調整する

▶ 上げるときは、ベルトアンカー ② をそのまま上げます。

▶ 下げるときは、ロック解除ボタン ① を押しながらベルトアンカー ② を下げます。

調整後はベルトアンカーが確実にロックしていることを確認してください。

正しい運転姿勢

⚠ **けがのおそれがあります**

- バックレストと背中の間に物を挟まないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
- バックレストを大きく後方に傾けた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体がシートベルトの下を抜けてベルトの力が腹部や首にかかり、致命的なけがをするおそれがあります。

⚠ **事故のおそれがあります**

運転席の乗員は必ず運転前に自分の運転姿勢に合った正しいシート位置に調整してください。

運転中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ 以下のことに注意して、シート③とヘッドレストを調整します。

- 運転席エアバッグとの間隔を、できるだけ確保する
- バックレストはできるだけ垂直にして、正しい姿勢で着座している
- シートベルトが正しく着用できる
- 大腿部がシートクッションに軽く支えられている
- ペダルが楽に踏み込める
- ヘッドレストの中央が目の高さに調整され、後頭部がヘッドレストに支えられていることを確認する

▶ 以下のことに注意して、ステアリング①を調整します。

- ステアリングを握ったときに、腕に適度な余裕がある
- 足を自由に動かせる
- メーターパネルのすべてのメーター類やマルチファンクションディスプレイ、警告灯や表示灯を確認できる

▶ 以下のことに注意して、シートベルト②を着用します。

- シートベルトが身体に密着している
- 肩を通るベルトが肩の中央にかかっている
- 腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかっている

▶ 走行する前に、道路や交通状況が十分確認できるようにルームミラーとドアミラーを調整します。

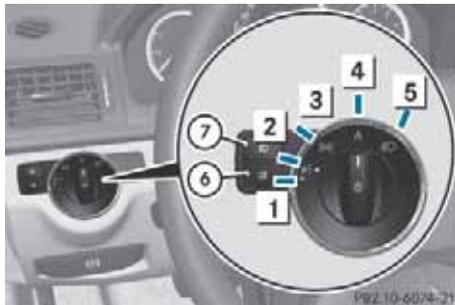
▶ メモリー付パワーシート装備車は、メモリー機能で、シートとステアリングの位置、ドアミラーの角度を記憶させます。

! シートを調整しているときは、シートの下や横に身体を入れたり、作動部に触れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

! シートの一部が他の乗員や物に当たったときは、それ以上操作しないでください。

! 誤ってシート調整スイッチに触れるとシートが動き、乗員がけがをするおそれがあります。子供を乗せているときは十分注意してください。

ランプ

ランプスイッチ

左ハンドル車

	位置	作動内容
1	⇠P≤	左側パーキングランプが点灯
2	P≤⇢	右側パーキングランプが点灯
3	≥00≤	車幅灯、テールランプ、ライセンスランプ、メーターパネル、スイッチなどの照明が点灯
4	A	オートモード
5	≣D	ヘッドランプ、LED ドライビングランプ * が点灯
⑥	O≢	リアフォグランプスイッチ
⑦	≢D	フロントフォグランプスイッチ *

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ⓘ ランプスイッチが ≥00≤ の位置のとき、エンジンスイッチにキーが差し込まれていないかキーレスゴー操作でイグニッション位置を **0** にしているときは、運転席ドアを開くと警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " ライトを 消してください " と表示されます。

ⓘ 車から離れるときに警告音が鳴ったときは、ランプが消灯していません。ランプスイッチを A の位置にしてください。

! バッテリーあがりを防ぐため、車から離れるときは、車幅灯とパーキングランプを消灯してください。

車外ランプの消灯

▶ イグニッション位置が **1** か **2** のときや、エンジンがかかっているときは、ランプスイッチを P≤⇢ または ⇠P≤ の位置にします。

ⓘ ヘッドランプが点灯しているときに、エンジンを停止するか、イグニッション位置を **1** にすると、ヘッドランプは消灯します。

さらにイグニッション位置を **0** にして運転席ドアを開くか、エンジンスイッチからキーを抜くと、車幅灯なども消灯します。

車幅灯

車幅灯を点灯する

▶ ランプスイッチを ≥00≤ の位置にします。

ヘッドランプ / LED ドライビングランプ *

ヘッドランプ / LED ドライビングランプを点灯する

▶ イグニッション位置を **2** にするか、エンジンを始動します。

▶ ランプスイッチを [ヘッドランプ] の位置にします。

メーターパネルのヘッドランプ表示灯が点灯します。

オートモード

周囲が暗いとき、車外ランプが自動的に点灯します。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> ランプの点灯 / 消灯に関する責任は運転者にあります。ランプのオートモードは運転者を支援する機能です。
>
> 以下の状況などではランプは自動的に点灯しなかったり、点灯していたランプが消灯して事故を起こすおそれがあります。このときは、手動でランプを点灯してください。
>
> - 霧の中を走行するとき
> - 対向車のランプなどにより、センサーが正常に作動しないとき

ⓘ フロントウインドウの上部中央には明るさを感知するセンサーがあります。センサー部にステッカーなどを貼付すると、オートモードが作動しなくなります。

オートモードにする

▶ ランプスイッチを [A] の位置にします。

イグニッション位置を **1** にすると、周囲の明るさに応じて、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプ、メーターパネル、スイッチの照明などが自動的に点灯 / 消灯します。

エンジンを始動すると、上記に加えてヘッドランプ / LED ドライビングランプ * も自動的に点灯し、メーターパネルのヘッドランプ表示灯が点灯します。

フォグランプ

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> 霧の中を走行するときにオートモードにしていると、ランプが自動的に点灯しなかったり、点灯していたランプが消灯して事故を起こすおそれがあります。霧の中を走行するときは、手動でランプを点灯してください。

! フォグランプは、霧などの悪天候で、十分な視界が確保できないとき以外には使用しないでください。対向車や後続車の迷惑になります。

フロントフォグランプ * の点灯 / 消灯

▶ イグニッション位置を **2** にするか、エンジンを始動します。

▶ ランプスイッチを [車幅灯] [A] [ヘッドランプ] のいずれかの位置にして、車外ランプを点灯させます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ フロントフォグランプスイッチ ⑦ を押します。

メーターパネルのフロントフォグランプ表示灯が点灯します。

▶ 消灯するときは、再度フロントフォグランプスイッチ ⑦ を押します。

メーターパネルのフロントフォグランプ表示灯が消灯します。

リアフォグランプの点灯 / 消灯

▶ イグニッション位置を **2** にするか、エンジンを始動します。

▶ ランプスイッチを [≣D] または [A] の位置にします。

▶ リアフォグランプスイッチ ⑥ を押します。

メーターパネルのリアフォグランプ表示灯が点灯します。

▶ 消灯するときは、再度リアフォグランプスイッチ ⑥ を押します。

メーターパネルのリアフォグランプ表示灯が消灯します。

ⓘ ランプスイッチを [P≤→] か [←P≤] の位置にして車外ランプを消灯させると、フォグランプは消灯します。

ⓘ フロントフォグランプ装備車は、ランプスイッチが [≣D○≤] の位置のときは、フロントフォグランプを点灯しているときに、リアフォグランプを点灯することができます。

ⓘ 車種や仕様により、オートモードで車外ランプが消灯しているときにリアフォグランプスイッチを押してリアフォグランプを点灯させると、車幅灯やヘッドランプなども点灯します。

パーキングランプ

暗がりでの駐車時に車の存在を知らせるため、片側の車幅灯とテールランプがパーキングランプとして点灯します。

イグニッション位置が **0** のとき、またはキーを差し込んでいないときに点灯することができます。

パーキングランプを点灯する

▶ ランプスイッチを [P≤→] の位置にします。

右側の車幅灯とテールランプが点灯します。

または

▶ ランプスイッチを [←P≤] の位置にします。

左側の車幅灯とテールランプが点灯します。

車外ランプ残照機能

周囲が暗いときにエンジンを停止すると、以下のランプが点灯します。

- 車幅灯
- ヘッドランプ（LED ドライビングランプ装備車）
- フロントフォグランプ * または LED ドライビングランプ *
- テールランプ
- ライセンスランプ

* オプションや仕様により、異なる装備です。

点灯した車外ランプは、ドアやトランクまたはテールゲートを開いて閉じた後、約 15 秒経過すると消灯します。

この機能の設定と解除については（▷155 ページ）をご覧ください。

車外ランプ残照機能を一時的に解除する

▶ エンジンを停止した後に、イグニッション位置を **2** にします。

ℹ ランプが消灯するまでの時間は、ドアやトランクまたはテールゲートを閉じてから消灯するまでのおよその時間です。

ℹ エンジンを停止してからドアやトランクまたはテールゲートを閉じたままにするか、開いてそのままにしてから約 60 秒後に、ランプは消灯します。

ヘッドランプの上向き / 下向きの切り替え

ヘッドランプを上向きにする

▶ イグニッション位置を **2** にするか、エンジンを始動します。

▶ ランプスイッチを [≣D] または [A] の位置にします。

▶ コンビネーションスイッチを ① の位置にします。

ヘッドランプが上向きで点灯し、メーターパネルのハイビーム表示灯 [≣D] が点灯します。

ランプスイッチが [A] の位置のときは、周囲が暗く、エンジンがかかっているときにのみ、ヘッドランプが上向きで点灯します。

ヘッドランプを下向きにする

▶ コンビネーションスイッチを ③ の位置にします。

メーターパネルのハイビーム表示灯 [≣D] が消灯します。

パッシング

▶ イグニッション位置を **1** か **2** の位置にするか、エンジンを始動します。

▶ コンビネーションスイッチを ② の方向に引きます。

引いている間、ヘッドランプが上向きで点灯し、メーターパネルのハイビーム表示灯 [≣D] が点灯します。

コンビネーションスイッチから手を放すと ③ の位置に戻ります。

❗ 対向車があるときや市街地を走行するときは、ヘッドランプを上向きで点灯しないでください。

方向指示

イグニッション位置が **1** か **2** のときに点滅させることができます。

▶ コンビネーションスイッチを ① または ② の方向に操作します。

　操作した側の方向指示灯が点滅します。

ステアリングを直進に戻すとコンビネーションスイッチは自動的に戻ります。戻らないときは手で戻してください。

方向指示灯が点滅しているときは、メーターパネルの方向指示表示灯も点滅します。

ℹ コンビネーションスイッチを ① または ② の方向に軽く操作すると、方向指示灯が 3 回点滅します。

ℹ 方向指示灯を使用しているときに非常点滅灯スイッチを押すと、非常点滅灯が点滅します。再度、非常点滅灯スイッチを押すと、方向指示灯に切り替わります。

非常点滅灯

故障などの非常時に、やむを得ず路上で停車するときなどに使用します。

非常点滅灯は、イグニッション位置が **0** のときやエンジンスイッチからキーを抜いているときも点滅させることができます。

非常点滅灯を使用する

▶ 非常点滅灯スイッチ ① を押します。

　すべての方向指示灯が点滅し、スイッチと、メーターパネルの方向指示表示灯も同時に点滅します。

▶ 再度、非常点滅灯スイッチ ① を押すと、非常点滅灯が消灯します。

ℹ 非常点滅灯を使用しているときに方向指示の操作をすると、その方向の方向指示灯の点滅に切り替わります。方向指示灯が消灯すると、再び非常点滅灯に切り替わります。

ℹ エアバッグが作動すると、非常点滅灯が自動的に点滅します。

　自動的に点滅した非常点滅灯を消灯するときは、非常点滅灯スイッチを押します。

ⓘ 約 70km/h 以上の走行中に急ブレーキを効かせて停車したときは、非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯は、非常点滅灯スイッチを押すか、走行速度が約 10km/h 以上になると消灯します。

ヘッドランプの照射角度調整 *

乗員数が増えたり、荷物を積載してヘッドランプの照射角度が変わったときは、対向車への眩惑を防ぐため照射角度を調整します。

イグニッション位置が **2** のときに調整できます。

! トランクまたはラゲッジルームに積載する荷物の制限重量に注意してください（▷362 ページ）。

ⓘ バイキセノンヘッドランプ装備車のヘッドランプ照射角度は、自動的に調整されます。

ヘッドランプの照射角度を調整する

▶ 乗員や荷物の積載量に応じて、ヘッドランプ照射角度調整ダイヤル ① で調整します。

ⓘ 対向車に迷惑がかからないように注意しながら調整してください。

位置	作動内容
0	前席乗車時（1 名または 2 名）
1	前席および後席乗車時
2	トランクまたはラゲッジルームに荷物を積載して、前席および後席に乗車時
3	トランクまたはラゲッジルームに重い荷物を積載して、前席に乗車時

ヘッドランプウォッシャー *

エンジンがかかっていてヘッドランプが点灯しているときに、フロントウインドウウォッシャー（▷114 ページ）を噴射させると、ヘッドランプウォッシャーがヘッドランプに向けて 1 回噴射されます。

ⓘ 状況によっては、ウインドウウォッシャーを噴射させてもヘッドランプウォッシャーは噴射されないことがあります。

その後、ウインドウウォッシャーを約 10 回噴射させるたびに、ヘッドランプウォッシャーがヘッドランプに向けて噴射されます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ エンジンを停止すると、ウインドウウォッシャーを噴射させた回数はリセットされます。

ℹ 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

! ヘッドランプには樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。

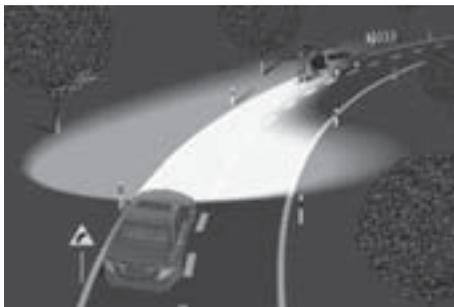
インテリジェントライトシステム *

インテリジェントライトシステムは以下のものから構成されます。

- アクティブライトシステム
- コーナリングランプ *
- ハイウェイモード
- フォグランプ強化機能

インテリジェントライトシステムは周囲が暗いときに作動します。

この機能の設定と解除については (▷154 ページ）をご覧ください。

アクティブライトシステム

ヘッドランプが点灯しているとき、走行中にステアリングを操作すると、操作した方向にヘッドランプの向きが変わります。

ℹ ヘッドランプの角度は、ステアリングの操作角度や走行速度に応じて変化します。

ℹ 変化するヘッドランプの角度は小さいため、変化がわかりにくいことがあります。

コーナリングランプ *

以下のときに、方向指示灯の点滅、またはステアリング操作に連動して、コーナリングランプが点灯します。

- 周囲が暗いとき
- エンジンがかかっているとき
- ヘッドランプを点灯しているとき

コーナリングランプの点灯

▶ 走行速度が約 40km/h 以下のときに方向指示灯を点滅させるか、ステアリングを操作します。

方向指示灯を点滅させた側、またはステアリングを操作した側のコーナリングランプが点灯します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

コーナリングランプの消灯

コーナリングランプは以下のときに消灯します。

- 走行速度が約 40km/h 以上になったとき
- 方向指示灯の操作を終えたとき
- ステアリングを直進位置に戻したとき

ⓘ 方向指示灯を点滅させたとき、セレクターレバーが R に入っているときは、コーナリングランプは点灯しません。

ⓘ ステアリングを操作したとき、セレクターレバーが R に入っているときは、ステアリングを操作した側と逆側のコーナリングランプが点灯します。

ⓘ 点滅させた方向指示灯の方向と、ステアリングの操作方向が異なるときは、方向指示灯と同じ側のコーナリングランプが点灯します。

ⓘ コーナリングランプはゆっくり消灯するため、一時的に左右両側のコーナリングランプが点灯することがあります。

ⓘ 点灯したコーナリングランプは約 3 分後に自動的に消灯します。

ハイウェイモード

以下のときに、ヘッドランプの照度や照射範囲を自動的に調整します。

- 約 110km/h 以上の走行速度で、ステアリングを大きく操作することなく約 1km 走行したとき
- 走行速度が約 130km/h を超えたとき

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

走行速度が約 80km/h 以下になると、ハイウェイモードは停止します。

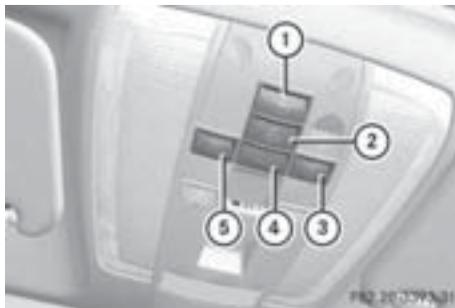
フォグランプ強化機能

ヘッドランプが道路の脇を照射することで視界を確保し、眩しさを軽減します。

走行速度が約 70km/h 以下のときにリアフォグランプを点灯すると作動します。

走行速度が約 100km/h を超えるか、リアフォグランプを消灯すると、フォグランプ強化機能は停止します。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

ルームランプ

スライディングルーフ装備車
① リアルームランプスイッチ
② 点灯モード切り替えスイッチ
③ フロント読書灯（右側）スイッチ
④ フロントルームランプスイッチ
⑤ フロント読書灯（左側）スイッチ

点灯モードの切り替え

自動点灯モードにする

▶ 点灯モード切り替えスイッチ ② を押して、スイッチが押されていない状態にします。

自動点灯モードになり、以下のときにフロントルームランプとリアルームランプが点灯します。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で解錠したとき

  点灯したルームランプは約 40 秒後に消灯します。

  ステーションワゴンでは、ラゲッジルームランプも点灯します。

- エンジンスイッチからキーを抜いたとき

  点灯したルームランプは約 20 秒後に消灯します。

  ステーションワゴンでは、ラゲッジルームランプも点灯します。

  この機能の設定と解除については、（▷155 ページ）をご覧ください。

- ドアを開いたとき

  イグニッション位置が **2** のときは、点灯したルームランプは消灯しません。ドアを閉じると、ルームランプはただちに消灯します。

  イグニッション位置が **2** 以外のときやエンジンスイッチからキーを抜いてあるときは、点灯したルームランプは約 5 分後に消灯します。ドアを閉じると、ルームランプは約 10 秒後に消灯します。

- 開いていたドアを閉じたとき

  点灯したルームランプは約 10 秒後に消灯します。

車両の操作

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ステーションワゴンでは、テールゲートを開いたときに、ラゲッジルームランプが点灯します。

- イグニッション位置が **2** のときは、点灯したラゲッジルームランプは消灯しません。テールゲートを閉じると、ラゲッジルームランプはただちに消灯します。
- イグニッション位置が **2** 以外のときやエンジンスイッチからキーを抜いてあるときは、点灯したラゲッジルームランプは約 5 分後に消灯します。テールゲートを閉じると、ラゲッジルームランプは約 10 秒後に消灯します。

ⓘ 自動点灯モードになっていても、周囲が明るいときはルームランプが点灯しないことがあります。

常時消灯モードにする

▶ 点灯モード切り替えスイッチ ② を押して、スイッチが押された状態にします。

以下のいずれかの操作をしても、ルームランプまたはラゲッジルームランプ（ステーションワゴン）は点灯しません。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で解錠する
- エンジンスイッチからキーを抜く
- ドアを開閉する
- テールゲートを開く（ステーションワゴン）

ルームランプ、フロント読書灯

フロントルームランプを点灯 / 消灯する

▶ スイッチ ④ を押して点灯 / 消灯します。

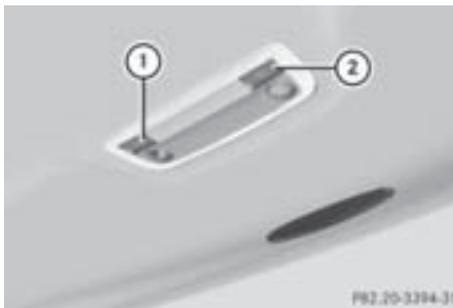
リアルームランプを点灯 / 消灯する

▶ スイッチ ① を押して点灯 / 消灯します。

フロント読書灯を点灯 / 消灯する

▶ スイッチ ③ または ⑤ を押して点灯 / 消灯します。

ⓘ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠すると、点灯していたフロント読書灯は消灯します。車種や仕様により、次に解錠したとき、施錠前に点灯していたフロント読書灯は再度点灯します。

リア読書灯 *

パークトロニック装備車
① リア読書灯スイッチ（右側）
② リア読書灯スイッチ（左側）

* オプションや仕様により、異なる装備です。

リア読書灯を点灯 / 消灯する

▶ スイッチ ① または ② を押して点灯 / 消灯します。

ⓘ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠すると、点灯していたリア読書灯は消灯します。次に解錠したとき、施錠前に点灯していたリア読書灯は再度点灯します。

ルームミラー下部のランプ

車外ランプが点灯すると点灯し、車外ランプが消灯すると消灯します。

ドア赤色灯 *

ドアを開くと点灯します。

- イグニッション位置が **2** のときは、点灯したドア赤色灯は消灯しません。
- イグニッション位置が **2** 以外のときやエンジンスイッチからキーを抜いてあるときは、点灯したドア赤色灯は約 5 分後に消灯します。

乗降用ランプ *

ダッシュボード左右下部に乗降用ランプがあります。

- ドアを開くと、明るい照度で点灯します。

  ◇イグニッション位置が **2** のときは、ドアを開いたままにすると点灯した乗降用ランプは消灯しません。

  また、ドアを閉じると、暗い照度で点灯します。

  ◇イグニッション位置が **2** 以外のときやエンジンスイッチからキーを抜いてあるとき、ドアを開いたままにすると点灯した乗降用ランプは約 5 分後に消灯します。

  また、ドアを閉じると、暗い照度で約 10 秒間点灯した後に消灯します。
- イグニッション位置を **2** にすると暗い照度で点灯し、イグニッション位置を **2** 以外にすると約 10 秒後に消灯します。

ドアレバーランプ *

ドアレバー上方にドアレバーランプがあります。

車外ランプが点灯すると点灯します。

車外ランプが消灯してから約 2 分後に消灯します。

緊急時点灯機能

ルームランプの点灯モードを自動点灯モードにしているときは、事故などのときに大きな衝撃を受けると、ルームランプが自動的に点灯します。

自動的に点灯したルームランプを消灯する

▶ 非常点滅灯スイッチを押します。

または

▶ キーの施錠ボタンまたは解錠ボタンを押します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ワイパー

フロントワイパー

① ワイパーを作動させる
② ワイパーを 1 回だけ作動させる / ウインドウウォッシャーを噴射する

イグニッション位置が **1** か **2** のときに作動します。

ワイパーを作動させる

▶ コンビネーションスイッチを ① の方向にまわして、作動内容を選択します。

ワイパーを 1 回だけ作動させる

▶ コンビネーションスイッチを ② の方向に軽く押します。

ウォッシャー液が噴射せずに、ワイパーが 1 回だけ作動します。

この機能はフロントウインドウが濡れているときだけ使用してください。

位置	作動内容
0	停止
・・・	オートモード I ⓘ レインセンサーが感知した雨滴量や走行速度に応じて、ワイパーの作動が自動調整されます。
・・・・	オートモードⅡ オートモード I よりも少ない雨滴量で作動します。 ⓘ レインセンサーが感知した雨滴量や走行速度に応じて、ワイパーの作動が自動調整されます。
―	低速作動モード 停車時やごく低速での走行時は、間欠作動になります。
＝	高速作動モード 停車時やごく低速での走行時は、低速作動になります。

レインセンサー

フロントウインドウ上部中央にレインセンサーがあります。

! レインセンサー部にステッカーなどを貼付しないでください。レインセンサーが正しく機能しなくなります。

! フロントウインドウが濡れていないときは、コンビネーションスイッチを停止位置にしてください。フロントウインドウの汚れや光線の反射などでレインセンサーが誤作動し、ワイパーが作動するおそれがあります。

! フロントウインドウを拭くときなどは、必ずコンビネーションスイッチを停止の位置にしてください。ワイパーが作動して、けがをするおそれがあります。

! ワイパーやウォッシャーを使用するときは、歩行者に水しぶきやウォッシャー液がかからないように注意してください。

! フロントウインドウが乾いているときはワイパーを使用しないでください。ウインドウの表面に細かい傷が付いたり、ワイパーブレードを損傷するおそれがあります。フロントウインドウが汚れているときは、必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを使用してください。

! エンジンを停止するときは、必ずコンビネーションスイッチを停止の位置にしてください。コンビネーションスイッチが停止位置以外のときにイグニッション位置を **1** にすると、ワイパーが作動し、フロントウインドウが濡れていないときは傷が付くおそれがあります。

! 寒冷時にはワイパーブレードがフロントウインドウに張り付くことがあります。作動させる前に張り付いていないことを確認してください。張り付いたままワイパーを作動させると、ワイパーブレードやモーターを損傷するおそれがあります。

! 雪などが付着しているときは、雪などを取り除いてからワイパーを作動させてください。作業の際には、エンジンスイッチからキーを抜いてください。

i フロントウインドウが濡れていなくても、オートモードⅠまたはオートモードⅡにすると、ワイパーが 1 回作動します。

i ワイパーが作動しないときは、別のモードを選択すると作動することがあります。

i オートモードⅠまたはオートモードⅡでワイパーが作動しているとき、停車時にフロントドアを開くとワイパーは停止します。ワイパーは以下のときに作動を再開します。

- セレクターレバーが **P** または **N** に入っている場合は、フロントドアを閉じて、セレクターレバーを他の位置にしたとき
- セレクターレバーが **D** または **R** に入っている場合は、フロントドアを閉じたとき

フロントウインドウウォッシャーの噴射

イグニッション位置が **1** か **2** のときに作動します。

▶ コンビネーションスイッチを②の方向にいっぱいまで押し続けます。

その間ウインドウウォッシャー液が噴射して、ワイパーも作動します。

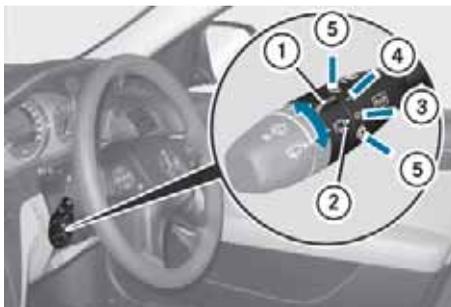
! ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

i 純正ウインドウウォッシャーには油膜や汚れの付着を防ぐ効果があります。

i 冬季にはウインドウウォッシャー液の濃度に注意し、冬用のウインドウウォッシャー液を使用してください。

i エンジンがかかっていて、ヘッドランプが点灯しているときに、ウインドウウォッシャーを噴射すると、ヘッドランプウォッシャーが 1 回噴射されます。

その後、ウインドウウォッシャーを約 10 回噴射させるたびに、ヘッドランプウォッシャーが噴射します。

リアワイパー（ステーションワゴン）

① ノブ
② ワイパー作動モードのマーク
③ 停止の位置
④ 作動の位置
⑤ テールゲートウインドウウォッシャー噴射の位置

リアワイパーを作動させる

▶ ノブ ① を持って、ワイパー作動モードのマーク ② を作動の位置 ④ に合わせます。

リアワイパーが間欠で作動し、マルチファンクションディスプレイにリアワイパーインジケーター ⑥ が表示されます。

ⓘ イグニッション位置が **2** でフロントワイパーが作動しているときにセレクターレバーを R に入れると、リアワイパーが以下のように作動します。

- フロントワイパーが間欠作動のとき間欠で作動します
- フロントワイパーが低速あるいは高速作動のとき低速で作動します

テールゲートトウインドウウォッシャーを噴射する

▶ ノブ ① を持って、ワイパー作動モードのマーク ② をテールゲートトウインドウウォッシャー噴射の位置 ⑤ に合わせて保持します。

その間ウォッシャー液が噴射し、リアワイパーが数回作動します。

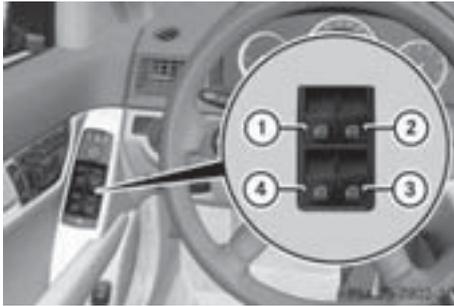
パワーウインドウ

ドアウインドウの開閉

⚠ **けがのおそれがあります**

- ドアウインドウを開くときは、ドアウインドウに触れたり、身体を寄りかけないでください。ドアウインドウとドアフレームとの間に身体が引き込まれて、けがをするおそれがあります。
- ドアウインドウを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにドアウインドウスイッチを操作してドアウインドウを開いてください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

  また、車内が高温または低温になると、命に関わるおそれがあります。
- 子供が車内からドアやドアウインドウを開くと、事故やけがの原因になります。

  子供を乗せるときは、リアドアやリアドアウインドウのチャイルドプルーフロックを使用してください。

運転席ドアのスイッチ（左ハンドル車）
①左フロントドアウインドウスイッチ
②右フロントドアウインドウスイッチ
③右リアドアウインドウスイッチ
④左リアドアウインドウスイッチ

パワーウインドウスイッチは各ドアにあります。

運転席ドアには、すべてのドアウインドウのスイッチがあります。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに開閉できます。

ドアウインドウを開く

▶ スイッチを軽く押します。

押している間だけ開きます。

スイッチをいっぱいまで押すと、自動で開きます。

ドアウインドウを閉じる

▶ スイッチを軽く引きます。

引いている間だけ閉じます。

スイッチをいっぱいまで引くと、自動で閉じます。

! 車から離れるときや洗車のときは、すべてのドアウインドウが完全に閉じていることを確認してください。

i PRE-SAFE®*（▷38 ページ）が作動したときは、ドアウインドウが自動で閉じ、わずかに開いた状態で停止します。

i リモコン操作でドアウインドウを開くことができます（▷117 ページ）。

i リモコン操作またはキーレスゴー操作 * でドアウインドウを閉じることができます（▷118 ページ）。

i 運転席ドアのチャイルドプルーフロックスイッチで、リアドアにあるリアドアウインドウスイッチを操作できなくすることができます（▷45 ページ）。

i イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 5 分間は、ドアウインドウを開閉できます。約 5 分以内にフロントドアを開くと、ドアウインドウの開閉はできなくなります。

i ドアウインドウが自動で開閉しているときにドアウインドウスイッチを操作すると、ドアウインドウはその位置で停止します。

i 運転席ドアのスイッチで他のドアウインドウを開閉しているときは、助手席ドアやリアドアのスイッチで開閉中のドアウインドウを操作することはできません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

挟み込み防止機能

スイッチを引き続けてドアウインドウを閉じているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウはただちに停止します。スイッチから手を放すと、その位置から少し下降します。

その状態からただちにスイッチを引き続けてドアウインドウを閉じると、ドアウインドウはより強い力で閉じます。

このときに挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウはただちに停止して、スイッチから手を放すと、その位置から少し下降します。

さらに、この状態からただちにスイッチを引き続けてドアウインドウを閉じると、挟み込み防止機能が作動しない状態で閉じます。

自動でドアウインドウを閉じているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウはただちに停止して、その位置から少し下降します。

ただし、2 度連続して挟み込み防止機能が作動してから約 2 秒以内に再度ドアウインドウを閉じたときは、ドアウインドウは自動で閉じなくなります。このときにスイッチを引き続けてドアウインドウを閉じると、挟み込み防止機能は作動しません。

⚠ **けがのおそれがあります**

挟み込み防止機能が作動しない状態でドアウインドウを閉じるときは十分注意してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

コンビニエンスオープニング機能

車内が暑くなっているときなど、乗車する前に車内の空気を換気したいときは、リモコン操作でドアウインドウとスライディングルーフ * を開くことができます。

左ハンドル車

▶ キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向けて、キーの解錠ボタン（▷61 ページ）を押し続けます。

すべてのドアウインドウとスライディングルーフが開きます。

解錠ボタンから指を放すと、作動中のドアウインドウとスライディングルーフはその位置で停止します。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。

! リモコン操作でドアウインドウを開くときは、ドアウインドウに身体を寄りかけないでください。ドアウインドウとドアフレームの間に身体が引き込まれてけがをするおそれがあります。

ℹ コンビニエンスオープニング機能は、リモコン操作でのみ行なうことができます。操作は運転席ドアハンドルの近くから行なってください。

ℹ エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、リモコン操作はできません。

コンビニエンスクロージング機能

リモコン操作またはキーレスゴー操作 * により、車外からドアウインドウとスライディングルーフ * を閉じることができます。

! コンビニエンスクロージング機能でドアウインドウなどを閉じるときは、開口部に異物がないことを確認してください。

! 車から離れる前に、すべてのドアウインドウやスライディングルーフが閉じていることを確認してください。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作またはキーレスゴー操作を行なうと、作動しなかったり、誤作動することがあります。

ℹ エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、リモコン操作またはキーレスゴー操作はできません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

リモコン操作での作動

⚠ **けがのおそれがあります**

リモコン操作でドアウインドウやスライディングルーフ * を閉じているときは、身体などが挟まれないように注意してください。身体などが挟まれそうになったときは、ただちに施錠ボタンから手を放し、解錠ボタンを押し続けて、ドアウインドウとスライディングルーフを開いてください。

左ハンドル車

ℹ 操作は運転席ドアハンドルの近くから行なってください。

▶ キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向けて、キーの施錠ボタン（▷61 ページ）を押し続けます。

すべてのドアウインドウとスライディングルーフが閉じます。

施錠ボタンから指を放すと、作動中のドアウインドウとスライディングルーフはその位置で停止します。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。

! ドアウインドウやスライディングルーフを閉じるときは、開口部に異物がないことを確認してください。

! 車から離れる前に、すべてのドアウインドウとスライディングルーフが閉じていることを確認してください。

i エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、リモコン操作はできません。

キーレスゴー操作での作動 *

⚠ **けがのおそれがあります**

キーレスゴー操作でドアウインドウやスライディングルーフ * を閉じているときは、身体などが挟まれないように注意してください。

身体などが挟まれそうになったときは、ただちにドアハンドルのコンビニエンスクロージング操作部①から指を放し、ドアハンドルを引き続けてください。ドアウインドウとスライディングルーフが開きます。

左側フロントドア

▶ ドアハンドルのコンビニエンスクロージング操作部①に触れ続けます。

すべてのドアウインドウとスライディングルーフが閉じます。

コンビニエンスクロージング操作部①から指を放すと、作動中のドアウインドウとスライディングルーフはその位置で停止します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

走行と停車

エンジンの始動

⚠ 事故のおそれがあります

運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。

フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

運転席のフロアマットを重ねて使用しないでください。

少しでも車を動かすときはエンジンを始動してください。エンジンが停止していると、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

⚠ 中毒のおそれがあります

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

! エンジンは、セレクターレバーが N に入っているときも始動できますが、安全のため、必ずセレクターレバーを P に入れ、ブレーキペダルを踏んで始動してください。

! エンジンを始動するときは、アクセルペダルを踏まないでください。

シフト位置

シフト位置（左ハンドル車）

シフト位置	作動内容
P	**パーキング位置** 駐車およびエンジン始動／停止の位置です。 完全に停車していないときは、P にしないでください。 シフト位置が P のときにのみ、キーを抜くことができます。シフト位置が P のときは、セレクターレバーがロックされます。
R	**リバース位置** 後退するときの位置です。 完全に停車していないときは、R にしないでください。

N	**ニュートラル位置** 動力が伝わらない位置です。 押したり、けん引してもらうことで、車を移動できます。 走行中はシフト位置を N にしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
D	**ドライブ位置** 走行するときの位置です。 1 速～ 5 速または 7 速の範囲で自動的に変速します。

キーによるエンジンの始動

▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。

▶ セレクターレバーが P に入っていることを確認します。

▶ 確実にブレーキペダルを踏みます。

▶ エンジンスイッチにキーを差し込み、アクセルペダルを踏まずに **3** の位置までまわして手を放します。

エンジンが始動します。

キーレスゴーによるエンジンの始動 *

⚠ **けがのおそれがあります**

キーが車内にあるときは、キーレスゴースイッチによりエンジンを始動できます。そのため、子供だけを車内に残して車から離れないでください。

短時間でも、車から離れるときは、エンジンを停止して車を施錠し、キーを携帯してください。

▶ 車室内にキーがあることを確認します。

▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。

▶ セレクターレバーが P に入っていることを確認します。

▶ 確実にブレーキペダルを踏みます。

▶ エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押します。

! エンジン始動後にキーを車外に持ち出して走行を開始すると、約５秒間警告音が鳴ります。また、マルチファンクションディスプレイが赤くなり " キーを 認識できません " と表示されます。

さらに、ドアやトランク / テールゲートを開閉するたびに、この警告は繰り返し行なわれます。

この状態でエンジンを停止するとエンジンは再始動できません。また、車を施錠することもできません。走行前には必ずキーを携帯していることを確認してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! エンジン始動後は、キーを携帯した人が車から離れても、エンジンは停止しません。車から離れるときは、短時間でも必ずエンジンを停止して、車を施錠してください。盗難のおそれがあります。

! ドア付近やルーフの上、ボンネットの上などの車外にキーがあるときもエンジンは始動できることがあります。車両の盗難に注意してください。

タッチスタート機能

エンジンスイッチを **3** の位置（▷77ページ）までまわすか、キーレスゴースイッチを押すと、手を放しても自動的にスターターが作動し続け、エンジンが始動します。

発進

! セレクターレバーを R に入れるときは、完全に停車してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! エンジンが暖まっていないときは、エンジン保護のため、必要以上にエンジン回転数を上げないでください。

! C 63 AMG では、エンジンオイルの油温が約 20℃以下のときは、エンジン保護のためにエンジン回転数が制限されることがあります。

i 車速感応ドアロックが設定されているときは、走行速度が約 15km/h 以上になると自動的に車が施錠されます。

車速感応ドアロックの設定 / 解除については（▷69、157 ページ）をご覧ください。

i イグニッション位置が **2** で、ブレーキペダルを踏んでいないと、セレクターレバーを P から動かすことはできません。

▶ ブレーキペダルを踏んで、踏みしろや踏みごたえを確認します。

▶ パーキングブレーキを解除します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、セレクターレバーを D または R に入れます。

i ギアが完全に切り替わるのを待ってください。

▶ ブレーキペダルを徐々に戻して、アクセルペダルをゆっくり踏み込みます。

⚠ 事故のおそれがあります

アクセルペダルを踏んだ状態でセレクターレバーを操作しないでください。車が急発進したり、オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。

! 急な坂道で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままブレーキペダルから足を放し、アクセルペダルをゆっくりと踏んで、車が動き出す感触を確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。

また、坂道で発進するときは、ヒルスタートアシストも作動します。

i エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。これにより、排気ガスを浄化する触媒がより早く適正温度に達します。

ヒルスタートアシスト

坂道での発進時に車が後退または前進するのを防ぎ、発進を容易にします。

⚠ **事故のおそれがあります**

- ヒルスタートアシストはパーキングブレーキに代わるものではありません。駐車するときは必ずパーキングブレーキを確実に効かせ、セレクターレバーを P に入れてください。
- ヒルスタートアシストが作動して車が停止していても、絶対に車から離れないでください。約 1 秒後にはヒルスタートは解除され、車が動き出すおそれがあります。

▶ 発進時に、通常通りブレーキペダルから足を放してアクセルペダルを踏みます。

ブレーキペダルから足を放しても、ヒルスタートアシストが自動的に約 1 秒間ブレーキを効かせ、車が後退または前進するのを防ぎます。

以下のときは、ヒルスタートアシストは作動しません。

- 傾斜していない路面や下り坂で発進するとき
- セレクターレバーが N に入っているとき
- パーキングブレーキが効いているとき
- ESP® が故障しているとき

駐車

⚠ **事故のおそれがあります**

- 停車する前にエンジンを停止しないでください。ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- 駐車時や車を離れるときは、セレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせ、エンジンを停止してください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

⚠ 火災のおそれがあります

マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。

! 短時間でも車から離れるときは、ドアウインドウやスライディングルーフ * を閉じて、車を施錠してください。

パーキングブレーキ

⚠ 火災のおそれがあります

パーキングブレーキを効かせたまま走行しないでください。パーキングブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

右ハンドル車

パーキングブレーキを解除する

▶ ブレーキペダル ② をいっぱいまで踏みます。

▶ 解除ハンドル ① を手前に引きます。

メーターパネルのブレーキ警告灯 (!) が消灯します。

パーキングブレーキを効かせる

▶ 右足でブレーキペダル ② を踏み、左足でパーキングブレーキペダル ③ をいっぱいまで踏み込みます。

メーターパネルのブレーキ警告灯 (!) が点灯します。

! パーキングブレーキは完全に停車してから効かせてください。

i 急な坂道に駐車するときは、タイヤの下り側に輪止めをしてください。さらに前輪を歩道方向に向けてください。

i パーキングブレーキを解除せずに走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

エンジンの停止

⚠ 事故のおそれがあります

走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

! 水温が高めのときは、少しの間アイドリング状態でエンジンを冷却してから、エンジンを停止してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

エンジンスイッチにキーが差し込まれているとき

▶ 完全に停車します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキペダルを確実に踏み込み、セレクターレバーを P に入れます。

! セレクターレバーが P 以外に入っているときもエンジンを停止できますが、必ずパーキングブレーキを効かせて、セレクターレバーを P に入れてください。

▶ キーをまわして、イグニッション位置を **0** にします。

エンジンが停止します。

▶ ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

エンジンスイッチにキーレスゴースイッチを取り付けているとき *

▶ 完全に停車します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキペダルを確実に踏み込み、セレクターレバーを P に入れます。

▶ キーレスゴースイッチを押して、エンジンを停止します。

▶ ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

⚠ **けがのおそれがあります**

走行中にキーレスゴースイッチを約 3 秒間押すとエンジンが停止します。エンジンブレーキが効かなくなったり、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になりますので、走行中はエンジンを停止しないでください。

ℹ 走行中にキーレスゴースイッチを押してエンジンを停止したときは、セレクターレバーを N に入れて再度キーレスゴースイッチを押すとエンジンが始動します。

ℹ キーレスゴースイッチを押してエンジンを停止したときは、イグニッション位置は **1** になります。また、この状態で運転席ドアを開くと、イグニッション位置が **0** になります。

ℹ セレクターレバーが P に入っているときにのみ、キーを抜くことができます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

オートマチックトランスミッション

⚠ 事故のおそれがあります

運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。

フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

運転席のフロアマットを重ねて使用しないでください。

停車中は、必ずパーキングブレーキを効かせてください。

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がグリップを失って車両がスリップし、事故を起こすおそれがあります。

オートマチックトランスミッションは、シフトポジションが D のとき、以下の走行状態に合わせて自動的にギアを変速します。

- 選択されているギアレンジ
- 走行モード（▷127 ページ）
- アクセルペダルの踏み具合
- 走行速度

シフト位置の選択

左ハンドル車

▶ セレクターレバーを動かして、シフト位置を選択します。

! シフト位置を選択するときは、完全に停車して、ブレーキペダルを踏んでください。

ℹ イグニッション位置が **2** で、ブレーキペダルを踏んでいないときは、セレクターレバーを P から動かすことができません。

シフト位置

シフト位置	作動内容
P	**パーキング位置** 駐車およびエンジン始動 / 停止の位置です。 完全に停車していないときは、P にしないでください。 シフト位置が P のときにのみ、キーを抜くことができます。 シフト位置が P のときは、セレクターレバーがロックされます。

R	**リバース位置** 後退するときの位置です。 完全に停車していないときは、R にしないでください。
N	**ニュートラル位置** 動力が伝わらない位置です。 押したり、けん引してもらうことで、車を移動できます。 走行中はシフト位置を N にしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
D	**ドライブ位置** 走行するときの位置です。 1 速～ 5 速または 7 速の範囲で自動的に変速します。

⚠ **事故のおそれがあります**

走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故を起こすおそれがあります。また、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

シフト位置表示

① シフト位置表示

イグニッション位置を **2** にすると、マルチファンクションディスプレイ下部に、シフト位置表示 ① が表示されます。

選択されているシフト位置は、反転して表示されます。

走行モード

① 走行モード

路面状況や運転に合わせて、オートマチックトランスミッションのギアの変速特性を選択できます。

イグニッション位置を **2** にすると、マルチファンクションディスプレイ下部に、走行モード表示 ① が表示されます。

走行モード	作動内容
E モード または C モード	快適性と経済性を重視したモードです。
S モード	スポーティな走行に適したモードです。
M モード *	マニュアルでギアシフトできるモードです。詳しくは（▷132 ページ）をご覧ください。

走行モードが E モードまたは C モードのときは、以下のようになります。

- 前進・後退ともに、アクセルペダルをいっぱいまで踏み込まないときは、穏やかに発進します。
- 滑りやすい路面などでの車両操縦性や走行安定性が向上します。
- シフトアップが早めに行なわれるため、燃料の余分な消費が抑えられます。
- オートマチックトランスミッションが早めにシフトアップするため、エンジン回転数が低く抑えられ、車輪が空転しにくくなります。

走行モードが S モードのときは、以下のようになります。

- 1 速で発進します。
- オートマチックトランスミッションが遅めにシフトアップします。
- シフトアップが遅めに行なわれるため、エンジン回転数が高くなり、燃料をより多く消費します。

ℹ エンジンを停止すると、選択した走行モードに関わらず、次にエンジンを始動したときは E モードまたは C モードになります。

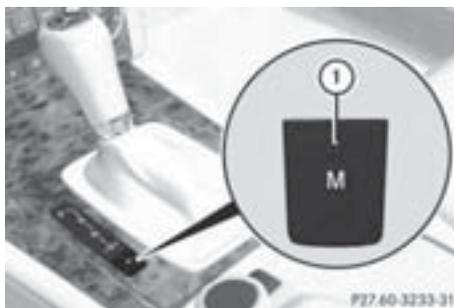
走行モードの選択

左ハンドル車

▶ 走行モード選択スイッチ ① を押します。

E モード→ S モード→ E モードと切り替わります。

※ 車種や仕様により、走行モード選択スイッチの表記が異なります。

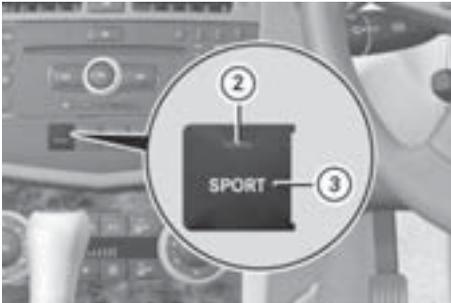
走行モードの選択（ダイナミックハンドリングパッケージ装備車）

① 走行モード選択スイッチ

* オプションや仕様により、異なる装備です。

E モードまたは S モード（オートマチックギアシフト）と M モード（マニュアルギアシフト）を切り替える

▶ 走行モード選択スイッチ ① を押します。

E モードまたは S モード→ M モード→ E モードまたは S モードと切り替わります。

E モードと S モードを切り替える

▶ オートマチックギアシフトが選択されているときに、センターコンソールのスペシャルスポーツモードスイッチ ③ を押します。

スイッチの表示灯 ② が点灯しているときは S モードが選択され、スイッチの表示灯 ② が消灯しているときは E モードが選択されます。

走行モードの選択（C 63 AMG）

左ハンドル車

▶ 走行モード選択スイッチ ① を押します。

S モード→ M モード→ C モード→ S モードと切り替わります。

ティップシフト

オートマチックトランスミッションのギアの変速範囲（ギアレンジ）を変えることにより、不必要なシフトアップを抑えます。

セレクターレバーが D に入っていて、走行モードが E モードまたは C モード、S モードのときにティップシフトにできます。

⚠ **事故のおそれがあります**

滑りやすい路面やカーブを走行しているときは、低いギアレンジを選択してエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失い、車両がスリップするおそれがあります。また、駆動輪が空転すると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

① ギアレンジ表示

マルチファンクションディスプレイ下部のギアレンジ表示 ① に、選択したギアレンジが反転して表示されます。

ℹ ギアレンジ表示の数字は選択したギアレンジを示しており、必ずしも実際のギアを示すものではありません。

ギアレンジ	作動内容
D	1 速 ～ 5 速 ま た は 7 速の範囲で自動的に変速します。
D6*	1 速～ 6 速の範囲で自動的に変速します。
D5*	1 速～ 5 速の範囲で自動的に変速します。
D4	1 速～ 4 速の範囲で自動的に変速します。
D3	1 速～ 3 速の範囲で自動的に変速します。緩やかな坂道などを走行するときに使用します。
D2	1 速～ 2 速の範囲で自動的に変速します。急な坂道やエンジンブレーキが必要なときに使用します。
D1	1 速に固定されます。エンジンブレーキが最大に作用します。

ℹ 加速時にエンジンの許容回転数を超えるおそれがあるときは、自動的にシフトアップされ、高いギアレンジが選択されます。

ℹ エンジンが暖まっていないときは、操作を行なっても、選択したギアレンジに変わらないことがあります。

ℹ ティップシフトにしたときに選択されるギアレンジは、そのときの走行速度やエンジン回転数により異なります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

セレクターレバーによる操作

ティップシフトにする

▶ セレクターレバーが D に入っているときに、セレクターレバーを ② 側に操作します。

ティップシフトになり、ギアレンジ表示 ① に選択されたギアレンジが表示されます。

低いギアレンジを選択する

▶ セレクターレバーを ② 側に操作します。

高いギアレンジを選択する

▶ セレクターレバーを ③ 側に操作します。

ティップシフトを解除する

▶ セレクターレバーを ③ 側に操作して保持します。

ティップシフトが解除され、ギアレンジ表示 ① に "D" が表示されます。

パドルによる操作 *

ティップシフトにする

▶ セレクターレバーが D に入っているときに、左側パドル④を引きます。

ティップシフトになり、ギアレンジ表示 ① に選択されたギアレンジが表示されます。

低いギアレンジを選択する

▶ 左側パドル ④ を引きます。

高いギアレンジを選択する

▶ 右側パドル ⑤ を引きます。

ティップシフトを解除する

▶ 右側パドル ⑤ を引いて保持します。

ティップシフトが解除され、ギアレンジ表示 ① に "D" が表示されます。

ℹ セレクターレバーを ② 側に操作するか、左側パドル ④ を引いて保持すると、そのときの加速や減速に最も適したギアレンジが選択されます。

ℹ ティップシフトにしていないときにセレクターレバーを ③ 側に操作するか、右側パドル ⑤ を引くと、走行速度やエンジン回転数に応じてシフトアップが行なわれます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

マニュアルギアシフト *

セレクターレバーまたはパドルを操作して、マニュアルでギアを選択できます。

⚠ 事故のおそれがあります

滑りやすい路面やカーブを走行しているときは、シフトダウンによってエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失い、車両がスリップするおそれがあります。また、駆動輪が空転すると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

! エンジンが暖まるまでは、エンジンやトランスミッションに大きな負担がかかるような運転をしないでください。

i マニュアルギアシフトでは、ESP® の機能を解除しないで走行することをお勧めします。

i エンジンが暖まっていないときは、ギアシフト操作を行なっても、選択したギアに変速しないことがあります。

マニュアルギアシフトの選択

右ハンドル車

マニュアルギアシフトを選択する

▶ 走行モード選択スイッチ ① を押して、走行モード表示 ③ に "M" を表示させます。

※ 車種や仕様により、走行モード選択スイッチの表記が異なります。

② ギア表示
③ 走行モード表示

セレクターレバーが D に入っているとき、ギア表示 ② に選択されているギアが反転して表示されます。

マニュアルギアシフトを解除する

▶ 走行モード選択スイッチ ① を押して、S モード、E モードまたは C モードのいずれかを選択します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

セレクターレバーによる操作

低いギアを選択する

▶ セレクターレバーを ④ 側に操作します。

高いギアを選択する

▶ セレクターレバーを ⑤ 側に操作します

ℹ セレクターレバーを ④ 側に操作して保持すると、そのときの加速や減速に最も適したギアが選択されます。

パドルによる操作

低いギアを選択する

▶ 左側パドル ⑥ を引きます。

高いギアを選択する

▶ 右側パドル ⑦ を引きます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ 左側パドル ⑥ を引いて保持すると、そのときの加速や減速に最も適したギアが選択されます。

ℹ マニュアルギアシフトが選択された状態でエンジンを停止すると、オートマチックギアシフトに切り替わります。

ℹ マニュアルギアシフトではギア表示に表示される数字は実際のギアを示しています。運転者のシフトアップ / ダウン操作や、自動的なシフトアップ */ ダウンに応じてギア表示に表示される数字も変わります。

ℹ シフトダウン操作をしなくても、走行速度とエンジン回転数に応じて、自動的にシフトダウンすることがあります。

ℹ C 63 AMG を除く車種では、エンジンの許容回転数を超えるおそれがあるときは、自動的にシフトアップされます。

ℹ シフトアップ / ダウン操作をしても、選択したギアが適切でない場合は、エンジン保護などのため、シフトアップ / ダウンされません。

ℹ 停車すると、ギアは 1 速にシフトされます。

ℹ 車種や仕様により、停車時に選択できるギアは異なります。

ℹ C 63 AMG では、マニュアルギアシフトを選択しているときは、キックダウンはできません。

C 63 AMG を除く車種では、マニュアルギアシフトを選択しているときにもキックダウンが可能です。

シフトアップ表示（C 63 AMG）

① ギア表示
② "UP" マーク

エンジン回転が上昇し、シフトアップするタイミングになったときは、マルチファンクションディスプレイの表示が赤くなり、ギア表示 ① と "UP" マーク ② が表示されます。

必要に応じてシフトアップ操作を行なってください。

ℹ エンジン回転数が高くなったときは、シフトアップするタイミングになる前に、マルチファンクションディスプレイの表示が一瞬赤くなることがあります。

運転のヒント

アクセルペダルの位置

アクセルペダルの踏み加減に応じて、ギアが変速するタイミングが変化します。

- 軽く踏んだときはシフトアップするタイミングが早くなります。
- 深く踏み込んだときはシフトアップするタイミングが遅くなります。

ダブルクラッチ機能（C 63 AMG）

ダブルクラッチ機能は、選択している走行モードに関わらず、シフトダウン操作時に作動します。

ダブルクラッチ機能が作動することにより、ギアシフト操作がスムーズに行なわれ、スポーティな運転スタイルに役立ちます。

ダブルクラッチ機能作動時のエンジン音は、走行モードにより異なります。

キックダウン

急な加速が必要な場合はキックダウンを行ないます。

▶ アクセルペダルをいっぱいまで踏み込みます。

エンジン回転数に応じて自動的に低いギアに変速し、素早く加速します。

▶ 希望する速度でアクセルペダルをゆるめると、シフトアップします。

! キックダウンするときは、周囲の状況に注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

停車する

▶ 一時的に停車するときは、セレクターレバーを D に入れたままブレーキペダルを踏みます。

▶ やむを得ず停車が長くなるときは、パーキングブレーキを確実に効かせ、セレクターレバーを P に入れます。

⚠ **事故のおそれがあります**

停車中は空ぶかしをしないでください。万一、セレクターレバーが D か R に入ると、車が急発進して重大な事故を起こすおそれがあります。

! 急な上り坂などではアクセルペダルの踏み加減によって停車状態を保たないでください。トランスミッションに負担がかかり、過熱や故障の原因になります。

! 停車中はブレーキペダルを確実に踏み、クリープ現象で車が動かないようにしてください。

メーターパネル

メーターパネルの各部の名称については（▷23 ページ）をご覧ください。

⚠ **事故のおそれがあります**

メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障すると、車両の状態や速度、外気温度、故障 / 警告メッセージなどが表示できなくなることがあります。十分注意して走行してください。また、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

マルチファンクションディスプレイの表示

マルチファンクションディスプレイは以下のときに表示されます。

- イグニッション位置を **1** か **2** にしたとき

  0 の位置にしてから約 30 秒後に表示が消えます。
- パーキングランプ以外の車外ランプが点灯したとき

  車外ランプが消灯してから約 30 秒後に表示が消えます。

また、以下のときに表示されて約 30 秒後に表示が消えます。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で解錠したとき
- 運転席ドアを開いたとき
- 開いている運転席ドアを閉じたとき
- エンジンスイッチにキーを差し込んだときや抜いたとき

車両の操作

* オプションや仕様により、異なる装備です。

マルチファンクションディスプレイとメーターパネルの照度を調整する

▶ 周囲が暗く、イグニッション位置が **1** か **2** のとき、メーターパネル照度調整ノブ ① を時計回りまたは反時計回りにまわします。

マルチファンクションディスプレイの照度が変化します。

メーターパネルが点灯しているときは、メーターパネルの照度も変化します。

エンジン冷却水温度計

メーターパネルの左側にあります。エンジンの冷却水温度を表示します。

指定の冷却水を適切な混合比で使用しているときは、約 120℃まではオーバーヒートは起こしません。

暑い日や上り坂が続くときなどに、冷却水温度の表示が 120℃付近を示すことがありますが、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されない限り、故障ではありません。

燃料計

燃料の残量を表示します。

燃料タンクの容量は約 66 リットルです。

! 給油のときはエンジンを停止してください。

燃料残量警告灯

燃料の残量が少なくなると点灯します。

警告灯が点灯したときの残量は約 8 リットル（C 63 AMG は約 14 リットル）です。

ℹ 走行前に燃料の残量が十分あることを確認してください。高速道路や自動車専用道路などでの燃料切れは道路交通法違反になります。

時計

時計の時刻は、COMAND システムの時刻に連動します。

時刻を調整するときは、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

スピードメーター

車の走行速度を km/h で表示します。スピードメーターの内側には、クルーズコントロールインジケーター（▷166 ページ）および可変スピードリミッターインジケーター（▷170 ページ）があります。

タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

! 指針がエンジンの許容回転数を超えて、レッドゾーンに入らないようにしてください。エンジンを損傷するおそれがあります。

エンジン回転数が許容回転数を超えると、エンジン保護のため、燃料供給が行なわれなくなります。

環　境

必要以上にエンジン回転数を上げて走行しないでください。燃料を不必要に消費し、大気汚染の原因になります。

外気温度表示

外気温度を表示します。

外気温度の上昇や下降は、少し遅れて表示に反映されます。

温度をフロントバンパー付近で測定しているため、温度表示は路面からの輻射熱などの影響を受けます。したがって、温度表示が実際の外気温度と異なることがあります。

⚠ 事故のおそれがあります

温度表示が 0℃以上でも、路面が凍結していることがあります。走行には十分注意してください。

マルチファンクションディスプレイ

マルチファンクションディスプレイは、故障 / 警告メッセージや各種情報などを表示･設定するシステムです。

マルチファンクションディスプレイは、スピードメーターの内側にあります。

マルチファンクションステアリング

マルチファンクションディスプレイの操作は、ステアリングのスイッチで行ないます。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> - マルチファンクションディスプレイを操作するときは、常に周囲の状況に注意してください。
> - 走行中にステアリングのスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながら操作すると、事故を起こすおそれがあります。

	名称
①	マルチファンクションディスプレイ
②	**音量スイッチ** [＋] [－] 各メイン画面やオーディオ画面表示中の音量の調節 レースタイマー * の操作 **通話開始 / 終了スイッチ(電話)** [発信] [終話] 電話の発信 / 受信 / 保留 / 切断 **消音スイッチ** [消音] オーディオやナビの音声案内などの消音
③	**音声認識スイッチ** [音声認識] 音声認識の開始
④	**リターンスイッチ / 音声認識解除スイッチ** [リターン] • ひとつ前の画面への移動 / 基本画面への移動 • 音声認識の中止
⑤	**スクロールスイッチ** [▲] [▼] [▶] [◀] • メインメニューやサブメニューの選択 • トラックの選択 • ラジオ・テレビの選局 • DVD ビデオのチャプター選択 • 電話画面表示中の電話帳や発信履歴の選択 **確定スイッチ** [OK] • 選択している項目の確定 • 選択している設定の変更

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

ステアリングのスイッチでは、COMAND システムの一部の操作を行なうこともできます。詳しくは別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

メニューリスト

① メニューリスト

メニューリスト①には、マルチファンクションディスプレイのメインメニューが表示されます。

メニューリストを表示させせる

▶ [◀] または [▶] を押します。

ⓘ メニューリストを表示させてから約 3 秒間何も操作しないと、メニューリストの表示は消えます。

基本操作

メインメニューを選択する

▶ メニューリストが表示されているときに [◀] または [▶] を押して、メインメニューを選択します。

サブメニューのリストをスクロールさせる

▶ [▲] または [▼] を押します。

ひとつ前の画面に戻る

▶ [↩] を押します。

基本画面（トリップメニュー）に戻る

▶ トリップメニューが表示されるまで [↩] を押します。

または

▶ [↩] を押して保持します。

選択を確定する

▶ [OK] を押します。

オーディオや通話などの音量を調整する

▶ [+] または [−] スイッチを押します。

消音する

▶ [🔇] を押します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

メインメニューとサブメニュー

① トリップメニュー（▷141 ページ）

基本画面
エンジン始動時からの情報表示画面
リセット時からの情報表示画面
瞬間燃費 *・走行可能距離表示画面
走行速度表示画面

② ナビメニュー（▷144 ページ）

進行方向方位表示
ルート案内表示

③ オーディオメニュー（▷146 ページ）

放送局の選局（ラジオ / テレビ）
トラックの選択（音楽再生）
チャプターの選択（DVD ビデオ）

④ TEL メニュー（▷148 ページ）

電話の着信
電話帳の表示
リダイヤル

⑤ アシストメニュー（C 63 AMG を除く車種）（▷149 ページ）

ESP® 設定画面

⑥ メンテナンスメニュー（▷150 ページ）

故障 / 警告メッセージの表示
タイヤ空気圧警告システムの表示
メンテナンスインジケーターの表示

⑦ 各種設定メニュー（▷152 ページ）

各種設定
各種設定項目の初期化

⑧ AMG メニュー（C 63 AMG）（▷160 ページ）

油温・水温表示画面
走行モード・ESP® モード / スポーツハンドリングモード表示画面
レースタイマー画面
計測結果表示画面

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

トリップメニュー

トリップメニューで表示・設定できる項目は以下の通りです。

- 基本画面
- エンジン始動時からの情報表示画面 (▷142 ページ)
- リセット時からの情報表示画面 (▷142 ページ)
- 瞬間燃費 *・走行可能距離表示画面 (▷143 ページ)
- 走行速度表示画面 (▷144 ページ)

トリップメニューを表示させる

▶ [◀] または [▶] を押して、メニューリストで " ﾄﾘｯﾌﾟ " を選択します。

基本画面

トリップメーター①は、リセット後の走行距離を表示します。

オドメーター②は、これまでに走行した距離の総合計を表示します。

基本画面を表示させる

▶ 基本画面が表示されるまで [⮌] を押すか、押して保持します。

または

▶ トリップメニューを表示させせます。

▶ 基本画面以外の画面が表示されたときは、基本画面が表示されるまで [▼] または [▲] を押します。

トリップメーターをリセットする

▶ 基本画面を表示させせます。

▶ [OK] を押します。

マルチファンクションディスプレイに " トリップメーター リセットしますか? " と表示されます。

▶ [▼] を押して " はい " を選択し、[OK] を押します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

エンジン始動時からの情報表示画面

① エンジン始動時からの走行距離
② エンジン始動時からの経過時間
③ エンジン始動時からの平均速度
④ エンジン始動時からの平均燃費

エンジンを始動したときを起点とした情報を表示します。

ⓘ イグニッション位置を **0** にしてから、またはエンジンスイッチからキーを抜いてから約 4 時間経過すると、自動的にリセットされます。

約 4 時間以内にイグニッション位置を **1** か **2** にしたときは、前回の情報が継続して表示されます。このときは、999 時間経過後、または 9,999km 走行後に自動的にリセットされます。

エンジン始動時からの情報表示画面を表示させる

▶ トリップメニューを表示させます。

▶ エンジン始動時からの情報表示画面以外の画面が表示されたときは、エンジン始動時からの情報表示画面が表示されるまで ▼ または ▲ を押します。

エンジン始動時からの情報表示画面を手動でリセットする

エンジン始動時からの情報表示画面は手動でリセットすることもできます。

▶ エンジン始動時からの情報表示画面を表示させます。

▶ OK を押します。

マルチファンクションディスプレイに " 数値 リセットしますか？ " と表示されます。

▶ ▼ を押して " はい " を選択し、OK を押します。

リセット時からの情報表示画面

① リセット時からの走行距離
② リセット時からの経過時間
③ リセット時からの平均速度
④ リセット時からの平均燃費

リセットしたときを起点とした情報を表示します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

リセット時からの情報表示画面を表示させる

▶ トリップメニューを表示させせます。

▶ リセット時からの情報表示画面以外の画面が表示されたときは、リセット時からの情報表示画面が表示されるまで [▼] または [▲] を押します。

ℹ リセット後は、9,999 時間経過後、または 99,999km 走行後に自動的にリセットされます。

リセットする

▶ リセット時からの情報表示画面を表示させせます。

▶ [OK] を押します。

マルチファンクションディスプレイに "数値 リセットしますか？" と表示されます。

▶ [▼] を押して "はい" を選択し、[OK] を押します。

瞬間燃費 *・走行可能距離表示画面

瞬間燃費① * は、走行中の瞬間燃費を km/l で表示します。エンジンがかかっているときに表示されます。

走行可能距離②は、現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を計算し、予測値として表示します。イグニッション位置が **2** のときに表示されます。

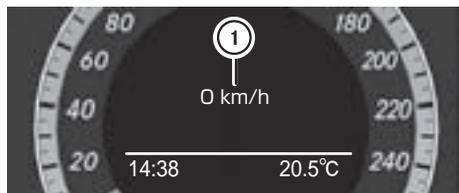
瞬間燃費 *・走行可能距離表示画面を表示させる

▶ トリップメニューを表示させせます。

▶ 瞬間燃費 *・走行可能距離表示画面以外の画面が表示されたときは、瞬間燃費 *・走行可能距離表示画面が表示されるまで [▼] または [▲] を押します。

ℹ 燃料残量が少ないときは、走行可能距離の代わりに [給油マーク] が表示されます。最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

走行速度表示画面

① 走行速度表示

走行速度を表示します。

走行速度表示画面を表示させる

▶ トリップメニューを表示させせます。

▶ 走行速度表示画面以外の画面が表示されたときは、走行速度表示画面が表示されるまで ▼ または ▲ を押します。

ナビメニュー

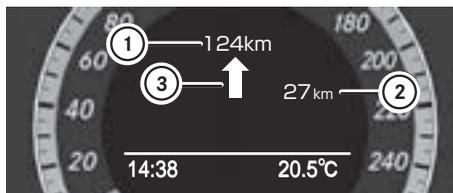
ナビメニューを表示させる

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで " ナビ " を選択します。

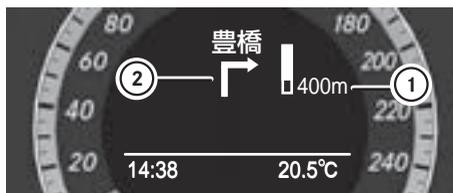
ルート案内を行なっていないとき

① 進行方向の方位表示

マルチファンクションディスプレイに進行方向の方位①が表示されます。

ルート案内を行なっているとき

① 目的地までの距離
② 交差点（分岐点）までの距離
③ 交差点（分岐点）での進行方向

交差点（分岐点）に接近しているとき

車線変更を伴わない右折時の例

① 交差点（分岐点）までの距離
② 進行方向表示

交差点（分岐点）に接近すると、音声案内が行なわれ、マルチファンクションディスプレイに交差点（分岐点）までの距離①と進行方向②が表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車線変更を伴なう右折時の例

① 交差点（分岐点）までの距離
② 適切な走行車線
③ 車線変更表示

複数の車線がある道路を走行しているときに交差点（分岐点）に接近すると、マルチファンクションディスプレイに交差点（分岐点）までの距離①が表示されます。また、適切な走行車線②と、車線変更の内容③が表示されます。

ルート案内中の表示

COMAND システムで目的地を設定したときやルート案内をしているときは、マルチファンクションディスプレイに以下のような表示が行なわれることがあります。

" 🏁 "

目的地に到着したときに表示されます。

" 目的地周辺です "

目的地が比較的大きな施設のときなどに、目的地に到着すると表示されることがあります。

" 新ルート "

当初の案内ルートから外れたり、渋滞が発生した場合などに表示されることがあります。計算後はルート案内に戻ります。

" ルート計算中 "

ルートを計算しているときに表示されます。

" 案内ルート外 "

車が地図に表示されない場所にあるとき、または駐車場などの道路外の場所にあるときに表示されることがあります。

" ルートなし "

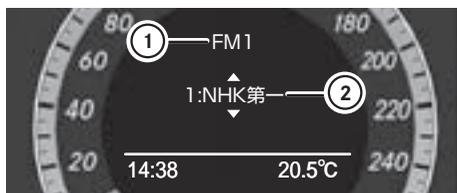
目的地までのルート案内が計算できない場合などに表示されることがあります。

ℹ ナビの詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

車両の操作

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

オーディオメニュー

ラジオ局を選局する

① "FM1" または "FM2"
"AM1" または "AM2"
② プリセット番号 / ラジオ局名または受信周波数

COMAND システムで、FM ラジオまたは AM ラジオを受信しているときに表示・選局できます。

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで " ｵｰﾃﾞｨｵ " を選択します。

ラジオ局をプリセット選局する

▶ ▼ または ▲ を押します。

プリセットされたラジオ局が選択されます。

ラジオ局を自動選局する

▶ ▼ または ▲ を押して保持します。

受信周波数が動き、次に受信できる周波数で停止します。

ℹ ラジオの詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

トラックを選択する

① 音楽ソース表示
(" ディスク " / " ﾒﾓﾘｰｶｰﾄﾞ " / "HDD" / "MEDIA INT." / " 外部入力 ")
② トラック番号 / トラック名

COMAND システムで再生している音楽ソース（ディスク、メモリーカード、ミュージックレジスター、メディアインターフェース *、外部入力）が音楽ソース表示 ① に表示されます。

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで " ｵｰﾃﾞｨｵ " を選択します。

トラックを選択する

ディスク、メモリーカード、ミュージックレジスター、メディアインターフェース * のいずれかを再生しているときは、トラックを選択することができます。

▶ ▼ または ▲ を押します。

次または前のトラックが選択されます。

ℹ 音楽再生の詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

DVD ビデオのチャプターを選択する

① チャプター番号

COMAND システムで、DVD ビデオを再生しているときに表示・選択できます。

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで "ｵｰﾃﾞｨｵ" を選択します。

▶ ▼ または ▲ を押します。

次のチャプターまたは前のチャプターが再生されます。

ℹ DVD ビデオの詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

テレビ局を選局する

① " テレビ 1" または " テレビ 2"
② プリセット番号 / チャンネル番号 / 放送局名

COMAND システムで、テレビを受信しているときに表示・選局できます。

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで "ｵｰﾃﾞｨｵ" を選択します。

テレビ局をプリセット選局する

▶ ▼ または ▲ を押します。

プリセットされたテレビ局が選択されます。

テレビ局を自動選局する

▶ ▼ または ▲ を押して保持します。

受信チャンネルが動き、次に受信できるチャンネルで停止します。

ℹ テレビの詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

TEL メニュー

携帯電話を COMAND システムに接続することにより、ハンズフリー通話ができます。

ⓘ COMAND システムには Bluetooth 接続で携帯電話を接続できます。詳しくは、別冊「COMAND システム取扱説明書」をご覧ください。

⚠ **事故のおそれがあります**

安全のため、運転者は走行中の携帯電話の接続や、携帯電話本体の使用は避けてください。

走行中は電話をかけないでください。

また、走行中に電話がかかってきたときは、あわてずに安全な場所に停車してから受けてください。

どうしても電話を受けなければならないときは、ハンズフリー機能で「かけ直す」ことを伝え、安全な場所に停車してからかけ直してください。

TEL メニューを表示させる

▶ COMAND システムの電源をオンにします。

▶ 携帯電話を COMAND システムに接続します。

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで "TEL" を選択します。

マルチファンクションディスプレイに " 電話 待ち受け " と表示されます。

着信した電話を受ける

発信元が電話帳データに登録されている場合

電話が着信すると上記のような画面が表示されます。

▶ 着信呼び出し中に [受話] を押します。

通話を終える（電話を切る）

▶ [終話] を押します。

通話を保留する

▶ 着信呼び出し中に [終話] を押します。

ⓘ 上記の操作は TEL メニューを表示していないときも行なうことができます。

電話帳から電話を発信する

COMAND システムに登録されている電話帳から電話を発信できます。

ⓘ COMAND システムの電話帳には、COMAND システムから直接電話帳データを入力したり、携帯電話や PC カードからデータをダウンロードできます。詳しくは、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで "TEL" を選択します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

▶ ▼ ▲ または OK を押して、電話帳を呼び出します。

▶ ▼ または ▲ を押して、発信先を選択します。

電話帳のリストがスクロールします。

ℹ ▲ または ▼ を約 2 秒以上押し続けると、電話帳データがスクロールします。▲ または ▼ を約 4 秒以上押し続けると、あかさたな…行、および各アルファベットの最初の登録項目ごとにスクロールします。

▶ 📞 または OK を押します。

マルチファンクションディスプレイに、" 発信中 ..." のメッセージと発信した電話番号が表示されます。電話帳に名前が登録されているときは、名前も表示されます。また、発信した番号が履歴に登録されます。

ℹ 電話帳データに複数の電話番号が登録されているときは、さらに ▼ または ▲ を押して電話番号を選択してから、📞 または OK を押すと発信されます。

ℹ ステアリングの ☎ スイッチを押し、電話を発信しないで電話帳を閉じたときは、待ち受け画面に戻ります。

発信履歴から電話を発信する

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで "TEL" を選択します。

▶ COMAND ディスプレイに " 電話待ち受け " と表示されているときに、📞 を押します。

発信履歴が表示されます。

▶ ▼ または ▲ を押して、発信先を選択します。

▶ 📞 または OK を押します。

ℹ 走行中は一部の機能が使用できなくなります。

アシストメニュー（C 63 AMG を除く車種）

アシストメニューで表示・設定できる項目は以下の通りです。

• ESP®

アシストメニューを表示させる

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで " ｱｼｽﾄ " を選択します。

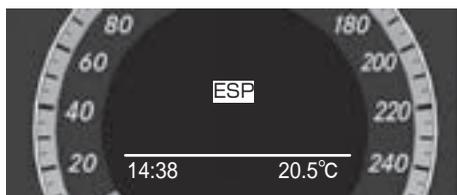
ESP® 設定画面

⚠ **事故のおそれがあります**

ESP® 表示灯が点滅したときは、車輪が空転しているか、車が横滑りしています。事故につながるおそれがあるため、以下の点に注意してください。

• 状況を問わず、ESP® の機能の解除しないでください。
• アクセルペダルを踏む力を少しゆるめてください。
• 路面や天候の状況にあわせて慎重に運転してください。

ESP® は無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ESP® が作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

エンジンがかかっているときに、ESP®の設定ができます。

▶ OK を押します。

"ESP：" が表示されます。

▶ OK を押して、設定を変更します。

表示	設定内容
オフ	ESP® の機能が解除されます。 メーターパネルの ESP® オフ表示灯（▷51 ページ）が点灯します。
オン	ESP® が待機状態になります。 メーターパネルの ESP® オフ表示灯（▷51 ページ）が消灯します。

⚠ 事故のおそれがあります

エンジンがかかっているときに ESP® オフ表示灯が点灯しているときは、ESP® の機能が解除されているか、故障により ESP® の機能が作動していません。路面や天候の状況にあわせて慎重に運転してください。

詳しくは（▷50 ページ）をご覧ください。

メンテナンスメニュー

メンテナンスメニューで表示 / 設定できる項目は以下の通りです。

- 故障 / 警告メッセージ表示
- タイヤ空気圧警告システム（▷260 ページ）
- メンテナンスインジケーター（▷273 ページ）

メンテナンスメニューを表示させる

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ " を選択します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

故障 / 警告メッセージ表示画面

故障や異常が発生したとき、故障や異常の内容がメッセージで表示されます。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> 表示される故障や異常は一部の限られた装備についてであり、表示される内容も限られています。故障 / 警告メッセージは運転者を支援するものです。発生した故障や異常に対処して車の安全性を確保する責任は運転者にあります。
>
> 故障 / 警告メッセージが表示されたときは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

自動表示機能

故障や異常が発生したときは、故障 / 警告メッセージが自動的に表示されます。

複数の故障や異常があるときは、故障 / 警告メッセージが約 5 秒間隔で順番に表示されます。

メンテナンスメニューに戻るときは、[⮌] または [OK] を押します。

故障 / 警告メッセージを手動で確認する

▶ [◀] または [▶] を押して、メニューリストで " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ " を選択します。

"0 メッセージ " と表示されているときは、故障や異常はありません。故障や異常があるときは、"2 メッセージ " のように故障や異常の件数が表示されます。

▶ " メッセージ " を選択して、[OK] を押します。

ℹ " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ " を選択して約 3 秒経過すると、" メッセージ " が自動的に選択されます。

▶ 故障や異常があるときは、[OK] を押します。

故障や異常の内容が表示されます。

複数の故障や異常があるときは、[▼] または [▲] を押して、故障 / 警告メッセージを順番に表示させます。

▶ メンテナンスメニューに戻るときは、[⮌] を押します。

ℹ 表示される故障 / 警告メッセージについては （▷290 ページ～）をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ⓘ 故障 / 警告メッセージは、イグニッション位置を **0** にすると消えます。

ただし、故障や異常の状況が変わらない場合は、次にイグニッション位置を **1** か **2** にするか、エンジンを始動したとき、再び故障 / 警告メッセージが表示されます。

各種設定メニュー

各種設定メニューで設定できる項目は以下の通りです。

- メーターの設定（▷152 ページ）
- ライトの設定（▷153 ページ）
- 車両の設定（▷156 ページ）
- コンフォートの設定（▷158 ページ）
- 各種設定項目の初期化（▷159 ページ）

各種設定メニューを表示させる

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで " 設定 " を選択します。

メーター

以下の設定ができます。

- 速度・距離単位
- サブメーターの表示

速度・距離単位設定画面

マルチファンクションディスプレイの速度と走行距離の表示単位を設定できます。

▶ 各種設定メニューで ▼ または ▲ を押して、" メーター " を選択します。

▶ OK を押します。

" 表示単位 速度 / 距離：" が表示されます。

▶ OK を押して、設定を変更します。

表示	設定内容
km	表示単位がキロメートルになります。 "km/h"、"km" などで表示されます。
miles	表示単位がマイルになります。 "mph"、"mi"、"miles" などで表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

⚠ 事故のおそれがあります

1 マイル（mph）は約 1.6km（km/h）です。マルチファンクションディスプレイの表示単位がマイルになっていると、誤って速度を超過するおそれがあります。必ず km 表示を選択してください。

サブメーターの表示設定画面

サブメーター ① に表示される項目の設定ができます。

▶ 各種設定メニューで ▼ または ▲ を押して、" メーター " を選択します。

▶ OK を押します。

▶ ▼ を押して、" サブメーター : " を表示させせます。

▶ OK を押して、設定を変更します。

表示	設定内容
外気温度表示	サブメーターに外気温度が表示されます。
速度表示 [mph]:	サブメーターに走行速度（mph 単位）が表示されます。

ライト

以下の設定ができます。

- ヘッドランプ点灯モード
- インテリジェントライトシステム *（▷154 ページ）
- ロケイターライティング（▷155 ページ）
- ルームランプ残照機能（▷155 ページ）

ヘッドランプ点灯モード設定画面

ヘッドランプの点灯モードの設定ができます。

▶ 各種設定メニュー（▷152 ページ）で ▼ または ▲ を押して、" ライト " を選択します。

▶ OK を押します。

▶ " デイタイムライト : " が表示されます。

▶ OK を押して、設定を変更します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

表示	設定内容
オン	常時点灯モードです。 ランプスイッチが A の位置にあるときは、イグニッション位置を **1** か **2** にすると、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプが常に点灯します。 また、エンジンを始動すると、ヘッドランプと LED ドライビングランプ * が常に点灯します。
オフ	手動点灯モードです。 ヘッドランプなどを点灯するときはランプスイッチを操作します。 日本ではこのモードに設定してください。

ℹ 安全のため、エンジンがかかっているときは設定を変更できません。このときは、マルチファンクションディスプレイに " エンジンオフ時のみ " と表示されます。エンジンを停止してから設定を変更してください。

ℹ 常時点灯モードは、走行中の常時点灯が義務付けられている諸国に対応しています。日本では手動点灯モードに設定して使用してください。

常時点灯モードで自動的に点灯するランプは、車幅灯、ヘッドランプ、LED ドライビングランプ *、テールランプ、ライセンスランプです。その他のランプを点灯するときは、各スイッチを操作してください。

インテリジェントライトシステム設定画面 *

インテリジェントライトシステムの設定ができます。

インテリジェントライトシステムには以下の機能があります。

- アクティブライトシステム
- コーナリングランプ *
- ハイウェイモード
- フォグランプ強化機能

▶ 各種設定メニュー（▷152 ページ）で ▼ または ▲ を押して、" ライト " を選択します。

▶ OK を押します。

▶ ▼ または ▲ を押して、" インテリジェント ライトシステム : " を表示させます。

▶ OK を押して、設定を変更します。

表示	設定内容
オン	インテリジェントライトシステムが作動します。
オフ	インテリジェントライトシステムは作動しません。

詳しくは（▷107 ページ）をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

ロケイターライティング設定画面

ロケイターライティングの設定ができます。ロケイターライティングには、ふたつの機能があります。

解錠時点灯機能

周囲が暗いときにリモコン操作で解錠すると車外ランプが点灯します。

車外ランプ残照機能

周囲が暗いときにエンジンを停止すると車外ランプが点灯します。

上記の機能で点灯する車外ランプは以下の通りです

- 車幅灯
- ヘッドランプ（LED ドライビングランプ装備車）
- フロントフォグランプ * または LED ドライビングランプ *
- テールランプ
- ライセンスランプ

▶ 各種設定メニュー（▷152 ページ）で ▼ または ▲ を押して、" ライト " を選択します。

▶ OK を押します。

▶ ▼ または ▲ を押して、" ロケイターライティング：" を表示させます。

▶ OK を押して、設定を変更します。

表示	設定内容
オン	解錠時点灯機能と車外ランプ残照機能が作動します。
オフ	解錠時点灯機能と車外ランプ残照機能は作動しません。

詳しくは（▷62、103 ページ）をご覧ください。

ルームランプ残照機能設定画面

ルームランプが自動点灯モードのときにエンジンスイッチからキーを抜くとルームランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ 各種設定メニュー（▷152 ページ）で ▼ または ▲ を押して、" ライト " を選択します。

▶ OK を押します。

▶ ▼ を押して、" ルームランプ 消灯遅延：" を表示させます。

▶ OK を押して、設定を変更します。

車両の操作

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

表示	設定内容
オン	ルームランプ残照機能が作動します。
オフ	ルームランプ残照機能は作動しません。

詳しくは（▷109 ページ）をご覧ください。

車両

以下の設定ができます。

- ウィンタータイヤスピードリミッター
- 車速感応ドアロック（▷157 ページ）
- アンサーバック機能（▷157 ページ）

ウィンタータイヤスピードリミッター設定画面

最高速度の制限のない国などで、ウィンタータイヤ装着時にタイヤの許容最高速度に応じた最高速度を設定するための機能です。

日本仕様でも設定はできますが、法定速度を守って走行してください。

▶ 各種設定メニュー（▷152 ページ）で ▼ または ▲ を押して、" 車両 " を選択します。

▶ OK を押します。

" 速度制限（冬タイヤ）: " が表示されます。

▶ OK を押します。

▶ ▼ または ▲ を押して、設定を変更します。

▶ OK を押します。

表示	設定内容
オフ	ウィンタータイヤスピードリミッターは作動しません。
240km/h 230km/h 220km/h 210km/h 200km/h 190km/h 180km/h 170km/h 160km/h	最高速度がそれぞれの速度に設定されます。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

ℹ ウィンタータイヤスピードリミッターを設定しているときは、可変スピードリミッター（▷167 ページ）で設定できる制限速度の上限は、ウィンタータイヤスピードリミッターの設定速度になります。

車速感応ドアロック設定画面

走行速度が約 15km/h 以上になったときにドアとトランクまたはテールゲートを自動的に施錠する機能の設定ができます。

▶ 各種設定メニュー（▷152 ページ）で [▼] または [▲] を押して、" 車両 " を選択します。

▶ [OK] を押します。

▶ [▼] を押して、" 車速感応ドアロック：" を選択します。

▶ [OK] を押して、設定を変更します。

表示	設定内容
オン	車速感応ドアロックが作動します。
オフ	車速感応ドアロックは作動しません。

詳しくは（▷69 ページ）をご覧ください。

アンサーバック機能設定画面

リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車両を解錠 / 施錠したときの確認音が設定できます。

▶ 各種設定メニュー（▷152 ページ）で [▼] または [▲] を押して、" 車両 " を選択します。

▶ [OK] を押します。

▶ [▼] を押して、" ｴﾚｸﾄﾛﾆｯｸｷｰ アンサーバック：" を選択します。

▶ [OK] を押して、設定を変更します。

表示	設定内容
オン	リモコン操作時またはキーレスゴー * 操作時に確認音が鳴ります。
オフ	リモコン操作時またはキーレスゴー * 操作時に確認音が鳴りません。

詳しくは（▷61 ページ）をご覧ください。

車両の操作

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

コンフォート

以下の設定ができます。

- イージーエントリー *
- フロントシートベルトのテンション調整機能 *
- 施錠時のドアミラー格納 *（▷159 ページ）

イージーエントリー設定画面 *

以下のときにステアリングが上方に移動する、イージーエントリーの設定ができます。

- エンジンスイッチからキーを抜いたとき
- イグニッション位置が **0** か **1** で運転席ドアを開いたとき

▶ 各種設定メニュー（▷152 ページ）で [▼] または [▲] を押して、" コンフォート " を選択します。

▶ [OK] を押します。

" イージーエントリー：" が表示されます。

▶ [OK] を押して、設定を変更します。

表示	設定内容
オン	イージーエントリーが作動します。
オフ	イージーエントリーは作動しません。

詳しくは（▷89 ページ）をご覧ください。

⚠ けがのおそれがあります

- イージーエントリーの作動中に身体や物が挟まれないように注意してください。
- 子供だけを残して車から離れないでください。誤ってエンジンスイッチからキーを抜いたり、運転席ドアを開くとイージーエントリーが作動し、けがをするおそれがあります。

フロントシートベルトのテンション調整機能設定画面 *

▶ 各種設定メニュー（▷152 ページ）で [▼] または [▲] を押して、" コンフォート " を選択します。

▶ [OK] を押します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ [▼] または [▲] を押して、" ベルト調整：" を選択します。

▶ [OK] を押して、設定を変更します。

表示	設定内容
オン	イグニッション位置が 2 のときに、フロントシートベルトのテンションが自動的に調整されます。
オフ	フロントシートベルトのテンションは調整されません。

詳しくは（▷99 ページ）をご覧ください。

施錠時のドアミラー格納設定画面 *

リモコン操作またはキーレスゴー操作 * での施錠時にドアミラーを格納する機能の設定ができます。

▶ 各種設定メニュー（▷152 ページ）で [▼] または [▲] を押して、" コンフォート " を選択します。

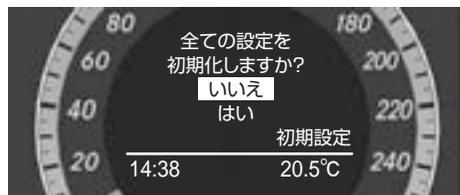
▶ [OK] を押します。

▶ [▼] を押して、" ロック時のミラー格納：" を選択します。

▶ [OK] を押して、設定を変更します。

表示	設定内容
オン	施錠時のドアミラー格納機能が作動します。
オフ	施錠時のドアミラー格納機能は作動しません。

詳しくは（▷93 ページ）をご覧ください。

各種設定項目の初期化

各種設定メニューのすべての項目を工場出荷時の設定に初期化する（戻す）ことができます。

各種設定項目を初期化する

▶ 各種設定メニュー（▷152 ページ）で [▼] を押して、" 設定初期化 " を選択し、[OK] を押します。

" 全ての設定を 初期化しますか？ " と表示されます。

▶ [▼] を押して、" はい " を選択し、[OK] を押します。

初期化が実行され、" 工場出荷時の設定に初期化 しました " と表示されます。

" いいえ " を選択すると、元の画面に戻ります。

ⓘ 安全のため、エンジンがかかっているときは初期化を行なうことができない項目があります。

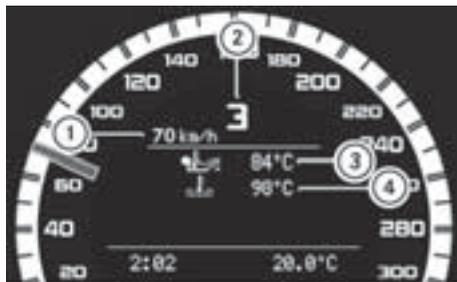
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

AMG メニュー *

AMG メニューを表示させる

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで "AMG" を選択します。

油温･水温表示画面が表示されます。

油温・水温表示画面

① 走行速度表示
② ギア表示
③ 油温表示
④ 水温表示

AMG メニューの各項目では、走行速度表示①とギア表示②が表示されます。

走行速度表示①は、走行中の速度を表示します。

ギア表示②は、オートマチックトランスミッションの実際のギア位置を表示します。

エンジン回転が上昇し、シフトアップするタイミングになったときは、マルチファンクションディスプレイの表示が赤くなり、ギア表示②の横に "UP" マークが表示されます。

油温表示③は、エンジンオイルの油温を表示します。

! 油温が約 80℃未満のときは油温表示が点滅します。このときはエンジンオイルが温まっていません。必要以上にエンジン回転数を上げないように運転してください。

水温表示④は、エンジン冷却水の水温を表示します。

i イグニッション位置が **1** のときは、油温、水温は表示されません。このときは "--℃ " が表示されます。

走行モード・ESP® モード / スポーツハンドリングモード表示画面

① 走行モード表示（C、S、M モード）
② ESP® モード / スポーツハンドリングモード表示（ON、SPORT、OFF）

走行モード表示①と ESP® モード / スポーツハンドリングモード表示②が表示されます。

走行モード・ESP® モード / スポーツハンドリングモード表示画面を表示させる

▶ AMG メニューを表示させます。

▶ 走行モード･ESP® モード / スポーツハンドリングモード表示画面が表示されるまで ▼ または ▲ を押します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

レースタイマー画面

① ラップ表示
② 計測タイム

レースタイマー画面では、周回ごとのラップタイムを計測・記録したり、その結果を一覧表示できます。

イグニッション位置が **2** のとき、またはエンジンがかかっているときに使用できます。

ℹ レースタイマー画面を表示させているときは、[＋] または [－] を押してオーディオなどの音量を調節することはできません。

レースタイマー画面を表示させる

▶ AMG メニューを表示させせます。

▶ レースタイマー画面が表示されるまで [▼] または [▲] を押します。

タイム計測を開始する

▶ [＋] を押します。

タイム計測が開始されます。

スプリットタイムを表示する

▶ タイム計測中に [－] を押します。

スプリットタイムが約 5 秒間表示されます。

約 5 秒経過後に、タイム計測の表示に戻ります。

タイム計測を停止する

▶ タイム計測中に [＋] を押します。

タイム計測が停止します。

▶ 再度 [＋] を押すと、停止した時点からタイム計測が再開されます。

タイム計測中に、停車してイグニッション位置を **1** にすると、タイム計測が停止します。

その後、イグニッション位置を **2** にするかエンジンを始動して、[＋] を押すと、停止した時点からタイム計測が再開されます。

ラップタイムを記録する

最大 16 件までの計測タイムをラップタイムとして記録できます。

▶ タイム計測中に [－] を押します。

スプリットタイムが約 5 秒間表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

▶ スプリットタイムが表示されているときに、再度 [－] を押します。

スプリットタイムがラップタイムとして記録され、スプリットタイムが表示された時点から、次のラップのタイム計測が開始されます。

③ 計測タイム
④ ラップ表示
⑤ 最速ラップタイム

ⓘ ラップタイムが記録されているときは、計測タイム ③ の下に最速ラップタイム ⑤ が表示されます。

ⓘ ラップタイムが 16 件記録されると、それ以上計測ができなくなります。新たにタイム計測を行なうときは、記録したラップタイムをすべて消去してください。

計測したタイムを消去する

▶ タイム計測中に [＋] を押します。

タイム計測が停止します。

▶ タイム計測が停止しているときに [－] を押します。

計測タイムが消去され、表示が 00:00 00 に戻ります。

記録したすべてのラップタイムを消去する

▶ タイム計測を停止します。

▶ [OK] を押します。

マルチファンクションディスプレイに "Reset Race-Timer?" と表示されます。

▶ [▼] を押して "YES" を選択し、[OK] を押します。

記録したすべてのラップタイムが消去されます。

ⓘ 記録したラップタイムは個別には消去できません。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

全ラップの計測結果を確認する

計測結果表示画面（全ラップ）
① 合計時間
② 計測した全ラップの平均速度
③ 計測した全ラップでの最高速度
④ 計測した全ラップの走行距離

2 周以上のラップタイムが記録されているときは、タイム計測が停止しているときに全ラップの計測結果を表示できます。

計測結果表示画面（全ラップ）を表示させる

▶ タイム計測を停止します。

▶ 計測結果表示画面（全ラップ）が表示されるまで ▼ または ▲ を押します。

ラップごとの計測結果を確認する

計測結果表示画面（ラップ別）
① ラップ表示
② ラップタイム
③ 表示されているラップの平均速度
④ 表示されているラップの走行距離
⑤ 表示されているラップでの最高速度

ラップタイムが記録されているときは、タイム計測が停止しているときにラップごとの計測結果を表示できます。

計測結果表示画面（ラップ別）を表示させる

▶ タイム計測を停止します。

▶ 計測結果表示画面（ラップ別）が表示されるまで ▼ または ▲ を押します。

▶ 表示させたいラップの計測結果表示画面が表示されるまで ▼ または ▲ を押します。

表示されているラップが最速ラップのときは、ラップ表示①が点滅します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

走行装備

走行装備には、以下のものがあります。

- クルーズコントロール

  設定速度を自動的に維持して走行できます。
- 可変スピードリミッター

  設定速度を超えないように走行できます。
- ダイナミックハンドリングパッケージ *

  サスペンションの制御を自動的に行ないます。
- パークトロニック *

  車庫入れや狭い場所での運転時に、障害物とのおよその距離を知らせます。
- パーキングアシストリアビューカメラ *

  車の後方の映像や音声案内により、車庫入れや縦列駐車などの後退操作を補助します。

ABS、BAS、アダプティブブレーキライト、ESP®、EBD については、走行安全装備（▷46 ページ）をご覧ください。

クルーズコントロール

クルーズコントロールを設定することにより、アクセルペダルを踏まなくても、設定速度を自動的に維持して走行できます。

クルーズコントロールは、主に高速道路や自動車専用道路で使用することを想定したものです。市街地では使用しないでください。

設定できる速度は 30km/h 以上です。

⚠ 事故のおそれがあります

車の走行速度や先行車との車間距離の確保など、クルーズコントロール使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

クルーズコントロールを使用しているときは、運転者は常に道路状況に注意を払ってください。

⚠ 事故のおそれがあります

以下のような場合はクルーズコントロールを使用しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

- 急な下り坂、急カーブ、曲がりくねった道路を走行しているとき
- 加減速を繰り返すような交通状況や交通量の多い道路を走行しているとき
- 雨で濡れた路面や積雪路、凍結路などの滑りやすい路面を走行しているとき
- 降雨時や降雪時、濃霧時など視界が確保できないとき

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! クルーズコントロールの設定速度と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

! 指定のサイズで 4 輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、クルーズコントロールが誤作動するおそれがあります。

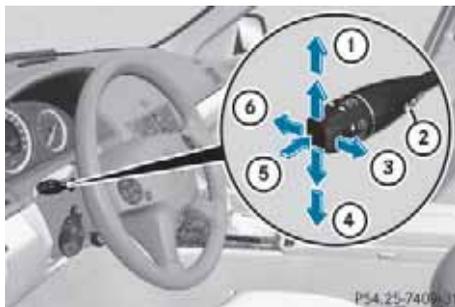
! マルチファンクションディスプレイにクルーズコントロールに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷291 ページ）をご覧ください。

! 急な上り坂では速度を維持するためにシフトダウンすることがありますが、設定した速度を維持できないときはアクセルペダルを踏んで加速してください。

! 急な下り坂や重い荷物を積んでいるときなどは、設定速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

⚠ **事故のおそれがあります**

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がスリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

クルーズコントロールを設定する

① 現在の走行速度に設定する / 設定速度を上げる
② 表示灯
③ 記憶されている前回の設定速度に設定する / 現在の走行速度に設定する
④ 現在の走行速度に設定する / 設定速度を下げる
⑤ クルーズコントロールと可変スピードリミッターを切り替える
⑥ クルーズコントロールを解除する

クルーズコントロールは、可変スピードリミッター（▷167 ページ）と同じレバーで操作します。

走行速度が 30km/h 以上のときに設定できます。

▶ 表示灯 ② が消灯していることを確認します。

表示灯が点灯しているときは、レバーを ⑤ の方向に押します。

表示灯が消灯します。

▶ 設定したい速度で走行します。

▶ レバーを ① または ④ の方向に操作します。

そのときの走行速度に設定されます。

または

▶ レバーを ③ の方向に操作します。

記憶されている前回の設定速度に設定されます。

前回の設定速度が記憶されていないときは、そのときの走行速度に設定されます。

⚠ **事故のおそれがあります**

記憶されている前回の設定速度に設定するときは、周囲が安全な状況であることを確認してください。走行中の速度と設定速度に大きな差があると、急加速や急減速して事故を起こすおそれがあります。

▶ アクセルペダルから足を放します。

自動的に設定速度を維持しながら走行します。

⑦ クルーズコントロールインジケーター

クルーズコントロールが設定されると、マルチファンクションディスプレイに " クルーズコントロール " と設定速度が数秒間表示されます。

また、設定速度から上の部分にクルーズコントロールインジケーター ⑦ が点灯します。

ℹ クルーズコントロールインジケーターの目盛りは 5km/h 単位です。

ℹ 上り坂などを走行するときは、設定した速度を維持できないことがありますが、路面が平坦になると、設定した速度で走行を再開します。

ℹ 以下のときはクルーズコントロールは設定できません。このときは、マルチファンクションディスプレイに " クルーズコントロール - - - km/h" が数秒間表示され、"- - - " 部分が点滅します。

- 約 30km/h 以下の速度で走行しているとき
- ESP® の機能を解除しているとき
- スポーツハンドリングモード * にしているとき

ℹ エンジンを停止すると、記憶されている前回の設定速度は消去されます。

設定速度を変更する

設定速度を上げる

▶ レバーを①の方向に操作します。

レバーを軽く操作すると、1km/h 単位で上がります。

レバーをいっぱいまで操作すると、1km/h 単位が切り上がり、10km/h 単位で上がります。

▶ 希望する速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ⓘ 追い越しなどで一時的に速度を上げるときは、アクセルペダルを踏んで速度を上げてください。アクセルペダルから足を放すと、元の設定速度に戻ります。

設定速度を下げる

▶ レバーを ④ の方向に操作します。

レバーを軽く操作すると、1km/h 単位で下がります。

レバーをいっぱいまで操作すると、1km/h 単位が切り下がり、10km/h 単位で下がります。

▶ 希望する速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

ⓘ レバーを ④ の方向に下げているときは、シフトダウンしたり、自動的にブレーキを効かせることがあります。

クルーズコントロールを解除する

▶ レバーを ⑥ の方向に操作します。

または

▶ ブレーキペダルを踏みます。

または

▶ レバーを ⑤ の方向に押します。

レバーの表示灯 ② が点灯して、可変スピードリミッターが操作できる状態になります。

以下のときも、クルーズコントロールは解除されます。

- 走行速度が約 30km/h 以下になったとき
- ESP® が作動したときや、ESP® の機能を解除したとき
- スポーツハンドリングモード * にしたとき
- セレクターレバーを N に入れたとき

このときに確認音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " クルーズコントロール 解除 " が数秒間表示されます。

また、パーキングブレーキを効かせたときもクルーズコントロールは解除されます。

⚠ **事故のおそれがあります**

走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

可変スピードリミッター

可変スピードリミッターを設定することにより、アクセルペダルを踏んでも、設定速度を超えないように走行できます。

設定できる速度は 30km/h から 210km/h または 250km/h までの間です。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ 事故のおそれがあります

- 走行時は法定速度を遵守してください。可変スピードリミッター使用時の安全確保や危険回避については、運転者に全責任があります。
- 運転を交代するときは、必ず交代する運転者に、可変スピードリミッターの機能と設定速度を伝えてください。

  可変スピードリミッターの機能を知らずに運転すると、アクセルペダルを踏んでも速度が上がらず、事故を起こすおそれがあります。
- 可変スピードリミッターは設定速度以上に加速する必要のないときに使用してください。

! 可変スピードリミッターの設定速度と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

! マルチファンクションディスプレイに可変スピードリミッターに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷291 ページ）をご覧ください。

! 急な下り坂や重い荷物を積んでいるときなどは、設定速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

⚠ 事故のおそれがあります

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がスリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ 事故のおそれがあります

走行しているときは、軽くブレーキを効かせ続けるなど、ブレーキペダルを踏み続けないでください。ブレーキシステムが過熱して制動距離が長くなったり、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

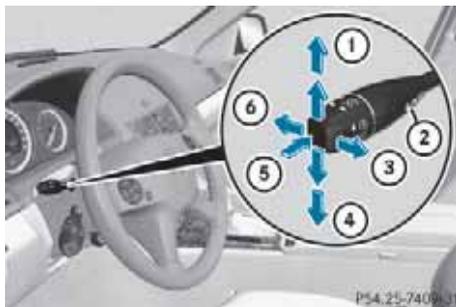
ℹ 車の最高速度以上に設定しても、最高速度以上の速度で走行することはできません。

ℹ 車種や仕様により、設定できる速度が異なる場合があります。

ℹ ウィンタータイヤ装着時など、タイヤの許容最高速度に応じた最高速度を設定できるウィンタータイヤスピードリミッターが装備されています。詳しくは（▷156 ページ）をご覧ください。

ウィンタータイヤスピードリミッターを設定しているときは、可変スピードリミッターの設定速度の上限は、ウィンタータイヤスピードリミッターの設定速度になります。

ℹ 設定速度を維持できないときは、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " リミット超えました " と表示されることがあります。

可変スピードリミッターを設定する

① 現在の走行速度に設定する / 30km/h に設定する / 設定速度を上げる
② 表示灯
③ 記憶されている前回の設定速度に設定する / 現在の走行速度に設定する / 30km/h に設定する
④ 現在の走行速度に設定する / 30km/h に設定する / 設定速度を下げる
⑤ 可変スピードリミッターとクルーズコントロールを切り替える
⑥ 可変スピードリミッターを解除する

可変スピードリミッターは、クルーズコントロール（▷164 ページ）と同じレバーで操作します。

▶ 表示灯 ② が点灯していることを確認します。

表示灯が消灯しているときは、レバーを ⑤ の方向に押します。

表示灯が点灯します。

▶ レバーを ① または ④ の方向に操作します。

- 走行速度が 30km/h 以上のときは、そのときの走行速度に設定されます。
- 走行速度が 30km/h 以下のときは、30km/h に設定されます。

または

▶ レバーを ③ の方向に操作します。

- 記憶されている前回の設定速度に設定されます。
- 前回の設定速度が記憶されていない場合、走行速度が 30km/h 以上のときは、そのときの走行速度に設定されます。
- 前回の設定速度が記憶されていない場合、走行速度が 30km/h 以下のときは、30km/h に設定されます。

⚠ **事故のおそれがあります**

可変スピードリミッターを設定するときは、周囲の安全、特に後方の車などに注意しながら操作してください。

記憶されている前回の設定速度が走行速度より低いときは、記憶されている前回の設定速度に設定すると、アクセルペダルを踏んでいても車は減速します。

ⓘ エンジンを停止すると、記憶されている前回の設定速度は消去されます。

可変スピードリミッターが設定されると、マルチファンクションディスプレイに " 制限速度 " と設定速度が数秒間表示されます。

⑦ 可変スピードリミッターインジケーター

また、設定速度から下の部分に可変スピードリミッターインジケーター ⑦ が点灯します。

ℹ 可変スピードリミッターインジケーターの目盛りは 5km/h 単位です。

設定速度を変更する

設定速度を上げる

▶ レバーを ① の方向に操作します。

レバーを軽く操作すると、1km/h 単位で上がります。

レバーをいっぱいまで操作すると、1km/h 単位が切り上がり、10km/h 単位で上がります。

▶ 希望する速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

設定速度を下げる

▶ レバーを ④ の方向に操作します。

レバーを軽く操作すると、1km/h 単位で下がります。

レバーをいっぱいまで操作すると、1km/h 単位が切り下がり、10km/h 単位で下がります。

▶ 希望する速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

可変スピードリミッターを解除する

▶ レバーを ⑥ の方向に操作します。

または

▶ レバーを ⑤ の方向に押します。

レバーの表示灯 ② が消灯して、クルーズコントロールが操作できる状態になります。

⚠ **事故のおそれがあります**

可変スピードリミッターはブレーキペダルを踏んでも解除できません。

以下のときも、可変スピードリミッターは解除されます。

- アクセルペダルを踏んでキックダウンしたとき

  このときは確認音が鳴ります。

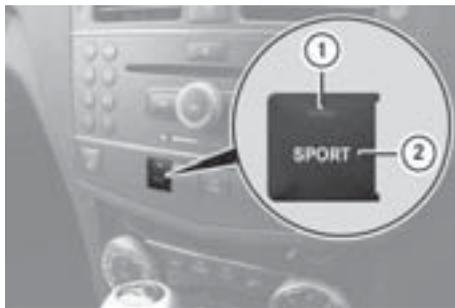
  ただし、設定速度より約 20km/h 以上低い速度までは、キックダウンしても解除されません。
- エンジンを停止したとき

ダイナミックハンドリングパッケージ *

運転状況や走行状況に合わせて、自動的にサスペンションの制御を行ないます。

サスペンションは、主として以下の要因に応じて制御されます。

- 運転スタイル
- 路面状況
- 選択しているサスペンションモード

モードの切り替え

スペシャルスポーツモード

タイヤの路面追従性を向上させ、スポーティ性を重視した硬めのサスペンション制御になります。

また、エンジン回転数に応じて、アクセルペダルによるエンジンの反応が向上します。

山道での走行など、スポーティな走行をするときに適しています。

スペシャルスポーツモードを選択する

▶ エンジンを始動します。

▶ スペシャルスポーツモードスイッチ ② を押して、表示灯 ① を点灯させます。

走行モード(▷127 ページ)が S モードになります。

エンジンを停止すると、スペシャルスポーツモードは解除され、コンフォートモードになります。

コンフォートモード

快適性を重視したサスペンション制御になります。

カーブの少ない高速道路などを走行するときに適しています。

コンフォートモードを選択する

▶ スペシャルスポーツモードスイッチ ② を押して、表示灯 ① を消灯させます。

走行モード(▷127 ページ)が E モードになります。

パークトロニック *

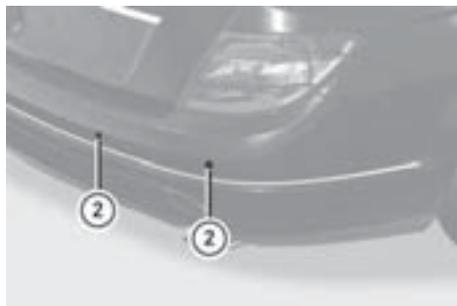
フロントとリアのバンパーにあるセンサーで障害物などを感知し、インジケーターと警告音で運転者に知らせます。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> パークトロニックは運転者を支援するシステムです。運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

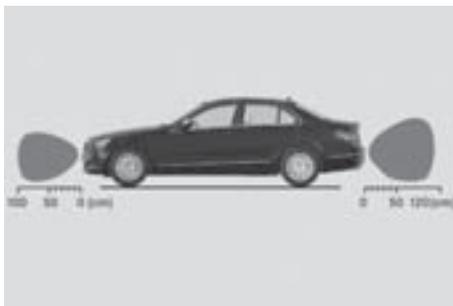
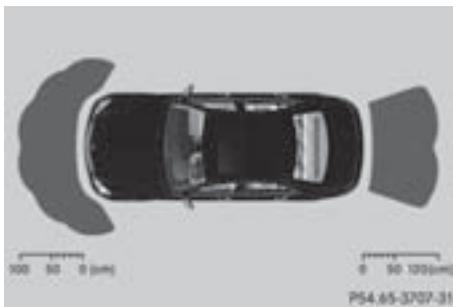
> ⚠ **けがのおそれがあります**
>
> 車の周辺に人や動物がいないことを確認してください。

パークトロニックセンサー

① センサー（フロントバンパー）

セダン
② センサー（リアバンパー）

フロントバンパーの 6 個のセンサー ① とリアバンパーの 4 個のセンサー ② が障害物などを感知します。

! センサーに泥や氷、雨、水しぶきなどが付着した状態のときは、赤色インジケーターだけが点灯して、約 20 秒後にパークトロニックが停止することがあります。センサーに損傷を与えないよう注意して、定期的に清掃してください（▷279 ページ）。

センサーの感知範囲

側方から見た感知範囲（セダン）

上方から見た感知範囲（セダン）

フロントバンパーのセンサー

センター部	約 100cm ～ 20cm
コーナー部	約 60cm ～ 15cm

リアバンパーのセンサー

センター部	約 120cm ～ 20cm
コーナー部	約 80cm ～ 15cm

! バンパーのセンター部で約 20cm 以内、コーナー部で約 15cm 以内にある障害物は感知できません。

! センサーの周辺にアクセサリーなどを取り付けないでください。パークトロニックが正常に作動せず、車を損傷したり事故につながるおそれがあります。

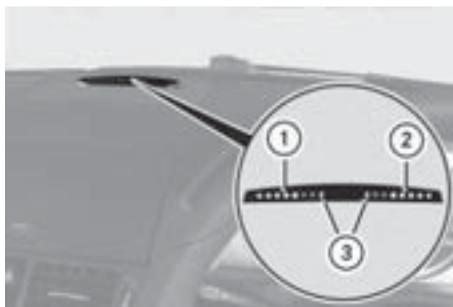
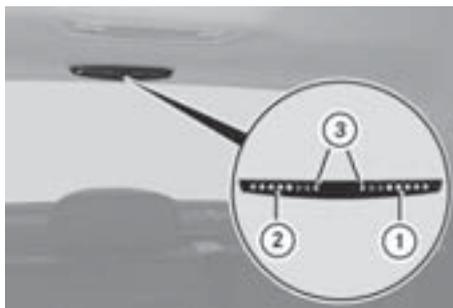
! 針金やロープなどの細い物や、植木鉢や建物の張り出しなどセンサーの上下にあるものに十分注意してください。これらが至近距離内にあるとき、状況によっては、センサーがこれらを感知せず、車や物を損傷するおそれがあります。

! センサーは雪などの超音波を吸収しやすい物を感知しないことがあります。

! 不整地などを走行しているときは、パークトロニックが正しく作動しないことがあります。

! 洗車機や大型車の排気ブレーキ、工事用のエアコンプレッサーなどが近くにあると、超音波が乱され、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

! 温度や湿度が高いときや超音波や低周波を発生させる機器が車の近くにあるとき、またエンジンルームの温度が高いときは、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

インジケーター / 作動表示灯

フロント
① 左側インジケーター
② 右側インジケーター
③ フロント作動表示灯

リア
① 左側インジケーター
② 右側インジケーター
③ リア作動表示灯

i イグニッション位置を **2** にすると、すべてのインジケーターと作動表示灯が一瞬点灯します。

パークトロニックの作動

イグニッション位置が **2** でパーキングブレーキが解除されているとき、シフト位置に応じて、以下のように作動します。

シフト位置	作動内容
D	フロントのセンサーが作動し、フロントの作動表示灯が点灯します。
R N	フロントとリアのセンサーが作動し、フロントとリアの作動表示灯が点灯します。
P	パークトロニックは作動しません。

ℹ パークトロニックは、走行速度が約 18km/h 以下のときに作動します。走行速度が約 18km/h 以上になると作動を停止します。

感知範囲に障害物が入ったとき

黄色インジケーターが 1 個点灯します。

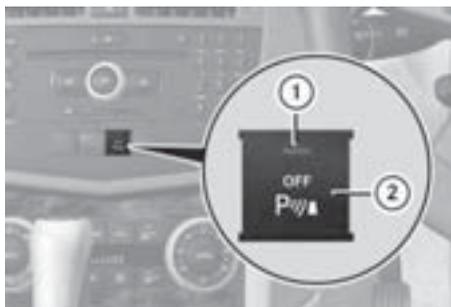
障害物との距離が近くなるにつれ、点灯する黄色インジケーターの数が増えていきます。

障害物との距離が近くなったとき

黄色インジケーターに加えて 1 個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が断続的に約 3 秒間鳴ります。

最短感知距離（約 20 ～ 15cm）になると、上記のインジケーターに加えて 2 個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が連続的に約 3 秒間鳴ります。

! 障害物との距離がセンサーの最短距離よりも近くなると、センサーは障害物を感知できなかったり、正常に作動しなくなることがあります。また、インジケーターや作動表示灯が消灯することがあります。

パークトロニックの停止

① 表示灯
② パークトロニックオフスイッチ

パークトロニックを停止できます。

パークトロニックを停止する

▶ イグニッション位置が **2** のときに、パークトロニックオフスイッチ ② を押します。

スイッチの表示灯 ① が点灯します。

パークトロニックを作動させる

▶ パークトロニックオフスイッチ ② を押します。

スイッチの表示灯 ① が消灯します。

パークトロニックオフスイッチでパークトロニックを停止しても、次にイグニッション位置を **2** にしてパーキングブレーキを解除したとき、パークトロニックは自動的に作動します。

! システムに異常があるときは、赤色インジケーターだけが点灯して警告音が鳴り、約 20 秒後にパークトロニックが停止することがあります。このときは、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯します。

パーキングアシストリアビューカメラ *

パーキングアシストリアビューカメラは、車の後方の映像と音声により、車庫入れや縦列駐車などの後退操作を補助するシステムです。

⚠ けがのおそれがあります

後退操作を行なうときは、周囲に人や動物がいないことを確認してください。

⚠ 事故のおそれがあります

- パーキングアシストリアビューカメラ使用時の安全確保や危険回避については、運転者に全責任があります。
- パーキングアシストリアビューカメラは運転者を支援するシステムです。絶対に COMAND ディスプレイの映像だけを見て後退や車庫入れなどをしないでください。
- システムの特性上、COMAND ディスプレイの映像には障害物の遠近感が正しく映し出されなかったり、映像が非常に見えづらいことがあります。COMAND ディスプレイの映像だけを見て後退などをすると、人や他の車、障害物に衝突したり、事故につながるおそれがあります。必ず自分の目やミラーで後方や周囲の安全を直接確認してください。
- リアバンパーの至近距離や下方にある物は映し出されないため、運転者は COMAND ディスプレイの映像だけに頼らず、必ず自分の目やミラーで周囲の状況を直接確認してください。

⚠ 事故のおそれがあります

以下のときは、パーキングアシストリアビューカメラが正常に作動しなかったり、機能が制限されるおそれがあります。

- トランクやテールゲートが完全に閉じていないとき
- 激しい雨や雪が降っているときや霧のとき
- カメラが汚れているときなど、COMAND ディスプレイの映像が見えづらいとき
- 夜間や暗い場所にいるとき
- 急激な温度変化があったとき（寒冷時に暖房されたガレージに入ったときやカメラに冷水や温水がかかったときなど）

* オプションや仕様により、異なる装備です。

- カメラにヘッドランプや日光の反射などの強い光が直接当たったとき（映像に白い縦線が入ることがあります）
- 蛍光灯の下で使用するとき（映像にちらつきが出ることがあります）
- 急激な明るさの変化があったとき（ガレージから出し入れするときなど）
- カメラが曇ったり、水滴が付着したとき（雨の日や湿度の高い日、洗車した直後など）
- カメラ付近の温度が極端に高いときや低いとき
- カメラに泥や汚れが付着したとき
- カメラやカメラの周囲に損傷があるとき

上記のような場合は、パーキングアシストリアビューカメラを使用して後退操作を行なわないでください。人や他の車、障害物に衝突したり、事故につながるおそれがあります。

車の後部を損傷したときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラの点検および調整を行なってください。

! 必ず指定されたサイズのホイールやタイヤを装着してください。指定以外のホイールやタイヤを装着すると、システムに影響を及ぼすおそれがあります。

! カメラの周囲に強い衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

! 乗員人数や荷物の積載量が多く車両が沈み込んだり傾いたりしている場合は、画面に表示されているガイドラインに誤差が生じます。必ず自分の目やミラーで後方や周囲の安全を直接確認してください。

! ガイドラインが表示されないなど故障のおそれがあるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! トランクやテールゲートを開閉するときなどは、カメラを損傷しないように注意してください。

! 以下のような場合はシステムを使用しないでください。

- 積雪路面や凍結路面など、タイヤがスリップしやすいとき
- 坂道やカーブなどの平坦または直線でない道路

! 洗車時に高圧のスプレーガンを使用するときは、ノズルをカメラやカメラの周囲に近付けないでください。水圧が高いため、故障の原因になります。

! カメラを清掃するときは、きれいな水で汚れを落とし、やわらかい布で拭き取ってください。有機溶剤や強アルカリ洗剤などは使用しないでください。

また、強い力で乾拭きしないでください。変色の原因になったり、カメラを損傷するおそれがあります。

! ボディにワックスをかけるときは、カメラにワックスが付着しないように注意してください。付着したときは、水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液で拭き取ってください。

カメラの位置

セダン
① カメラ

ステーションワゴン
① カメラ

カメラ ① は、トランクハンドルの右側またはテールゲートハンドルの左側に装備されています。

COMAND ディスプレイの映像

後退駐車モードの映像
① 予想進路ガイドライン（黄色）
② 4.0m ガイドライン（黄色）
③ 1.0m ガイドライン（黄色）
④ 0.25m ガイドライン（赤色）

COMAND ディスプレイに映し出される映像は、ルームミラーやドアミラーで見るのと同じ左右反転させた鏡像となります。

⚠ 事故のおそれがあります

安全のため、ガイドラインの色の識別が困難な方は、パーキングアシストリアビューカメラを使用しないでください。

ℹ トランクやテールゲートが開いていたり、完全に閉じていない状態でセレクターレバーを R に入れたときや、パーキングアシストリアビューカメラ作動中にトランクやテールゲートを開いたときは、ガイドラインは表示されません。このときは COMAND ディスプレイに " トランクが開いています ガイドできません " または " テールゲートが開いています ガイドできません " と数秒間表示されます。

i セレクターレバーを R から D に入れたときは、数秒間パーキングアシストリアビューカメラの映像が COMAND ディスプレイに表示されます。

i パーキングアシストリアビューカメラを作動させているときに、COMAND システムの他の機能を作動させると、パーキングアシストリアビューカメラの映像が中断されます。

! 後方に駐車している車のバンパーやトラックの荷台など、路面に接していない立体の障害物は、ディスプレイの映像では実際よりも遠くにあるように見えます。ガイドラインだけで距離を判断せず、必ず周囲の状況を直接確認してください。

! 障害物に向かって後退しているときは、障害物が 0.25m ガイドライン ④ を越えないように注意してください。障害物によっては、0.25m ガイドライン ④ まで後退する以前に衝突するおそれがあります。

! ステアリングをまわしながら後退するときは、車のフロント部が他の車や障害物に接触しないように注意してください。

! 下図のように路面に接していない障害物や上方の空間にある障害物はガイドライン内になくても接触する可能性があります。十分に注意してください。

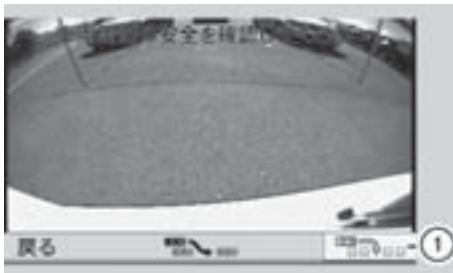
後退駐車モード

駐車場の駐車スペースなどに後退して駐車するときに、画面表示で後退操作を補助するモードです。

後退駐車モードにする

▶ COMAND ディスプレイを展開します。

▶ セレクターレバーを R に入れます。

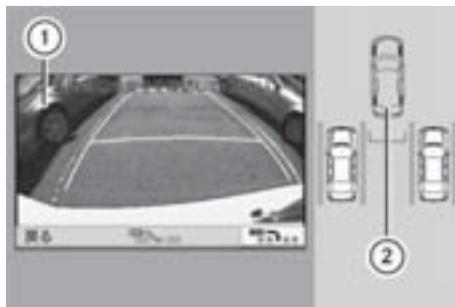
COMAND ディスプレイに後方の映像が表示されます。

① 後退駐車アイコン

▶ [icon] が表示されていないときは、後退駐車アイコン [icon] ① を選択して、COMAND コントローラーを押します。

▶ 後退駐車時のガイドラインが表示されます。

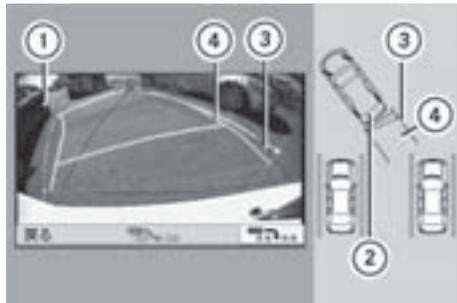
ℹ "戻る" を選択して COMAND コントローラーを押すと、パーキングアシストリアビューカメラの映像が消え、元の画面に戻ります。

パーキングアシストリアビューカメラの映像を再度表示させるには、セレクターレバーを R 以外の位置に入れて、再度 R に入れます。

ステアリングをまわさないで、まっすぐ後退駐車する

① COMAND ディスプレイ表示の例
② ① が表示されているときの自車位置

▶ 周囲に注意しながら、まっすぐ後退します。

! ガイドライン内およびその周辺、および上方の空間に障害物などがないことを確認してください。

ステアリングをまわしながら、後退駐車する

① COMAND ディスプレイ表示の例
② ① が表示されているときの自車位置
③ 直進ガイドライン（青色）
④ 予想進路ガイドライン（黄色）

▶ 予想進路ガイドライン ④ が駐車スペースのなかに収まるようにステアリングをまわしながら、注意して後退します。

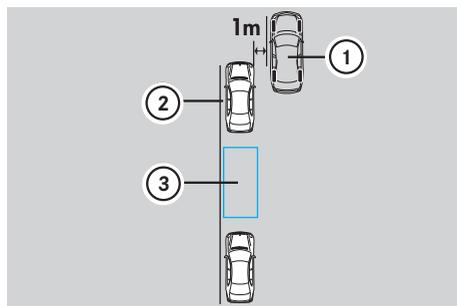
▶ 直進ガイドライン ③ が、駐車しようとしているスペースと平行になったら、ステアリングを直進位置に戻して、後退してください。

! ガイドライン内およびその周辺、および上方の空間に障害物などがないことを確認してください。

! ステアリングをまわして予想進路ガイドライン ④ の位置を調整しても、予想進路ガイドライン内に障害物が入ってしまう場合は、駐車スペースが狭すぎます。そのスペースには駐車しないでください。

縦列駐車モード

路上の駐車スペースなどに縦列駐車するときに、画面表示と音声案内で後退操作を補助するモードです。

縦列駐車する

① 自車
② 駐車スペース前方の駐車車両
③ 駐車スペース

▶ 駐車スペース前方の駐車車両 ② から約 1m 間隔を空けて平行に、駐車車両 ② の前端から自車が約半分ほど前に出た位置で、停車します。ステアリングは直進状態にします。

ℹ 駐車スペース ③ の前方に駐車車両がないときは、後退駐車モードで駐車することをお勧めします。

▶ COMAND ディスプレイを展開します。

▶ セレクターレバーを R に入れます。

COMAND ディスプレイに後方の映像が表示されます。

④ 縦列駐車アイコン

▶ が表示されていないときは、縦列駐車アイコン ④ を選択して、COMAND コントローラーを押します。

▶ 縦列駐車モードのガイドラインが表示されます。

ℹ "戻る"を選択して、COMAND コントローラーを押すと、パーキングアシストリアビューカメラの映像が消え、元の画面に戻ります。

パーキングアシストリアビューカメラの映像を再度表示させるには、セレクターレバーを R 以外の位置に入れて、再度 R に入れます。

② 駐車スペース前方の駐車車両
⑤ 垂直ガイドライン

▶ 垂直ガイドライン ⑤ が、駐車スペース前方の駐車車両 ② の後端に合うまでステアリングをまわさずに後退します。

▶ 垂直ガイドライン ⑤ が駐車車両の後端に合ったら、停車します。

! 垂直ガイドライン ⑤ が駐車車両 ② の後端から外れていると、正しい位置に駐車できません。

⑥ 駐車位置ガイドライン

▶ 垂直ガイドライン ⑤ が表示されてからしばらくすると、駐車位置ガイドライン ⑥ が表示されます。

⑦ 駐車位置ガイドライン（道路側）
⑧ 駐車位置ガイドライン（縁石側）

▶ 停車した状態で、駐車位置ガイドライン（道路側）⑦ が駐車車両のタイヤの接地面に接するまで、ステアリングをまわします。また、このとき駐車位置ガイドライン（縁石側）⑧ が、駐車スペースの前後の車両や道路の縁石、塀や電柱など道路脇の障害物にかかっていないことを確認します。

! 駐車位置ガイドライン（道路側）⑦ が駐車車両のタイヤ部分に交わっていると、正しい位置に駐車することができません。

! 駐車位置ガイドライン（縁石側）⑧ が正しい位置に合っていることを確認してください。正しい位置に合わせないまま後退すると、駐車車両や障害物に衝突するおそれがあります。

! ステアリングをまわして駐車位置ガイドライン（縁石側）⑧ の位置を調整しても、駐車位置ガイドライン（縁石側）内に駐車車両や障害物が入ってしまう場合は、駐車スペースが狭すぎます。そのスペースには駐車しないでください。

! ステアリングをまわしすぎたときは " ガイドできません ステアリングを戻してください " と表示されます。

▶ 駐車位置ガイドライン（縁石側）⑧ を正しい位置に合わせたら、ステアリングはそのままで、ゆっくりと後退します。

▶ 後退をはじめると、画面から垂直ガイドライン ⑤、駐車位置ガイドライン（道路側）⑦、駐車位置ガイドライン（縁石側）⑧ が消えます。

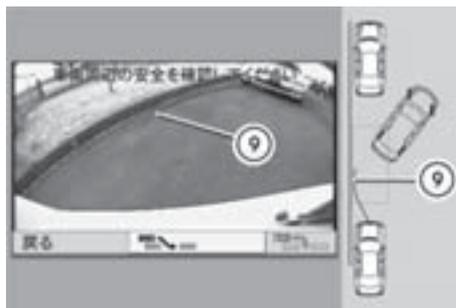
! 周囲の安全を確認しながら、ゆっくり後退してください。

i 以下のときはガイドが中止されます。

- セレクターレバーを R 以外の位置に入れたとき
- " 戻る "、または [ ] を選択したとき
- COMAND コントローラー横の [↩] を押したとき
- COMAND システムの他の機能を作動させたとき
- ステアリングを操作したとき

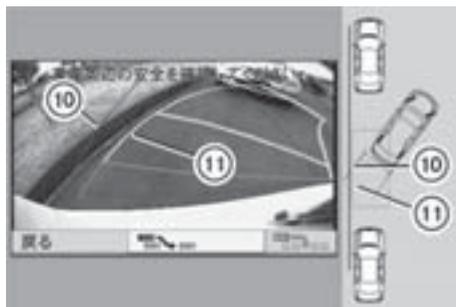
! 後退するときは必ず周囲の状況を直接確認してください。特に車のフロント部が人や他の車、障害物などに衝突しないように注意してください。

! 後退をはじめた後は、ステアリングをまわさないでください。ステアリングをまわすとガイドが中止され、画面に " ガイドできません " または " ガイドできません ステアリングがずれました " と表示されます。

! ガイドが中止された場合は、最初から後退操作をやりなおしてください。

⑨ステアリング角度ガイドライン

▶ ゆっくり後退をはじめると、ステアリング角度ガイドライン ⑨ が表示されます。

縁石などの駐車スペースの縁に、ステアリング角度ガイドライン ⑨ が合うまでステアリングをまわさないで、そのままゆっくり後退します。

▶ ステアリング角度ガイドライン ⑨ が正しい位置に合ったら、停車します。

⑩直進ガイドライン（青色）
⑪予想進路ガイドライン（黄色）

▶ ステアリングを反対方向にいっぱいまでまわします。

直進ガイドライン ⑩ と予想進路ガイドライン ⑪ が表示されます。

▶ 予想進路ガイドライン ⑪ が縁石などの駐車スペースの縁と接するまでゆっくり後退します。

! 後退するときは必ず周囲の状況を直接確認してください。特に車のフロント部が前方の駐車車両などに衝突しないように注意してください。

▶ 車が、駐車しようとしているスペースと平行になったら、ステアリングを直進位置に戻します。

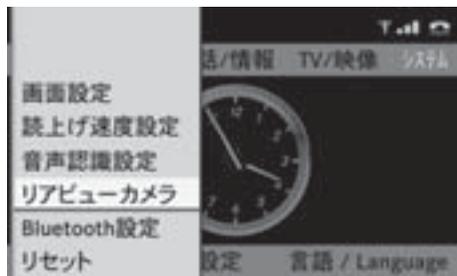
パーキングアシストリアビューカメラの設定

▶ COMAND コントロールパネルの SYS ボタンを押します。

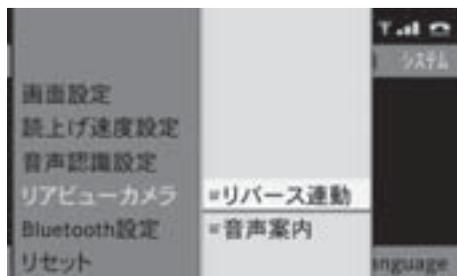
または

▶ アプリケーションエリアの " ｼｽﾃﾑ " を選択します。

設定基本画面になります。

▶ " システム " → " リアビューカメラ " を選択します。

パーキングアシストリアビューカメラの起動設定

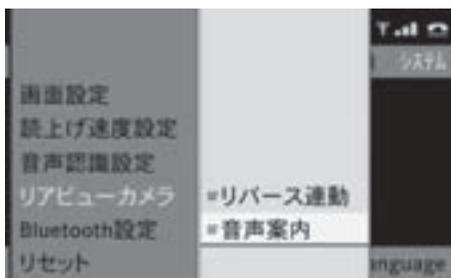
▶ " リバース連動 " を選択します。

COMAND コントローラーを押すたびに、左側のボックスのチェックマークが表示 / 消去されます。

チェックマーク	設定内容
表示	COMAND ディスプレイが展開しているときにセレクターレバーを R に入れると、パーキングアシストリアビューカメラが自動的に起動します。
消去	パーキングアシストリアビューカメラは起動しません。

ⓘ イグニッション位置を **0** にしたり、エンジンスイッチからキーを抜いても、設定内容は記憶されます。

パーキングアシストリアビューカメラの音声案内設定

▶ " 音声案内 " を選択します。

COMAND コントローラーを押すたびに、左側のボックスのチェックマークが表示 / 消去されます。

チェックマーク	設定内容
表示	音声案内が行なわれます。
消去	音声案内は行なわれません。

ℹ 音声ガイドの音量は、ステアリングの [+] [−] スイッチ、または COMAND コントロールパネルの音量調整ダイヤルで調整できます。

エアコンディショナー

エアコンディショナーの取り扱い

エアコンディショナーは、設定温度や外気温度などに応じて、送風量や送風口の組み合わせなどを自動的に調整し、車内の温度や湿度などを快適な状態に保ちます。

⚠ **火傷のおそれがあります**

送風温度を高めに設定してあるときは、送風口が過熱して高温になることがあり、火傷をするおそれがあります。また、暖気が送風されているときは、送風口に身体を近付けたままにしていると低温火傷のおそれがあります。十分に注意してください。

送風温度を低めに設定してあるときに送風口に身体を近付けると、しもやけなどを起こすおそれがありますので十分に注意してください。

皮膚の弱い人は、送風口に身体を近付けすぎないように注意してください。

環　境

- エアコンディショナーの冷媒には、新冷媒 R134a を使用しています。
- 地球環境を保護するため、フロンガスを大気放出することは法律で禁止されています。また、すべての自動車オーナーは、フロンガスが適切に処理されるように努めなければなりません。
- エアコンディショナーの冷媒の補充や交換、廃棄などは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

⚠ **事故のおそれがあります**

エアコンディショナーの設定は、以降の説明に従って正しく行なってください。ウインドウが曇って事故を起こすおそれがあります。

! フロントウインドウ下部の吸気口が雪や氷で覆われないようにしてください。

送風口や車内の吸排気口が覆われないようにしてください。

ⓘ 外気温度が高いときは、エアコンディショナーを作動させる前に換気をしてください。リモコン操作で車外からドアウインドウとスライディングルーフ * を開くと、短時間で換気できます（▷117 ページ）。

ⓘ 除湿された水分は車体下方に排水されます。

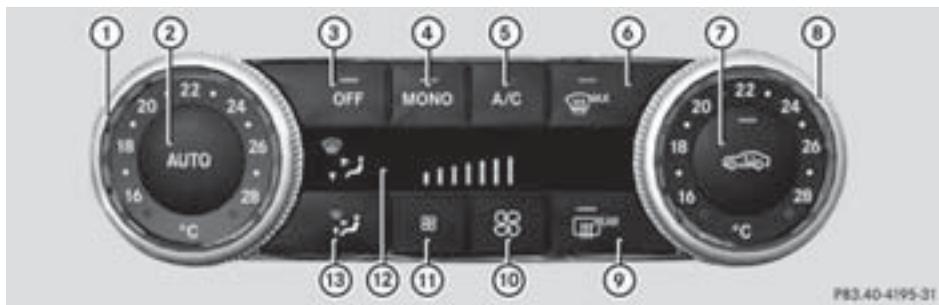
ⓘ エアコンディショナーの機能やモードのなかには、併用可能な組み合わせがあります。

ⓘ エアコンディショナーのフィルター類は定期的な交換が必要です。また、交換時期は使用環境によって異なります。

フィルター類が目づまりを起こしていると送風量が減ることがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

エアコンディショナー

コントロールパネル

①	送風温度調整ダイヤル（左側）
②	AUTO スイッチ
③	オフスイッチ
④	運転席連動モードスイッチ
⑤	AC スイッチ
⑥	デフロスタースイッチ
⑦	内気循環スイッチ
⑧	送風温度調整ダイヤル（右側）
⑨	リアデフォッガースイッチ
⑩	送風量調整スイッチ（強）
⑪	送風量調整スイッチ（弱）
⑫	ディスプレイ
⑬	送風口選択スイッチ

通常の使い方

エアコンディショナーを作動させる

▶ AUTO スイッチ ② を押します。

エアコンディショナーが AUTO モードで作動します。

AUTO スイッチの表示灯が点灯し、送風口の組み合わせと送風量が自動的に調整されるようになります。

または

▶ オフスイッチ ③ を押します。

オフスイッチの表示灯が消灯し、エアコンディショナーが停止前の設定で作動します。

ただし、内気循環モードに設定されていたときは、外気導入モードに設定されます。

ℹ リアデフォッガースイッチ ⑨ 以外のエアコンディショナーのスイッチやダイヤルを操作したときも、エアコンディショナーは作動します。

エアコンディショナーを停止する

▶ オフスイッチ ③ を押します。

オフスイッチの表示灯が点灯します。

❗ ドアウインドウやスライディングルーフ * が閉じているときにエアコンディショナーを停止すると、ウインドウが曇りやすくなります。

AUTO モードの解除

エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに以下の操作を行ないます。

▶ 送風量調整スイッチ ⑩ または ⑪ を押します。

AUTO スイッチの表示灯が消灯し、送風量調整の AUTO モードが解除されます。

または

▶ 送風口選択スイッチ ⑬ を押します。

AUTO スイッチの表示灯が消灯し、送風口選択の AUTO モードが解除されます。

AC モード

AC モードを設定しているときは、除湿 / 冷房された空気が送風されます。

⚠ **事故のおそれがあります**

ドアウインドウとスライディングルーフ * が閉じているときに AC モードを解除すると、ウインドウの内側が曇りやすくなり、事故を起こすおそれがあります。

環　境

AC モードを解除すると、エンジンへの負担が軽減し、燃費が向上します。

ℹ 除湿 / 冷房された空気は、エンジンがかかっているときに送風されます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

AC モードを解除する

▶ AC スイッチ ⑤ を押します。

AC スイッチの表示灯が消灯します。

除湿 / 冷房されていない空気が送風されます。

AC モードに設定する

▶ 再度、AC スイッチ ⑤ を押します。

AC スイッチの表示灯が点灯します。

除湿 / 冷房された空気が送風されます。

ℹ AUTO モードでエアコンディショナーを作動させたときは、自動的に AC モードになります。

ℹ AC モードを解除しても、しばらくは除湿 / 冷房された空気が送風されることがあります。

ℹ エアコンディショナーが停止しているときに AC スイッチの表示灯が点灯するときは、エアコンディショナーが故障しているため、除湿 / 冷房された空気は送風されません。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

送風温度の調整

左右別々に送風温度を調整できます。

送風温度を上げる

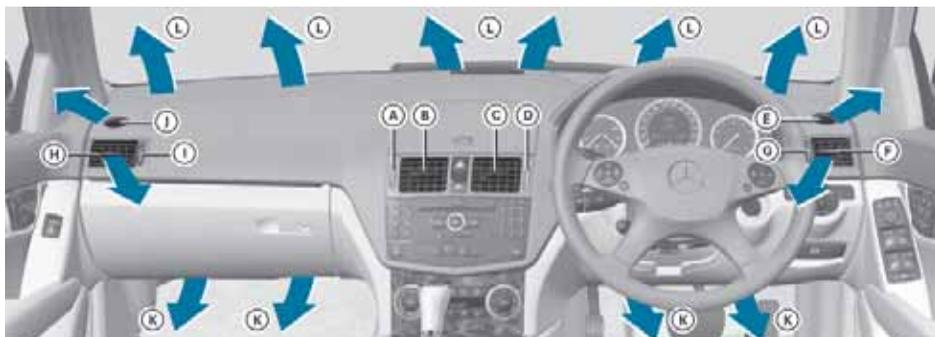
▶ 送風温度調整ダイヤル ① または ⑧ を時計回りにまわします。

送風温度を下げる

▶ 送風温度調整ダイヤル ① または ⑧ を反時計回りにまわします。

ℹ 一度に大幅に設定温度を変更しても、設定温度に達するまでの時間はあまり変わりません。

ℹ 通常は 22℃に設定することをお勧めします。

ℹ ドアウインドウやスライディングルーフ * が開いていると、設定温度を維持できません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

フロント送風口

右ハンドル車

Ⓐ	中央送風口（左側）開閉ダイヤル
Ⓑ	中央送風口（左側）
Ⓒ	中央送風口（右側）
Ⓓ	中央送風口（右側）開閉ダイヤル
Ⓔ	フロントドアウインドウ送風口（右側）
Ⓕ	サイド送風口（右側）
Ⓖ	サイド送風口（右側）開閉ダイヤル
Ⓗ	サイド送風口（左側）
Ⓘ	サイド送風口（左側）開閉ダイヤル
Ⓙ	フロントドアウインドウ送風口（左側）
Ⓚ	フロント足元送風口
Ⓛ	フロントウインドウ送風口

中央送風口とサイド送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤルⒶⒹⒼⒾを上側にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

中央送風口とサイド送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤルⒶⒹⒼⒾを下側にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルを停止するまで下側にまわすと、送風口が閉じます。

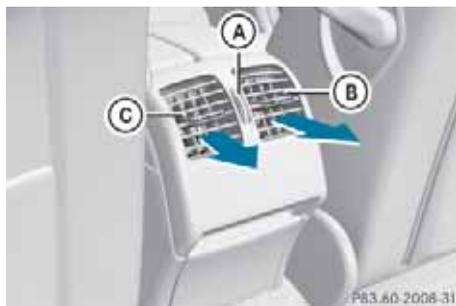
ℹ 送風口開閉ダイヤルを停止するまで下側にまわしても、送風口を完全に閉じることはできません。

送風口の風向きを調整する

中央送風口とサイド送風口は風向きを調整できます。

▶ 各送風口のノブを上下左右に動かします。

ℹ 換気効率を上げるため、各送風口の風向きを中央にすることをお勧めします。

リア中央送風口

Ⓐ リア中央送風口開閉ダイヤル
Ⓑ リア中央送風口（右側）
Ⓒ リア中央送風口（左側）

ℹ リア送風口の送風温度や送風量はフロントの設定に連動します。

送風口を開く

▶ リア中央送風口開閉ダイヤルⒶを上側にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

送風口を閉じる

▶ リア中央送風口開閉ダイヤルⒶを下側にまわします。

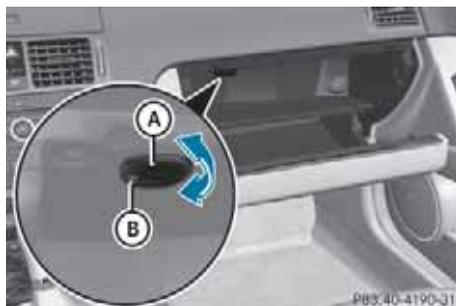
徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルを停止するまで下側にまわすと、送風口が閉じます。

ℹ 送風口開閉ダイヤルを停止するまで下側にまわしても、送風口を完全に閉じることはできません。

送風口の風向きを調整する

▶ 各送風口のノブを上下左右に動かします。

グローブボックス内の送風口

左ハンドル車
Ⓐ 開閉ダイヤル
Ⓑ 送風口

グローブボックス内に送風することができます。

グローブボックス内の送風口を開閉する

▶ 開閉ダイヤルⒶを時計回りまたは反時計回りにまわします。

! エアコンディショナーの設定温度を上げるときは、グローブボックス内の送風口を閉じてください。

! 外気温度が高いときは、グローブボックス内の送風口を開き、エアコンディショナーの AC モードを設定してください。収納物を損傷したり、ガスライターやボンベなどが入っている場合は爆発するおそれがあります。

ℹ 送風量はエアコンディショナーの設定に連動します。

グローブボックス内には、外気または冷気が送風されます。

リア足元送風口

フロントシートの下側にリア足元送風口があります。

! 荷物などでリア足元送風口をふさがないでください。

送風口の選択

送風口を手動で選択できます。

▶ 送風口選択スイッチ ⑬ を押して、ディスプレイ ⑫ の送風口インジケーターに送風したい送風口のマークを表示させます。

ℹ エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに送風口選択スイッチを押すと、AUTO スイッチ ② の表示灯が消灯し、送風口選択の AUTO モードが解除されます。

送風口マーク	主に送風される送風口
	フロントウインドウ送風口、フロントドアウインドウ送風口、サイド送風口、リア中央送風口
	中央送風口、サイド送風口、リア中央送風口
	フロント足元送風口、サイド送風口、リア中央送風口、リア足元送風口
	中央送風口、サイド送風口、フロント足元送風口、リア中央送風口、リア足元送風口
	すべての送風口

送風口マーク	主に送風される送風口
	フロントウインドウ送風口、フロントドアウインドウ送風口、中央送風口、サイド送風口、リア中央送風口
	フロントウインドウ送風口、フロントドアウインドウ送風口、サイド送風口、リア中央送風口、フロント足元送風口、リア足元送風口

ℹ 送風口インジケーターに複数の送風口マークを表示させると、組み合わせた送風口から送風できます。

ℹ 選択した送風口以外の送風口からも、微量の送風が行なわれることがあります。

ℹ 送風口の選択にかかわらず、サイド送風口からは常に送風が行なわれます。サイド送風口からの送風を停止するときは、サイド送風口を閉じてください。

送風量の調整

送風量を手動で調整できます。

ℹ 送風量は 7 段階に調整できます。

送風量を上げる

▶ 送風量調整スイッチ（強）⑩ を押します。

ディスプレイ ⑫ の送風量インジケーターの点灯数が増えます。

送風量を下げる

▶ 送風量調整スイッチ（弱）⑪ を押します。

ディスプレイ ⑫ の送風量インジケーターの点灯数が減ります。

ℹ エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに送風量調整スイッチを押すと、AUTO スイッチ ② の表示灯が消灯し、送風量調整の AUTO モードが解除されます。

運転席連動モード

助手席側の送風温度を運転席側の送風温度の設定に連動させることができます。

運転席側の設定を変更すると、助手席側の設定も変更されます。

運転席連動モードに設定する

▶ 運転席連動モードスイッチ ④ を押します。

運転席連動モードスイッチの表示灯が点灯します。

運転席連動モードを解除する

▶ 運転席連動モードスイッチ ④ を押します。

運転席連動モードスイッチの表示灯が消灯します。

ℹ 助手席側の送風温度調整ダイヤルを操作すると、運転席連動モードは解除されます。

デフロスターモード

フロントウインドウの外側が凍結しているときや、フロントウインドウまたはフロントドアウインドウの内側が曇っているときに使用します。

デフロスターモードに設定する

▶ デフロスタースイッチ ⑥ を押します。

デフロスタースイッチの表示灯が点灯し、以下の内容でエアコンディショナーが作動します。

- 除湿された空気が送風されます。
- 外気温度によっては、送風量が上がります。
- 外気温度によっては、送風温度が高くなります。
- フロントウインドウ送風口とフロントドアウインドウ送風口、サイド送風口を中心に送風されます。
- 内気循環モードが解除されます。

ℹ 曇りが取れたら、すみやかに解除してください。

デフロスターモードを解除する

▶ デフロスタースイッチ⑥を押します。

スイッチの表示灯が消灯し、送風温度、送風口の選択、送風量などが元の設定に戻ります。

または

▶ AUTO スイッチ ② を押します。

スイッチの表示灯が点灯し、デフロスタースイッチの表示灯が消灯します。

送風温度が元の設定に戻り、送風量と送風口の選択が自動的に調整されます。

または

▶ 送風温度調整ダイヤル ① または ⑧ を操作します。

または

▶ 送風量調整スイッチ ⑩ または ⑪ を押します。

ℹ デフロスターモードを解除すると、AC モードを解除していたときは AC モードに設定され、内気循環モードにしていたときは内気循環モードは解除されます。

フロントウインドウの内側が曇るとき

▶ AC スイッチ ⑤ を押して、AC モードに設定します。

▶ AUTO スイッチ ② を押します。

▶ 曇りが取れないときは、デフロスターモードに設定します。

ℹ 上記の設定は、曇りが取れるまでの間にとどめてください。

フロントウインドウの外側が曇るとき

▶ ワイパーを作動させます。

▶ 送風口選択スイッチ ⑬ を操作して、ディスプレイ ⑫ の送風口インジケーターに または のマークを表示させます。

ℹ 上記の設定は、曇りが取れるまでの間にとどめてください。

リアデフォッガー

リアウインドウの曇りを取るときに使用します。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> ウインドウに氷や雪が付着しているときは、運転前にそれらを取り除いて視界を確保してください。事故を起こすおそれがあります。

リアデフォッガーを使用する

▶ イグニッション位置が **2** になっていることを確認します。

▶ リアデフォッガースイッチ ⑨ を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

リアデフォッガーを停止する

▶ リアデフォッガースイッチ ⑨ を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

リアデフォッガーは、数分後に自動的に停止します。

! 消費電力が大きいため、曇りが取れたら早めに停止してください。

i リアデフォッガーが自動的に停止するまでの時間は、外気温度や走行速度により異なります。

i バッテリーの電圧が低くなると短時間で停止したり、リアデフォッガースイッチを押してもスイッチの表示灯がすぐに消灯して作動しない場合があります。電圧が回復すると自動的に作動します。

i 外気温度が低いときは、リアデフォッガースイッチを押してもすぐに作動しない場合があります。

内気循環モード

トンネル内など、空気が汚れた場所で外気を車内に入れたくないときに使用します。

内気循環モードに設定すると、車内の空気が循環されます。

内気循環モードの設定 / 解除に連動して、ドアウインドウやスライディングルーフ * を開閉できます。

⚠ **事故のおそれがあります**

外気温度が低いときは、内気循環モードの設定は短時間にとどめてください。ウインドウが曇りやすくなって視界を確保できなくなり、周囲の交通状況を把握できずに事故を起こすおそれがあります。

i 外気温度が非常に高いときは、自動的に内気循環モードに切り替わりますが、このときは内気循環スイッチの表示灯は点灯しません。約 30 分経過すると、一定の割合で外気導入をはじめます。

i 内気循環モードに設定しているときに AC モードを解除すると、自動的に内気循環モードは解除されます。

内気循環モードに設定する

▶ 内気循環スイッチ ⑦ を押します。

内気循環スイッチの表示灯が点灯します。

または

▶ ドアウインドウやスライディングルーフ * が閉じはじめるまで、内気循環スイッチ ⑦ を押して保持します。

内気循環モードに設定され、ドアウインドウやスライディングルーフ * が自動で閉じます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

内気循環モードに設定されていても、一定時間が経過すると以下のように外気導入をはじめます。

外気温度が約 5℃以下のとき	約 5 分後
AC モードを解除しているとき	約 5 分後
外気温度が約 5℃以上のとき	約 30 分後

⚠ **けがのおそれがあります**

内気循環スイッチでドアウインドウやスライディンググルーフ * を閉じているときに、挟み込みなどの抵抗があると、ただちに停止して少し開く機能がありますが、身体を挟まれないように注意してください。

内気循環モードを解除する

▶ 内気循環スイッチ ⑦ を押します。

内気循環スイッチの表示灯が消灯します。

または

▶ ドアウインドウやスライディンググルーフ * が開きはじめるまで、内気循環スイッチ ⑦ を押して保持します。

内気循環モードが解除され、ドアウインドウやスライディンググルーフ * が前回開いていた位置まで自動で開きます。

⚠ **けがのおそれがあります**

内気循環スイッチでドアウインドウやスライディンググルーフ * を開いているときは、ドアウインドウに身体を寄りかけたり、スライディンググルーフ * やサンシェードに触れないようにしてください。ドアウインドウとドアフレームとの間、スライディンググルーフ * やサンシェードに身体が引き込まれて、けがをするおそれがあります。

ℹ 内気循環スイッチで閉じたドアウインドウやスライディンググルーフ * を、別のスイッチで開いた場合、開いたドアウインドウやスライディンググルーフ * を内気循環モードの解除操作に連動して開くことはできません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

エアコンディショナー（後席独立調整式）

コントロールパネル

①	送風温度調整ダイヤル（左側）
②	AUTO スイッチ
③	オフスイッチ
④	運転席連動モードスイッチ
⑤	AC スイッチ
⑥	余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ
⑦	デフロスタースイッチ
⑧	送風温度調整ダイヤル（右側）
⑨	リアデフォッガースイッチ
⑩	送風口選択スイッチ（右側）
⑪	送風量調整スイッチ（強）
⑫	送風量調整スイッチ（弱）
⑬	ディスプレイ
⑭	送風口選択スイッチ（左側）
⑮	内気循環スイッチ

※ エアコンディショナー（後席独立調整式）は、日本仕様には装備されません。

通常の使い方

エアコンディショナーを作動させる

▶ AUTO スイッチ ② を押します。

エアコンディショナーが AUTO モードで作動します。

AUTO スイッチの表示灯が点灯し、送風口の組み合わせと送風量が自動的に調整されるようになります。

または

▶ オフスイッチ ③ を押します。

オフスイッチの表示灯が消灯し、エアコンディショナーが停止前の設定で作動します。

ただし、内気循環モードに設定されていたときは、外気導入モードに設定されます。

ⓘ 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ ⑥、リアデフォッガースイッチ ⑨ 以外のエアコンディショナーのスイッチやダイヤルを操作したときも、エアコンディショナーは作動します。

エアコンディショナーを停止する

▶ オフスイッチ ③ を押します。

オフスイッチの表示灯が点灯します。

! ドアウインドウやスライディングルーフ * が閉じているときにエアコンディショナーを停止すると、ウインドウが曇りやすくなります。

AUTO モードの解除

▶ エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに AUTO スイッチ ② を押します。

AUTO スイッチの表示灯が消灯し、送風量と送風口選択の AUTO モードが解除されます。

ディスプレイ ⑬ に送風量インジケーターと送風口インジケーターが表示されます。

ⓘ エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに、送風量調整スイッチ ⑪⑫ または送風口選択スイッチ ⑩⑭ を押すと、それぞれの AUTO モードが解除され、AUTO スイッチの表示灯が消灯します。

AC モード

AC モードを設定しているときは、除湿 / 冷房された空気が送風されます。

⚠ **事故のおそれがあります**

ドアウインドウとスライディングルーフ * が閉じているときに AC モードを解除すると、ウインドウの内側が曇りやすくなり、事故を起こすおそれがあります。

環　境

AC モードを解除すると、エンジンへの負担が軽減し、燃費が向上します。

ⓘ 除湿 / 冷房された空気は、エンジンがかかっているときに送風されます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

AC モードを解除する

▶ AC スイッチ ⑤ を押します。

AC スイッチの表示灯が消灯します。

除湿 / 冷房されていない空気が送風されます。

AC モードに設定する

▶ 再度、AC スイッチ ⑤ を押します。

AC スイッチの表示灯が点灯します。

除湿 / 冷房された空気が送風されます。

ⓘ AUTO モードでエアコンディショナーを作動させたときは、自動的に AC モードになります。

ⓘ AC モードを解除しても、しばらくは除湿 / 冷房された空気が送風されることがあります。

ⓘ エアコンディショナーが停止しているときに AC スイッチの表示灯が点灯するときは、エアコンディショナーが故障しているため、除湿 / 冷房された空気は送風されません。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

送風温度の調整

左右別々に送風温度を調整できます。

送風温度を上げる

▶ 送風温度調整ダイヤル ① または ⑧ を時計回りにまわします。

送風温度を下げる

▶ 送風温度調整ダイヤル ① または ⑧ を反時計回りにまわします。

ⓘ 一度に大幅に設定温度を変更しても、設定温度に達するまでの時間はあまり変わりません。

通常は 22℃に設定することをお勧めします。

ⓘ ドアウインドウやスライディングルーフ * が開いていると、設定温度を維持できません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

フロント送風口

右ハンドル車

Ⓐ	中央送風口（左側）開閉ダイヤル
Ⓑ	中央送風口（左側）
Ⓒ	中央送風口（右側）
Ⓓ	中央送風口（右側）開閉ダイヤル
Ⓔ	フロントドアウインドウ送風口（右側）
Ⓕ	サイド送風口（右側）
Ⓖ	サイド送風口（右側）開閉ダイヤル
Ⓗ	サイド送風口（左側）
Ⓘ	サイド送風口（左側）開閉ダイヤル
Ⓙ	フロントドアウインドウ送風口（左側）
Ⓚ	フロント足元送風口
Ⓛ	フロントウインドウ送風口

ⓘ センターコンソール後端のリア中央送風口およびリアコントロールパネルについては（▷206 ページ）をご覧ください。

中央送風口とサイド送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤルⒶⒹⒼⒾを上側にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

中央送風口とサイド送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤルⒶⒹⒼⒾを下側にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルを停止するまで下側にまわすと、送風口が閉じます。

ⓘ 送風口開閉ダイヤルを停止するまで下側にまわしても、送風口を完全に閉じることはできません。

中央送風口とサイド送風口の風向きを調整する

▶ 各送風口のノブを上下左右に動かします。

ⓘ 換気効率を上げるため、各送風口の風向きを中央にすることをお勧めします。

送風口の選択

送風口を手動で左右別々に選択できます。

▶ 送風口選択スイッチ ⑩⑭ を押して、送風したい送風口のマークをディスプレイ ⑬ の送風口インジケーターに表示させせます。

ⓘ エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに送風口選択スイッチを押すと、AUTO スイッチ ② の表示灯が消灯し、送風口選択の AUTO モードが解除されます。

送風口マーク	主に送風される送風口
	フロントウインドウ送風口、フロントドアウインドウ送風口、サイド送風口、リア中央送風口
	中央送風口、サイド送風口、リア中央送風口
	フロント足元送風口、サイド送風口、リア中央送風口、リア足元送風口
	中央送風口、サイド送風口、フロント足元送風口、リア中央送風口、リア足元送風口
	すべての送風口
	フロントウインドウ送風口、フロントドアウインドウ送風口、中央送風口、サイド送風口、リア中央送風口
	フロントウインドウ送風口、フロントドアウインドウ送風口、サイド送風口、リア中央送風口、フロント足元送風口、リア足元送風口

ⓘ 送風口インジケーターに複数の送風口マークを表示させせると、組み合わせた送風口から送風できます。

ⓘ 選択した送風口以外の送風口からも、微量の送風が行なわれることがあります。

ⓘ 送風口の選択にかかわらず、サイド送風口からは常に送風が行なわれます。サイド送風口から送風を停止するときは、サイド送風口を閉じてください。

グローブボックス内の送風口

左ハンドル車
Ⓐ 開閉ダイヤル
Ⓑ 送風口

グローブボックス内に送風することができます。

グローブボックス内の送風口を開閉する

▶ 開閉ダイヤルⒶを時計回りまたは反時計回りにまわします。

! エアコンディショナーの設定温度を上げるときは、グローブボックス内の送風口を閉じてください。

! 外気温度が高いときは、グローブボックス内の送風口を開き、エアコンディショナーの AC モードを設定してください。収納物を損傷したり、ガスライターやボンベなどが入っている場合は爆発するおそれがあります。

i 送風量はエアコンディショナーの設定に連動します。

グローブボックス内には、外気または冷気が送風されます。

送風量の調整

送風量を手動で調整できます。

i 送風量は 7 段階に調整できます。

送風量を上げる

▶ 送風量調整スイッチ（強）⑪ を押します。

ディスプレイ ⑬ の送風量インジケーターの点灯数が増えます。

送風量を下げる

▶ 送風量調整スイッチ（弱）⑫ を押します。

ディスプレイ ⑬ の送風量インジケーターの点灯数が減ります。

i エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに送風量調整スイッチを押すと、AUTO スイッチ ② の表示灯が消灯し、送風量調整の AUTO モードが解除されます。

運転席連動モード

助手席側の送風温度と送風口の選択、および後席の送風温度を、運転席側の設定に連動させることができます。

運転席側の設定を変更すると、助手席側および後席の設定も変更されます。

運転席連動モードに設定する

▶ 運転席連動モードスイッチ ④ を押します。

運転席連動モードスイッチの表示灯が点灯します。

運転席連動モードを解除する

▶ 運転席連動モードスイッチ ④ を押します。

運転席連動モードスイッチの表示灯が消灯します。

ⓘ 助手席側の送風温度調整ダイヤルや送風口選択スイッチ、または後席の送風温度調整スイッチを操作すると、運転席連動モードは解除されます。

デフロスターモード

フロントウインドウの外側が凍結しているときや、フロントウインドウまたはフロントドアウインドウの内側が曇っているときに使用します。

デフロスターモードに設定する

▶ デフロスタースイッチ ⑦ を押します。

デフロスタースイッチの表示灯が点灯し、以下の内容でエアコンディショナーが作動します。

- 除湿された空気が送風されます。
- 外気温度によっては、送風量が上がります。
- 外気温度によっては、送風温度が高くなります。
- フロントウインドウ送風口とドアウインドウ送風口、サイド送風口、中心に送風されます。
- 内気循環モードが解除されます。

ⓘ 曇りが取れたら、すみやかに解除してください。

デフロスターモードを解除する

▶ デフロスタースイッチ ⑦ を押します。

スイッチの表示灯が消灯し、送風温度、送風口の選択、送風量などが元の設定に戻ります。

または

▶ AUTO スイッチ ② を押します。

スイッチの表示灯が点灯し、デフロスタースイッチの表示灯が消灯します。

送風温度が元の設定に戻り、送風量と送風口の選択が自動的に調整されます。

ⓘ デフロスターモードを解除すると、AC モードを解除していたときは AC モードに設定され、内気循環モードにしていたときは内気循環モードは解除されます。

フロントウインドウの内側が曇るとき

▶ AC スイッチ ⑤ を押して、AC モードに設定します。

▶ AUTO スイッチ ② を押します。

▶ 曇りが取れないときは、デフロスターモードに設定します。

ⓘ 上記の設定は、曇りが取れるまでの間にとどめてください。

フロントウインドウの外側が曇るとき

▶ ワイパーを作動させます。

▶ 送風口選択スイッチ ⑩⑭ を押して、ディスプレイ ⑬ の送風口インジケーターに または のマークを表示させます。

ℹ 上記の設定は、曇りが取れるまでの間にとどめてください。

リアデフォッガー

リアウインドウの曇りを取るときに使用します。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> ウインドウに氷や雪が付着しているときは、運転前にそれらを取り除いて視界を確保してください。事故を起こすおそれがあります。

リアデフォッガーを使用する

▶ イグニッション位置が **2** になっていることを確認します。

▶ リアデフォッガースイッチ ⑨ を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

リアデフォッガーを停止する

▶ リアデフォッガースイッチ ⑨ を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

リアデフォッガーは、数分後に自動的に停止します。

❗ 消費電力が大きいため、曇りが取れたら早めに停止してください。

ℹ リアデフォッガーが自動的に停止するまでの時間は、外気温度や走行速度により異なります。

ℹ バッテリーの電圧が低くなると短時間で停止したり、リアデフォッガースイッチを押してもスイッチの表示灯がすぐに消灯して作動しない場合があります。電圧が回復すると自動的に作動します。

ℹ 外気温度が低いときは、リアデフォッガースイッチを押してもすぐに作動しない場合があります。

内気循環モード

トンネル内など、空気が汚れた場所で外気を車内に入れたくないときに使用します。

内気循環モードに設定すると、車内の空気が循環されます。

内気循環モードの設定 / 解除に連動して、ドアウインドウやスライディングルーフ * を開閉できます。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> 外気温度が低いときは、内気循環モードの設定は短時間にとどめてください。ウインドウが曇りやすくなって視界が確保できなくなり、周囲の交通状況を把握できずに事故を起こすおそれがあります。

ℹ 外気温度が非常に高いときは、自動的に内気循環モードに切り替わりますが、このときは内気循環スイッチの表示灯は点灯しません。約 30 分経過すると、一定の割合で外気導入をはじめます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ 内気循環モードに設定しているときに AC モードを解除すると、自動的に内気循環モードは解除されます。

内気循環モードに設定する

▶ 内気循環スイッチ ⑮ を押します。

内気循環スイッチの表示灯が点灯します。

または

▶ ドアウインドウやスライディングルーフ * が閉じはじめるまで、内気循環スイッチ ⑮ を押して保持します。

内気循環モードに設定され、ドアウインドウやスライディングルーフ * が自動で閉じます。

内気循環モードに設定されていても、一定時間が経過すると以下のように外気導入をはじめます。

外気温度が約 5℃以下のとき	約 5 分後
AC モードを解除しているとき	約 5 分後
外気温度が約 5℃以上のとき	約 30 分後

⚠ **けがのおそれがあります**

内気循環スイッチでドアウインドウやスライディングルーフ * を閉じているときに、挟み込みなどの抵抗があると、ただちに停止して少し開く機能がありますが、身体を挟まれないように注意してください。

内気循環モードを解除する

▶ 内気循環スイッチ ⑮ を押します。

内気循環スイッチの表示灯が消灯します。

または

▶ ドアウインドウやスライディングルーフ * が開きはじめるまで、内気循環スイッチ ⑮ を押して保持します。

内気循環モードが解除され、ドアウインドウやスライディングルーフ * が前回開いていた位置まで自動で開きます。

⚠ **けがのおそれがあります**

内気循環スイッチでドアウインドウやスライディングルーフ * を開いているときは、ドアウインドウに身体を寄りかけたり、スライディングルーフ * やサンシェードに触れないようにしてください。ドアウインドウとドアフレームとの間、スライディングルーフ * やサンシェードに身体が引き込まれて、けがをするおそれがあります。

ℹ 内気循環スイッチで閉じたドアウインドウとスライディングルーフ * を、別のスイッチで開いた場合、開いたドアウインドウやスライディングルーフ * を内気循環モードの解除操作に連動して開くことはできません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

余熱ヒーター・ベンチレーション

エンジン停止後に車内を暖房したり、車内に外気を導入して換気を行なうときに使用します。

余熱ヒーター・ベンチレーションを使用する

▶ イグニッション位置を **0** か **1** にするか、エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ ⑥ を押します。

余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチの表示灯が点灯します。

送風温度や送風口は、自動的に調整されます。

余熱ヒーター・ベンチレーションを停止する

▶ 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ ⑥ を押します。

または

▶ オフスイッチ ③ を押します。

余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチの表示灯が消灯します。

以下のときは、余熱ヒーター・ベンチレーションは自動的に停止します。

- イグニッション位置を **2** にしたとき
- 約 30 分経過したとき
- バッテリーの電圧が低下したとき

ⓘ エンジン停止前の送風量の設定にかかわらず、送風量は弱になります。

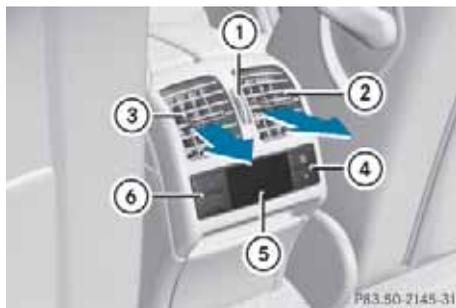
ⓘ 外気温度が高いときやエンジン冷却水の温度が低いときは、暖気は送風されないことがあります。このときの送風量は中になります。

ⓘ 施錠してから約 1 時間経過すると、エアコンディショナーシステムの乾燥のため、余熱ヒーター･ベンチレーションが自動的に約 30 分間作動することがあります。

後席の送風温度と送風量の調整

リアエアコンディショナーのコントロールパネルはセンターコンソールの後端にあります。

ⓘ フロントのエアコンディショナーが停止しているときも、リアエアコンディショナーの送風温度調整スイッチまたは送風量調整スイッチを押すと、フロント / リアエアコンディショナーが作動します。

ⓘ フロントの AC モードが解除されているときは、リアエアコンディショナーから除湿 / 冷房された空気は送風されません。

コントロールパネル
① リア中央送風口開閉ダイヤル
② リア中央送風口（右側）
③ リア中央送風口（左側）
④ 送風量調整スイッチ
⑤ ディスプレイ
⑥ 送風温度調整スイッチ

送風温度を上げる

▶ 送風温度調整スイッチ ⑥ の上側 [▲] を押します。

送風温度を下げる

▶ 送風温度調整スイッチ ⑥ の下側 [▼] を押します。

ⓘ 通常は 22℃に設定することをお勧めします。

送風量を調整する

リアエアコンディショナーの送風量は、送風量調整スイッチ ④ により調整できます。

▶ 送風量調整スイッチ ④ の上側 [❀] を押すと送風量が上がり、送風量調整スイッチ ④ の下側 [❀] を押すと送風量が下がります。

リア中央送風口を開く

▶ リア中央送風口開閉ダイヤル ① を上側にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

リア中央送風口を閉じる

▶ リア中央送風口開閉ダイヤル ① を下側にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルを停止するまで下側にまわすと、送風口が閉じます。

ⓘ 送風口開閉ダイヤルを停止するまで下側にまわしても、送風口を完全に閉じることはできません。

リア中央送風口の風向きを調整する

▶ 各送風口のノブを上下左右に動かします。

リア足元送風口

フロントシートの下側にリア足元送風口があります。

! 荷物などでリア足元送風口をふさがないでください。

スライディングルーフ *

⚠ **けがや事故のおそれがあります**

- スライディングルーフを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにスライディングルーフスイッチを操作して、スライディングルーフを開いてください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。スライディングルーフを操作してけがをしたり、事故の原因になります。
- スライディングルーフのガラスは事故のときに割れるおそれがあります。シートベルトを着用していないと、車が横転したときにスライディングルーフの開口部から車外に放り出されて、致命的なけがをするおそれがあります。乗員全員がシートベルトを着用してください。

! 走行中はスライディングルーフから身体を出さないでください。けがをするおそれがあります。

! スライディングルーフの開口部から、物を出し入れしないでください。スライディングルーフのシール部を損傷するおそれがあります。

! 降雨後や降雪後にスライディングルーフを開くときは、ルーフ上の水や雪などを取り除いてください。車内に水や雪などが入るおそれがあります。

! スライディングルーフ上に雪や氷が付着した状態で操作しないでください。スライディングルーフを損傷するおそれがあります。

! スライディングルーフの開口部に腰をかけたり、荷物を載せたりして大きな力を加えないでください。スライディングルーフを損傷するおそれがあります。

! 車から離れるときや洗車のときは、ドアウインドウとスライディングルーフが完全に閉じていることを確認してください。

i スライディングルーフは、車外からリモコン操作で開くことができます（▷117 ページ）。

i スライディングルーフは、車外からリモコン操作またはキーレスゴー操作 * で閉じることができます（▷118 ページ）。

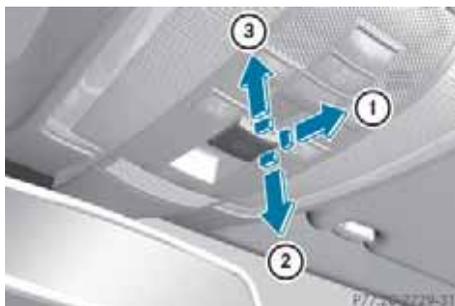
i スライディングルーフを開いて走行しているとき、走行風の影響などで空気の振動を感じる場合は、スライディングルーフの開度を変えるかドアウインドウを少し開くと、解消することがあります。

i スライディングルーフが自動で開閉しないときは、スライディングルーフをリセットしてください（▷211 ページ）。

i イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 5 分間は、スライディングルーフを開閉できます。その間にフロントドアを開くと、スライディングルーフは開閉できなくなります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ガラス・スライディングルーフ

① 開く
② 閉じる / チルトダウンする
③ チルトアップする

イグニッション位置が **1** か **2** のときに操作できます。

スライディングルーフを開く

開く

▶ スイッチを ① の方向に軽く操作します。

操作している間だけ開きます。

サンシェード（▷211 ページ）が閉じているときは、連動して開きます。

自動で開く

▶ スイッチを ① の方向にいっぱいまで操作すると、自動で全開します。

スイッチをいずれかの方向に操作すると、自動で開いているスライディングルーフは停止します。

スライディングルーフを閉じる

閉じる

▶ スイッチを ② の方向に軽く操作します。

操作している間だけ閉じます。

自動で閉じる

▶ スイッチを ② の方向にいっぱいまで操作すると、自動で全閉します。

スイッチをいずれかの方向に操作すると、自動で閉じているスライディングルーフは停止します。

▶ 必要に応じて、サンシェード（▷211 ページ）を閉じます。

! スライディングルーフには挟み込み防止機能がありますが、スライディングルーフを閉じるときは、身体などを挟まないように注意してください。特に子供には注意してください。

スライディングルーフをチルトアップする

スライディングルーフは、後部をチルトアップすることができます。

チルトアップする

▶ スイッチを ③ の方向に軽く操作します。

操作している間だけチルトアップします。

自動でチルトアップする

▶ スイッチを ③ の方向にいっぱいまで操作すると、自動でチルトアップします。

スイッチをいずれかの方向に操作すると、自動でチルトアップしているスライディングルーフは停止します。

ℹ スライディングルーフが開いている状態のときにスイッチを ③ の方向に操作して保持するか、いっぱいまで操作すると、スライディングルーフは閉じ、チルトアップした状態になります。

スライディングルーフをチルトダウンする

チルトダウンする

▶ スイッチを ② の方向に軽く操作します。

操作している間だけチルトダウンします。

自動でチルトダウンする

▶ スイッチを ② の方向にいっぱいまで操作すると、自動でチルトダウンします。

スイッチをいずれかの方向に操作すると、自動でチルトダウンしているスライディングルーフは停止します。

挟み込み防止機能

スライディングルーフには挟み込み防止機能があります。

> ⚠ **けがのおそれがあります**
>
> 強い力でスライディングルーフが閉じているときや、挟み込み防止機能が作動しない状態でスライディングルーフが閉じているときは、身体が挟まれないように注意してください。致命的なけがをするおそれがあります。

スイッチを操作し続けてスライディングルーフを閉じるかチルトダウンしているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ただちに停止し、その位置から少し開きます。

ただし、挟み込み防止機能が作動したあとに再度操作して、挟み込みなどの抵抗を検知したときは、より強い力で閉じます。

さらに、挟み込み防止機能が作動したあとに再度操作して挟み込みなどの抵抗を検知したときは、挟み込み防止機能が作動しない状態でスライディングルーフが閉じます。

自動でスライディングルーフを閉じるかチルトダウンしているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ただちに停止して、その位置から少し開きます。

レインクローズ機能（レインセンサー装備車）

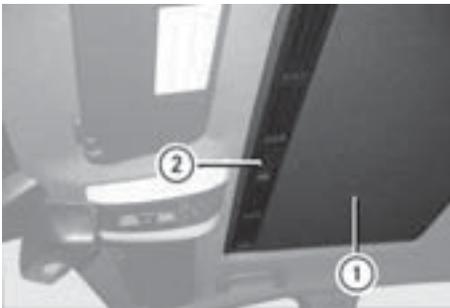
スライディングルーフを開いた状態で、イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いたときは、以下のときにスライディングルーフが自動で閉じ、チルトアップした状態で停止します。

- 降雨などによりレインセンサーが雨滴を感知したとき
- 外気温度が極端に高い、または低いとき
- イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから、約 6 時間が経過したとき
- バッテリー電圧が低下したとき

ℹ レインクローズ機能でスライディングルーフが閉じているときに挟み込みなどの抵抗を感知すると、挟み込み防止機能が作動し、スライディングルーフは停止した後に少し開きます。また、レインクローズ機能は解除されます。

ℹ 以下のときは、レインクローズ機能は作動しません。

- スライディングルーフをチルトアップしているとき
- 作動が妨げられているとき
- レインセンサーに雨滴がかからないとき

サンシェード

① サンシェード
② グリップ

スライディングルーフを開くと、連動して開きます。

サンシェード ① は、スライディングルーフが閉じているか、チルトアップしているときに開閉できます。

サンシェードを開閉する

▶ グリップ ② を持って、前後に開閉します。

! スライディングルーフを開くときは、サンシェードとルーフ内張りの間に身体や物が挟まれないように注意してください。

スライディングルーフのリセット

スライディングルーフがスムーズに作動しないときや、自動で開閉しないときは、スライディングルーフのリセットを行なってください。

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

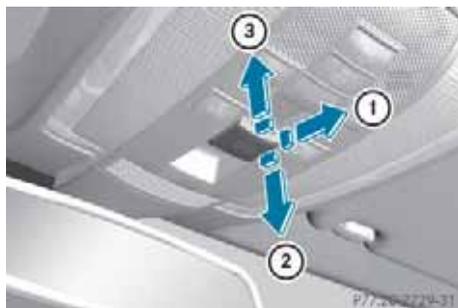
▶ スイッチを ③ の方向（▷209 ページ）に押して、スライディングルーフを完全にチルトアップし、そのまま約 2 秒以上保持します。

▶ スライディングルーフが自動で開閉することを確認します。

自動で開閉しないときは、再度リセット操作を行なってください。

ℹ スライディングルーフのリセットができないときなどは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で作業を行なってください。

パノラミックスライディングルーフ

① 開く
② 閉じる / チルトダウンする
③ チルトアップする

イグニッション位置が **1** か **2** のときに操作できます。

パノラミックスライディングルーフを開く

開く

▶ スイッチを ① の方向に軽く操作します。

操作している間だけ開きます。

自動で開く

▶ スイッチを ① の方向にいっぱいまで操作すると、自動で全開します。

スイッチをいずれかの方向に操作すると、自動で開いているパノラミックスライディングルーフは停止します。

パノラミックスライディングルーフを閉じる

閉じる

▶ スイッチを ② の方向に軽く操作します。

操作している間だけ閉じます。

自動で閉じる

▶ スイッチを ② の方向にいっぱいまで操作すると、自動で全閉します。

スイッチをいずれかの方向に操作すると、自動で閉じているパノラミックスライディングルーフは停止します。

! パノラミックスライディングルーフには挟み込み防止機能がありますが、パノラミックスライディングルーフを閉じるときは、身体などを挟まないように注意してください。特に子供には注意してください。

パノラミックスライディングルーフをチルトアップする

パノラミックスライディングルーフは、後部をチルトアップすることができます。

チルトアップする

▶ スイッチ ③ の方向に軽く操作します。

操作している間だけチルトアップします。

※ パノラミックスライディングルーフは、日本仕様には装備されません。

自動でチルトアップする

▶ スイッチ ③ の方向にいっぱいまで操作すると、自動でチルトアップします。

スイッチをいずれかの方向に操作すると、自動でチルトアップしているパノラミックスライディングルーフは停止します。

ℹ パノラミックスライディングルーフが開いているときにスイッチを ③ の方向に操作して保持するか、いっぱいまで操作すると、パノラミックスライディングルーフは閉じ、チルトアップした状態になります。

パノラミックスライディングルーフをチルトダウンする

チルトダウンする

▶ スイッチ ② の方向に軽く操作します。

操作している間だけチルトダウンします。

自動でチルトダウンする

▶ スイッチ ② の方向にいっぱいまで操作すると、自動でチルトダウンします。

スイッチをいずれかの方向に操作すると、自動でチルトダウンしているパノラミックスライディングルーフは停止します。

挟み込み防止機能

⚠ **けがのおそれがあります**

強い力でパノラミックスライディングルーフを閉じるときや、挟み込み防止機能が作動しない状態でパノラミックスライディングルーフを閉じるときは、身体が挟まれないように注意してください。致命的なけがをするおそれがあります。

閉じているパノラミックスライディングルーフが途中で停止したときは、以下の方法でパノラミックスライディングルーフを閉じます。

▶ パノラミックスライディングルーフが停止したら、ただちにスイッチを再度 ② の方向に軽く操作し続けます。

強い力でパノラミックスライディングルーフが閉じます。

それでも、パノラミックスライディングルーフが途中で停止する場合は、以下の操作を行なってください。

▶ パノラミックスライディングルーフが停止したら、ただちにスイッチを再度 ② の方向に軽く操作し続けます。

挟み込み防止機能が作動しない状態でパノラミックスライディングルーフが閉じます。

レインクローズ機能（レインセンサー装備車）

パノラミックスライディングルーフを開いた状態で、イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いたときは、以下のときにパノラミックスライディングルーフが自動で閉じ、チルトアップした状態で停止します。

- 降雨などによりレインセンサーが雨滴を感知したとき
- 外気温度が極端に高い、または低いとき
- イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから、約 6 時間が経過したとき
- バッテリー電圧が低下したとき

ℹ レインクローズ機能でパノラミックスライディングルーフが閉じているときに挟み込みなどの抵抗を感知すると、挟み込み防止機能が作動し、パノラミックスライディングルーフは停止した後に少し開きます。また、レインクローズ機能は解除されます。

ℹ 以下のときは、レインクローズ機能は作動しません。

- パノラミックスライディングルーフをチルトアップしているとき
- 作動が妨げられているとき
- レインセンサーに雨滴がかからないとき

パノラミックスライディングルーフと電動サンシェードのリセット

パノラミックスライディングルーフや電動サンシェードがスムーズに作動しないときは、パノラミックスライディングルーフと電動サンシェードのリセットを行なってください。

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ スイッチを ② の方向に軽く操作して、電動ブラインドを完全に閉じ、そのまま約 2 秒以上保持します

▶ スイッチを ① の方向に軽く操作して、電動ブラインドを完全に開き、そのまま約 2 秒以上保持します。

▶ スイッチを ① の方向に軽く操作して、パノラミックスライディングルーフを約10cm 開きます。

▶ スイッチを ② の方向に繰り返し軽く操作して、パノラミックスライディングルーフを完全に閉じ、そのまま約 2 秒以上保持します。

▶ パノラミックスライディングルーフが自動で全開することを確認します。

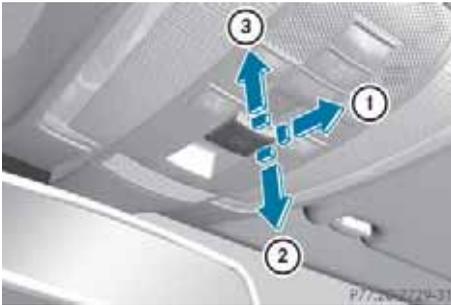
自動で開閉しないときは、再度リセット操作を行なってください。

ℹ パノラミックスライディングルーフと電動サンシェードのリセットができないときなどは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で作業を行なってください。

電動サンシェード

⚠ けがのおそれがあります

電動サンシェードを開閉するときは、身体や物が挟まれないように注意してください。

ℹ イグニッション位置を**0**にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約5分間は、電動サンシェードを開閉できます。その間にフロントドアを開くと、電動サンシェードは開閉できなくなります。

① 開く
② 閉じる
③ 開く

電動サンシェードにより、日光などを遮ることができます。

電動サンシェードは、パノラミックスライディングルーフが閉じているときに操作できます。

イグニッション位置が**1**か**2**のときに操作できます。

電動サンシェードを開く

▶ スイッチを①または③の方向に軽く操作します。

操作している間だけ開きます。

自動で開く

▶ スイッチを①または③の方向にいっぱいまで操作すると、自動で全開します。

スイッチをいずれかの方向に操作すると、自動で開いている電動サンシェードは停止します。

閉じる

▶ スイッチを②の方向に軽く操作します。

操作している間だけ閉じます。

自動で閉じる

▶ スイッチを②の方向にいっぱいまで操作すると、自動で全閉します。

スイッチをいずれかの方向に操作すると、自動で閉じている電動サンシェードは停止します。

荷物の積み方 / 小物入れ

荷物を積むとき / 固定するとき

⚠ **けがのおそれがあります**

荷物を積むときは、以降に記載されている注意点を守り、確実に固定してください。急ブレーキや急な進路変更時、事故のときなどに前方に投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

「荷物の固定方法」もご覧ください。

また、荷物を積むときの注意点を守ったとしても、荷物を積むことにより、事故などのときに乗員がけがをする可能性は高まります。

⚠ **中毒のおそれがあります**

エンジンをかけた状態でトランクまたはテールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

荷物の積み方は車の走行安定性に大きく影響します。以下の点に注意してください。

- 荷物はできるだけトランクまたはラゲッジルームに積んでください。
- 重量が偏らないよう均等に積んでください。
- 荷物の重量が、制限重量（▷362 ページ）を超えないようにしてください。
- 重い物は車の中心近く（トランクまたはラゲッジルームの前方）の低い位置に積み、確実に固定してください。確実に固定できていないと、急ブレーキ時などに荷物が動き、トランクまたはラゲッジルーム内部を損傷するおそれがあります。
- 荷物を車内に積むときは、シートのバックレストより高く積み上げないでください。
- トランクに荷物を積むときは、トランクの前端に接するようにしてください。
- ラゲッジルームに荷物を積むときは、ラゲッジルーム左右のウインドウより下の位置、またはラゲッジルームカバーより下の位置に積んでください。
- 車内やラゲッジルームに荷物を積むときは、リアシートまたはフロントシートのバックレストに接するようにしてください。また、バックレストが確実にロックされていることを確認してください。
- なるべく乗員のいない席の後方に荷物を積んでください。
- 強度の十分な荷物固定用ストラップなどを使用して、荷物を確実に固定してください。
- 鋭い角のある荷物は、角の部分にカバーをしてください。
- 燃料を入れた容器やスプレー缶などを積まないでください。引火や爆発のおそれがあります。

- ウインドウに荷物が当たらないようにしてください。ウインドウガラスを損傷したり、リアデフォッガーの熱線やアンテナなどを損傷するおそれがあります。

ℹ 荷物固定用のアクセサリーはDaimler AG の推奨品の使用をお勧めします。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

小物入れ

⚠ **けがのおそれがあります**

走行中は、小物入れのカバーを開いたままにしないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに収納物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

! 収納物が小物入れからはみ出さないようにしてください。

! 小物入れのカバーが閉じなくなるような大きな物を小物入れに入れないでください。小物入れや収納物を損傷するおそれがあります。

! 小物入れには食料品を収納しないでください。

グローブボックス

左ハンドル車

グローブボックスを開く

▶ ハンドル ① を引きます。

グローブボックスを閉じる

▶ カバー ② を押してロックさせせます。

左ハンドル車

キーシリンダーにエマージェンシーキーを差し込んでグローブボックスを施錠 / 解錠できます。

グローブボックスを施錠する

▶ エマージェンシーキーを差し込んで施錠位置 2 にまわします。

グローブボックスを解錠する

▶ エマージェンシーキーを差し込んで解錠位置 1 にまわします。

! 貴重品はグローブボックス内に保管しないでください。

i グローブボックス内には、メディアインターフェース * ・外部入力用ケーブル接続端子があります。詳しくは別冊「COMAND システム取扱説明書」をご覧ください。

i グローブボックス内に送風することができます。(▷191、202 ページ)

i グローブボックス内には 12V 電源ソケットがあります。

i 駐車場などでキーを預ける場合に、グローブボックスを開けられたくないときは、グローブボックスを施錠してください。その際は、エマージェンシーキーをキー本体から取り外し、携帯してください。

センターコンソールの小物入れ *

小物入れのカバーを開く

▶ カバー ① を後方に引きます。

小物入れのカバーを閉じる

▶ カバー ① を前方に押します。

フロントアームレストの小物入れ

左ハンドル車

▶ 左右にあるボタン ① または ② を押します。

アームレストカバーが左右に開きます。

i フロントアームレスト内の前方にある小物入れのトレーは、取り外すことができます。

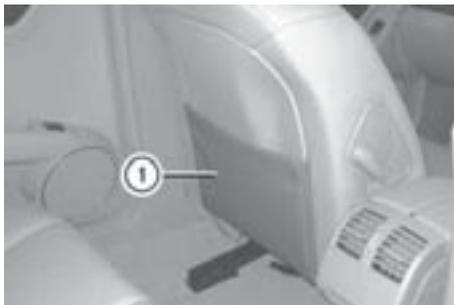
リアアームレストの小物入れ *

▶ リアアームレスト ② を引き出します。

▶ カバー ① の前端部のハンドルを持ってアームレストのカバー ① を開きます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! リアアームレストを収納するときは、アームレストカバーを閉じてから収納してください。再度リアアームレストを引き出すときに、アームレストのカバーやシートを損傷するおそれがあります。

シートポケット *

フロントシートの背面にシートポケット ① があります。

⚠ けがのおそれがあります

シートポケットには、重い物やかたい物、ビンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。また、シートポケットから収納物がはみ出さないようにしてください。

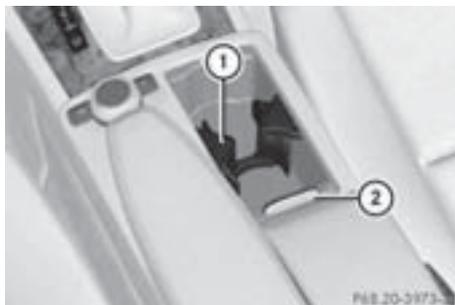
カップホルダー *

⚠ 火傷のおそれがあります

- 走行中はカップホルダーを使用しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどにカップホルダーに置いた容器が投げ出されて、乗員が火傷をするおそれがあります。
- カップホルダーのサイズに合ったフタ付きの容器を使用してください。
- 火傷防止のため、熱い飲み物が入った容器を置かないでください。

! カップホルダーに飲み物を置くときは、スイッチや電装品などに飲み物をこぼしたり、結露した水滴が垂れないように注意してください。

スイッチや電装品などを損傷したり、ショートして発火するおそれがあります。

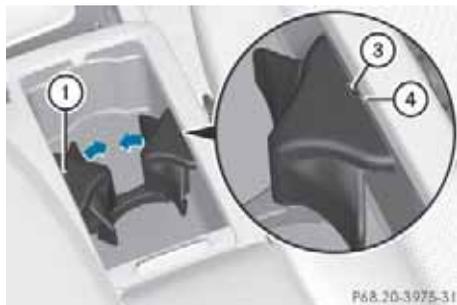
センターコンソールのカップホルダー *

左ハンドル車
① カップホルダー
② カバー

* オプションや仕様により、異なる装備です。

カップホルダーのカバーを開く

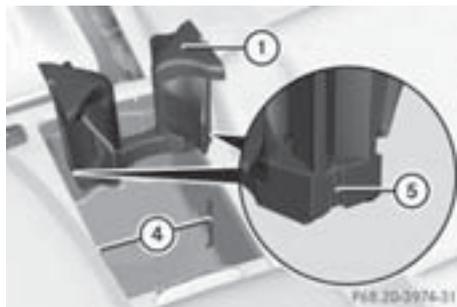
▶ カバー ② を後方に引きます。

カップホルダーのカバーを閉じる

▶ カバー ② を前方に押します。

カップホルダーを取り外す

▶ 左右にある切り欠き ③ にドライバーなどを差し込み、ロックを解除します。

▶ カップホルダー ① を矢印の方向に引き寄せながら取り外します。

カップホルダーを取り付ける

▶ カップホルダー下部の切り欠き ⑤ をガイド ④ に合わせます。

▶ カップホルダー ① を押し込みます。

リアアームレストのカップホルダー *

カップホルダーを使用する

▶ リアアームレストを引き出して、カバーを開きます。

▶ ロック解除ボタン ① を押します。

カップホルダー ② が前方に展開します。

! アームレストの上に座ったり、寄りかからないでください。アームレストを損傷するおそれがあります。

i カップホルダーを使用しているときも、アームレストのカバー ② を閉じることができます。

カップホルダーを収納する

▶ リアアームレストのカバーを開きます。

▶ カップホルダー ② を元の位置に戻してロックします。

! アームレストを元の位置に戻す前に、カップホルダーを収納してください。カップホルダーやシートなどを損傷するおそれがあります。

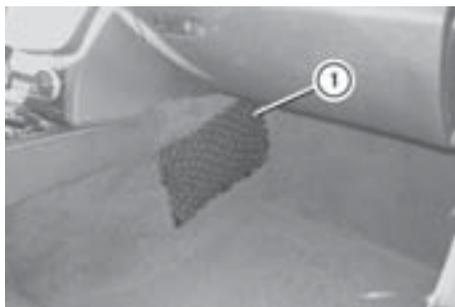
* オプションや仕様により、異なる装備です。

収納ネット

⚠ **けがのおそれがあります**

収納ネットには、重い物やかたい物、ビンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに収納物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

! 収納ネットから収納物がはみ出さないようにしてください。

助手席足元の収納ネット

左ハンドル車
① 助手席足元の収納ネット

トランク内左側の収納ネット（セダン）

① トランク内左側の収納ネット

ラゲッジルーム内の収納ネット（ステーションワゴン）

① ラゲッジルーム内の収納ネット

※ 収納ネット部の形状は予告なく変更されることがあります。

リアシートの折りたたみ（セダン）*

リアシートのバックレストの左右いずれか一方、または両方を倒すことができます。

⚠ **けがのおそれがあります**

トランクに重い荷物やかたい荷物を積載するときは、確実に固定してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

⚠ **中毒のおそれがあります**

エンジンをかけた状態でトランクを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! リアシートのバックレストを前方に倒した状態でフロントシートを後方に動かしたり、フロントシートのバックレストを後方に倒すときは、リアシートに当たらないように注意してください。シートを損傷するおそれがあります。

i フロントシートを大きく後方に動かしたり、フロントシートのバックレストを大きく後方に倒すときは、リアシートのヘッドレストを取り外してください。

i 必要のないときは、バックレストを起こしてロックしてください。

バックレストを倒す

▶ フロントシートが後方の位置にあるときは、フロントシートを前方に移動します。

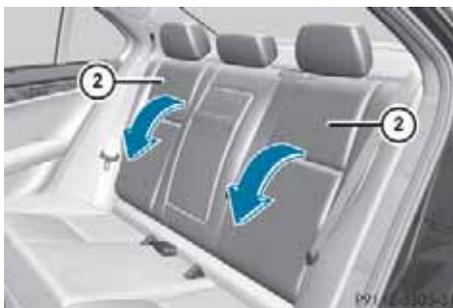
また、フロントシートのバックレストが後方に倒れているときは、前方に起こします。

▶ トランクを開きます（▷71 ページ）。

▶ トランク内にあるリリースハンドル ① を手前に引きます。

バックレストのロックが解除されます。

▶ リアヘッドレストのロック解除ボタン（▷83 ページ）を押しながら、リアヘッドレストをいっぱいまで押し下げます。

! リアシートのバックレストを前方に倒す前に、リアシートのヘッドレストが最も低い位置になっていることを確認してください。ヘッドレストやフロントシートなどを損傷するおそれがあります。

▶ バックレスト ② を前方に倒します。

▶ フロントシートを動かしたときは、シート位置を調整します。

バックレストを起こす

▶ フロントシートが後方の位置にあるときは、フロントシートを前方に移動します。

また、フロントシートのバックレストが後方に倒れているときは、前方に起こします。

▶ バックレスト ① を起こしてロックします。

⚠ **けがのおそれがあります**

バックレストを起こしたときは、バックレストが確実にロックされていることを確認してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

! バックレストを起こすときは、シートベルトが挟まれていないことを確認してください。シートベルトを損傷するおそれがあります。

▶ 必要であれば、リアシートのヘッドレストの高さを調整します。

▶ フロントシートを動かしたときは、シート位置を調整します。

ℹ マルチファンクションディスプレイに " 左（右）リア バックレスト ロックされていません " と表示されたときは、バックレストがロックされていません。再度バックレストを起こして、確実にロックしてください。

リアシートの折りたたみ（ステーションワゴン）

リアシートのバックレストの左右いずれか一方または両方を倒すことができます。

ラゲッジルームカバーを取り付けているときは、左側リアシートのみを折りたたむことはできません。左側リアシートを折りたたむときは、最初に右側リアシートを折りたたむか、ラゲッジルームカバーのリールを取り外してください。

⚠ **けがのおそれがあります**

ラゲッジルームに重い荷物やかたい荷物を積載するときは、確実に固定してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

リアシートを折りたたむときはセーフティネットを使用してください。

ラゲッジルームに荷物を積載するときは、必ずラゲッジルームカバーとセーフティネットをリアシートに装着して使用してください。

⚠ **中毒のおそれがあります**

エンジンをかけた状態でテールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

バックレストを倒す

▶ リアシートのヘッドレストを最も低い位置にします。

! リアシートのバックレストを前方に倒す前に、リアシートのヘッドレストが最も低い位置になっていることを確認してください。ヘッドレストやフロントシートなどを損傷するおそれがあります。

▶ フロントシートが後方の位置にあるときは、フロントシートを前方に移動します。

また、フロントシートのバックレストが後方に倒れているときは、前方に起こします。

▶ ロック解除レバー ② を引きます。

バックレストのロックが解除されます。

▶ バックレスト ① を前方に倒します。

▶ フロントシートを動かしたときは、シート位置を調整します。

バックレストを起こす

▶ フロントシートが後方の位置にあるときは、フロントシートを前方に移動します。

また、フロントシートのバックレストが後方に倒れているときは、前方に起こします。

▶ バックレスト ① を起こしてロックします。

! バックレストを起こすときは、シートベルトが挟まれていないことを確認してください。シートベルトを損傷するおそれがあります。

▶ ロックインジケーター ② が見えない状態になっていることを確認します。

⚠ けがのおそれがあります

バックレストを起こしたときは、バックレストが確実にロックされ、ロックインジケーター ② が見えない状態になっていることを確認してください。

ロックインジケーター ② が見えているときは、バックレストは確実にロックされていません。事故のときなどにラゲッジルームから荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

▶ 必要であれば、リアシートのヘッドレストの高さを調整します。

▶ フロントシートを動かしたときは、シート位置を調整します。

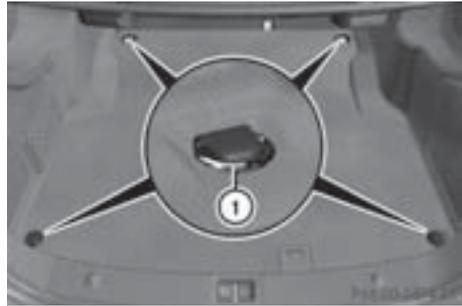
荷物の固定方法

荷物固定用リング *

⚠ **けがのおそれがあります**

荷物固定用リングには均等に力がかかるようにしてください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

荷物を固定するときは、以下の点に注意してください。

- 荷物固定用リングを使用して、荷物を固定してください。
- 伸縮性のあるストラップやネットは軽い荷物のずれを防ぐためのものです。これらを使用して荷物を固定しないでください。
- 固定用具が荷物のとがった部分や角に当たらないようにしてください。
- 鋭い角のあるものは、角の部分にカバーをしてください。
- できるだけすべての荷物固定用リングを使用してください。
- 荷物固定用リングに過大な力がかからないようにしてください。
- 固定用具の取扱説明書もご覧ください。

セダン（分割可倒式リアシート装備車）
① 荷物固定用リング

セダンは、トランクルーム内に 4 個の荷物固定用リング ① があります。

荷物固定用リングを使用する

▶ トランクフロアボードの端をめくり、荷物固定用リング ① を起こします。

▶ 荷物固定用リングをトランクフロアボードのスリットに通します。

ステーションワゴン
① 荷物固定用リング

ステーションワゴンは、ラゲッジルーム内に 4 個の荷物固定用リング ① があります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ステーションワゴン（EASY-PACK フィックスキット装備車）
① 荷物固定用リング
② アタッチメント
③ 荷物固定用リング

荷物固定用リングを使用する（EASY-PACK フィックスキット装備車）

▶ アタッチメント ② を装着し、好みの位置にスライドさせせます（▷229 ページ）。

セーフティネットとラゲッジルームカバー（ステーションワゴン）

セーフティネット

セーフティネットはラゲッジルームカバーとともに、リアシートのバックレスト背面のリールに収納されています。

⚠ けがのおそれがあります

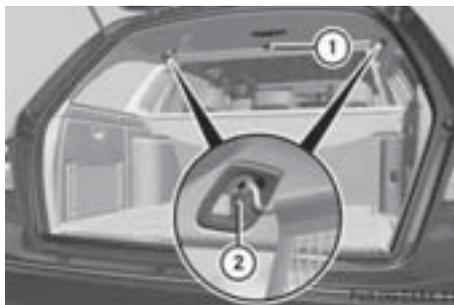
セーフティネットは重い荷物の飛び出しを防ぐことはできません。重い荷物を積載するときは確実に固定してください。

急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

⚠ けがのおそれがあります

軽い荷物を積載するときは、セーフティネットを使用してください。

急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されるおそれがあります。

リアシートのバックレストを倒していないとき

▶ タブ ① を持って、セーフティネットをリールから引き出します。

▶ セーフティネット上端にあるロッドの左右端部をルーフ内張りの取り付け部 ② に取り付けます。

リアシートのバックレストを倒しているとき

▶ リアシートのバックレストを前方に倒します。

▶ タブ ① を持って、セーフティネットをリールから引き出します。

▶ セーフティネット上端にあるロッドの左右端部をルーフ内張りの取り付け部 ② に取り付けます。

セーフティネットを収納する

▶ ロッドの左右端部をルーフ内張りの取り付け部 ② から取り外します。

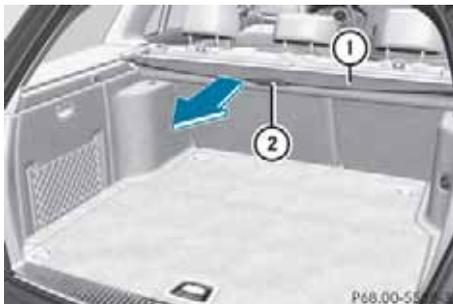
▶ セーフティネットをゆっくり巻き取らせます。

ラゲッジルームカバー

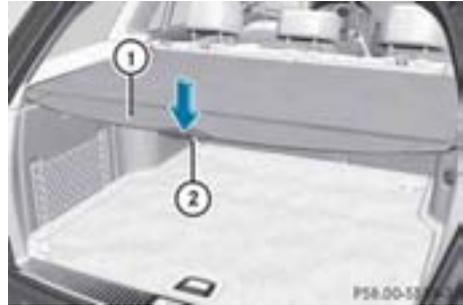
⚠ **けがのおそれがあります**

ラゲッジルームカバーの上に荷物を置かないでください。

急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

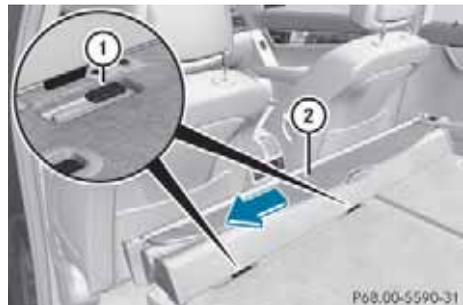
ラゲッジルームカバーを使用する

▶ ラゲッジルームカバー後端部 ① が水平になるようにします。

▶ グリップ ② を持ち、ラゲッジルームカバーをいっぱいまで引き出してロックさせます。

ラゲッジルームカバーを収納する

▶ グリップ ② を軽く下方に押します。

▶ グリップ ② を持ちながら、ラゲッジルームカバーをゆっくり巻き取らせます。

▶ 必要であれば、ラゲッジルーム後端部 ① を上方または下方に向けます。

セーフティネット / ラゲッジルームカバー収納リールの脱着

セーフティネット / ラゲッジルームカバー収納リールを取り外す

▶ ラゲッジルームカバーおよびセーフティネットをリール ② に収納します。

▶ リアシートのバックレストを前方に倒します。

▶ バックレストの取り付け部 ① から外れるまで、リール ② を左側にスライドします。

▶ リール ② を取り外します。

セーフティネット / ラゲッジルームカバー収納リールを取り付ける

▶ リアシートのバックレストを前方に倒します。

▶ リール ② を取り付け部 ① に合わせます。

▶ リール ② を右側にいっぱいまでスライドします。

▶ リールが確実に取り付けられていることを確認します。

バッグホルダー *

⚠ **けがのおそれがあります**

バッグホルダーには軽い荷物のみを掛けてください。重い物やとがった物、壊れやすい物を掛けないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

! バッグホルダーには、約 5kg 以上の荷物を掛けないでください。

バッグホルダー ① はトランクルームまたはラゲッジルームにあります。

セダン

① バッグホルダー

ステーションワゴン

バッグホルダーを使用する

▶ バッグホルダー ① を押します。

バッグホルダーを収納する

▶ 再度、バッグホルダー ① を押します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

テールゲートのコートフック（ステーションワゴン）

⚠ けがのおそれがあります

テールゲートのコートフックには重い物を掛けないでください。重みでテールゲートが閉じ、身体が挟まれてけがをするおそれがあります。

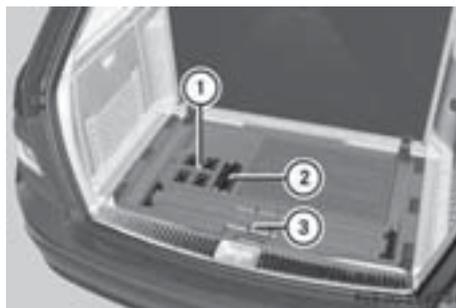
コートフックには軽い衣類のみを掛けてください。

① コートフック

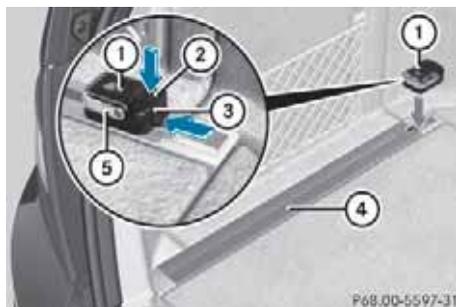
テールゲートを開いているときに、コートなどの軽い衣類を掛けることができます。

EASY-PACK フィックスキット（ステーションワゴン）

ラゲッジルームレールに装着したアタッチメントに伸縮式ベルトを装着して荷物を固定したり、伸縮式ポールを装着してラゲッジルームを区切ることができます。

また、アタッチメントにはリングが装備されており、荷物固定用リングとして使用できます。

① アタッチメント
② 伸縮式ベルト
③ 伸縮式ポール

アタッチメント ① や伸縮式ベルト ②、伸縮式ポール ③ は、ラゲッジフロアボードの下に収納されています。

ラゲッジルームレールへのアタッチメントの装着

ラゲッジルームレールにアタッチメントを装着する

▶ ラゲッジルームレール ④ の前端部にアタッチメント ① を合わせます。

▶ ロック解除ボタン ② を押しながら、アタッチメントを後方にスライドさせます。

※ 日本仕様には、EASY-PACK フィックスキットは装備されません。

▶ 好みの位置で、ロック解除ボタンを放します。

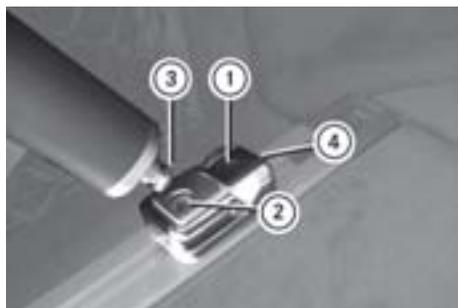
▶ ロックボタン ③ を押します。

アタッチメントがその位置で固定されます。

アタッチメントを取り外す

▶ ロック解除ボタン ② を押しながら、アタッチメントをラゲッジルームレール前端部までスライドさせます。

▶ アタッチメントをラゲッジルームレールから取り外します。

伸縮式ベルト

軽い荷物を伸縮式ベルトとラゲッジルームの側面の間に固定することができます。

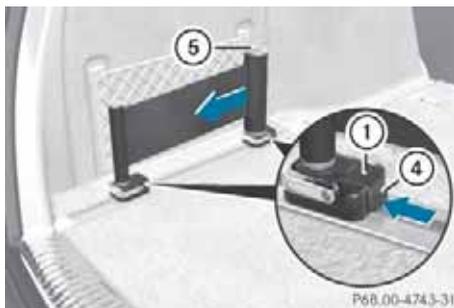
! 伸縮式ベルトには、7kg 以下の、安全に固定できる大きさの荷物のみを固定してください。

伸縮式ベルトを装着する

▶ 左右いずれかのラゲッジルームレールにアタッチメントを 2 個装着します。

▶ アタッチメントのロック解除ボタン ① を押しながら、いずれかのアタッチメントの取り付け部 ② に、伸縮式ベルトの固定部 ③ をいっぱいまで差し込みます。

▶ アタッチメントのロックボタン ④ を押します。

伸縮式ベルトの固定部がアタッチメントに確実に装着されていることを確認します。

▶ 伸縮式ベルトのロック解除ボタン ⑤ を押しながら、伸縮式ベルトを引き出します。

このとき、固定する荷物が伸縮式ベルトとラゲッジルーム側面の間になるようにします。

▶ もう一方のアタッチメントのロック解除ボタン ① を押しながら、アタッチメントの取り付け部に、引き出した伸縮式ベルトの固定部をいっぱいまで差し込みます。

▶ アタッチメントのロックボタン ④ を押します。

伸縮式ベルトの固定部がアタッチメントに確実に装着されていることを確認します。

▶ 伸縮式ベルトのロック解除ボタン ⑤ を押しながら伸縮式ベルトを巻き取らせ、荷物を確実に固定します。

必要であれば、荷物が確実に固定されるようにアタッチメントの前後位置を調整します。

伸縮式ベルトを取り外す

▶ アタッチメントのロック解除ボタン ① を押しながら、伸縮式ベルトをアタッチメントから取り外します。

▶ 伸縮式ベルトのロック解除ボタン ⑤ を押しながら、伸縮式ベルトを巻き取ります。

伸縮式ポール

伸縮式ポールを装着することにより、積載する荷物の大きさに合わせて、ラゲッジルームを区切ることができます。

伸縮式ポールを装着する

▶ 左右のラゲッジルームレールにアタッチメントを 1 個ずつ装着します。

▶ いずれかのアタッチメントのロック解除ボタン ① を押しながら、アタッチメントの取り付け部 ② に、伸縮式ポールの固定部 ③ をいっぱいまで差し込みます。

▶ アタッチメントのロックボタン ④ を押します。

伸縮式ポールの固定部がアタッチメントに確実に装着されていることを確認します。

▶ アタッチメント ⑥ のロック解除ボタン ① を押しながら、もう一方のアタッチメントの取り付け部に、引き出した伸縮式ポールの固定部をいっぱいまで差し込みます。

このとき、伸縮式ポール ⑤ の長さを調整しながら作業を行ないます。

▶ アタッチメントのロックボタン ④ を押します。

伸縮式ポールの固定部がアタッチメントに確実に装着されていることを確認します。

▶ 必要であれば、アタッチメントを前後に動かして、伸縮式ポールの位置を調整します。

伸縮式ポールを取り外す

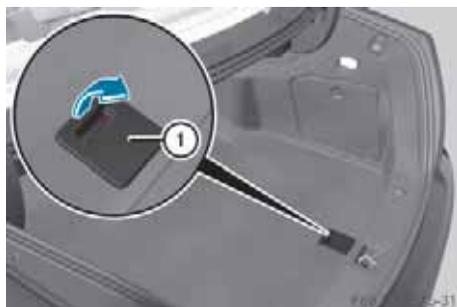
▶ ロック解除ボタン ① を押しながら、伸縮式ポールの固定部をアタッチメントから取り外します。

荷物固定用リング

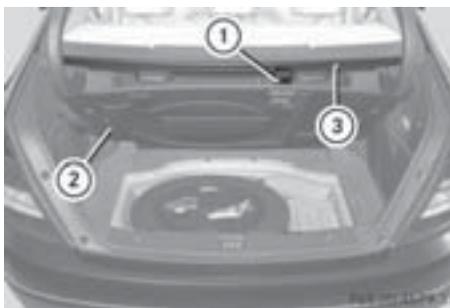
ラゲッジルームレールにアタッチメントを装着し、アタッチメントのリング（▷226 ページ）を起こして、荷物固定用リングとして使用することができます。

⚠ **けがのおそれがあります**

荷物固定用リングには均等に力がかかるようにしてください。急ブレーキ時や急な車線変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

トランクフロアボード下の収納スペース（セダン）

トランクフロアボード下の収納スペースには、車載工具や応急用スペアタイヤなどが収納されています。

▶ トランクを開きます。

▶ フック ① を起こして、トランクフロアボードを引き上げます。

▶ トランクフロアボード ② を支えながら、フック①をリアウインドウ下側のトランクの縁 ③ にかけます。

! トランクフロアボードのフックをリアウインドウ下側のトランクの縁にかけたままトランクを閉じないでください。フックを損傷します。

ラゲッジフロアボード下の収納スペース（ステーションワゴン）

⚠ **けがのおそれがあります**

ラゲッジフロアボード下の収納スペースに重い物やかたい物を収納しているときは、ラゲッジフロアボードを閉じてください。

急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに収納物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

ラゲッジフロアボード下の収納スペースには、ラゲッジバスケットと停止表示板ケース、車載工具が収納されています。

車種や仕様により、ラゲッジトレイや応急用スペアタイヤなども収納されています。

ラゲッジフロアボードを開く

▶ テールゲートを開きます。

▶ フック ② の矢印の部分を押して、フックを起こします。

▶ フック ② を持って、ラゲッジフロアボード ① を引き上げます。

ラゲッジトレイ非装備車
① ラゲッジバスケット
② 停止表示板ケース

ラゲッジトレイ装備車
① ラゲッジバスケット
② 停止表示板ケース
③ ラゲッジトレイ

ラゲッジフロアボードを閉じる

▶ ラゲッジフロアボードを下方に押し下げます。

▶ ラゲッジフロアボードを押してロックさせます。

ルーフラック

⚠ **事故のおそれがあります**

- ルーフラックやアタッチメントを取り付けるときは、製品に添付の取扱説明書に従ってください。誤った取り付け方によってルーフラックやアタッチメントが脱落すると、乗員がけがをしたり、事故の原因になります。
- ルーフの最大積載量（約 100kg）を超えないよう注意してください。また、ルーフに荷物を積んでいるときは、車の重心位置が変化し、走行安定性に影響を与えます。路面や交通、天候に合わせた運転を行なってください。

⚠ **けがのおそれがあります**

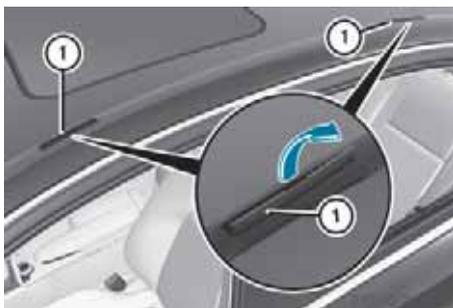
ルーフキャリアを取り付けているときは、スライディングルーフ * を閉じてください。乗員がけがをするおそれがあります。

! 推奨品以外のルーフラックを取り付けると車を損傷するおそれがあります。

ルーフラックを取り付けるとき、またはルーフラックに荷物を積んだときは下記に注意してください。車を損傷するおそれがあります。

- ルーフ後部のアンテナに接触しないこと
- スライディングルーフ * をチルトアップさせたときに接触しないこと
- トランクまたはテールゲートを開いたときに接触しないこと

ⓘ ルーフラックは Daimler AG の推奨品の使用をお勧めします。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

セダン

! カバーを開くときは、金属製の物やかたい物を使用しないでください。カバーやルーフを損傷するおそれがあります。

▶ 注意しながらカバー ① を矢印の方向に開きます。

▶ 内部にあるマウントにルーフラックを装着します。

ルーフラックの装着方法については、製品に添付されている取扱説明書をご覧ください。

ステーションワゴン

ルーフラックなどをルーフレールに装着することができます。

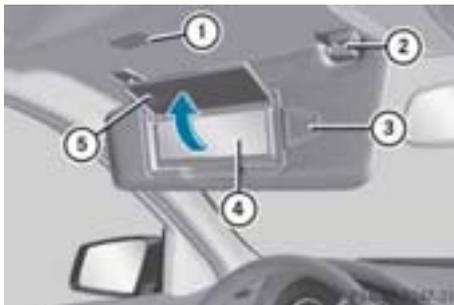
ルーフラックなどの装着方法については、製品に添付されている取扱説明書をご覧ください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

室内装備

サンバイザー

⚠ **事故のおそれがあります**

走行中はバニティミラーのカバーを閉じてください。眩惑により事故を起こすおそれがあります。

① 照明
② フック
③ クリップ
④ バニティミラー
⑤ バニティミラーカバー

前方からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザーを下げます。

横方向からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザーを下げます。

▶ サンバイザーをフック ② から外します。

▶ サンバイザーを横にまわします。

! サンバイザーを横にまわすときは、バニティミラーカバー ⑤ を閉じてください。バニティミラーカバーやルーフ内張りを損傷するおそれがあります。

バニティミラー

バニティミラーを使用する

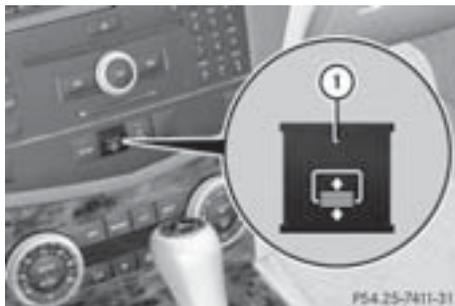
▶ サンバイザーを下げます。

▶ バニティミラーカバー ⑤ を上方に開きます。

照明 ① が点灯します。

使用後はバニティミラーカバーを閉じます。

ⓘ 照明 ① はサンバイザーがフックにかかっているときに点灯します。

電動ブラインド（リアウインドウ、セダン）

イグニッション位置が **1** か **2** のときに操作できます。

電動ブラインドを展開する（上げる）

▶ 電動ブラインドスイッチ ① を押します。

※ 電動ブラインドは、日本仕様には装備されません。

電動ブラインドを収納する（下げる）

▶ 再度、電動ブラインドスイッチ ① を押します。

⚠ **けがのおそれがあります**

- 車から離れるときは、必ず車を施錠してキーを携帯してください。

  また、チャイルドセーフティシートを使用している場合でも、子供だけを残して車から離れないでください。

  ◇ 車内部品による、深刻なまたは致命的なけがをするおそれがあります。

  ◇ 車内の極端な高温や低温による、深刻なまたは致命的なけがをするおそれがあります。

  ◇ 運転装置に触れて作動させることにより、事故を起こすおそれがあります。

  また、子供がドアを開いて事故を起こしたり、車から転落してけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。

! 電動ブラインドの開閉の妨げになるようなものを周囲に置かないでください。また、身体を挟まないように注意してください。

灰皿 *

! 吸いがらやマッチの火は確実に消して、使用後はカバーを閉じてください。

! 紙くずなどの燃えやすい物は入れないでください。

! 灰を落とすときは、灰皿が取り付けられていることを確認してください。灰皿の収納部を損傷するおそれがあります。

フロントの灰皿

灰皿を開く

▶ カバー ① を前方に押します。

灰皿を閉じる

▶ カバー ① を前方に押してから手を放します。

カバーが自動的にスライドして閉じます。

灰皿を取り外す

▶ エンジンを停止し、パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ 灰皿 ③ の両脇をつまみ、② の方向に引き上げます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿 ③ を元の位置に合わせ、押し込みます。

リアの灰皿

灰皿を開く / 閉じる

▶ カバー ② の上端を持って開きます。

閉じるときはカバーを押します。

灰皿を取り外す

▶ 解除ボタン ③ を押して、灰皿 ① を取り出します。

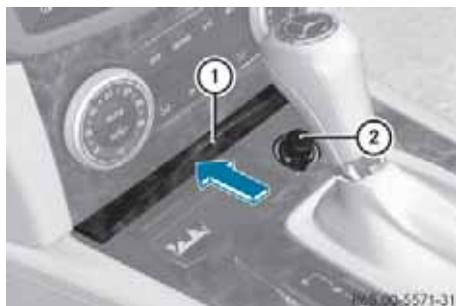
灰皿を取り付ける

▶ 灰皿 ① を元の位置に合わせ、押し込みます。

ライター *

⚠ 火傷のおそれがあります

ライターは必ずノブの部分を持ってください。金属部を持つと火傷をするおそれがあります。

安全のため、子供を乗車させるときはライターを抜き取ってください。火傷をしたり、火災が発生するおそれがあります。

ライターを使用する

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ フロントの灰皿のカバー ① を前方に押します。

▶ ライター ② を押し込みます。

熱せられると、ライターは元の位置に戻ります。

▶ ライター ② を引き抜きます。

使用後は灰皿で灰を落とし、元の位置に戻します。

車両の操作

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! ライターを使用するときは、以下の点に注意してください。ライターを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。

- ライターを押し込んだ後、押さえ続けないでください。
- 赤熱部に灰や異物が付着したまま使用しないでください。
- ライターを改造したり、純正品以外のライターを使用しないでください。

! ライターが戻らなくなったときは、イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いて、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! アクセサリー電源としてライターソケットを使用するときは、純正アクセサリーだけを使用してください。

12V 電源ソケット

フロントとリア *、ラゲッジルーム（ステーションワゴン）に 12V 電源ソケットを装備しています。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに使用できます。

! 必ず DC12V、最大消費電流 15A 以下（最大消費電力 180W 以下）の規格に合った電気製品を使用してください。

規格外の電気製品を使用すると、ヒューズが切れたり、火災が発生するおそれがあります。

! 12V 電源ソケットにライターを差し込まないでください。

! ソケット内に指などを入れないでください。感電するおそれがあります。

! エンジンがかかっていないときは長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

! 12V 電源ソケットを使用しないときはカバーを閉じてください。異物が入ったり、水がかかると故障やショートの原因になります。

グローブボックスの 12V 電源ソケット

左ハンドル車

グローブボックスの 12V 電源ソケットを使用する

▶ グローブボックスを開きます（▷217 ページ）。

▶ 12V 電源ソケット ① のカバーを開きます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

センターコンソール下部の 12V 電源ソケット *

灰皿を装備していない車両は、ライターの代わりに 12V 電源ソケットを装備しています。

センターコンソール下部の 12V 電源ソケットを使用する

▶ カバー ① を前方に押します。

▶ 12V 電源ソケット ② のカバーを開きます。

12V 電源ソケットのカバーを閉じる

▶ カバー ① を前方に押してから手を放します。

カバーが自動的にスライドして閉じます。

リアの 12V 電源ソケット *

リアの 12V 電源ソケットを使用する

▶ カバー ② の上端を持って開きます。

▶ 12V 電源ソケット ① のカバーを開きます。

ラゲッジルームの 12V 電源ソケット（ステーションワゴン）

ラゲッジルームの 12V 電源ソケットを使用する

▶ 12V 電源ソケット ① のカバーを開きます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

アシストグリップ

各ドアウインドウの上方にアシストグリップがあります。コーナリング時の姿勢保持などに使用します。

リアのアシストグリップには、コートフックが装備されています。

⚠ けがのおそれがあります

SRS ウインドウバッグの作動を妨げたり、作動時に物が飛んで乗員がけがをするおそれがありますので、以下の点に注意してください。

- アシストグリップにハンガーやアクセサリーなど物を掛けないでください。
- コートフックには軽く柔らかい衣服以外の物を掛けないでください。
- コートフックを使用するときは、ハンガーなどを使用せず、衣服を直接掛けてください。

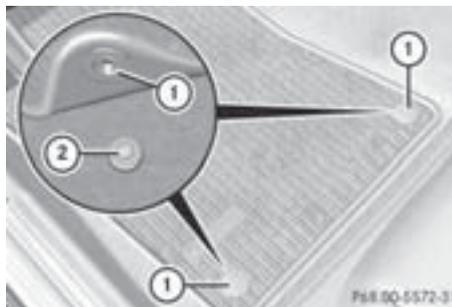
! アシストグリップにぶらさがったり、必要以上の大きな荷重をかけないでください。アシストグリップを損傷するおそれがあります。

! 運転者は運転中にアシストグリップを使用しないでください。

! コートフックを使用するときは、衣服が運転者の視界の妨げにならないように注意してください。

フロアマット *

⚠ 事故のおそれがあります

- 運転席のフロアマットを使用するときは、ペダルとの間に十分な空間があり、確実に固定されていることを確認してください。
- 運転席のフロアマットは、フロアの凸部②とフロアマットの凹部①で確実に固定してください。
- 走行前にフロアマットが確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、フロアマットが滑ったり、ペダル操作を妨げるおそれがあります。
- 運転席のフロアマットを重ねて使用しないでください。

左ハンドル車

フロアマットを取り付ける

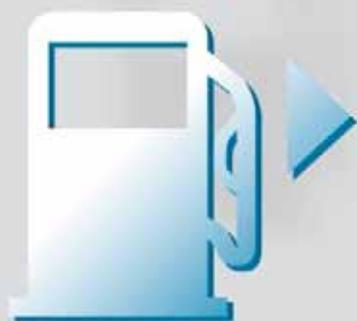
▶ 運転席シートを後方に動かします。

▶ フロアマットを敷きます。

▶ フロアマットの凹部 ① を押し、フロアの凸部 ② にはめ込みます。

フロアマットを取り外す

▶ フロアの凸部 ② からフロアマットを取り外します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

慣らし運転

⚠ 事故のおそれがあります

新品のブレーキパッドは、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは制動性能を完全には発揮できません。この期間は、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。また、ブレーキパッドやブレーキディスクの交換を行なったときも同様です。

新車の場合、エンジンなどの機械部分が馴染むまで「慣らし運転」することをお勧めします。

新車時に十分な慣らし運転を行なうことにより、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

最初の 1,500km までは以下の注意事項を守ってください。

- エンジン回転数が許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。
- いつも一定のエンジン回転数で走行するのではなく、負担のかからない範囲で回転数と速度を変えてください。
- キックダウンや過度のエンジンブレーキは避けてください。
- ギアレンジ位置 D3、D2、D1 および 1 ～ 3 速のギアは山道などを低速で走行するときだけに使用してください。

走行距離が 1,500km を超えたら、エンジン回転数を徐々に高回転まで上げてください。

ℹ C 63 AMG は、最初の 1,500km までは以下の注意事項を守ってください。

- 走行速度が 140km/h を超えないようにしてください。

※ 公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

- エンジン回転数が 4,500 回転を超えた状態で長時間走行しないでください。

ℹ エンジンや駆動系部品の分解や交換をした後も、馴らし運転を行なってください。

ℹ **キックダウン**：走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

ℹ **エンジンブレーキ**：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

リアディファレンシャルロック装備車

リアディファレンシャルロック装備車には、セルフロッキング式のディファレンシャルがリアアクスルに装備されています。

リアアクスルのディファレンシャルを保護するために、新車時から約3,000km 走行後を目安に、以降は約50,000km または 3 年ごとにリアアクスルのディファレンシャルオイルの交換を行なってください。これにより、より長い期間リアアクスルのディファレンシャルを正常な状態に保つことができます。オイル交換についてはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

燃料の給油

燃料を給油する

⚠ 火災や爆発のおそれがあります

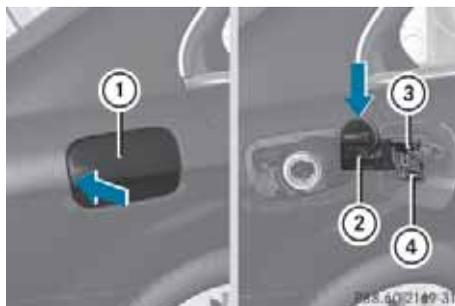
給油するときは、必ずエンジンを停止してください。また、周囲に燃料があるときや燃料の匂いがするときは、決して火気を近付けないでください。火災が発生するおそれがあります。

⚠ 爆発のおそれがあります

燃料は可燃性の高い物質です。燃料を取り扱うときは、火を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。

燃料を給油する前に、エンジンを停止してください。

⚠ 健康を害するおそれがあります

肌や衣服に燃料が付着しないように注意してください。燃料が肌に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康を害するおそれがあります。

セダン
① 燃料給油フラップ
② ホルダー
③ タイヤ空気圧ラベル
④ 使用燃料表示

燃料給油フラップは、リモコン操作やキーレスゴー操作 * での解錠 / 施錠に連動して解錠 / 施錠されます。

燃料給油口は車両の右側後方にあります。また、メーターパネル内には給油口の位置を示す [給油口表示] が表示されています。

給油口を開いて給油する

- ▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、キーレスゴー操作 * でイグニッション位置を **0** にします。
- ▶ 燃料給油フラップ ① の矢印の位置を押します。

  燃料給油フラップ ① が少し開きます。
- ▶ 燃料給油フラップ ① を開きます。
- ▶ キャップを反時計回りに少しゆるめて、タンク内の圧力を抜きます。

  圧力が抜けたら、さらに反時計回りにまわして取り外します。
- ▶ 外したキャップを燃料給油フラップ ① の裏側にあるホルダー ② に置きます。
- ▶ 給油を開始します。

  給油ノズルが最初に自動停止した時点で給油を停止してください。

給油口を閉じる

- ▶ キャップを燃料給油口に合わせ、時計回りにいっぱいまでまわします。

  カチッとロックした音が聞こえます。
- ▶ 燃料給油フラップ ① を閉じます。

ⓘ 燃料給油フラップの裏側に、タイヤ空気圧ラベル ③ が貼付してあります。タイヤ空気圧ラベルの見かたについては（▷259 ページ）をご覧ください。

ⓘ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で燃料給油フラップが解錠されないときは、手動で解錠できます。詳しくは（▷319 ページ）をご覧ください。

! 燃料を給油するときは、以下の点に注意してください。

- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪なガソリン、指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用したり、添加剤などを混入すると、エンジンなどを損傷するおそれがあります。
- 燃料に軽油を使用したり、無鉛プレミアムガソリンに混ぜて使用しないでください。少量を混ぜただけでもエンジンなどを損傷するおそれがあります。また、このような場合は保証の適用外になります。
- 誤って軽油を給油してしまった場合は、決してエンジンを始動しないでください。軽油が燃料系部品全体にまわるおそれがあります。誤って給油した場合はメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
- 目的地まで余裕をもって走れるように、十分な量を給油してください。
- 燃料給油口には、純正品以外のキャップを使用しないでください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! セルフ式のガソリンスタンドなどで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。

- エンジンを停止して、ドアやドアウインドウなどを閉じてください。
- 燃料給油口を開くことからはじまる一連の給油作業は、必ずひとりで行なってください。
- 給油作業をする人以外は燃料給油口に近付かないでください。
- 給油作業をする人は、作業の前に金属部分に触れるなどして身体の静電気を除去してください。

  身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火したり、火傷をするおそれがあります。
- 作業中は車内に戻らないでください。帯電するおそれがあります。
- キャップの取り外し / 取り付けは確実に行ない、火気を近付けないようにしてください。
- 燃料が塗装面に付着しないように注意してください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 給油ノズルは給油口の奥まで確実に差し込んでください。
- 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。
- 手動で給油しているときは、状況を見ながら、給油の勢いを強くしないでゆっくりと給油してください。燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を遵守してください。

エンジンルーム

ボンネット

 事故のおそれがあります

走行中はボンネットロック解除レバーを引かないでください。ボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。

火傷のおそれがあります

ボンネットから炎や煙が見えたときは、ボンネットを開かないでください。火傷をするおそれがあります。

火傷のおそれがあります

エンジンが停止していても、エンジンルーム内には高温になっている部分があります。エンジンルーム内に触れるときは、各部の温度が下がっていることを確認してください。

けがのおそれがあります

エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、イグニッション位置が **2** のときは、エンジンルーム内には手を触れないでください。

高電圧の発生部分や高温部分、回転している部分があり、それらに触れると非常に危険です。

けがのおそれがあります

エンジンスイッチからキーを抜いていて、イグニッション位置が **0** のときでも、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部分には身体や物を近付けないでください。

ボンネットを開く

けがのおそれがあります

ボンネットを開くときは、エンジンスイッチからキーを抜くか、メーターパネルの警告灯 / 表示灯が消灯するまでキーレスゴースイッチ * を押し、ワイパーのスイッチが停止の位置になっていることを確認してください (▷112 ページ)。ボンネットを開いているときにワイパーが作動すると、けがをしたり、車やワイパーを損傷するおそれがあります。

! ワイパーアームを起こしたままボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが当たり、損傷するおそれがあります。

! 強風のときにボンネットを開くと、風にあおられ、ボンネットが不意に下がることがあります。風の強い日は十分に注意してください。

また、ボンネットに雪が積もっているときも同様に注意してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

左ハンドル車

▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、キーレスゴー操作 * でイグニッション位置を **0** にして、ワイパーのスイッチが停止の位置になっていることを確認します（▷112 ページ）。

▶ 運転席側のインストルメントパネル下にあるボンネットロック解除レバー ① を手前に引きます。

ℹ 盗難防止警報システム装備車は、ワイパーが作動しているときにボンネットのロックを解除すると、ワイパーの作動が停止します。

▶ ボンネットの裏側にあるロック解除ノブ ② を矢印の方向に押し上げながらボンネットを開きます。

ℹ ボンネットを開いたあとに、さらに押し上げると、ボンネットを垂直の位置まで開くことができます。

ボンネットを閉じる

⚠ **事故のおそれがあります**

走行前に、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。走行中にボンネットが開いて視界が遮られ、事故を起こすおそれがあります。

⚠ **けがのおそれがあります**

ボンネットを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。

! エンジンルーム内に物を置いたままボンネットを閉じると、ボンネットやエンジンルーム内の機器類などを損傷するおそれがあります。

▶ ボンネットを引き下げ、約 20cm の高さから手を放して閉じます。

▶ ボンネットが確実に閉じていることを確認します。

完全に閉じなかったときは、もう一度ボンネットを開き、同じ方法で少し強めに閉じます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

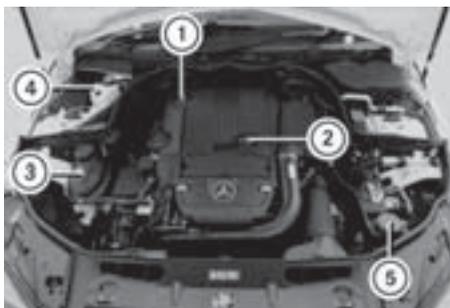
エンジンルーム

⚠ けがのおそれがあります

- イグニッションシステムおよびキセノンヘッドランプ * のバルブソケットや配線に手を触れないでください。高電圧が発生しているため、感電するおそれがあります。
- エンジンスイッチからキーを抜いて、イグニッション位置が **0** のときでも、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部には身体や物を近付けないでください。

環　境

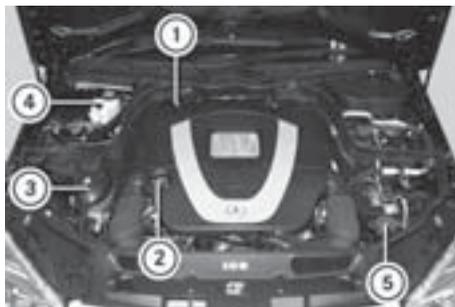
環境保護のため、オイルなどの各種の油脂類やフルード類の交換および廃棄は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

C 200 CGI / C 250 CGI

C 200 CGI

①	エンジンオイルレベルゲージ
②	エンジンオイルフィラーキャップ
③	冷却水リザーブタンク
④	ブレーキ液リザーブタンク
⑤	ウォッシャー液リザーブタンク

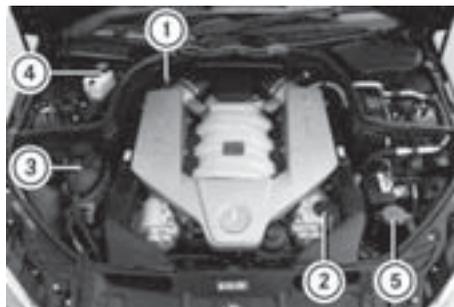
※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、エンジン上部のカバーや各部の配置などは、予告なく変更されることがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

C 300

右ハンドル車

①	エンジンオイルレベルゲージ
②	エンジンオイルフィラーキャップ
③	冷却水リザーブタンク
④	ブレーキ液リザーブタンク
⑤	ウォッシャー液リザーブタンク

※ 左ハンドル車の④は左右対称の位置にあります。

C 63 AMG

右ハンドル車

①	エンジンオイルレベルゲージ
②	エンジンオイルフィラーキャップ
③	冷却水リザーブタンク
④	ブレーキ液リザーブタンク
⑤	ウォッシャー液リザーブタンク

※ 左ハンドル車の④は左右対称の位置にあります。

エンジンルーム内の手入れ

手作業で拭いてください。火傷や感電に注意してください。

エンジンルームには多くの電気装備があり、水分や湿気を嫌います。水をかけたり、スチーム洗浄をしないでください。

エンジンオイル

車の使用状況により、1,000km につき最大で約 0.8 リットルのエンジンオイルが消費されます。

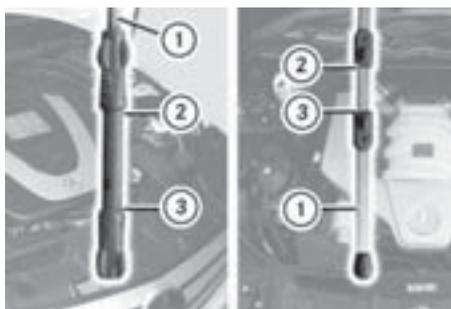
慣らし運転中のエンジンオイルの消費量は多少増加することがあります。また、頻繁にエンジン回転数を上げて走行すると、エンジンオイル消費量は増加します。

! エンジンオイルに添加剤などを使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

! エンジンオイルは使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給または交換してください。

エンジンオイル量を点検する

エンジンオイル量を点検するときは、以下の点に注意してください。

- 水平な場所に停車している
- エンジンが温まっているときは、エンジンを停止してから 5 分以上経過している
- エンジンが温まる前にエンジンを停止したときは、エンジンを停止してから 30 分以上経過している

i 車種や仕様により、エンジンオイルレベルゲージの形状が異なります。

▶ エンジンオイルレベルゲージ ① を抜き取り、きれいに拭いていっぱいまで差し込みます。

▶ エンジンオイルレベルゲージを抜き取り、付着したエンジンオイル量と汚れ具合を点検します。

オイル量はエンジンオイルレベルゲージの上限 ② と下限 ③ の間にあれば正常です。

▶ エンジンオイルレベルゲージを元の位置に差し込みます。

▶ エンジンオイルが下限以下のときは、エンジンオイルフィラーキャップを開いて、指定のエンジンオイルを規定の量まで補給します。

! マルチファンクションディスプレイにエンジンオイル量に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷297 ページ）をご覧ください。

エンジンオイルを補給する

⚠ **けがのおそれがあります**

エンジンオイルをエンジンルーム内にこぼさないでください。エンジンが熱いときにオイルが付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

▶ エンジンオイルフィラーキャップ①を反時計回りにまわして取り外します。

▶ 指定のエンジンオイルを補給します。

安全に十分注意して、作業を行なってください。

▶ エンジンオイルフィラーキャップ①を補給口に合わせ、時計回りにいっぱいにまわして取り付けます。

使用するエンジンオイルについては（▷359 ページ）をご覧ください。

ⓘ エンジンオイルレベルゲージの上限と下限の間はエンジンにより、約 1.5 ～ 2 リットルです。

❗ エンジンオイル量がエンジンオイルレベルゲージの上限を超えているときは、エンジンオイルを抜いてください。

環　境

環境保護のため、エンジンオイルを地面や排水溝などに流さないでください。

エンジンオイルの交換時期

エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターは定期的に交換することをお勧めします。交換時期はメンテナンスインジケーターを目安としてください。

ただし、交換時期は使用状況によって異なりますので、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

❗ 必ず指定のエンジンオイルを使用してください。指定以外のエンジンオイルを使用して故障が発生した場合は、保証が適用されないことがあります。

❗ 種類の異なるエンジンオイルを混ぜないでください。エンジンオイルの特性が発揮されません。

❗ エンジンオイルがエンジンルーム内に付着したときは完全に拭き取ってください。

❗ エンジンオイル量が多すぎると故障の原因になります。

❗ エンジンオイルの減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

オートマチックトランスミッションオイル

オートマチックトランスミッションオイルのオイル量を点検する必要はありません。

オイルの漏れを見つけたり、トランスミッションの作動に異常を感じたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! オートマチックトランスミッションオイルの交換については別冊「整備手帳」をご覧ください。

! オートマチックトランスミッションオイルは専用品のみを使用してください。

冷却水

⚠ **火傷のおそれがあります**

水温が少しでも高いときは、絶対にリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して、火傷をするおそれがあります。

⚠ **火傷のおそれがあります**

不凍液をエンジンルームにこぼさないようにしてください。熱くなったエンジンに不凍液が付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

! 冷却水の減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! 冷却水の量の点検と補給は、冷却水が冷えているときに行なってください。

! 不凍液は塗装面を損傷させます。ボディに付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

! マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージ（▷296、297 ページ）が表示されたときは、オーバーヒートしてエンジンを損傷するおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水の量を点検する

冷却水量の点検は、水平な場所に停車していて、エンジンが十分に冷えているときに行ないます。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ メーターパネルのエンジン冷却水温度計でエンジンが十分に冷えていることを確認します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にします。

▶ リザーブタンク ② のキャップ ① を反時計回りにゆっくり約 1 回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップ ① をさらに反時計回りにゆっくりまわして取り外します。

▶ 冷却水の液面がリザーブタンク ② 内のバー ③ の上面に達していれば適量です。

ℹ 水温が高いときは約 15mm ほど液面が高くなります。

▶ キャップ ① を確実に閉じます。

冷却水を補給する

冷却水が不足している場合は、リザーブタンクに補給します。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ メーターパネルのエンジン冷却水温度計でエンジンが十分に冷えていることを確認します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にします。

▶ リザーブタンク ② のキャップ ① を反時計回りにゆっくり約 1 回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップ ① をさらに反時計回りにゆっくりまわして取り外します。

▶ 液面の高さに注意して冷却水を補給します。

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域（最低気温）によって濃度を変えます（▷361 ページ）。

▶ キャップ ① を確実に閉じます。

冷却水の交換時期

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 冷却水には必ず不凍液を混ぜてください。不凍液には防錆の効果もあります。

! 指定以外の不凍液や不適当な水を使用しないでください。錆や腐食などの原因になります。

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたときの症状

- 冷却水温度が約 120℃以上を示している。
- マルチファンクションディスプレイに " 冷却水が 減少 停車して エンジンを 停止 " などの故障 / 警告メッセージが表示される。
- エンジンルームから蒸気が出ている。

⚠ **火災のおそれがあります**

エンジンルームから蒸気が出ているときや冷却水が吹き出しているときは、ただちにエンジンを停止し、冷えるまで車から離れてください。漏れた液体が発火して火災が発生するおそれがあります。

⚠ **火傷のおそれがあります**

水温が下がるまで、絶対にボンネットやリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して火傷をするおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイに、冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷296、297 ページ）をご覧ください。

! オーバーヒートした状態で走行したり、冷却水が吹き出している状態でエンジンをかけたままにすると、エンジンを損傷するおそれがあります。

! オーバーヒートしたときは必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

オーバーヒートしたときの対処方法

▶ ただちに安全な場所に停車します。

▶ エンジンをアイドリング状態で冷却します。

ラジエターの冷却ファンが停止しているときや、冷却水が吹き出しているときは、エンジンを停止して冷却してください。

▶ エンジンが十分に冷えてから、冷却水量、水漏れ、ラジエターの冷却ファンなどを点検します。

▶ 冷却水が不足しているときは補給します（▷253 ページ）。

! 冷却水は、エンジンが熱いときに補給しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

ブレーキ液

⚠ **事故のおそれがあります**

マルチファンクションディスプレイにブレーキに関する故障 / 警告メッセージが表示されたり（▷295 ページ）、ブレーキ警告灯（▷305 ページ）が点灯したときは、むやみにブレーキ液を補給しないでください。補給によって故障が解消することはありません。

安全な場所に停車して、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

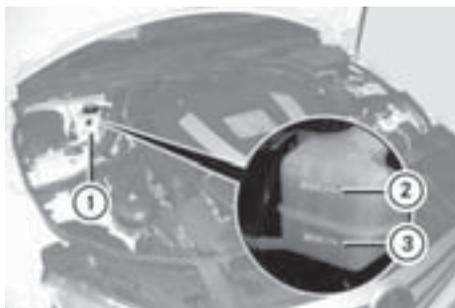
⚠ **事故のおそれがあります**

必ず指定のブレーキ液を使用してください。指定以外のブレーキ液を使用したり、他の銘柄を混ぜると、ブレーキの効き具合やブレーキシステムに悪影響を与え、安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

⚠ **火傷や火災のおそれがあります**

ブレーキ液の補給は、エンジンが冷えてから行なってください。また、上限（MAX）を超えないように補給してください。あふれたブレーキ液がエンジンや排気系部品などに付着すると、発火して火傷をしたり、火災が発生するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにブレーキ液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷295 ページ）をご覧ください。

ブレーキ液の量を点検する

右ハンドル車

▶ ブレーキ液の液面が、ブレーキ液リザーブタンク ① のレベルインジケーター上限（MAX）② と下限（MIN）③ の間にあれば正常です。

※ 左ハンドル車のブレーキ液リザーブタンク①は、エンジンルームに向かって右側にあります。

ブレーキ液の交換

定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! ブレーキ液の減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! ブレーキ液の補給や交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

! 補給のときは、ゴミや水がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

! レベルインジケーターの上限（MAX）を超えて補給すると、走行中に漏れて塗装面を損傷するおそれがあります。ボディに付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

! ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、苛酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

ℹ **ベーパーロック**：長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰してブレーキパイプ内に気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

ウォッシャー液

⚠ 火災のおそれがあります

ウォッシャー液は可燃性です。火気を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。また、エンジンが熱くなっているときは補給しないでください。

ℹ ウインドウウォッシャー液とヘッドランプウォッシャー * 液のリザーブタンクは共用です。

ℹ ウォッシャー液には夏用と冬用の2 種類があります。夏用には油膜の付着を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

ウォッシャー液を補給する

▶ リザーブタンクに補給する前に、ウォッシャー液と水を適正な混合比に混ぜます。

▶ ウォッシャー液リザーブタンクのキャップ ① を開きます。

▶ ウォッシャー液を補給します。

▶ キャップ ① を取り付けます。

使用するウォッシャー液

専用の純正ウォッシャー液を水に混ぜて使用します。

! 補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。

! 粗悪なウォッシャー液や石けん水を使用すると、塗装面を損傷するおそれがあります。

! ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

! ヘッドランプには樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。純正以外のウォッシャー液を使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。

! ウォッシャー液に、蒸留水や脱イオン水を混ぜないでください。液量の計測器を損傷するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにウォッシャー液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷300 ページ）をご覧ください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

タイヤとホイール

タイヤとホイールは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ 事故のおそれがあります

- 純正品および承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、ブレーキシステムやサスペンションを損傷したり、タイヤやホイールと車体などとの間隔が確保できずに事故を起こすおそれがあります。
- タイヤの摩耗には十分に注意し、スリップサイン（別冊「整備手帳」参照）が現われたら、すぐに交換してください。タイヤの溝の深さが約 3mm 以下になると著しく滑りやすくなり、事故につながるおそれがあります。

⚠ 事故のおそれがあります

- 必ず規定の空気圧を守ってください。燃料給油フラップの裏側に、規定のタイヤ空気圧を記載したラベルが貼付してあります（▷259 ページ）。
- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。
- ホイールボルトはホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のホイールボルトを使用すると、ホイールが脱落して事故を起こすおそれがあります。

! ブレーキシステムやホイールを改造しないでください。また、スペーサーやブレーキダストカバーを使用しないでください。車両操縦性に悪影響をおよぼし、事故を起こすおそれがあります。

! ホイールやタイヤの選択を誤ると、車全体のバランスに影響し、安全性に支障をきたすおそれがあります。

! 装着するタイヤは指定されたサイズ、および 4 輪とも同じ銘柄のものにしてください。サイズや銘柄が異なると、車両操縦性や燃費に悪影響をおよぼしたり、騒音が発生するおそれがあります。また、重い荷物を積載しているときやスノーチェーンを装着しているときに、タイヤがフェンダー内側やサスペンションに接触して、タイヤや車体を損傷するおそれがあります。

! 前後同サイズのタイヤ / ホイールが指定されている車種は、2 本だけ新品のタイヤを装着するときは、前輪に装着してください。

! 回転方向が指定されているタイヤは、タイヤの側面に記された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。

! 再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできません。

! 純正品または承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、道路運送車両法違反になることがあります。

! 摩耗具合にかかわらず、6 年以上経過したタイヤは新品のタイヤと交換してください。応急用スペアタイヤ * も同様に交換してください。

! トレッドがひどく摩耗したタイヤでは、濡れた路面を走行しないでください。タイヤのグリップが著しく低下し、ハイドロプレーニング現象を起こすおそれがあります。

! タイヤ / ホイールは、オイルやグリース類、燃料などの付着するおそれのない、乾燥した冷暗所に保管してください。

i 新品のタイヤを装着したときは、走行距離が約 100km を超えるまでは速度を控えて運転することをお勧めします。

タイヤの点検

▶ タイヤ空気圧ゲージを使用するか、タイヤ接地部のたわみ状態(別冊「整備手帳」参照)を見て、空気圧が適切であることを点検します。

▶ タイヤに大きな傷がないこと、くぎや石などがささったり、かみ込んでいないことを点検します。

▶ タイヤが偏摩耗を起こしたり、極端にすり減っていないことを点検します。スリップサイン(別冊「整備手帳」参照)が出ているときは、新しいタイヤに交換します。

! タイヤに空気を入れても、すぐに空気圧が低下するときは、パンクやホイールの損傷、タイヤバルブからの空気漏れなどのおそれがあります。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! ほこりの侵入や水分の浸入を防ぎバルブを保護するため、ホイールバルブのキャップを必ず装着してください。また、市販のタイヤ空気圧計測装置をホイールバルブに装着するなど、純正品または承認されたバルブキャップ以外のものをホイールバルブに装着しないでください。

! タイヤの摩耗は均一ではありません。タイヤの摩耗を点検するときは、必ずタイヤの内側も点検してください。

! タイヤのトレッドやサイドウォールがひどくすり減ったり、傷が付いているときは交換してください。

走行時の注意

- タイヤやホイールが損傷しているときは、振動や騒音が発生したり、ステアリングが不自然な動きをすることがあります。このようなときはただちに安全な場所に停車して、タイヤとホイールを点検してください。

  異常が見つからないときも、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

- 路面の段差などを乗り越えるときは、速度を落とし、注意して走行してください。タイヤやホイールを損傷するおそれがあります。

- 駐車時は、タイヤやホイールが縁石に接触しないようにしてください。

  また、縁石を乗り越える必要があるときは、縁石に対してタイヤをできるだけ直角にしてください。タイヤを損傷するおそれがあります。

タイヤの保管について

装着していないタイヤは、オイルやグリース類、燃料などの付着するおそれのない、乾燥した冷暗所に保管してください。

タイヤの清掃について

! 高圧式スプレーガンを使用してタイヤを清掃しないでください。タイヤを損傷するおそれがあります。損傷したタイヤは必ず交換してください。

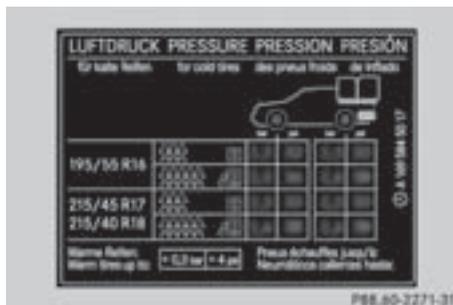
- ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルト、ブレーキディスクが腐食するおそれがあります。
- ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置すると、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。

  このようなときは、しばらく走行して、ブレーキディスクやブレーキパッドを乾燥させてください。

タイヤの回転方向について

回転方向が指定されているタイヤは、正しい方向に回転するように装着することで、ハイドロプレーニング現象などを発生しにくくし、タイヤの性能を発揮することができます。

タイヤの側面に記載された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。

タイヤ空気圧ラベル

タイヤ空気圧ラベルの例

タイヤ空気圧ラベルは燃料給油フラップ裏側に貼付されています（▷243ページ）。

装着されているタイヤのサイズや乗車人数、荷物の量などに応じて、前輪と後輪の空気圧を調整してください。

単位は「bar（≒ kg/cm²）」または「kPa」と、「psi」で示しています。

タイヤ空気圧ラベルの例

タイヤサイズの代わりに、"**16"**" や "**R16**" などのホイール外径で表示されていることもあります。

※ タイヤ空気圧ラベルは車種により異なることがあります。

ホイール外径 ① はタイヤのサイドウォールのタイヤサイズ表示に記載されています。

⚠ 事故のおそれがあります

- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。
- タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷を受けたりパンクしやすくなります。また、タイヤ空気圧警告システムが正しく作動しなくなったり、車両操縦性に悪影響をおよぼすおそれがあります。

⚠ 事故のおそれがあります

市販のタイヤ空気圧計測装置をホイールバルブに装着するなど、純正品または承認されたバルブキャップ以外のものをホイールバルブに装着しないでください。それらを装着すると、バルブが常に開いた状態になるため、空気圧低下の原因になります。

環　境

定期的にタイヤの空気圧を点検してください。タイヤの空気圧が低いと、燃料を余計に消費します。

! 必ず法定速度を守って走行してください。

! 周囲の気温が約 10℃変化すると、タイヤ空気圧は約 0.1bar 変化します。タイヤ空気圧を点検するときは周囲の気温に注意してください。

i 日頃からタイヤの空気圧を点検してください。特に重い荷物を積んで高速走行するときなどは必ず点検を行なってください。

i 走行した直後や炎天下のようにタイヤ自体が高温になっているときは、約 0.3bar ほど空気圧が高くなります。空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。

i 応急用スペアタイヤ * の空気圧は、応急用スペアタイヤのホイールまたはタイヤに記載されています。

タイヤ空気圧警告システム

4 輪すべてのタイヤの回転速度をモニターし、タイヤ空気圧が低下することにより他のタイヤとの回転速度に差が生じると、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージを表示します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

タイヤ空気圧警告システムは、以下の状況のときは作動しません。

- カーブを曲がっているとき
- 加速または減速しているとき
- 砂地や舗装されていない地面などの滑りやすい路面を走行しているとき
- 積雪路や凍結路などを走行しているとき
- スノーチェーンを装着しているとき
- 重い荷物を積載しているとき

上記に該当しない条件で、約 20km/h 以上の速度で数分間走行した後、異常が検知されると警告が行なわれます。

⚠ **事故のおそれがあります**

- 空気の入れすぎなど、誤ったタイヤ空気圧の調整に対しては警告が行なわれません。燃料給油フラップの裏側にあるタイヤ空気圧ラベルを参照して、必ず規定の空気圧に調整してください。
- タイヤ空気圧警告システムは、複数のタイヤから同量の空気が漏れた場合などは検知できません。また、タイヤ空気圧の点検を行なうシステムではありません。
- 急激な空気圧低下（タイヤに異物が貫通した場合など）に対しては警告を行なうことができません。このときは、急ブレーキや急ハンドルを避け、しっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。

タイヤ空気圧警告システムを再起動する

以下のときは、タイヤ空気圧警告システムを再起動させてください。

- タイヤ空気圧を調整したとき
- タイヤやホイールを交換したとき
- 新しいタイヤやホイールを装着したとき

▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動する前に、燃料給油フラップの裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベル（▷259 ページ）を参照して、すべてのタイヤが適正な空気圧に調整されていることを確認してください。

⚠ **事故のおそれがあります**

タイヤ空気圧警告システムは、タイヤが適正な空気圧に調整されていないときは、正常に作動しません。

タイヤ空気圧警告システムを再起動する

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ ステアリングの [◀] または [▶] スイッチを押して、マルチファンクションディスプレイのメインメニューから "ﾒﾝﾃﾅﾝｽ" を選択します。

▶ [▼] を押して、" タイヤ空気圧 " を選択します。

▶ [OK] を押します。

" タイヤ空気圧 警告システム オン " "OK ボタンで再始動 " と表示されます。

▶ OK を押します。

"タイヤ空気圧 正常ですか？""キャンセル""はい"と表示されます。

▶ ▼ を押して"はい"を選択し、OK を押します。

"タイヤ空気圧 警告システム 再始動 しました"と表示されます。

数秒後に、タイヤ空気圧警告システムが作動を始めます。

再起動を中断する

▶ ステアリングの ⮌ スイッチを押します。

または

▶ "タイヤ空気圧 正常ですか？""キャンセル""はい"と表示されているときに、▲ を押して"キャンセル"を選択し、OK を押します。

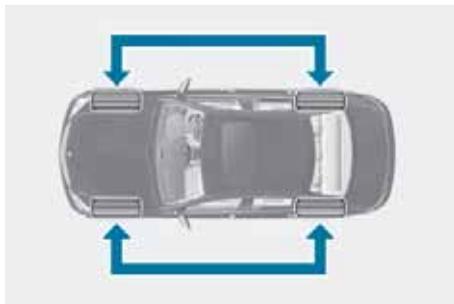
タイヤローテーション

⚠ 事故のおそれがあります

- タイヤまたはホイールのサイズが前後で異なるときは、タイヤローテーションを行なわないでください。前後のタイヤを入れ替えると車両操縦性や走行安定性が確保できません。
- ホイールボルトの締め付けトルクは 13kg-m（130Nm）です。タイヤローテーションを行なったあとは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でホイールボルトの締め付けトルクを確認してください。

タイヤの摩耗具合は、走行距離や運転方法、路面状況によって大きく異なります。

一般的には、前輪ではタイヤ接地面の両端部が、後輪ではタイヤ接地面の中央部がより摩耗します。

5,000 ～ 10,000km を目安に摩耗具合を点検し、偏摩耗の兆候がはっきりした時点でタイヤローテーションを行なってください。

タイヤローテーションの方法

タイヤローテーションを行なう

▶ 前後のタイヤ位置を入れ替えます。

ℹ タイヤローテーションを適切に実施すると、タイヤの摩耗を均一化することができます。その結果、タイヤの寿命を延ばすことができます。

ℹ タイヤを入れ替えたあとにタイヤ空気圧を調整して、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。ください。

タイヤ空気圧は、燃料給油フラップの裏側に貼付してあるタイヤ空気圧ラベルで確認してください。

ℹ タイヤローテーションを行なったときは、ホイールおよびハブの接合面に砂や汚れがないことを確認してください。

寒冷時の取り扱い

寒冷時には、通常とは異なった取り扱いが必要です。必ず以下の注意事項を守ってください。

冷却水 / バッテリー

メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、冷却水の不凍液の濃度が適正であることやバッテリーの液量や充電状態に不足がないことを点検してください。

エンジンオイル

車を使用する場所の外気温度に合わせたグレードと粘度のエンジンオイルを使用してください。

ウォッシャー液

ウォッシャー液には、夏用と冬用があります。冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

ウィンタータイヤ / スノーチェーン

積雪地域では、ウィンタータイヤやスノーチェーンが必要です（▷265、266、365 ページ）。

スノーチェーンは、Daimler AG の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。

冬季の手入れ

凍結防止剤がまかれた道路を走行したときは、早めに下回りの洗車をしてください。凍結防止剤が付着したまま放置すると、腐食の原因になります。凍結防止用の塩類をまく地域の場合、少なくとも 1 年に一度ボディ下回りの防錆処理をすることをお勧めします。

積雪

ボディやウインドウに雪が積もったときはすべて取り除いてください。走行中に雪が落ちて視界を妨げるおそれがあります。

ドアやトランクまたはテールゲートの凍結

ドアやトランクまたはテールゲートが凍結しているときは以下のような方法で走行する前に解凍するか、氷を取り除いてください。

- 氷を取り除くときは、樹脂製のへらなどを使用し、ボディやウインドウを損傷しないように注意してください。
- ドアやトランクまたはテールゲートが凍結して開かないときは、開口部周囲にぬるま湯をかけ、解凍してから開いてください。また、キーシリンダーにはぬるま湯がかからないようにしてください。
- 再凍結を防止するため、余分な水分はきれいに拭き取ってください。
- 凍結したまま無理にドアやトランクまたはテールゲートを開こうとすると、周囲の防水シールやウェザーストリップを損傷するおそれがあります。

ボディ下部の着氷

- 走行前にボディ下部やフェンダーの内側を点検してください。ブレーキ関連部品やステアリング関連部品、サスペンションなどに雪や氷塊が付着していたり、フェンダーの内側に雪が詰まって固まっていると、ボディを損傷したり、車のコントロールを失って事故を起こすおそれがあります。
- 雪や氷塊が付着しているときは、ぬるま湯をかけるなどして、部品やボディを損傷しないように注意しながら、雪や氷塊を取り除いてください。
- 走行中にも、はね上げた雪や水しぶきが凍結し、氷となってボディ下部やフェンダーの内側に付着し、ステアリング操作ができなくなるおそれがあります。休憩時などにこまめに点検し、雪や氷塊が付着しているときは、大きくなる前に取り除いてください。

ワイパーなどの凍結

ワイパーやドアミラー、ドアウインドウ、スライディングルーフ * などが凍結しているときに、無理に動かすとモーターを損傷するおそれがあります。

周囲にぬるま湯をかけるなどして、必ず解凍してから操作してください。

乗車前に

靴底などに付着した雪や氷を落としてから乗車してください。ペダルを操作するときに滑ったり、車内の湿度が高くなってウインドウの内側が曇りやすくなります。

雪道で動けないとき

雪道で動けなくなったときは、先にマフラー（排気ガスの出口）と車の周囲から雪を取り除いてください。排気ガスが車内に侵入してくるおそれがあります。

⚠ 中毒のおそれがあります

マフラーなどが雪に埋もれた状態でエンジンをかけていると、排気ガスが車内に入り一酸化炭素中毒を起こしたり、中毒死するおそれがあります。

駐車するとき

寒冷時や積雪地での駐車時は以下の点に注意してください。

- パーキングブレーキが凍結するおそれがある場合は、パーキングブレーキを使用せず、セレクターレバーを P に入れ、確実に輪止めをしてください。
- できるだけ風下や建物の壁、日光の当たる方向にエンジンルームを向けて駐車し、エンジンが冷えすぎないようにしてください。
- 軒下や樹木の陰には駐車しないでください。雪やつららが落ちてきてボディを損傷するおそれがあります。
- エンジンを毛布でカバーしたり、フロントグリルの内側にダンボールや新聞紙などを挟まないでください。放置したままエンジンを始動すると、火災や故障の原因になります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ウィンタータイヤ

雪道や凍結路を走行するときや外気温度が約 7℃以下のときは、ウィンタータイヤの装着をお勧めします。

このような状況では、ウィンタータイヤを装着することで、ABS や ESP® などの効果が発揮されます。

装着するウィンタータイヤは、指定されたサイズで 4 輪とも同じ銘柄のものにしてください。

ウィンタータイヤを装着したときは、正しいタイヤ空気圧に調整して、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

⚠ **事故のおそれがあります**

- ウィンタータイヤの溝の深さが 4mm 以下になったときは、新品と交換してください。タイヤのグリップが十分確保できないため、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- ウィンタータイヤの装着時に、応急用スペアタイヤ * を装着すると、車両安定性や制動性能が大きく低下するので注意してください。

  スペアタイヤは応急的に使用し、できるだけ早くウィンタータイヤに戻してください。

! 回転方向が指定されているウィンタータイヤは、タイヤの側面に記された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。

! ウィンタータイヤを装着していても、雪道や凍結路面では、クルーズコントロールは使用しないでください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! ウィンタータイヤを外した後は、タイヤ / ホイールをオイルやグリース類の付着するおそれのない、乾燥した冷暗所に保管してください。

i ウィンタータイヤについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

スノーチェーン

ウィンタータイヤでも走行が困難なときは、スノーチェーンを装着してください。

スノーチェーンは、Daimler AG の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。

! スノーチェーンは必ず後輪に装着してください。

! 応急用スペアタイヤ * にはスノーチェーンを装着しないでください。

! 車種や仕様により、標準タイヤ / ホイールにスノーチェーンを装着できない場合があります。詳しくは（▷364 ページ）をご覧ください。

! 指定品以外のスノーチェーンを装着すると、タイヤから外れたり、車体に接触するおそれがあります。

! スノーチェーンの脱着は、周囲の交通を妨げない、安全で平坦な場所で行なってください。路面に雪や凍結がなくなったときは、スノーチェーンを外してください。

! スノーチェーン装着時は約 50km/h 以下の速度で走行してください。

! スチールホイール装備車にスノーチェーンを装着するときは、ホイールカバーを取り外してください。ホイールカバーを損傷するおそれがあります。

i スノーチェーン装着中は、ESP® の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

i スノーチェーンについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

雪道や凍結路面の走行

雪道や凍結路面ではタイヤが非常に滑りやすくなっています。十分な車間距離を確保し、いつもより控えめな速度で慎重に走行してください。

安全な走行と操縦性を確保するため、以下の注意事項を守ってください。

- ウィンタータイヤまたはスノーチェーンを必ず使用してください。
- 走行モードを E モードまたは C モードに切り替えてください（▷127、171 ページ）。
- 急ハンドル、急ブレーキ、急加速などは避けてください。
- クルーズコントロールは使用しないでください。
- ブレーキに付着した雪や水滴が凍結して、ブレーキの効きが悪くなることがあります。

  このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行して、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

⚠ 事故のおそれがあります

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

走行時の注意

エンジンを停止しての走行

⚠ **事故のおそれがあります**

走行中はエンジンを停止しないでください。エンジンが停止しているときは、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になるため、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

ブレーキ

⚠ **事故のおそれがあります**

- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 長い下り坂や急な下り坂では必ずティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキを併用してください。エンジンブレーキを併用しないでブレーキペダルを踏み続けたり、急ブレーキを繰り返すと、ブレーキが効かなくなり停車できなくなるおそれがあります。

⚠ **事故のおそれがあります**

ブレーキ操作が、後続車などに危険をおよぼすことがないように注意してください。

⚠ **火災のおそれがあります**

ブレーキペダルの上に足を置いたまま運転しないでください。ブレーキパッドが早く摩耗するだけでなく、ブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

⚠ **事故のおそれがあります**

新車時または交換したブレーキパッドは、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは制動能力を完全には発揮できません。この期間は、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。

! ブレーキが過熱している状態のときは、ブレーキに水がかからないようにしてください。ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。

! 水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

! 高速道路を走行しているときなどブレーキを効かせずに長時間走行しているときは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら、ブレーキの効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

! 必ず純正のブレーキパッドを使用してください。純正以外のブレーキパッドを使用すると、ブレーキ特性が変わって安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

i クルーズコントロールや可変スピードリミッターの作動中も、低いギアレンジを選択することによりエンジンブレーキを効かせることができます。

i 急ブレーキなどでブレーキに大きな負担をかけた後は、ブレーキディスクが冷えるまでしばらく走行を続けてください。

i 長い急な下り坂では、ティップシフトでギアレンジを D3、D2、D1 にして、エンジンブレーキを効かせてください。ブレーキの過熱や過度の摩耗を防ぐことができます。

凍結防止剤について

凍結防止剤がまかれた道路を走行するときは、ブレーキディスクやブレーキパッドに塩類が付着してブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるおそれがあります。

このときは、後続車に注意しながらブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。さらに、先行車との車間距離を十分確保し、注意して走行してください。また、次回走行するときにも、ブレーキペダルを数回軽く踏み、残った塩類を落としてください。

C 63 AMG のブレーキの注意事項

C 63 AMG の高性能ブレーキシステムは、走行速度やブレーキペダルの踏力、気温や湿度などの外気環境によりブレーキノイズを発生することがあります。

また、ブレーキパッドやブレーキディスクなどブレーキシステムを構成する部品は、運転スタイルや走行状況に応じて摩耗度合いが異なってきます。走行距離は摩耗度合いを測る目安にはなりません。負荷の高い運転を行なったときは、摩耗度合いは高くなります。

(!) ブレーキ警告灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し（点灯しないときは、警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後もパーキングブレーキを効かせているときは、点灯したままになります。

パーキングブレーキを解除しても消灯しないときや、エンジンがかかっているときに点灯する場合は、ブレーキ液が不足しています。安全な場所に停車し、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! マルチファンクションディスプレイにブレーキ液またはブレーキパッドに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷295 ページ）をご覧ください。

タイヤのグリップについて

安全な走行のため、濡れた路面や凍結した路面では、乾燥した路面を走行するときよりも低い速度で走行してください。

外気温度が低いときは、路面の状態に十分注意してください。路面が凍結しているときは、ブレーキ時にタイヤと路面の間に薄い水の層が形成され、タイヤのグリップが大きく低下します。

走行するとき

アクセルペダルはおだやかに操作

- 発進や加速するときは、タイヤを空転させないように穏やかにアクセルペダルを操作してください。タイヤを空転させると、タイヤだけでなくトランスミッションや駆動系部品を損傷するおそれがあります。
- 車間距離を十分に確保し、不要な急発進や急加速、急ブレーキを避けてください。

横風が強いとき

横風が強く、車が横方向に流されそうなときは、ステアリングをしっかりと握り、いつもより速度を下げて進路を保ってください。

トンネルの通過

トンネルに進入するときは、ヘッドランプを点灯してください。内部照明が暗いトンネルでは、進入直後に視界が悪くなることがありますので、十分注意してください。

エンジンブレーキの活用

下り坂が続くときは、エンジンブレーキを活用してください。ブレーキペダルを長時間踏み続けると、ブレーキディスクが過熱してブレーキの効きが悪くなるおそれがあります

i **エンジンブレーキ：**走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

滑りやすい路面

滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキを効かせないでください。

水たまりの通過後

水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが遅れたり、悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

スタック（立ち往生）したとき

- ぬかるみなどでタイヤが空転したり脱輪した状態から脱出するときは、タイヤを高速で空転させないでください。脱出直後に車が急発進し、事故を起こすおそれがあります。

  また、タイヤを高速で空転させると異常な過熱が起こり、タイヤの破裂や火災などの事故が起きたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

- スタックした状態から脱出するときは、タイヤ前後の土や雪などを取り除いたり、タイヤの下に板や石などをあてがうと効果的です。

  また、低速でセレクターレバーを交互に D と R に入れることにより、ぬかるみから脱出できる場合があります。

道路冠水や車が水没したとき

- 冠水した道路を走行するときに許容されている最大水深は約 25cm です。
- 波が立たないような速度で走行してください。また、周囲の車両が立てる波にも注意してください。
- 豪雨などで道路が冠水し、マフラーに水が入ったときは決してエンジンを始動しないでください。そのままエンジンを始動すると、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。
- 車が水没した場合は、水が引いた後でもエンジンを始動せずに、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

走行中に異常を感じたら

警告灯が点灯したときやマルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されたとき

ただちに安全な場所に停車してエンジンを停止し、本書に従い対処してください。それでも警告灯や故障 / 警告メッセージが消灯しないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。そのまま走行を続けると、事故を起こしたり、車に重大な損傷を与えるおそれがあります。

ボディ下部に強い衝撃を受けたとき

ただちに安全な場所に停車してボディの下部を点検し、ブレーキ液や燃料などが漏れていないか確認してください。漏れやボディ下部に損傷を見つけたときは、運転を中止してメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。損傷を放置したまま走行を続けると、事故を起こすおそれがあります。

走行中にタイヤがパンクしたり、破裂したとき

あわてずにしっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。急ブレーキや急ハンドル操作をすると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

駐停車するとき

駐車するときの注意事項

- マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。
- 同乗者がドアを開くときは、周囲に危険がないことを運転者が確認してください。
- 見通しの悪い場所や暗い場所では駐車しないでください。
- 炎天下での駐車時には、車内各部の温度が非常に高くなります。ステアリングやセレクターレバー、シートなどに触れると、火傷をするおそれがあります。
- 炎天下に駐車するときは、ウインドウにカバーをしたり、ステアリングやセレクターレバー、シートなどにカバーやタオルをかけて、温度の上昇を抑えてください。
- 炎天下に駐車した後は、乗車する前に換気をするなどして、車内各部の温度を下げてください。
- フロントウインドウやボンネットの周囲に枯れ葉や異物がある場合は、必ず取り除いてください。車両下部の排水口が目詰まりを起こし、車内に水が浸入するおそれがあります。

車の周囲が雪で覆われているとき

車の周囲が雪で覆われているときは、雪を取り除いてからエンジンを始動してください。積雪によりマフラーがふさがれ、排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。

急な坂道で駐車するとき

急な坂道で駐車するときは、セレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをして、前輪の下り側を歩道方向に向けてください。

仮眠するとき

やむを得ず車内で仮眠するときは、安全な場所に駐車して必ずエンジンを停止してください。無意識のうちにセレクターレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込むと、車が動き出して事故を起こすおそれがあります。

また、アクセルペダルを踏み続けると、エンジンやマフラーが異常過熱して火災の原因になります。

後退するとき

後方視界が十分に確保できないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

雨降りや濃霧時の運転

雨降りや濃霧時の注意事項

雨が降っていたり、濃霧が発生しているときは、路面が濡れて滑りやすく視界も悪くなります。以下の点に注意して、いつもより慎重に運転してください。

- 路面が滑りやすいため、タイヤの接地力が大きく低下し、通常より制動距離も長くなります。

  また、見通しが悪いため歩行者や障害物の発見が遅れがちになります。いつもより速度を下げ、車間距離を十分に確保してください。

- 濡れた路面では急激なエンジンブレーキを効かせないでください。滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 路面が濡れているときは、クルーズコントロールは使用しないでください。
- 水たまりの通過後や激しい雨の中で長時間ブレーキを使用しないで走行しているときは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。
- 安全な視界を確保するため、必要に応じてデフロスターやリアデフォッガーを作動させてください。また、AC モードでエアコンディショナーを作動させて車内を除湿してください。
- 雨降りや濃霧時は、自分の車の存在を周囲に知らせるため、ヘッドランプやフォグランプを点灯してください。ただし、ヘッドランプを上向きにすると、雨や濃霧に反射して視界を損なったり、対向車を眩惑するので、下向きで点灯してください。
- 濃霧のときはフォグランプを点灯し、速度を落として走行してください。危険を感じるときは、霧が晴れるまで安全な場所に停車してください。

メンテナンス

車の性能を十分に発揮させ、安全かつ快適に運転するためには、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検整備を受ける必要があります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場では以下のような点検を行ないます。

Daimler AG 指定の点検整備

Daimler AG の指示による点検整備項目があります。これらはメンテナンスインジケーターの表示に応じて実施します。

1 年および 2 年点検整備

1 年、2 年点検整備は、車検時を含め、法律で定められ実施するものです。

次の点検時期を示すステッカーがフロントウインドウに貼付してあります。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

整備手帳

車には整備手帳が備えてあります。点検整備で実施された作業は整備手帳で確認してください。

日常点検

長距離走行前や洗車時、燃料補給時など、日常、車を使用するときにお客様ご自身の判断で実施していただく点検です。

点検項目は整備手帳に記載されています。

点検を実施したときに異常が発見された場合は、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

メンテナンスインジケーター画面

走行距離や経過時間などに応じて、メーカー指定点検整備の実施時期を表示します。

メンテナンスインジケーター画面が表示されたときは、メーカー指定点検整備を行なってください。

! メンテナンスインジケーターは、エンジンオイル量表示やエンジンオイル量の警告表示ではありません。

! メーカー指定点検整備を実施時期までに行なわなかった場合は、保証などの対象外になることがあります。

自動表示機能

次のメーカー指定点検整備の約 1 カ月前になると、イグニッション位置を **2** にしたときやエンジンがかかっているときに、メンテナンスインジケーター画面が自動的に表示されます。

メンテナンスインジケーター画面を消したいときは、ステアリングの [↩] または [OK] スイッチを押します。

i メンテナンスインジケーターが表示される時期は一定ではなく、車種や仕様、運転スタイルや走行距離などにより変わります。

エンジン回転数を適度に保ち、短距離短時間の運転を避けると、次のメーカー指定点検整備の実施時期までの走行距離が伸びることがあります。

i 新車時の走行距離が 30km を超えてから、メンテナンスインジケーターの点灯時期が適切であることをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で必ず確認してください。

手動表示

メンテナンスインジケーター画面は、手動でも表示できます。

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ ステアリングの [◀] か [▶] スイッチを押して、マルチファンクションディスプレイのメインメニューから " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ " を選択します。

▶ [▼] を押して、" メンテナンス " を選択します。

▶ [OK] を押します。

メンテナンスインジケーター画面が表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

表示メッセージ

表示メッセージは、日頃の運転スタイルなどに応じて以下のように表示されます。

点検整備実施前の表示例

" 次回の メンテナンス A（または B）まで あと XX km です "

" 次回の メンテナンス A（または B）まで あと XX 日です "

点検整備実施時期になったときの表示例

" メンテナンス A（または B）期限が切れます "

点検整備実施時期を過ぎたときの表示例

以下のようなメッセージが表示されます。

" メンテナンス A（または B）期限超過しました – XX km"

" メンテナンス A（または B）期限超過しました – XX 日 "

i " メンテナンス A" または " メンテナンス B"、およびそれらに続く文字や数字は、次回のメーカー指定点検整備の範囲が、点検項目の少ない点検整備または総合的な点検整備のどちらに該当するかを示すものです。

ただし、日本では法定点検があるため、これらの範囲と法定点検の範囲は異なります。

i ブレーキパッドは次回のメーカー指定点検整備以前に摩耗の限界に達することがあります。ブレーキパッドの交換については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で相談の上、以下のように対処してください。

- 今回のメーカー指定点検整備で交換する
- 後日に別途交換する

i バッテリーの接続を外している間の経過日数は、加算されません。

メンテナンスインジケーターのリセット

メーカー指定点検整備の実施後に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でメンテナンスインジケーターをリセットしてください。

リセット後、次回メーカー指定点検整備までの基本サイクルは、走行距離では 15,000km、日数では 365 日に設定されます。いずれか先に達する距離または時期を次回のメーカー指定点検整備時期として表示します。

! メンテナンスインジケーターの表示などに異常があるときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

日常の手入れ

定期的に手入れをすることで、いつまでも車を美しく保つことができます。

日常の手入れには、Daimler AG が指定する用品のみを使用してください。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ 中毒や火災のおそれがあります

- 一部の合成クリーナーなどには、有機溶剤や可燃性物質が含まれていることがあります。カーケア用品を使用するときは、必ず添付の取り扱い上の注意を読み、指示に従ってください。
- 車内でカーケア用品を使用するときはドアやドアウインドウを開き、十分に換気してください。有機溶剤による中毒を起こしたり、静電気が可燃性ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。
- 車の手入れをするときに、ガソリンやシンナーなどを使用しないでください。中毒を起こしたり、気化ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。
- カーケア用品は、子供の手が届くところや火気の近くに置いたり保管しないでください。

環　境

オイル・液類は、環境に配慮して廃棄してください。

外装

- 走行後は、ボディに付着したほこりを毛ばたきなどで払い落としてください。
- 少なくとも月に 1 度は洗車してください。
- 飛び石などにより塗装面を損傷すると、錆の原因になります。早めに補修を行なってください。
- 保管や駐車は、風通しの良い車庫や屋根のある場所をお勧めします。
- 泥や虫の死がい、鳥のふん、樹液、油脂類、燃料およびタールなどが付着したときは、すみやかに拭き取ってください。特に、鳥のふんは塗装面を損傷しやすいため、できるだけ早く水で洗い流してください。
- 凍結防止剤が散布してある道路を走行したときは、すみやかに洗車し、ボディ下側やフェンダー内を洗い流してください。
- 直射日光が強く当たる場所や走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときに、塗装面の手入れをすると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- ボディの表面にステッカーやフィルム、マグネットなどを貼付しないでください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 誤って傷を付けたり、誤った手入れにより錆などが発生したときは、早めにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で補修することをお勧めします。

洗車

▶ ボディ全体に低圧で水をかけ、ほこりなどを洗い流します。

▶ 水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液を用意し、車全体にかけます。外気取り入れ口付近では少量にし、ダクト内に洗浄液が残らないように注意してください。

▶ スポンジやセーム皮などを使用して、十分な量の水で洗い流します。

▶ 洗車後は、すみやかに水滴を拭き取ります。

洗車時の注意

洗車をするときは、以下の点に注意してください。

- 水が凍るような寒いときや直射日光が強く当たる場所、走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときは洗車をしないでください。
- 虫の死がいなどは、洗車前に取り除いてください。
- コールタールやアスファルトの汚れは、乾いてしまうと落としにくくなるため、早めに処理してください。
- 洗車をするときはマフラーに注意してください。マフラー後端に触れて火傷をしたり、けがをするおそれがあります。
- 走行した直後は、ブレーキディスクやホイールに直接水などをかけないでください。ブレーキディスクが熱いときに急激に冷やすと、ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。
- ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルトが腐食するおそれがあります。
- ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置すると、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。

  このようなときは、しばらく走行して、ブレーキディスクやブレーキパッドを乾燥させてください。

自動洗車機の使用

⚠ 事故のおそれがあります

自動洗車機で洗車したあとは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。ブレーキディスクやブレーキパッドが乾くまでは、十分注意して走行してください。

自動洗車機で洗車するときは以下の点に注意してください。

- 高圧洗浄を行なう自動洗車機は、使用しないでください。ドアやスライディングルーフ * などから水漏れを起こすおそれがあります。
- 車の汚れがひどいときは、自動洗車機で洗車する前に水洗いをしてください。
- 自動洗車機が車のサイズに合っていることを確認してください。
- ドアウインドウとスライディングルーフ * が完全に閉じていることを確認してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

- 洗車前にドアミラーを格納してください。
- 余熱ヒーター・ベンチレーション * が停止していることを確認してください。
- ワイパーを停止してください(▷112、114 ページ)。
- 回転ブラシのかたさによっては、細かな傷が付き、塗装面の光沢が失われたり、劣化を早めるおそれがあります。
- 洗車後は、フロントウインドウやワイパーブレードに付着した洗浄液を拭き取ってください。

高圧式スプレーガンの使用

⚠ **事故のおそれがあります**

高圧式スプレーガンのノズルをタイヤに向けないでください。水圧が高いため、タイヤを損傷するおそれがあります。

- 高圧式スプレーガンのノズルは、車から十分離して使用してください。水圧が高すぎると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- 高圧式スプレーガンのノズルをウインドウガラス接合面やボディパネルの継ぎ目部分、サスペンション、電気装備、コネクター類などに近付けないでください。水圧が高いため、車内に水が浸入したり、防水シールや塗装面を損傷するおそれがあります。

マットペイント塗装車の取り扱い

マットペイント塗装車は、艶消しクリアコートで塗装されています。

非常にデリケートな塗装のため、日常の手入れなどで独特の質感を損なうおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

マットペイント塗装されたホイールについても、同様の手入れを行なってください。

! 塗装面を磨かないでください。また、塗装面の手入れには、ワックスや研磨剤、光沢剤のようなペイント保護剤は使用しないでください。質感を損なったり、塗装面を損傷するおそれがあります。

! 塗装面に汚れが付着したときは、すみやかに取り除いてください。

! 樹脂類や油脂類などを塗装面に付着したままにしないでください。質感を損なったり、塗装面を損傷するおそれがあります。

! ワックスなどの汚れが付着したときは、シリコン除去剤を使用して、軽くたたきながら汚れを拭き取ってください。

! タールなどの汚れが付着したときは、タール除去剤を使用して、軽くたたきながら汚れを拭き取ってください。

! 高圧式スプレーガンやスチームクリーナーは使用しないでください。塗装面を損傷するおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! 塗装の修復などは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

ウインドウの清掃

⚠ **けがのおそれがあります**

フロントウインドウを清掃するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

ウインドウの外側と内側を水で湿らせた柔らかい布で清掃してください。

! ウインドウの内側を清掃するときは、乾いた布や研磨剤、有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。また、かたい物でこすらないでください。ウインドウを損傷するおそれがあります。

! フロントウインドウおよびリアウインドウの排水口にたまった枯葉やほこりなどを定期的に清掃してください。排水口が目詰まりを起こし、腐食の原因になります。

ワイパーブレードの清掃

⚠ **けがのおそれがあります**

ワイパーブレードを清掃するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

! ワイパーブレードを引っ張らないでください。ワイパーブレードを損傷するおそれがあります。

! ワイパーブレードの清掃は、頻繁には行なわないでください。また強くこすったりしないでください。表面のコーティングが損傷して異音などの原因になります。

▶ ワイパーアームを起こします。

▶ ワイパーブレードを、湿らせた柔らかい布で軽く拭きます。

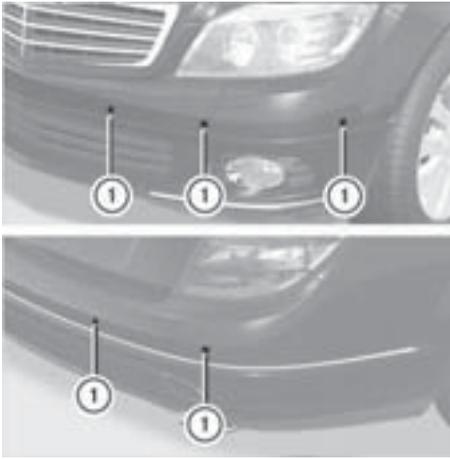
▶ ワイパーアームを元の位置に戻します。

! ワイパーアームを元の位置に戻すときは、ワイパーアームを持ってゆっくりと戻してください。ウインドウを損傷するおそれがあります。

ランプ類の清掃

ヘッドランプを含むランプ類は樹脂製レンズです。流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。

! 有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用したり、乾いた布などで強くこすらないでください。また、ヘッドランプウォッシャーは必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。

パークトロニックセンサー * の清掃

パークトロニックセンサー①を清掃するときは、流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。

! パークトロニックセンサーを清掃するときは、乾いた布、目の粗い布、かたい布などは使用しないでください。また、純正以外の手入れ用品を使用したり、強い力で乾拭きしないでください。センサーを損傷するおそれがあります。

! パークトロニックセンサーには、高圧式スプレーガンやスチームクリーナーを使用しないでください。センサーや塗装面を損傷するおそれがあります。

パーキングアシストリアビューカメラの清掃

セダン

▶ きれいな水で汚れを落とし、やわらかい布で拭き取ってください。

! カメラのレンズやカメラ周辺を清掃するときは、以下のことに注意してください。カメラを損傷するおそれがあります。

- 高圧式スプレーガンやスチームクリーナーを使用するときは、ノズルをカメラやカメラの周囲に近付けないでください。
- 強い力で乾拭きしないでください。
- 有機溶剤や強アルカリ洗剤などは使用しないでください。
- ボディにワックスをかけるときは、カメラにワックスが付着しないように注意してください。付着したときは、水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液で拭き取ってください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

マフラーの清掃

路面の小石や腐食性のある環境物質などの不純物の影響により、マフラーの表面にサビが発生することがあります。

定期的にマフラーを手入れすることにより、マフラーの輝きを保ち、また元の輝きを取り戻すことができます。

! ホイールクリーナーなど、アルカリ性のクリーナーでマフラーの手入れを行なわないでください。

マフラーの手入れについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

車内

⚠ **けがのおそれがあります**

清掃するときは、プラスチック部品の端部や、シート下部などにあるリンケージやヒンジなどの金属部分が露出した箇所に注意してください。触れるとけがをするおそれがあります。

- ウインドウに、極細の熱線やアンテナ線がプリントされている車種があります。ガラス面の内側を清掃するときは、湿った柔らかい布を使用して、熱線やアンテナ線に沿って拭き取り、傷を付けないように注意してください。

  また、乾いた布で拭いたり、研磨剤や有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。
- ウインドウに遮光フィルムなどを貼付すると、携帯電話やラジオなどの電波に影響をあたえるおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

COMAND ディスプレイの清掃

▶ 水で薄めた中性洗剤を含ませた不織布で拭き取ります。

! ディスプレイが熱くなっているときは、冷えるまで待ってください。

! COMAND ディスプレイを清掃するときに以下のものを使用しないでください。ディスプレイを損傷するおそれがあります。

- アルコール分を含んだ溶剤や有機溶剤、燃料
- 研磨剤を含んだクリーナー
- 家庭用クリーナー

また、強い力で COMAND ディスプレイをこすらないでください。ディスプレイの表面を損傷するおそれがあります。

プラスチックトリムの清掃

> ⚠ **けがのおそれがあります**
>
> エアバッグの収納部分には、有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。エアバッグが正常に作動しなくなり、けがをするおそれがあります。

! プラスチックトリムに、ステッカーやフィルム、芳香剤のボトルなどを貼付しないでください。プラスチックトリムを損傷するおそれがあります。

! プラスチックトリムに、化粧品や防虫剤、日焼け止めなどが付着しないようにしてください。表面の劣化の原因になります。

- ▶ 水で湿らせた不織布で拭き取ります。
- ▶ 頑固な汚れには専用のクリーナーを使用します。

  表面の色が一時的に変化しますが、乾くと元に戻ります。

ウッドトリムの清掃

- ▶ 水で湿らせた不織布で拭き取ります。
- ▶ 頑固な汚れには専用のクリーナーを使用します。

! 有機溶剤を含むクリーナーや研磨剤、ワックスなどは使用しないでください。ウッドトリムを損傷するおそれがあります。

シートベルトの清掃

- ▶ ぬるま湯か薄めた石鹸水を使用して拭き取ります。

! 化学薬品を含むクリーナーを使用しないでください。また、直射日光に当てたり、80℃以上の温度で乾燥させないでください。

車載品の収納場所

事故・故障のとき

⚠ **火災や爆発のおそれがあります**

燃料などが漏れている場合は、すぐにエンジンを停止してください。また、車に火気を近付けないように注意してください。火災が発生したり、爆発するおそれがあります。

事故が起きたとき

すみやかに、以下の処置を行なってください。

- 続発事故を防ぐため、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。
- 負傷者がいるときは、消防署に救急車の出動を要請するとともに、負傷者の救護を行なってください。ただし、頭部を負傷している場合は負傷者をむやみに動かさないでください。
- 警察に連絡してください。事故が発生した場所や事故状況、負傷者の有無や負傷状態などを報告してください。
- 相手の方の氏名や住所、電話番号などを確認してください。
- 自動車保険会社に連絡してください。

路上で故障したとき

安全な場所に停車して、非常点滅灯を点滅させてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。追突のおそれがあるため、乗員は車内に残らず、ただちに安全な場所に避難してください。

車が動かなくなったとき

セレクターレバーを N に入れて、パーキングブレーキを解除し、同乗者や付近の人に救援を求めて、安全な場所まで車を押して移動してください。このときは、車速感応ドアロックによるキーの閉じ込みに注意してください。

セレクターレバーを N に入れられないときは、乗員を安全な場所に避難させ、続発事故を防いでください。

! 踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急を要するときは非常信号用具も使用してください。

i セレクターレバーを P から動かせないときは、パーキングロックを手動で解除できます。詳しくは（▷319 ページ）をご覧ください。

非常信号用具

懐中電灯をフロントドアポケットに装備しています。

ℹ 新品時は電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙が挟まれています。使用するときは紙を取り除いてください。

懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。

停止表示板

停止表示板（セダン）

停止表示板はトランクリッドの裏側に収納されています。

停止表示板を取り外す

▶ トランクを開きます。

▶ 停止表示板 ① を押さえながら、ノブ ② をつまんでホルダーを外します。

▶ 停止表示板 ① を取り外します。

停止表示板（ステーションワゴン）

ラゲッジトレイ非装備車

ラゲッジトレイ装備車

停止表示板はラゲッジフロアボードの下に収納されています。

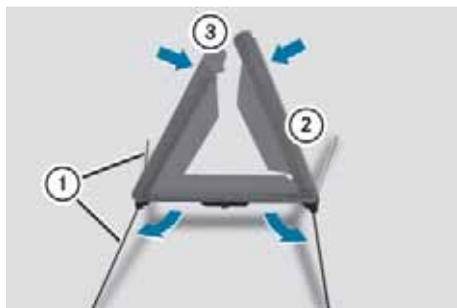
停止表示板を取り出す

▶ テールゲートを開きます。

▶ ラゲッジフロアボードを開きます（▷232 ページ）。

▶ 停止表示板ケース ① を取り出します。

▶ 停止表示板ケース ① から停止表示板を取り出します。

停止表示板の組み立て

▶ スタンド ① を引き出して、停止表示板を地面に立てます。

▶ 反射板 ② を開いて、先端のフック ③ をかみ合わせます。

※ 車種や仕様により、停止表示板の形状が異なります。

救急セット

ℹ 救急セットの中身が揃っていて、使用期限が過ぎていないことを確認してください。

セダン

救急セット ① はトランク内左側に収納されています。

ステーションワゴン

救急セットはラゲッジルーム右側のカバー内に収納されています。

救急セットを取り出す

▶ ハンドル ① を引いてカバーを開きます。

▶ 救急セット ② を取り出します。

車載工具

車載工具はトランクフロアボードまたはラゲッジフロアボードの下に収納されています。

⚠ **けがのおそれがあります**

車が車載のジャッキ * だけで支えられているときは、絶対に車の下に身体を入れないでください。ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。車載のジャッキ * は、タイヤを交換するために車を一時的に持ち上げる目的のみに設計されています。

⚠ **けがのおそれがあります**

ジャッキはかたくてすべりにくい、水平な場所でのみ使用してください。パーキングブレーキを確実に効かせ、さらに輪止めを使用して、車が動き出してジャッキから外れることを防いでください。

また、ジャッキを使用しているときに、エンジンを始動しないでください。

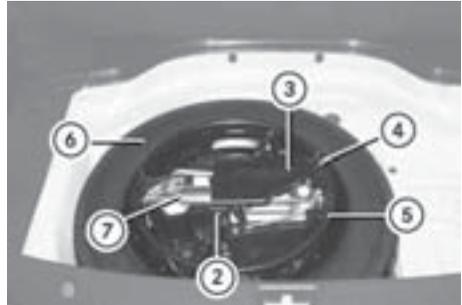
! トランクまたはラゲッジルーム内には金属が露出している部分や鋭利な部分があります。車載工具や応急用スペアタイヤ * を取り出すときは、必ず保護のため手袋を着用し、けがをしないように注意してください。

ℹ ジャッキを使用するときは、"パンクしたとき"（▷326 ページ）に記載されている安全に関する内容も必ずお読みください。

応急用スペアタイヤが車載されている車種

▶ トランクフロアボードまたはラゲッジフロアボードを開きます（▷232 ページ）。

ステーションワゴン

▶ ステーションワゴンは、ラゲッジルームトレイ ① を取り出します。

セダン

▶ フック ② を押しながらカバー ③ を開きます。

ℹ ノブ ④ を押して、車載工具 ⑦ をケースごとトレイ ⑤ から取り外すことができます。

万一のとき

* オプションや仕様により、異なる装備です。

車載工具には以下のものが収納されています。

- ホイールレンチ
- ジャッキ
- けん引フック
- 輪止め
- ヒューズラベル（英文）
- 手袋

応急用スペアタイヤを取り出す

▶ トレイ ⑤ を、反時計回りにまわして取り外します。

▶ 応急用スペアタイヤ ⑥ を取り出します。

! トレイや応急用スペアタイヤを取り出すときは、必ず保護のため手袋を着用してください。素手で作業するとけがをするおそれがあります。

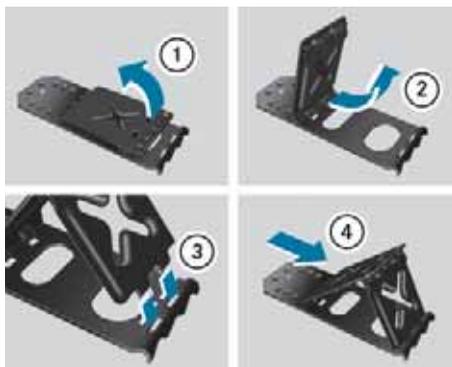
タイヤフィットが車載されている車種

▶ トランクフロアボードまたはラゲッジフロアボードを開きます（▷232ページ）。

セダン

車載工具には以下のものが収納されています。

- タイヤフィット
- 電動エアポンプ
- けん引フック
- ヒューズラベル（英文）

輪止め *

ジャッキを使用するときなどには、輪止めを使用し、車が動き出さないようにしてください。

輪止めを組み立てる

▶ プレートを引き起こします ①。

▶ 裏面のプレートを引き出します ②。

▶ 裏面のプレートの突起部分を、ベースプレートの開口部に差し込みます ③。

! 輪止めを使用するときは、図 ④ の矢印の方向にタイヤがあたるようにします。方向に注意してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

故障 / 警告メッセージ

⚠ 事故のおそれがあります

表示されるメッセージや警告は、一部の限られた装備についてであり、また表示される内容も限られています。故障表示の機能は運転者を支援する装置です。発生した故障や異常に対処して車の安全性を維持する責任は運転者にあります。

車の機能やシステムに故障や異常が発生すると、マルチファンクションディスプレイに警告や注意、対応方法などが表示されます。

故障 / 警告メッセージによっては警告音が鳴ることがあります。

重要度の高いメッセージは、赤色で表示されます。

故障 / 警告メッセージの内容、および以降に掲載されているメッセージに関する対応方法に従ってください。

故障 / 警告メッセージを表示させる

一部のメッセージは車両に記憶され、手動でメッセージを呼び出すことができます。

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、マルチファンクションディスプレイのメインメニューから " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ " を選択します。

故障や異常がある場合は、ディスプレイに "2 メッセージ " のように故障や異常の件数が表示されます。

故障や異常がない場合は、"0 メッセージ " と表示されます。

▶ ▲ または ▼ を押して、" メッセージ " を選択します。

▶ OK を押します。

▶ ▲ または ▼ を押して、故障 / 警告メッセージを表示します。

故障や異常がない場合は、" 故障はありません " と表示されます。

⚠ 事故のおそれがあります

走行中にステアリングのスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながら操作すると、事故を起こすおそれがあります。

故障 / 警告メッセージの表示を消す

重要度の高いメッセージは消すことができません。故障や異常の原因が解決するまで、故障 / 警告メッセージが繰り返し表示されます。

一部のメッセージは車両に記憶され、手動でメッセージを呼び出すことができます。

メッセージはマルチファンクションステアリングにより消すことができます。

▶ メッセージが表示されているときに、ステアリングの OK または ↩ スイッチを押します。

⚠ 事故のおそれがあります

メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障した場合は、メッセージなどが表示されなくなります。

走行速度や外気温度、警告灯 / 表示灯、メッセージやシステム故障の内容など走行に必要な情報を得ることができなくなります。車両操縦性などに影響を与えているおそれがありますので、状況に応じた運転を行なってください。

走行する前に、メーターパネルの表示灯 / 警告灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイが表示されることを確認してください。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ ハイビーム表示灯や方向指示表示灯などを除いた表示灯や警告灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイが表示されることを確認します。

※ 記載の故障 / 警告メッセージは、取扱説明書作成時点のものです。マルチファンクションディスプレイの表記などは、予告なく変更・追加されることがあります。

文字メッセージ

⚠ 事故のおそれがあります

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
P レンジにシフトしてください		キーレスゴー装備車： セレクターレバーが P 以外に入っているときに、キーレスゴースイッチでエンジンを停止するか、イグニッション位置を **0** か **1** にして、運転席ドアを開いた。車を施錠しようとすると、警告音も鳴った。 ▶ セレクターレバーを P に入れてください。
エンジン始動 P または N にシフト		セレクターレバーが D か R に入っているときに、キーレスゴー操作 * でエンジンを始動しようとした。 ▶ セレクターレバーを P か N に入れてください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
タイヤ空気圧 タイヤを点検してください		⚠ **事故のおそれがあります** タイヤ空気圧警告システムがタイヤからの急激な空気の漏れを検知した。警告音も鳴った。 ▶ 周囲の交通状況に注意しながら、急ハンドルや急ブレーキを避けて停車してください。 ▶ タイヤを点検してください。 ▶ 必要であれば該当するタイヤを交換するか、修理してください。 ▶ タイヤ空気圧を点検し、必要であれば空気圧を適正にしてください。 ▶ 適正なタイヤ空気圧に調整し、またはタイヤを交換 / 修理した後に、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（▷260 ページ）。
タイヤ空気圧 警告システム 故障		タイヤ空気圧警告システムに異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
空気圧調整後 タイヤ空気圧 警告システム 再始動		タイヤ空気圧警告システムの警告が行なわれた。 ▶ すべてのタイヤの空気圧を適正値に調整してください。 ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。
プレセーフ 故障 取扱説明書を参照		⚠ **けがのおそれがあります** PRE-SAFE®* に異常がある。 エアバッグなど他の乗員保護装置の機能は確保されている。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
クルーズコントロールと スピードリミッター 故障		クルーズコントロールまたは可変スピードリミッターが故障している。警告音も鳴った。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
クルーズコントロール – – – km/h		クルーズコントロールの作動条件を満たしていない。例えば、約 30km/h 以下の速度でクルーズコントロールを作動させようとした。 ▶ 可能であれば、約 30km/h 以上の速度で走行し、クルーズコントロールを設定してください。 ▶ クルーズコントロールの作動条件を確認してください。

＊オプションや仕様により、異なる装備です。

イラストメッセージ

⚠ 事故のおそれがあります

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
		セダン：トランクが完全に閉じていない状態で走行している。警告音も鳴った。 ▶ トランクを確実に閉じてください。
		ステーションワゴン：テールゲートが完全に閉じていない状態で走行している。警告音も鳴った。 ▶ テールゲートを確実に閉じてください。
または		⚠ **事故のおそれがあります** 盗難防止警報システム装備車： ボンネットが完全に閉じていない状態で走行している。警告音も鳴った。 ▶ 周囲の交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ ボンネットを確実に閉じてください。
		ドアが完全に閉じていない状態で走行している。警告音も鳴った。 ▶ ドアを確実に閉じてください。
	ABS と ESP 現在 作動 不可 取扱説明書 を参照	⚠ **事故のおそれがあります** 一時的に ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®*、ヒルスタートアシストの機能が作動しない状態になっている。例えばシステムの自己診断が完了していない可能性がある。メーターパネルの と 、 も点灯している。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 ▶ わずかにステアリングを操作しながら、約 20km/h 以上の速度で、短い距離を注意して走行してください。 ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®*、ヒルスタートアシストが作動できる状態になると、メッセージは消えます。 メッセージが消えないとき： ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ABS と ESP 現在 作動 不可 取扱説明書 を参照	⚠ **事故のおそれがあります** 電圧低下のため、一時的に ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®*、ヒルスタートアシストの機能が作動しない状態になっている。メーターパネルの と 、 も点灯している。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 ▶ 注意して走行してください。 メッセージが消えると、上記の機能は作動できる状態になります。 メッセージが消えないとき： ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ABS と ESP 故障 取扱説明書 を参照	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®*、ヒルスタートアシストの機能が作動しない状態になっている。メーターパネルの と 、 も点灯している。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ESP 故障 取扱説明書を 参照	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ESP®、BAS、PRE-SAFE®*、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプの機能が作動しない状態になっている。メーターパネルの と も点灯している。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ESP 現在 作動不可 取扱説明書を 参照	⚠ **事故のおそれがあります** 一時的に ESP®、BAS、PRE-SAFE®*、ヒルスタートアシストの機能が作動しない状態になっている。メーターパネルの [警告灯] と [OFF表示灯] も点灯している。例えばシステムの自己診断が完了していない可能性がある。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ 注意しながら、約 20km/h 以上の速度でゆるいカーブを少しの間走行してください。 メッセージが消えると、上記の機能は作動できる状態になります。 メッセージが消えないとき： ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
		⚠ **事故のおそれがあります** 電圧低下のため、ESP®、BAS、PRE-SAFE®*、ヒルスタートアシストの機能が一時的に作動しない状態になっている。メーターパネルの [警告灯] と [OFF表示灯] も点灯している。例えばバッテリーが充電されていない可能性がある。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ 注意して走行してください。 メッセージが消えると、上記の機能は回復します。 メッセージが消えないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
		⚠ **事故のおそれがあります** メッセージが表示され、同時にメーターパネルの [警告灯] が点滅したときは、駆動輪のブレーキの過熱を防ぐため ETS の機能が解除されている。 ▶ メッセージが消え、[警告灯] も消灯するまで、ブレーキを冷やしてください。 ETS は再び待機状態になります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
[バッテリー表示灯]		以下の理由により、バッテリーが充電されていない。警告音も鳴った。 • オルタネーターの故障 • V ベルトが切れている • 電気システムの故障 ▶ 周囲の交通状況に注意しながら、安全に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ ボンネットを開いてください。 ▶ V ベルトを点検してください。 **V ベルトが切れているとき** ! 走行しないでください。オーバーヒートしてエンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 **V ベルトが損傷していないとき** ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
[ブレーキパッド表示灯]	ブレーキ パッド 摩耗	ブレーキパッドの摩耗が限界に達している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
[ブレーキ警告灯]	ブレーキ液 レベル 点検してください	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。さらに、メーターパネルの [ブレーキ警告灯] が点灯し、警告音も鳴った。 ▶ 周囲の交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
[ブレーキ警告灯]	パーキング ブレーキ 解除してください	パーキングブレーキを解除しないで走行している。警告音も鳴った。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
(!)	EBD, ABS, ESP 故障 取扱説明書を参照	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、EBD、ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®*、ヒルスタートアシストの機能が解除されている。さらに、メーターパネルの [警告灯] と [OFF警告灯]、[ABS警告灯] が点灯し、警告音も鳴った。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
[冷却水温警告灯]	冷却水 停車して エンジンを 停止	冷却水の温度が高くなりすぎている。警告音も鳴った。 ▶ 周囲の交通状況に注意しながら、安全に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ 雪や泥、氷などにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ メッセージが消えるまで待ってからエンジンを始動してください。エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ エンジン冷却水温度計（▷136 ページ）で冷却水温度を点検してください。 ▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
		V ベルトが切れている可能性がある。 ▶ 周囲の交通状況に注意しながら、安全に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ ボンネットを開いてください。 ▶ V ベルトを点検してください。 **V ベルトが切れているとき** ! 走行を続けないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 **V ベルトが損傷していないとき** ▶ メッセージが消えるまではエンジンを始動しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ エンジン冷却水温度計（▷136 ページ）で冷却水温度を点検してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
[冷却水温警告灯]		ラジエターの冷却ファンに異常がある。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行することができます。 ▶ その場合は、山道での走行などでエンジンに大きな負荷をかけたり、発進 / 停止を繰り返さないでください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	冷却水を点検してください 取扱説明書を参照	冷却水量が不足している。 ▶ 冷却水補給時の注意事項を読んでから、冷却水を補給してください。 ▶ 通常よりも頻繁に冷却水を補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	パワーステアリング 故障 取扱説明書を参照	⚠ **事故のおそれがあります** パワーステアリングのパワーアシストが低下している。ステアリング操作に非常に大きな力が必要になる。警告音も鳴った。 ▶ 大きな力でステアリングが操作できるか確認してください。 **安全にステアリングが操作できるとき** ▶ 注意しながらメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 **安全にステアリングが操作できないとき** ▶ 走行を続けないでください。最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
	左ロービーム[1)]	左ヘッドランプ（ロービーム）が切れている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	オートライト 故障	ランプセンサーに異常がある。下向きのヘッドランプが点灯する。 ▶ ヘッドランプの点灯モードを手動点灯モードにしてください（▷153 ページ）。 ▶ ランプスイッチで、ヘッドランプを点灯 / 消灯してください（▷101 ページ）。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	インテリジェント ライトシステム 故障	インテリジェントライトシステムに異常がある。インテリジェントライトシステムは作動しないが、ランプは通常通り点灯する。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	給油の際に オイルレベル を点検	エンジンオイル量が限界まで減っている。警告音も鳴った。 ▶ エンジンオイル量を点検してください。 ▶ 必要であればエンジンオイルを補給してください。 ▶ 通常よりも頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、エンジンからオイルが漏れていないか点検してください。

1）他のランプが切れたときは、この例以外のメッセージが表示されます。
車外ランプのいずれかに異常が発生すると、その箇所が表示されます。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	キーの電池を交換してください	キーの電池が消耗している。 ▶ 電池を交換してください。
	キーを認識できません（赤色で表示）	キーレスゴー装備車：走行を開始したときにこのメッセージが表示されたときは、システムが車内にキーがないと判断している。警告音も鳴った。 エンジンを停止すると、車の施錠やエンジン始動ができなくなる。 ▶ 周囲の交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ キーを探してください。
		キーレスゴー装備車：走行していて、キーが車内にあるときにこのメッセージが表示されたときは、電磁波などの影響により、システムがキーを認識することができない。警告音も鳴った。 ▶ 周囲の交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外してください。 ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んで操作を行なってください。
	キーを認識できません（白色で表示）	キーレスゴー装備車：システムがキーを認識することができない。 ▶ キーが車内にあるときは、キーの位置を変えてください。 それでもキーがシステムに認識されないとき： ▶ エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外してください。 ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んで操作を行なってください。
	キーが車内にあります	キーレスゴー装備車：キーレスゴー操作での施錠時にシステムが車内にキーがあると判断している ▶ キーを携帯して、車外から操作を行なってください。
	キーを交換してください	キーが機能しなくなっている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	キーが違います	エンジンスイッチに別の車両のキーを差し込んでいる。 ▶ 正しいキーを使用してください。
	キーを抜いてください	エンジンスイッチにキーを差し込んでいる。 ▶ キーを抜いてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ドアを閉めてから ロックしてください	キーレスゴー装備車：キーレスゴー操作での施錠時にいずれかのドアが開いている。 警告音も鳴った。 ▶ すべてのドアを閉じてから、再度施錠操作を行なってください。
	スタートボタンを外し キーを入れて ください	キーレスゴー装備車:システムが一時的に故障しているか異常がある。 警告音も鳴った。 ▶ エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外し、エンジンスイッチにキーを差し込んで操作を行なってください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	左リア　バックレスト ロックされていません 右リア　バックレスト ロックされていません	⚠ **けがのおそれがあります** 分割可倒式リアシート装備車（セダン）: 左側リアシートのバックレスト、または右側リアシートのバックレストがロックされていない。 警告音も鳴った。 ▶ バックレストを確実にロックしてください。
	SRS システム 故障 工場で点検	⚠ **けがのおそれがあります** 乗員保護補助装置が故障している。メーターパネルの [エアバッグ表示灯] も点灯している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	フロント左 故障 工場で点検 フロント右 故障 工場で点検	⚠ **けがのおそれがあります** フロント左側、またはフロント右側の乗員保護補助装置が故障している。メーターパネルの [エアバッグ表示灯] も点灯している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	リア左 故障 工場で点検 リア右 故障 工場で点検	⚠ **けがのおそれがあります** リア左側、またはリア右側の乗員保護補助装置が故障している。メーターパネルの [エアバッグ表示灯] も点灯している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	左ウインドウバッグ 故障 工場で点検 右ウインドウバッグ 故障 工場で点検	⚠ **けがのおそれがあります** 左側、または右側のウインドウバッグが故障している。メーターパネルの も点灯している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
		燃料残量がほとんどない。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
	給油してください	燃料の残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
	ウォッシャ液を補充して下さい	リザーブタンクのウォッシャー液量が最低レベルまで減っている。 ▶ ウォッシャー液を補給してください。

トラブルの原因と対応

⚠ 事故のおそれがあります

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

スイッチやボタンの表示灯 / 警告灯

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
シートヒーター * が短時間で停止したり、作動しない。	多くの電気装備が使用されているために電圧が低下している。 ▶ リアデフォッガーやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。
ダイナミックハンドリングパッケージ * のスペシャルスポーツモードスイッチの表示灯が点灯している。	コンフォートモードを選択してもスイッチの表示灯が消灯しないときは、ダイナミックハンドリングパッケージに異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
エアコンディショナーが停止しているときに AC スイッチ A/C の表示灯が点灯している。 AC スイッチ A/C を押しても、除湿 / 冷房されない。	故障のため、除湿 / 冷房機能が解除されている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
リアデフォッガーが短時間で停止したり、作動しない。	多くの電気装備が使用されているために電圧が低下している。 ▶ 読書灯やルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すると、リアデフォッガーは自動的に作動します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

メーターパネルの表示灯 / 警告灯

トラブル		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ABS に異常があるため、機能が解除されている。そのため ESP®、BAS、EBD、PRE-SAFE®*、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプの機能も解除されている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックする可能性がある。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
		ABS のコントロールユニットに異常があるときは、ナビゲーションやオートマチックトランスミッションなど、他のシステムにも異常がある可能性がある。
		⚠ **事故のおそれがあります** ABS の機能が一時的に解除されている。そのため ESP®、BAS、EBD などの機能も解除されている。 自己診断が完了していない。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには車輪がロックする可能性がある。 ▶ 注意しながら、約 20km/h 以上の速度でゆるいカーブを少しの間走行してください。 警告灯が消えると、上記の機能は作動できる状態になります。 警告灯が消えないとき： ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

トラブル		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 	エンジンがかかっているときに黄色の ESP® 表示灯と ESP® オフ表示灯、黄色の ABS 警告灯が点灯する。警告音も鳴った。	⚠ **事故のおそれがあります** EBD に異常があるため機能が解除されている。そのため、ABS、BAS、ESP®、PRE-SAFE®*、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプの機能も解除されている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックする可能性がある。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	エンジンがかかっているときに黄色の ESP® 表示灯と ESP® オフ表示灯、黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ABS と ESP® に異常があるため機能が解除されている。そのため、BAS、PRE-SAFE®*、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプの機能も解除されている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックする可能性がある。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	走行中に黄色の ESP® 表示灯が点滅する。	⚠ **事故のおそれがあります** 車が横滑りをしているか車輪が空転しているため、ESP® やトラクションコントロールなどが作動している。 クルーズコントロールが解除される。 ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中はアクセルペダルをゆるめてください。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ▶ ESP® の機能を解除しないでください(雪道などでの走行を除く)。 C 63 AMG については、(▷51 ページ〜)をご覧ください。
		車輪が空転しているが、駆動輪のブレーキの過熱を防ぐため ETS の機能が解除されている。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ブレーキが冷えれば、ETS は自動的に待機状態になります。 メッセージが消え、ESP® 表示灯も消灯します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

	トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
(ESP OFF表示灯)	エンジンがかかっているときに黄色のESP® オフ表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ESP® の機能が解除されている。 車が横滑りしたときや車輪が空転したときに、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができない。 ▶ ESP® を待機状態にしてください（雪道などでの走行を除く）。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ESP® を待機状態にできないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で ESP® の点検を受けてください。
SPORT	C 63 AMG： エンジンがかかっているときに黄色のスポーツハンドリングモード表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** スポーツハンドリングモードを設定している。 スポーツハンドリングモードを設定したときは、車が横滑りしたときや車輪が空転したときに ESP® は制限された内容で作動するため、車両操縦性や走行安定性の確保は限られたものになる。 ▶ ESP® を待機状態にしてください（雪道などでの走行を除く）。 ESP® を待機状態にできないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で ESP® の点検を受けてください。
(ESP表示灯) (ESP OFF表示灯)	エンジンがかかっているときに黄色の ESP® 表示灯と ESP® オフ表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ESP®、BAS、PRE-SAFE®*、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプの機能が作動しない状態になっている。 車が横滑りしたときや車輪が空転したときに、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができない。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

トラブル		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	エンジンがかかっているときに赤色のエアバッグシステム警告灯が点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** 乗員保護装置に異常がある。 エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しない可能性がある。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	走行中に赤色のブレーキ警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	パーキングブレーキを解除しないで走行している。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。 警告灯は消灯し、警告音も鳴り止みます。
	エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 ▶ 周囲の交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行を続けないでください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 絶対にブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
	エンジンがかかっているときに赤色の冷却水量・冷却水温度警告灯が点灯する。エンジン冷却水温度計の指針が下限にある。	冷却水温度計のセンサーが故障している。 冷却水の温度が計測されていない。冷却水の温度が高くなりすぎている場合は、エンジンを損傷するおそれがある。 ▶ 周囲の交通状況に注意しながら、安全に停車してください。状況を問わず、走行を続けないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

トラブル		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	エンジンがかかっているときに赤色の冷却水量・冷却水温度警告灯が点灯する。	リザーブタンクの冷却水量が少なすぎる。 冷却水量が正常なときは、ラジエターへの送風が遮られているか、ラジエターの冷却ファンが故障している可能性がある。 冷却水量の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されない。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら安全に停車し、エンジンを停止してください。 ▶ エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えた後、点検時の注意事項を守りながら冷却水量を点検して、冷却水が不足している場合は補給してください。 ▶ 通常よりも頻繁に冷却水を補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ▶ 雪や泥、氷などにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ 冷却水温度が 120℃以下のときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行を続けてください。 ▶ 山道の走行や発進と停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷がかかる走行は避けてください。
	エンジンがかかっているときに赤色の冷却水量・冷却水温度警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	冷却水温度が約 120℃を超えている。ラジエターへの送風が遮られているか、リザーブタンクの冷却水量が不足している可能性がある。 エンジンが十分に冷却されないため、エンジンを損傷するおそれがある。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら安全に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ エンジンと冷却水を冷やしてください。
	エンジンがかかっているときに黄色のエンジン警告灯が点灯する。	以下のものが故障している可能性がある。 • エンジン制御システム • 燃料噴射システム • 排気システム • イグニッションシステム • 燃料システム 排出ガスの成分が基準値を超えたために、エンジンがエマージェンシーモードになっている可能性がある。 ▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

<table>
<tr><th colspan="2">トラブル</th><th>考えられる原因および症状 / ▶ 対応</th></tr>
<tr><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">フロントドアを閉じてエンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。</td><td>⚠ けがのおそれがあります
運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。
▶ シートベルトを着用してください。
シートベルト警告灯が消灯します。</td></tr>
<tr><td>⚠ けがのおそれがあります
助手席シートの上に荷物を置いている。
▶ 助手席シートに置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。
シートベルト警告灯が消灯します。</td></tr>
<tr><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">赤色シートベルト警告灯が点滅し、断続的な警告音も鳴っている。</td><td>⚠ けがのおそれがあります
運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない状態で走行し、速度が約 25km/h を超えた。
赤色のシートベルト警告灯が点滅し、断続的な警告音も鳴っている。
▶ シートベルトを着用してください。
シートベルト警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。</td></tr>
<tr><td>⚠ けがのおそれがあります
助手席シートの上に荷物を置いた状態で走行し、速度が約 25km/h を超えた。
▶ 助手席シートに置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。
シートベルト警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。</td></tr>
<tr><td></td><td>エンジンがかかっているときに黄色の燃料残量警告灯が点灯する。</td><td>燃料の残量が少なくなっている。
▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。</td></tr>
</table>

警告音

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
盗難防止警報 * が作動した。	盗難防止警報システム * が待機状態のときに、運転席ドアをエマージェンシーキーで解錠して開いた。または、車内からドアやテールゲートを開くか、ボンネットのロックを解除した。 ▶ 警報を停止してください（▷55 ページ）。
警告音が鳴った。	マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されている。 ▶ 故障 / 警告メッセージをご覧ください（▷290 ページ～）。
	パーキングブレーキを解除しないで走行している。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。
	エンジンスイッチからキーを抜いてあるときかイグニッション位置が **0** のときに、車幅灯を消灯しないで運転席ドアを開いた。 ▶ ランプスイッチを A の位置にしてください。
エンジンを始動すると、警告音が約 6 秒間鳴る。	⚠ **けがのおそれがあります** 運転席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください。

事故のとき

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
燃料が漏れている。	⚠ **火災のおそれがあります** 燃料供給システム、または燃料タンクが損傷している。 ▶ ただちにエンジンを停止し、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
損傷の程度がわからない。	▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
損傷箇所が見当たらない。	▶ 通常通りエンジンを始動してください。
運転席と助手席のヘッドレストが前方に動いた。	追突などの事故により、NECK PRO アクティブヘッドレスト * が作動した。 ▶ NECK PRO アクティブヘッドレスト * をリセットしてください（▷320 ページ）。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

燃料と燃料タンク

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
燃料が漏れている。	⚠ 火災や爆発のおそれがあります 燃料供給システム、または燃料タンクに問題がある。 ▶ ただちにエンジンを停止し、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
燃料給油フラップが開かない。	燃料給油フラップが解錠されていない。またはキーの電池が消耗している。 ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠してください。 ▶ トランクまたはテールゲートを開いてください（▷318 ページ）。 ▶ 燃料給油フラップを手動で解錠してください（▷319 ページ）。
	燃料給油フラップは解錠されているが、開閉機構に異常がある。 ▶ 燃料給油フラップを手動で解錠してください（▷319 ページ）。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

エンジン

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンが始動しない。 イグニッション位置を **3** にするとスターターモーターの音がする。	• エンジンの電気システムに異常がある。 • 燃料供給に異常がある。 • バッテリーがあがっているか、充電されていないため、バッテリーの電圧が低くなっている。 ▶ エンジンを再始動する前に、イグニッション位置を **0** に戻すか、メーターパネルの表示灯 / 警告灯が消灯するまで、キーレスゴースイッチ * を押してください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください。 ただし、エンジン始動操作を長時間何度も行なうと、バッテリーがあがるおそれがあります。 何度始動を試みても、エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンが始動しない。 イグニッション位置を **3** にするとスターターモーターの音がする。 燃料残量警告灯が点灯していて、燃料計の指針が 0 を示している。	燃料タンクが空になっている。 ▶ 燃料を給油してください。
エンジンが始動しない。 イグニッション位置を **3** にしてもスターターモーターの音がしない。	バッテリーがあがっているか、充電されていないため、バッテリーの電圧が低くなっている。 ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（▷343 ページ）。 他車のバッテリーを電源としてもエンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
	過度の負荷により、スターターモーターが過熱している。 ▶ スターターモーターが冷えるまで、約 2 分間待ってください。 ▶ 再度、始動操作をしてください。 エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
エンジンの回転が滑らかでなく、ミスファイアも起きている。	エンジンの電気システム、またはエンジン制御システムに異常がある。 ▶ アクセルペダルを踏みすぎないでください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 触媒を損傷するおそれがあります。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
冷却水温度が約 120℃を超えている。 冷却水量・冷却水温度警告灯が点灯し、警告音も鳴った。	リザーブタンクの冷却水量が不足している。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ すみやかに停車して、エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えてから冷却水量を点検し、必要であれば、冷却水補給時の注意事項を守りながら、冷却水を補給してください（▷253 ページ）。
	冷却水量が正常なときは、ラジエターの冷却ファンが故障している可能性がある。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで運転することができます。 ▶ 山道の走行や発進と停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷がかかる走行は避けてください。

オートマチックトランスミッション

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
トランスミッションが正しく変速しない。	トランスミッションオイルが減っている。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。
加速性能が低化している。 トランスミッションが変速しない。	トランスミッションに異常があり、エマージェンシーモードになっている。 2 速ギアかリバースギアで走行できる場合があります。 ▶ 停車してください。 ▶ セレクターレバーを P に入れてください。 ▶ エンジンを停止して、イグニッション位置を **0** にするか、メーターパネルの表示灯 / 警告灯が消灯するまで、キーレスゴースイッチ * を押してください。 ▶ 約 10 秒以上待ってから、エンジンを再始動します。 ▶ セレクターレバーを D に入れます。 2 速ギアになります。 または ▶ セレクターレバーを P に入れます。 リバースギアになります。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

パークトロニック *

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯して約2秒間警告音が鳴り、約20秒後にパークトロニックの機能が解除され、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯した。	パークトロニックに異常があり、機能が停止している。 ▶ トラブルが続くようであれば、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でパークトロニックの点検を受けてください。
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯し、約20秒後にパークトロニックの機能が解除された。	パークトロニックセンサーが汚れているか、付着物などがある。 ▶ パークトロニックセンサーを清掃してください (▷279 ページ)。 ▶ 再度、イグニッション位置を **2** にしてください。
	外部の電波や超音波の干渉などにより、機能が解除されている。 ▶ 場所を変えて、パークトロニックの作動を確認してください (▷174 ページ)。

ヘッドランプ

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ヘッドランプの内側が曇っている。	外気の湿度が高くなっている。 ▶ ヘッドランプを点灯して走行してください。 しばらく走行すると、ヘッドランプ内側の曇りは取れます。
	ヘッドランプユニットが密閉されていないため、水分が浸入している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でヘッドランプの点検を受けてください。

ワイパー

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ワイパーが正しく作動しない。	葉や雪など、ウインドウに障害になる物が付着している。 ワイパーモーターの作動が停止している。 ▶ 安全のため、イグニッション位置を **0** にして、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ 再度、ワイパーを作動させてください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ワイパーが作動しない。	⚠ **事故のおそれがあります** ワイパーモーターが故障している。 ▶ コンビネーションスイッチをまわして、別のモードを選択してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でワイパーの点検を受けてください。
ノズルからのウインドウウォッシャー液がフロントウインドウの中央付近に噴射されない。	ノズルの角度が適正でない。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、ノズルの角度を調整してください。

ウインドウ

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ドアウインドウが閉じない。	ドアウインドウとドアフレームの間に障害になる物が挟まっている。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ ドアウインドウが閉じることを確認してください。
	ドア内側のガイドレールなどに障害になる物があり、ドアウインドウの上昇を妨げている。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ ドアウインドウが閉じることを確認してください。
	原因が分からない場合。 ▶ ドアウインドウが閉じるまでドアウインドウスイッチを引きます。

ドアミラー

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ドアミラーが無理に前方 / 後方に曲げられた。	手動格納式ドアミラー装備車： ▶ 手でドアミラーユニットを正しい位置に動かしてください。 電動格納式ドアミラー装備車： ▶ ドアミラー格納 / 展開スイッチ（▷92 ページ）を、ギアが噛み合う音が聞こえるまで押します。 ドアミラーユニットのギアが噛み合うと、通常通りドアミラーを格納 / 展開できるようになります。

キー

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
リモコン操作で解錠 / 施錠できない。	キーの電池が消耗している。 ▶ キーの先端部を運転席ドアハンドルに向け、約 50cm 程度の至近距離から再度リモコン操作をしてください。 リモコン操作ができないとき： ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠 / 施錠してください（▷316、317 ページ）。 ▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください（▷321 ページ）。
	キーが故障している。 ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠 / 施錠してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーの点検を受けてください。
キーレスゴー操作 * で解錠 / 施錠できない。	車が解錠されないまま長時間経過したため、キーレスゴー * の機能が解除された。 ▶ ドアハンドルを引き、エンジンスイッチにキーを差し込んで **2** の位置にしてください。
	キーレスゴー * が故障している。 ▶ リモコン操作で車を施錠 / 解錠してください。 キーの先端部を運転席ドアハンドルに向け、至近距離から操作してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーの点検を受けてください。
	強い電波や超音波などの干渉を受けている。 ▶ リモコン操作で車を施錠 / 解錠してください。 キーの先端部を運転席ドアハンドルに向け、至近距離から操作してください。
キーを紛失した。	▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、紛失したキーを無効にしてください。 新しいキーの入手については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。 ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。
エマージェンシーキーを紛失した。	▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
キーによるエンジン始動ができない。	バッテリーの電圧が低下している。 ▶ シートヒーターやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してから再度エンジンスイッチをまわしてください。 それでもエンジンスイッチがまわらないとき： ▶ バッテリーを点検し、必要であれば充電してください。 または ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（▷343 ページ）。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
	ステアリングロックが効いている。 ▶ ステアリングを軽く左右にまわしながら、エンジンスイッチからキーを抜き、再度差し込んでください。
キーが車内にある状態で、キーレスゴースイッチ * を押しても、エンジンが始動しない。	ドアが開いているため、キーが認識されにくくなっている。 ▶ ドアを閉じてから、再度始動操作を行なってください。
	強い電波や超音波などの干渉を受けている。 ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んで、始動操作を行なってください。

車を使用しないとき

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンを始動しない期間が約 4 週間以上におよぶとき。	バッテリーが完全にあがると、バッテリーを損傷するおそれがある。 ▶ バッテリーからケーブルを外すか、バッテリー充電器を接続してください。 ℹ バッテリーの点検はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。
エンジンを始動しない期間が約 6 週間以上におよぶとき。	車を長期間にわたって使用しないと、不具合が発生する可能性がある。 ▶ 対応について、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

非常時の解錠 / 施錠

エマージェンシーキー

リモコン操作やキーレスゴー操作 * で車両を解錠できないときは、エマージェンシーキーで運転席ドアやトランクまたはテールゲートを解錠できます。

車を施錠した後にエマージェンシーキーで運転席ドアやトランクまたはテールゲートを解錠して開くと、盗難防止警報 * が作動します。

以下のいずれかの操作をすると、警報が停止します。

- エンジンスイッチにキーを差し込む
- キーのいずれかのボタンを押す

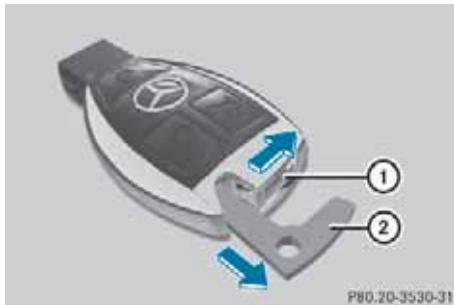
キーレスゴー装備車は、以下のいずれかの操作を行なっても、警報が停止します。

- キーが左右側またはトランク / テールゲート側のキーレスゴーアンテナの検知範囲（▷63 ページ）にあるときに、ドアハンドルに触れるか、トランク / テールゲートのハンドルを引くか、テールゲートのキーレスゴースイッチ * を押す
- キーが車室内のキーレスゴーアンテナの検知範囲（▷63 ページ）にあるときに、エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押す

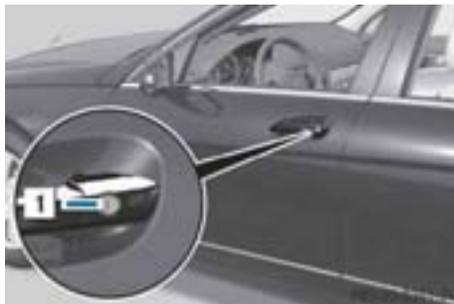
エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠しても、他のドア、トランクまたはテールゲート、燃料給油フラップは解錠されません。

燃料給油フラップを解錠する

▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。

エマージェンシーキーを使用する

▶ ストッパー ① を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー ② をキーから引き抜きます。

運転席ドアの解錠

リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車両を解錠できないときは、以下の操作を行なってください。

左ハンドル車

▶ エマージェンシーキーを、運転席ドアのドアハンドルのキーシリンダーに差し込みます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ エマージェンシーキーを解錠の位置 1 にまわします。

運転席ドアのロックノブが上がり、運転席ドアが解錠されます。

ℹ 左ハンドル車は反時計回りに、右ハンドル車は時計回りにまわします。

▶ エマージェンシーキーを元の位置にまわして、キーシリンダーから抜きます。

車両の施錠

リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車両を施錠できないときは、以下の操作を行なってください。

▶ 運転席ドアを開きます。

▶ 助手席ドアとリアドア、トランクまたはテールゲートを閉じます。

▶ ドアロックスイッチ（施錠）を押します（▷68 ページ）。

▶ 助手席ドアとリアドアのロックノブが下がっていることを確認します。

下がっていないときは、ロックノブを押し込みます。

▶ 運転席ドアから車を降ります。

▶ 運転席ドアを閉じます。

左ハンドル車

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ エマージェンシーキーを、運転席ドアのドアハンドルのキーシリンダーに差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを施錠の位置 1 にまわします。

運転席ドアのロックノブが下がり、運転席ドアが施錠されます。

ℹ 左ハンドル車は時計回りに、右ハンドル車は反時計回りにまわします。

▶ エマージェンシーキーを元の位置にまわして、キーシリンダーから抜きます。

セダン

▶ トランクが施錠されていることを確認します。

施錠されていないときは、トランクを独立施錠します。

ステーションワゴン

▶ テールゲートが施錠されていることを確認します。

ドアロックスイッチが作動せず、ロックノブを押し下げて施錠したときは、状況によりテールゲートが施錠されていないことがあります。このときは車両を完全に施錠することはできません。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

トランクの解錠（セダン）

リモコン操作またはキーレスゴー操作 * でトランクを解錠できないときは、以下の操作を行なってください。

! トランクを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。また、トランクの周りに障害物がなく、人や物に当たるおそれがないことを確認してください。

! エマージェンシーキーで解錠した後に、エマージェンシーキーをキーシリンダーから抜いてトランクを閉じると再び施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。

▶ エマージェンシーキーを、トランクのキーシリンダーに差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを反時計回りにまわして、② の位置にします。

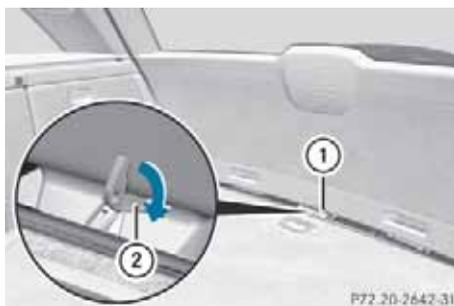
トランクが解錠して開きます。

▶ エマージェンシーキーを ① の位置にまわして、キーシリンダーから抜きます。

テールゲートの解錠（ステーションワゴン）

リモコン操作またはキーレスゴー操作 * でテールゲートを解錠できないときは、以下の操作を行なってください。

! テールゲートを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。また、テールゲートの周りに障害物がなく、人や物に当たるおそれがないことを確認してください。

! エマージェンシーキーで解錠した後にテールゲートを閉じると再び施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。

▶ エマージェンシーキー ② をテールゲート裏側の挿入口 ① に差し込みます。

▶ テールゲートを押し上げながら、エマージェンシーキー ② を時計回りに約 90° まわしてロックを解除し、テールゲートを開きます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

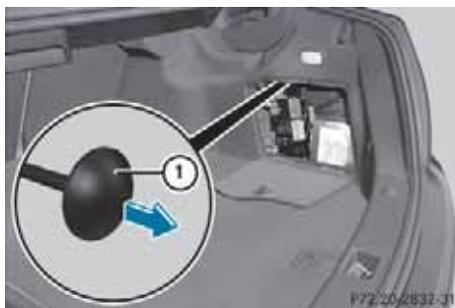
燃料給油フラップの解錠

⚠ **けがのおそれがあります**

トランクまたはラゲッジルーム右側のヒューズボックス周囲には、金属が露出している部分や鋭利な部分があります。けがをしないように注意してください。

燃料給油フラップのリリースノブは、トランク右側またはラゲッジルーム右側のヒューズボックス裏側上方にあります。

▶ トランクまたはテールゲートを開きます。

▶ トランク右側またはラゲッジルーム右側のヒューズボックスのカバーを開きます（▷350 ページ）。

セダン

▶ リリースノブ ① を引きます。

燃料給油フラップが解錠されます。

▶ 燃料給油フラップを開きます。

パーキングロックの手動解除

バッテリーがあがったときや電気装備に故障が発生したときは、セレクターレバーを P から動かすことができなくなることがあります。

このようなときは、手動でパーキングロックを解除してセレクターレバーを P から動かします。

右ハンドル車

▶ パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ カバー ① の右端部または左端部を内側にずらしながら持ち上げます。

▶ ノブ ② を押しながら、セレクターレバーを P から動かします。

❗ この方法でセレクターレバーを動かせないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

❗ セレクターレバーを動かすことができたときでも、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

NECK PRO アクティブヘッドレストのリセット *

事故などのときに NECK PRO アクティブヘッドレストが作動した場合、リセットをしないと次に衝撃を受けたときに NECK PRO アクティブヘッドレストが作動せず、頭部・頸部を保護できません。

NECK PRO アクティブヘッドレストが作動したときは、ヘッドレストが前方に動きます。また、ヘッドレストの角度を調整することはできません。

ℹ このリセット作業は強い力が必要になるため、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

▶ ヘッドレストの下部を②の方向に停止するまで押します。

▶ ガイドに沿ってヘッドレストを③の方向に停止するまで押し下げます。

▶ ヘッドレストの上部を①の方向に押して、確実にロックさせます。

もう一方の前席ヘッドレストでも同様の作業を行なってください。

! 安全のため、追突など後方からの衝撃を受けたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で NECK PRO アクティブヘッドレストの点検を受けてください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

キーの電池交換

リモコンの作動可能範囲が短くなったり作動しない場合は、キーの電池の消耗が考えられます。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

⚠ 中毒のおそれがあります

電池には毒性および腐食性を持つ物質が含まれています。子供の手の届かないところに保管してください。

誤って電池を飲み込んでしまったときは、ただちに医師の診断を受けてください。

環 境

電池を家庭用ゴミとして廃棄しないでください。電池には非常に強い有毒物質が含まれています。

使用済みの電池は、新しい電池をお買い求めになった販売店に処分を依頼するか、ボタン電池専用の回収箱に廃棄してください。

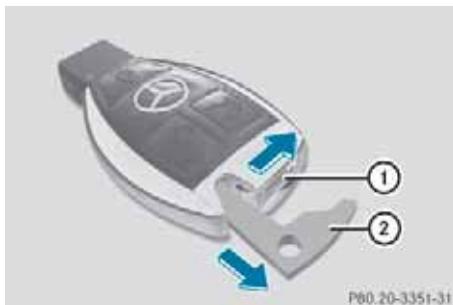
キーの電池を点検する

▶ キーのいずれかのボタンを押します。

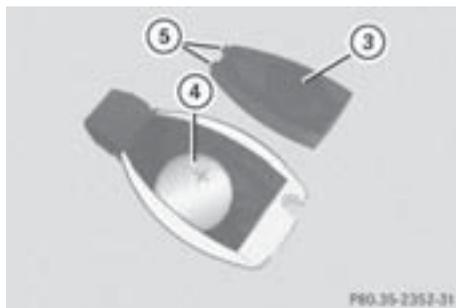
キーの表示灯が一回点滅すれば電池は正常です。

ⓘ キーの電池が消耗したときは、エマージェンシーキーで解錠 / 施錠できます（▷316 ～ 318 ページ）。

電池の交換手順

リチウム電池（CR2025 3V）を用意します。

▶ ストッパー ① を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー ② を抜き取ります。

▶ エマージェンシーキー ② を図の位置に差し込み、カバー ③ が浮き上がるまで、エマージェンシーキーを矢印の方向に押します。

ⓘ 指でカバー ③ を押さえないようにしてください。カバーが浮き上がりません。

▶ カバー ③ を取り外します。

▶ 電池側が下になるようにキーを手の上に乗せて、電池 ④ が外れるまでキーを軽くたたきます。

▶ 電池のプラス（+）面が見えるようにして、新しい電池を取り付けます。このとき、脂分を含まないきれいな布で電池を持つようにしてください。

ⓘ 電池の表面に汚れや脂分が付着していないことを確認してください。

▶ カバー ③ の凸部 ⑤ をキーに差し込んでから、カバーを押してロックします。

▶ エマージェンシーキー ② をキーに収納します。

▶ キーのすべての機能が作動することを確認します。

電球の交換

ランプ類は車両の重要な安全装備のひとつです。すべてのランプ類が正しく点灯することを確認してください。

電球が切れてランプが点灯しないときは、同規格・同容量の電球と交換してください。交換したランプがすぐに切れた場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

電球の交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。やむを得ずお客様自身で交換するときは、以下の注意を守って該当箇所の電球を交換してください。

! 電球には素手で触れないようにしてください。電球の表面に少しでも汚れや脂分が付着すると、ガラス表面で溶けて、電球の寿命が短くなります。電球に触れるときは、きれいな布や手袋などを使用するか、バルブの金属部を持つようにしてください。

! 指定以外の電球を使用しないでください。過熱してレンズを損傷したり、故障の原因になります。

! 電球は高温になるため、電球の表面に油などが付着すると切れやすくなります。触れたときは、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で電球をよく拭いてください。

! マルチファンクションディスプレイにランプに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷297 ページ）をご覧ください。

このときは、すみやかに電球を交換してください。

⚠ **けがのおそれがあります**

- 電球は非常に熱くなります。電球の交換は電球が冷えた状態で行なってください。火傷をするおそれがあります。
- 電球は子供の手の届かないところに保管してください。
- 落下したり、衝撃が加わった電球を使用しないでください。破裂するおそれがあります。
- 電球には圧力のかかったガスが封入されているため、電球が熱くなっているときに電球に触れたり、電球を取り外さないでください。破裂するおそれがあります。
- 電球を交換するときは、防護眼鏡と手袋を必ず着用してください。

⚠ **けがのおそれがあります**

エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、イグニッション位置が **2** のときは、バイキセノンヘッドランプ * のバルブソケットや配線に手を触れないでください。高電圧の発生部分や高温部分があり、それらに触れると非常に危険です。

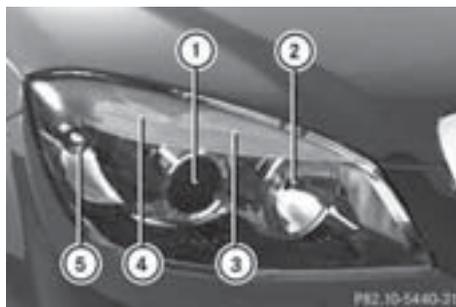
バイキセノンヘッドランプ * の交換は行なわないでください。交換は必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。その他の電球の交換についても、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼することをお勧めします。

! LED やバイキセノンヘッドランプはユニット交換になるため、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換作業を行なってください。

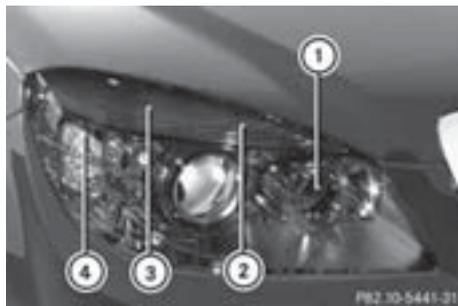
! 電球を交換するときは、車両に装着されている電球の規格を確認してください。

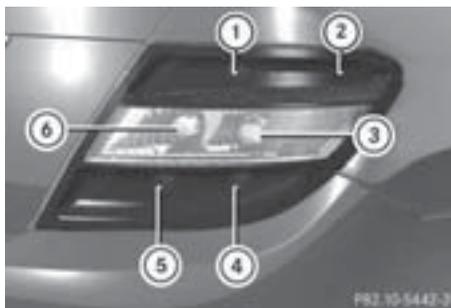
お客様自身で交換できる電球は以下の通りです。交換できない場合や、その他の電球の交換については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

ヘッドランプ

バイキセノンヘッドランプ非装備車

ランプ		ワット数（規格）
①	ヘッドランプ下向き	55W（H7）
②	ヘッドランプ上向き	55W（H7）
③	車幅灯	5W
④	車幅灯 / フロントパーキングランプ	5W
⑤	フロント方向指示灯	21W（黄色）

* オプションや仕様により、異なる装備です。

バイキセノンヘッドランプ装備車

ランプ		ワット数（規格）
①	ヘッドランプ上向き	55W（H7）
②	車幅灯	5W
③	車幅灯 / フロントパーキングランプ	5W
④	フロント方向指示灯	21W（黄色）

テールランプ

ランプ		ワット数（規格）
①	リアフォグランプ（右側のみ）/ テールランプ	21W
②	テールランプ	5W
③	リア方向指示灯[1] （バイキセノンヘッドランプ非装備車）	21W（黄色）
④	テールランプ / ブレーキランプ / パーキングランプ	21W
⑤	テールランプ / ブレーキランプ	21W
⑥	バックランプ	21W または 16W

[1] バイキセノンヘッドランプ装備車は LED を使用しているため、交換作業は必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

ワイパーブレードの交換

フロントワイパーのワイパーブレード

⚠ 事故のおそれがあります

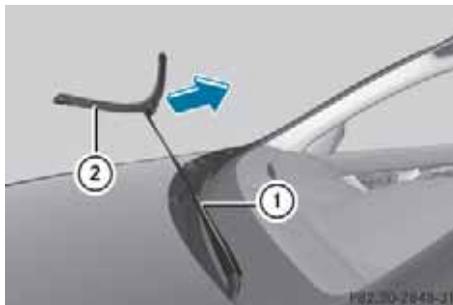
ワイパーブレードのゴムが劣化すると、ウインドウの水滴を十分に拭き取ることができません。視界を妨げて周囲の交通状況を把握できず、事故の原因になります。

ワイパーブレードは年に 2 回は交換してください。

⚠ けがのおそれがあります

ワイパーブレードを交換するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜くか、キーレスゴー操作 * でイグニッション位置を **0** にしてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

! ワイパーブレードの損傷を避けるため、ワイパーブレードのゴム部分に触れないようにしてください。

ワイパーブレードを取り外す

▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、キーレスゴー操作 * でイグニッション位置を **0** にします。

▶ ワイパーアーム ① をいっぱいまで起こします。

▶ ワイパーブレード ② を図の位置にまわします。

▶ ワイパーブレード ② を矢印の方向に動かし、ワイパーアーム ① の固定部から取り外します。

ワイパーブレードを取り付ける

▶ 新しいワイパーブレードを、取り付けたときとは反対の方向にワイパーアームの固定部に差し込みます。

ワイパーブレードが確実に差し込まれていることを確認してください。

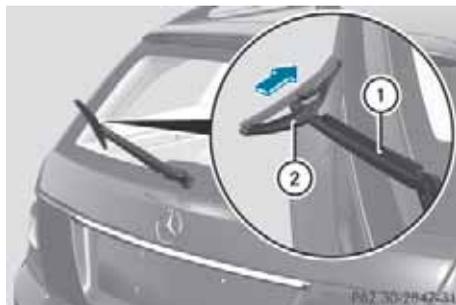
▶ ワイパーブレードをワイパーアームと平行の位置にします。

▶ ワイパーアームを元の位置に戻します。

リアワイパーのワイパーブレード（ステーションワゴン）

 けがのおそれがあります

ワイパーブレードを交換するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜くか、キーレスゴー操作 * でイグニッション位置を **0** にしてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ワイパーブレードを取り外す

▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、キーレスゴー操作 * でイグニッション位置を 0 にします。

▶ ワイパーアーム ① をいっぱいまで起こします。

▶ ワイパーブレード ② を図の位置にまわします。

▶ ワイパーアーム ① を持ちながら、ワイパーブレード ② を矢印の方向に引いて、ワイパーブレード ② を取り外します。

ワイパーブレードを取り付ける

▶ 新しいワイパーブレードをワイパーアームに乗せます。

▶ ワイパーアームを持ちながら、ワイパーブレードを取り付けたときとは反対の方向に押し込みます。

▶ ワイパーブレードが確実に固定されたことを確認します。

▶ ワイパーブレードをワイパーアームと平行の位置にします。

▶ ワイパーアームを元の位置に戻します。

パンクしたとき

⚠ **事故のおそれがあります**

- パンクしたときは、あわててブレーキペダルを踏まないでください。ステアリングをしっかり握って徐々に速度を落とし、安全な場所に停車してください。
- パンクしたタイヤで走行しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。また、タイヤが異常に過熱して、火災が発生するおそれがあります。

タイヤ交換およびタイヤ修理の準備

▶ 安全を確保できる、かたくてすべりにくい、水平な場所に停車します。

▶ 非常点滅灯を点滅させます。

▶ セレクターレバーを P に入れます。

▶ 周囲の状況に注意しながら乗員を車から降ろして、ただちに安全な場所に避難させます。

▶ エンジンを停止します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。キーレスゴースイッチ * でエンジンを停止したときは、運転席ドアを開きます。

▶ 車から降ります。

▶ ドアを閉じます。

▶ 車の後方に停止表示板を置きます。

ⓘ 高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

パンクしたタイヤを交換する

応急用スペアタイヤが車載されている場合は、パンクしたタイヤを交換します。

⚠ **事故のおそれがあります**

- 応急用スペアタイヤと標準タイヤのサイズが異なるため、応急用スペアタイヤを装着した場合、走行特性が大きく変化します。注意して走行してください。
- 応急用スペアタイヤに交換したときは、必ず 80km/h 以下で走行してください。
- 応急用スペアタイヤを装着したときは、ESP® の機能を解除しないでください。
- 応急用スペアタイヤは短い時間の使用にとどめ、できるだけ早く標準タイヤに戻してください。
- 応急用スペアタイヤを 2 本以上装着して走行しないでください。

! 応急用スペアタイヤは各車種専用です。他車のものは使用しないでください。

! 応急用スペアタイヤを取り出すときや、タイヤ交換をするときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。

! タイヤ交換をするときは、エンジンを始動しないでください。

! 車速感応ドアロック(▷69 ページ)を設定した状態で車を押したり、車を持ち上げるときは、イグニッション位置を **0** にしてください。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

タイヤ交換の準備

▶ タイヤ交換に必要な準備を行ないます（▷326 ページ)。

▶ ステアリングを直進の位置にします。

▶ 輪止め、ジャッキ、応急用スペアタイヤ、ホイールレンチ、ガイドボルトを準備します（▷287、288 ページ)。

▶ 作業中に車が動き出すのを防ぐため、交換するタイヤの対角線の位置にあるタイヤの前後に輪止めをします。

ℹ 輪止めは 1 個車載されています。もう 1 個必要なときは、適切な大きさの木片か石を輪止めとして使用してください。

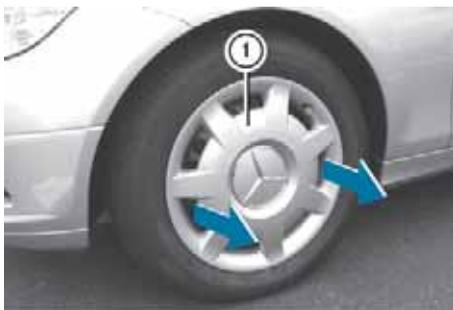
▶ やむを得ず傾斜地でタイヤ交換をするときは、交換しない側の前輪と後輪の下り側に輪止めをします。

▶ ホイールレンチ ① で、交換するタイヤのホイールボルト（5 本）を約 1 回転ほどゆるめます。

この時点では、ホイールボルトを取り外しません。

! ホイールレンチを使用するときに、ホイールレンチがホイールボルトから外れるとけがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

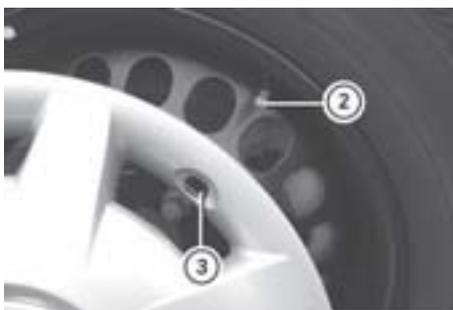
- ホイールレンチを確実に差し込んでください。
- 足で踏んでまわさないでください。
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください。

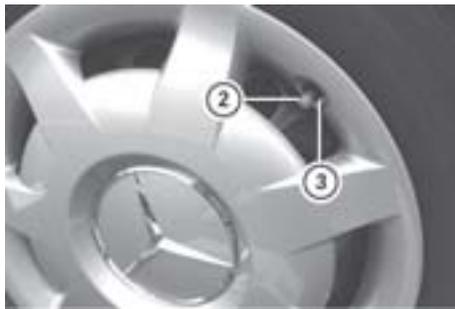
ホイールカバーの取り外し

ジャッキアップする前に、ホイールカバーを取り外します。

▶ 矢印の位置に手を入れ、ホイールカバー ① を取り外します。

このとき、必ず手袋を着用してください。

ホイールカバー装着時の注意

ホイールカバーをホイールに装着するときは、以下の注意事項を守ってください。バルブが損傷してタイヤから空気が抜けたり、事故を起こすおそれがあります。

ホイールカバーをホイールに装着するときは、バルブ ② がバルブホール ③ を通るように装着してください。

※ ホイールカバーは、日本仕様には装備されません。

さらに、バルブ ② がバルブホール ③ の中心になっていて、ホイールカバーに接触していないことを確認してください。

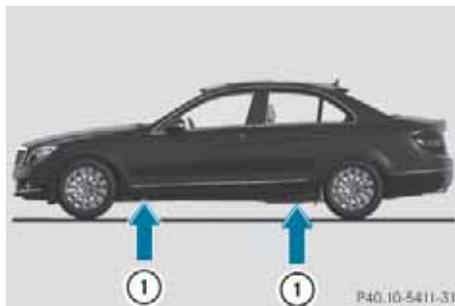
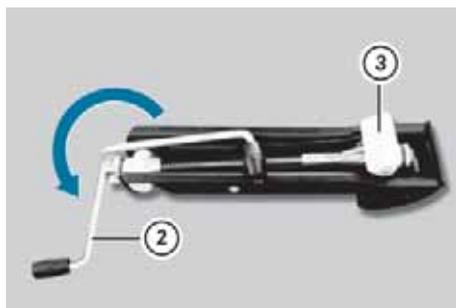
ジャッキアップする

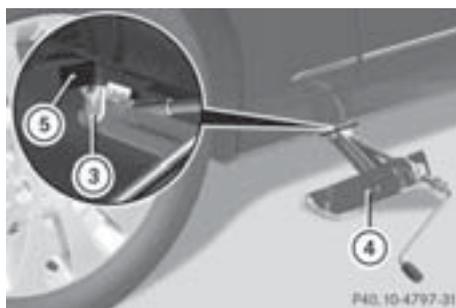
⚠ けがのおそれがあります

- 車載のジャッキは、この車のタイヤ交換で一時的にジャッキアップするためだけに設計されています。
- ジャッキは、かたくてすべりにくい、水平な場所で使用してください。また、ジャッキの下に、ブロックや木材などを置いてジャッキアップしないでください。ジャッキアップした車が落下するおそれがあります。
- ジャッキアップしているときは、エンジンを始動したり、ドアやトランクまたはテールゲートを開閉したり、パーキングブレーキを解除しないでください。車が落下するおそれがあります。
- ジャッキに不具合や損傷があるときは使用しないでください。
- 急な斜面ではジャッキアップしないでください。ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。
- 車が車載のジャッキだけで支えられているときは、決して車の下に身体を入れないでください。ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。ジャッキは車を一時的に持ち上げるときだけに使用してください。

⚠ けがのおそれがあります

ジャッキサポート以外の場所にはジャッキを使用しないでください。ジャッキが外れてけがをしたり、車両を損傷するおそれがあります。

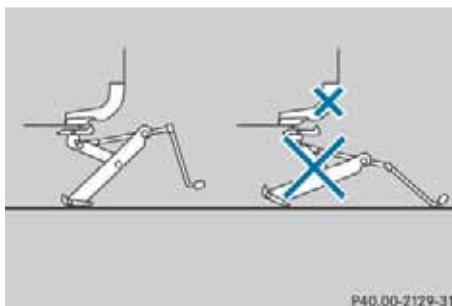
ジャッキは交換するタイヤに適した位置のジャッキサポートで使用してください。また、ジャッキを使用する前に、ジャッキサポートに異物や汚れがないことを確認してください。

ジャッキサポート ① は前輪の後方、後輪の前方のボディ下部 4 カ所に設けられています。

▶ ジャッキハンドル ② を矢印の方向に起こしてから、時計回りにまわします。

ジャッキアーム ③ が上がります。

▶ ジャッキ ④ のジャッキアーム ③ の先端を、車体のジャッキサポート ⑤ の位置に合わせます。

⚠ **けがのおそれがあります**

ジャッキアームがジャッキサポートに正しく取り付けられていることを確認してください。ジャッキが外れると、けがをしたり車を損傷するおそれがあります。

! ジャッキサポート以外の位置でジャッキアップしないでください。

! ジャッキの底面がジャッキサポート ⑤ の真下にくるように取り付けてください。

（左）正しい取り付けかた
（右）間違った取り付けかた

▶ ジャッキの底面が、確実に路面に接地していることを確認します。

▶ ジャッキハンドルを時計回りにまわし、タイヤが地面から離れるまでゆっくりとジャッキアップします。

ジャッキアップしたときのタイヤの高さは、地面から約3 cm以内にしてください。

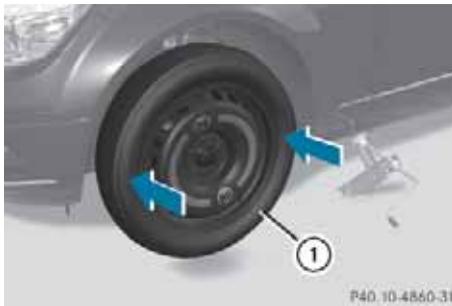
▶ ホイールボルトを外して、タイヤを取り外します。

! ホイールやホイールボルトを外したときは、以下の点に注意してください。

- ホイールボルトに砂や泥が付着しないように注意してください。
- タイヤを地面に置くときは、ホイールの外側を下にしないでください。ホイールに傷が付くおそれがあります。
- ホイールを外したときは、ホイールの内側を十分に清掃し、点検をしてください。リムの凹みや曲がりは空気圧減少の原因になり、タイヤを損傷するおそれがあります。

応急用スペアタイヤを取り付ける

⚠ 事故のおそれがあります

- 応急用スペアタイヤの取り付けには、標準タイヤのホイールボルトを使用します。異なるホイールボルトを使用するとホイールを十分に固定することができず、走行中にホイールが外れるおそれがあります。
- ホイールボルトに損傷や錆があるときは交換してください。また、ネジ山には決してオイルやグリスを塗布しないでください。ホイールボルトがゆるむおそれがあります。
- ホイールハブのネジ穴が損傷しているときは、走行しないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

▶ 応急用スペアタイヤ ① のホイールおよびハブの接合面に砂や汚れなどがないことを確認します。

▶ ホイールハブのネジ穴とホイールの穴の位置が合うように応急用スペアタイヤを持ち上げます。

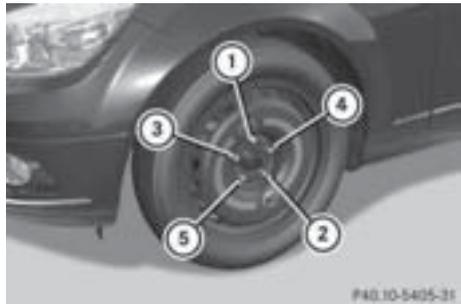
▶ 5 本のホイールボルトを取り付けて、軽く締め付けます。

⚠ けがのおそれがあります

ジャッキアップした状態でホイールボルトを強く締め付けないでください。締め付ける勢いでジャッキが外れるおそれがあります。

ジャッキダウンする

▶ ジャッキハンドルを反時計回りにまわし、ゆっくりボディを下げてタイヤを接地させます。

▶ ジャッキを外します。

▶ 図の順番でホイールボルトを均一に締め付けます。

ホイールボルトの締め付けトルクの規定値は 13 kg-m（130Nm）です。

⚠ 事故のおそれがあります

ホイールを交換した後は、すみやかにホイールボルトの締め付けトルクを確認してください。

! ホイールレンチを使用するとき、ホイールレンチがホイールボルトから外れると、けがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください
- 足で踏んでまわさないでください
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください

また、ホイールレンチにパイプを継ぎ足してまわすなど、必要以上にホイールボルトを締め付けないでください。ホイールボルトやネジ穴を損傷するおそれがあります。

▶ ジャッキを元の状態に戻し、ホイールレンチや輪止めなどとともに元の位置に戻します。

▶ 外したタイヤをトランクルーム内またはラゲッジルーム内に収納します。

i 車種や仕様により、外したタイヤを応急用スペアタイヤの収納スペースに収納することができます。

タイヤフィットでパンクしたタイヤを修理する

タイヤフィットが車載されている場合は、タイヤフィットでパンクしたタイヤを修理します。

パンクしたタイヤをタイヤフィットで修理すると、一時的に走行することができます。

タイヤフィットは外気温度が－ 20℃以上のときに使用できます。

応急用スペアタイヤが車載されている場合は、パンクしたタイヤを応急用スペアタイヤに交換します。詳しくは（▷327 ページ）をご覧ください。

⚠ **事故のおそれがあります**

- タイヤフィットによるパンク修理は、応急的なものです。修理後は、空気圧が適正であっても、必ず標準タイヤに交換してください。
- 以下の状況のときはタイヤフィットでタイヤを修理することができません。他の方法で車両を移動させてください。

  ◇ タイヤの傷が約 4mm 以上の場合や、凹み、亀裂、ひびなどがある場合

  ◇ タイヤの接地面以外に傷がある場合

  ◇ ホイールに損傷がある場合

  ◇ タイヤの空気圧が非常に低かったり、空気が完全に抜けた状態のタイヤで走行した場合

  このようなときは、絶対に走行しないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! タイヤを修理するときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。

! タイヤを修理するときは、エンジンを始動しないでください。

! 異常のない適正な空気圧のタイヤには、タイヤフィットを使用しないでください。タイヤの空気圧でタイヤフィットが漏れ出すおそれがあります。

! タイヤフィットが塗装面に付着した場合は、ただちに湿らせた布で拭き取ってください。

! タイヤフィットで修理したタイヤは必ず交換してください。そのまま使用することはできません。

! タイヤフィットには使用期限があります。期限が過ぎたときは新品に交換してください。また、タイヤフィットの使用期限が過ぎている場合は使用しないでください。

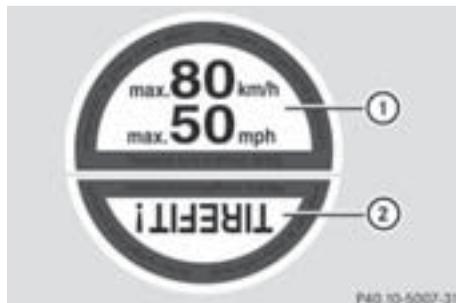
タイヤフィットの準備

⚠ **けがのおそれがあります**

使用上の注意を記載したステッカーが、電動エアポンプに貼付してあります。使用する前に内容を確認してください。

車種や仕様により、車載されている電動エアポンプが異なります。

▶ タイヤに刺さった、パンクの原因と思われるクギまたはネジなどは取り除かないでください。

▶ トランクフロアボードまたはラゲッジフロアボードの下からタイヤフィット、電動エアポンプを準備します。

▶ タイヤフィットに付属の最高速度のステッカー①をはがし、運転者の見やすい場所に貼ります。

▶ 修理するタイヤのバルブ付近のホイールにステッカー②を貼ります。

⚠ **けがのおそれがあります**

タイヤフィットは、身体や衣服に付着しないように注意してください。

- 眼や皮膚に付着した場合は、ただちに清潔な水で十分に洗い流してください。
- 衣服に付着した場合は、ただちに付着した衣服を着替えてください。
- アレルギー症状が出た場合は、ただちに医師の診断を受けてください。

タイヤフィットは、子供の手が届かない場所に保管してください。

- 万一、子供がタイヤフィットを飲み込んだ場合は、ただちに水で口を十分すすぎ、水を大量に飲ませてください。
- タイヤフィットを吐かせないでください。ただちに医師の診断を受けてください。
- タイヤフィットの臭気を吸い込まないでください。

ℹ タイヤフィットが漏れ出た場合は、そのまま乾燥させてください。乾燥すればフィルム状になり、剥がすことができます。

もし、衣類にタイヤフィットが付着した場合は、すみやかに洗濯してください。

タイヤを修理する（空気圧ゲージ別体型）

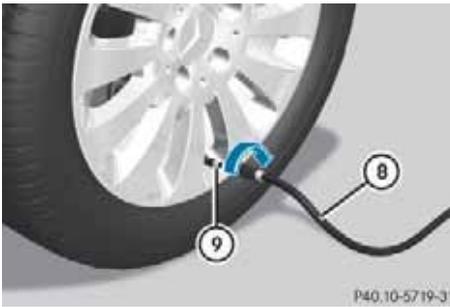
※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なることがあります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

▶ 電動エアポンプのフラップ②を開きます。

▶ 電源プラグ⑤とエアホース⑥を取り出します。

▶ エアホース⑥をタイヤフィット①のバルブ⑦に確実に取り付けます。

! 電動エアポンプのエアホースはタイヤフィットのバルブに確実に取り付けてください。電動エアポンプの作動時に接続部からタイヤフィットが漏れ、身体や衣類に付着するおそれがあります。

▶ タイヤフィット①のバルブ⑦を下にして持ち、電動エアポンプの凹部③に差し込みます。

▶ パンクしたタイヤのバルブ⑨からバルブキャップを取り外します。

▶ 空気圧調整バルブ⑩が閉じていることを確認します。

▶ タイヤフィットのホース⑧を、パンクしたタイヤのバルブ⑨に確実に取り付けます。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ④が **0**（停止の位置）になっていることを確認します。

▶ 電源プラグ⑤をライターソケット *（▷237 ページ）または 12V 電源ソケット（▷238 ページ）に差し込みます。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ④を **I**（作動の位置）にします。

電動エアポンプが作動して、タイヤが膨らみはじめます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ 最初にパンクしたタイヤにタイヤフィットが送り込まれます。このとき、空気圧が一時的に約 5 バールまで高まることがあります。

この間は電動エアポンプの電源スイッチ④を **0**（停止の位置）にしないでください。

▶ 電動エアポンプを約 5 分間作動させます。空気圧が少なくとも 1.8 バールに達していることを確認してください。

! 電動エアポンプを、作動時間の上限を超えて連続して作動させないでください。ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。

連続作動時間の上限は、電動エアポンプに貼付してあるステッカーに記載されています。

電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。

電動エアポンプを約 5 分間作動させても、空気圧が 1.8 バールに達しない場合：

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ④を **0**（停止の位置）にして、タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外し、タイヤフィットがタイヤ内に行き渡るように、低速で車を約 10m 前進または後退させます。

! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが入っていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

▶ 電動エアポンプからタイヤフィット①を取り外します。

▶ タイヤに空気を入れ直します。

⚠ **事故のおそれがあります**

電動エアポンプを約 5 分間作動させても空気圧が 1.8 バールに達しない場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

空気圧が 1.8 バールに達している場合：

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ④を **0**（停止の位置）にします。

電動エアポンプが停止します。

▶ ライターソケットまたは 12V 電源ソケットから電源プラグ⑤を抜きます。

▶ タイヤのバルブ⑨からタイヤフィットのホース⑧を取り外します。

! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが入っていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

▶ 修理したタイヤのバルブキャップを取り付けます。

▶ タイヤフィットと電動エアポンプ、停止表示板を収納します。

▶ ただちに走行します。

タイヤフィットがタイヤ内に行き渡り、損傷箇所が固まりやすくなります。

▶ 約 10 分間走行した後、電動エアポンプのエアホース⑥を修理したタイヤのバルブに取り付けて、空気圧ゲージ⑪でタイヤ空気圧を点検します。

⚠ **事故のおそれがあります**

空気圧が 1.3 バール以下になっている場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

▶ 空気圧が 1.3 バール以上の場合は、規定の空気圧に調整します。規定の空気圧は燃料給油フラップ裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベルを参照してください。

規定の空気圧に達していない場合は、電動エアポンプでタイヤに空気を入れます。

規定の空気圧を超えている場合は、空気圧ゲージ⑪の空気圧調整バルブ⑩を緩めて調整します。

▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行し、パンクしたタイヤを交換します。

▶ 新しいタイヤフィットについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

⚠ 事故のおそれがあります

タイヤフィットでタイヤを修理した後に走行するときの最高速度は約80km/h です。

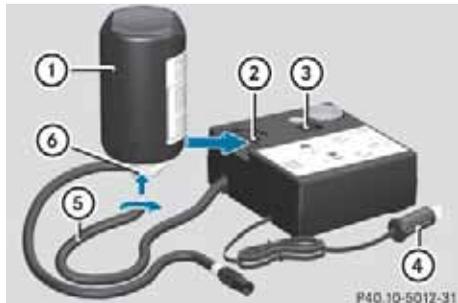
最高速度のステッカー "max. 80km/h" は、必ず運転者の見やすい場所に貼ってください。

車両操縦性に変化が現れることがあります。カーブ走行時やブレーキ時には慎重に運転してください。

環　境

タイヤフィットやそのボトルの廃棄は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

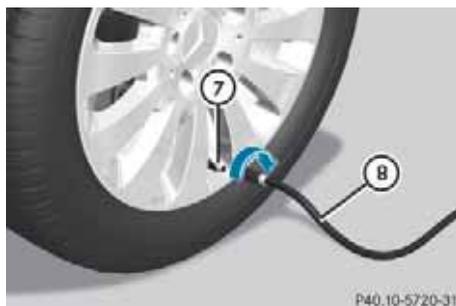
▶ タイヤフィットは、4 年ごとにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

タイヤを修理する（空気圧ゲージ一体型）

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なることがあります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

▶ 電動エアポンプの背面から電源プラグ④とエアホース⑤を取り出します。

▶ エアホース⑤をタイヤフィット①のバルブ⑥に確実に取り付けます。

! 電動エアポンプのエアホースはタイヤフィットのバルブに確実に取り付けてください。電動エアポンプの作動時に接続部からタイヤフィットが漏れ、身体や衣類に付着するおそれがあります。

▶ タイヤフィット①のバルブ⑥を下にして持ち、電動エアポンプの凹部②に差し込みます。

▶ パンクしたタイヤのバルブ⑦からバルブキャップを取り外します。

▶ タイヤフィットのホース⑧を、パンクしたタイヤのバルブ⑦に確実に取り付けます。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ③が **0**（停止の位置）になっていることを確認します。

▶ 電源プラグ④をライターソケット *（▷237 ページ）または 12V 電源ソケット（▷238 ページ）に差し込みます。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ③を **I**（作動の位置）にします。

電動エアポンプが作動して、タイヤが膨らみはじめます。

ℹ 最初にパンクしたタイヤにタイヤフィットが送り込まれます。このとき、空気圧が一時的に約 5 バールまで高まることがあります。

この間は電動エアポンプの電源スイッチ③を **0**（停止の位置）にしないでください。

▶ 電動エアポンプを約 5 分間作動させます。空気圧が少なくとも 1.8 バールに達していることを確認してください。

! 電動エアポンプを、作動時間の上限を超えて連続して作動させないでください。ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。

連続作動時間の上限は、電動エアポンプに貼付してあるステッカーに記載されています。

電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。

電動エアポンプを約 5 分間作動させても、空気圧が 1.8 バールに達しない場合：

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ③を **0**（停止の位置）にして、タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外し、タイヤフィットがタイヤ内に行き渡るように、低速で車を約 10m 前進または後退させます。

! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが入っていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

▶ 電動エアポンプからタイヤフィット①を取り外します。

▶ タイヤに空気を入れ直します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ 事故のおそれがあります

電動エアポンプを約 5 分間作動させても空気圧が 1.8 バールに達しない場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

空気圧が 1.8 バールに達している場合:

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ③を **0**（停止の位置）にします。

電動エアポンプが停止します。

▶ ライターソケットまたは 12V 電源ソケットから電源プラグ④を抜きます。

▶ タイヤのバルブ⑦からタイヤフィットのホース⑧を取り外します。

! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが入っていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

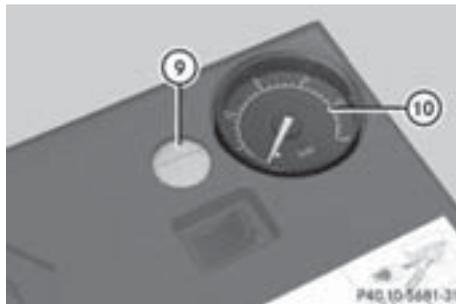
▶ タイヤフィットと電動エアポンプ、停止表示板を収納します。

▶ ただちに走行します。

タイヤフィットがタイヤ内に行き渡り、損傷箇所が固まりやすくなります。

▶ 約 10 分間走行した後、電動エアポンプのエアホース⑤を修理したタイヤのバルブに取り付けて、電動エアポンプの空気圧ゲージでタイヤ空気圧を点検します。

⚠ 事故のおそれがあります

空気圧が 1.3 バール以下になっている場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

▶ 空気圧が 1.3 バール以上の場合は、規定の空気圧に調整します。規定の空気圧は燃料給油フラップ裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベルを参照してください。

規定の空気圧に達していない場合は、電動エアポンプでタイヤに空気を入れます。

規定の空気圧を超えている場合は、空気圧ゲージ⑩の横にある空気圧調整ボタン⑨を押して調整します。

▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行し、パンクしたタイヤを交換します。

▶ 新しいタイヤフィットについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

⚠ 事故のおそれがあります

タイヤフィットでタイヤを修理した後に走行するときの最高速度は約80km/h です。

最高速度のステッカー "max. 80km/h" は、必ず運転者の見やすい場所に貼ってください。

車両操縦性に変化が現れることがあります。カーブ走行時やブレーキ時には慎重に運転してください。

環　境

タイヤフィットやそのボトルの廃棄は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

▶ タイヤフィットは、4 年ごとにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

バッテリー

バッテリー取り扱いの一般的な注意

バッテリーの性能を長期にわたって最大限に発揮させるためには、バッテリーが常に十分充電されていることが必要です。

車を長期間使用しないときや、短距離、短時間の走行が多いときは、通常よりも頻繁にバッテリー液量などを点検してください。

バッテリーの爆発を防ぐため、バッテリーは必ず指定品を使用してください。

車を長期間使用しないときの保管方法などは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ けがのおそれがあります

バッテリーを取り扱うときは、安全に注意し、保護対策をとってください。

	爆発の危険があります。
	バッテリーを取り扱っているときは、火気や裸火、火花、タバコなどを近付けないでください。
	バッテリー液には腐食性があります。皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。 手袋やエプロン、マスクを着用してください。 バッテリー液が付着したときは、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

	バッテリーを取り扱うときは保護眼鏡を着用してください。 バッテリー液が付着したときは、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。
	子供を近付けないでください。
	取扱説明書の指示に従ってください。

⚠ けがのおそれがあります

爆発や火傷を防ぐため、バッテリーを取り扱うときは以下の事項を守ってください。

- バッテリーを傾けたり横倒しにしないでください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。バッテリーがショートして可燃性のガスに発火し、バッテリーが爆発するおそれがあります。
- 静電気を防ぐため、合成繊維の衣服を着用しないでください。また、カーペットの上などでバッテリーを引きずらないでください。
- バッテリーに触れるときは、先に車体などに触れて、身体の静電気を放電させてください。
- 布などでバッテリーを拭かないでください。静電気や火花が発生して、バッテリーが爆発するおそれがあります。

! 安全のため、バッテリー端子をゆるめたり外すときは、エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。電気系部品やオルタネーターを損傷するおそれがあります。

バッテリーの点検や交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。少なくとも 2 年ごとまたは 20,000km ごとに点検・交換を行なってください。

i 必要でなければ、駐車時はエンジンスイッチからキーを取り外してください。エンジンスイッチにキーが差し込まれているときはわずかに電力が消費され、バッテリーを消耗します。

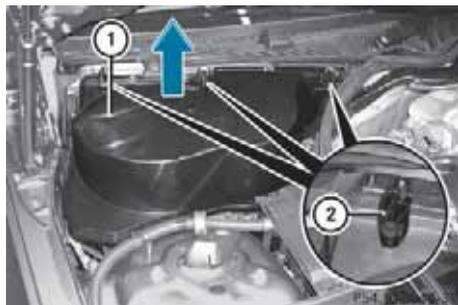
i バッテリー端子の取り外し、バッテリーの取り外し、充電、交換については、メルセデス·ベンツ指定サービス工場で作業することをお勧めします。

環　境

環境保護のため、使用済みのバッテリーを廃棄するときは、新しいバッテリーをお買い求めになった販売店に廃棄処分を依頼してください。

バッテリーの位置

C 63 AMG を除く車種

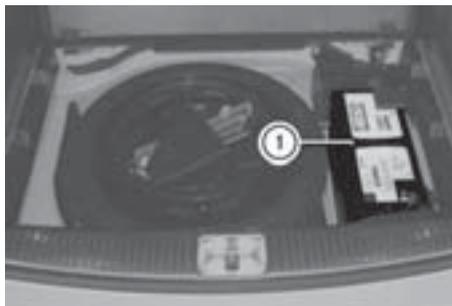
バッテリーはエンジンルーム内助手席側のエアダクト下部に装備されています。

左ハンドル車

▶ エアダクトの 3 カ所のクリップ ② を外します。

▶ エアダクト ① を取り外します。

! クリップを外すときは、手にけがをしないように注意してください。

C 63 AMG

バッテリーは、トランクフロアボード（セダン）、またはラゲッジトレイ（ステーションワゴン）の下部に装備されています。

ステーションワゴン
① バッテリー

セダン

▶ トランクフロアボード（▷232 ページ）を開きます。

ステーションワゴン

▶ ラゲッジフロアボードを開き、ラゲッジトレイを取り出します（▷232 ページ）。

i エンジンルーム内にブースターケーブル接続用端子があります。他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動するときなどは、エンジンルーム内の端子を使用してください（▷345 ページ）。

インジケーター付きバッテリー

ケースが黒色で、上面にインジケーター①があるバッテリーは、バッテリー液の補充はできません。

インジケーター①は、バッテリーの液量や充電状態が適正なときは黒色に、バッテリーの交換が必要なときは白色になります。

インジケーターが白色になったときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に交換を依頼してください。

また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。

VRLA バッテリー

バッテリーのケースが黒色で、上面にVRLA-BATTERY のラベルがある場合は、バッテリー液のレベル点検や補充はできません。

また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。

点検についてはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

バッテリーがあがったとき

バッテリーの電圧が低下し、エンジンの始動が困難なときは、ブースターケーブルを使用して他車のバッテリーを電源として始動することができます。

ブースターケーブルは、エンジンルーム内助手席側にある [+] 端子と [-] 端子に接続します。

作業を始める前に、必ず以降に記載する説明を読んでください。

- エンジンと触媒が冷えているときに行なってください。
- バッテリーが凍結しているときは、エンジン始動を行なわないでください。
- 救援車のバッテリーが、12V バッテリーであることを確認してください。
- 十分な容量と太さがあり、絶縁されたクランプを持つブースターケーブルを使用してください。

⚠ けがのおそれがあります

- 作業を始める前に必ず以降に記載する説明を読んでください。説明を守らないと、電気装備を損傷したり、バッテリーが爆発してけががをするおそれがあります。
- 他車のバッテリーを電源として始動しているときは、バッテリーをのぞき込まないでください。万一爆発したときに、けがをするおそれがあります。
- 他車のバッテリーを電源として始動するときは、バッテリーを傾けないでください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。

⚠ **爆発のおそれがあります**

他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動しているときは、ガスが発生し、爆発の原因になります。火気や裸火、火花、タバコなどを近付けないでください。バッテリーを取り扱うときは、安全に注意し、保護対策を取ってください。

ⓘ バッテリーが凍結しているときは、火気を近付けずにバッテリー全体を暖め(約 50℃以下)、バッテリー液を解凍してからエンジンを始動してください。

ⓘ バッテリーの接続が一時的に断たれたときは、以下のような作業が必要になることがあります。

- スライディンググルーフ * のリセット
- 施錠時のドアミラー格納機能 * のリセット
- COMAND システムの再設定

ⓘ 他車のバッテリーを電源としたエンジン始動について、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! エンジン始動操作を長時間繰り返して行なわないでください。

エンジン始動を 2 ～ 3 回試みても始動できないときはメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

エンジンを始動できたときも、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を行なってください。

! 急速充電器によりエンジン始動を行なわないでください。

! エンジンが暖まっているときは、他車のバッテリーを電源として始動しないでください。

! ブースターケーブルは、ケーブル部分や絶縁部分が損傷しているものは使用しないでください。

! ブースターケーブルがラジエター冷却ファンや回転ベルトに巻き込まれないようにしてください。

! 救援車により接続方法が異なることがあります。接続前に救援車の取扱説明書もお読みください。

始動の方法

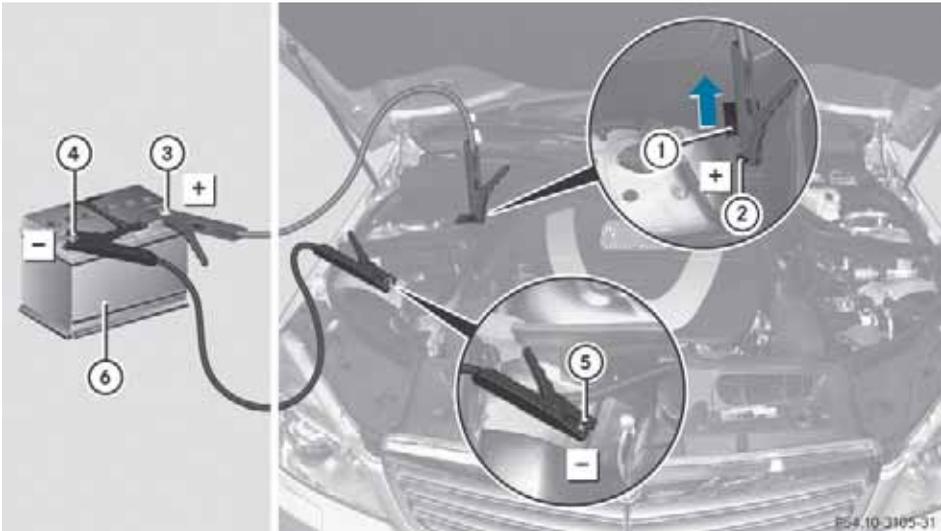
▶ 自車と救援車が接触していないことを確認してください。

▶ パーキングブレーキを効かせてください。

▶ セレクターレバーを P に入れてください。

▶ 両車の電気装備をすべて停止します。

▶ ボンネットを開きます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

左ハンドル車

▶ [+] 端子のカバー ① を矢印の方向に動かして開きます。

▶ 赤色ブースターケーブルで、自車の [+] 端子 ② と救援車の [+] 端子 ③ を接続します。

先に自車の [+] 端子 ② から接続します。

▶ 救援車のエンジンを始動し、アイドリング状態にします。

▶ 黒色ブースターケーブルで救援車の [-] 端子 ④ と、自車の [-] 端子 ⑤ を接続します。

先に救援車の [-] 端子 ④ から接続します。

▶ 自車のエンジンを始動します。

▶ 黒色ブースターケーブルを両車の [-] 端子から外します。先に自車の [-] 端子 ⑤ から外します。

▶ 赤色ブースターケーブルを両車の [+] 端子から外します。先に自車の [+] 端子 ② から外します。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を受けてください。

けん引

けん引時の注意

⚠ **事故のおそれがあります**

エンジンがかかっていないときはブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。また、ブレーキペダルの踏みしろが非常に大きくなることがあります。必要に応じて、ブレーキペダルを思い切り踏み込んでください。

けん引される前に、ステアリングがロックしていないことを確認してください。

! けん引はできるだけ避けてください。自走できないときは、専門業者に依頼して車両運搬車で移送してください。

! エンジンを始動できないときは、他車のバッテリーを電源とした始動を試みてください。やむを得ず、他車にけん引してもらうときは以降に記載する説明に従い、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に移送してください。

! けん引するときは、以下の点に注意してください。

- けん引されるときは、セレクターレバーを N に入れてください。

  キーレスゴー装備車は、キーレスゴースイッチを取り外し、エンジンスイッチにキーを差し込んでから操作してください。
- けん引されるときは、車速感応ドアロックを解除してください(▷69、157 ページ)。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。
- けん引されるときは、けん引防止機能 * を解除してください(▷57 ページ)。
- 一般道では 30km/h 以下の速度で、距離は 50km 以内に限り、けん引走行することができます。距離が 50km を超えるときは、車両運搬車を利用してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- フロントまたはリアをつり上げてけん引するときは、必ずイグニッション位置を **0** にしてください。ESP® が作動して接地している車輪にブレーキがかかります。また、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。
- オートマチックトランスミッションを損傷しているときは、専門業者に作業を依頼し、プロペラシャフトを外してからけん引を行なってください。
- エンジンが停止した状態でけん引走行するときでも、エンジンスイッチからキーを抜かないでください。ステアリングロックが作動し、ステアリング操作ができなくなります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

- 車両運搬車に積載して車両を固定するときは、固定ロープをサスペンションなどのメンバー部分にかけないでください。車体を損傷するおそれがあります。

! けん引ロープを使用してけん引されるときは、以下の点に注意してください。

- ロープは両車ともできるだけ同じ側につないでください。
- ロープの長さは 5m 以内とし、ロープの中央に白布（30cm × 30cm 以上）を付けて 2 台の車がロープでつながれていることを周囲に明示してください。
- ロープに無理な力や衝撃がかからないようにしてください。
- けん引フック以外にはロープをかけないでください。
- 走行中、ロープをたるませないように前車のブレーキランプに注意しながら車間距離を調整してください。
- ワイヤーロープやチェーンを使用しないでください。車を損傷するおそれがあります。

! ぬかるみからの脱出などの目的に、けん引フックを使用しないでください。車を損傷するおそれがあります。

i セレクターレバーを P から動かすことができないときは、手動でパーキングロックを解除してください（▷319 ページ）。

けん引フックの取り付け

取り付け位置（フロント）

フロントバンパーの向かって左側にあります。

▶ カバー ① のマーク部を押して、カバーを外します。

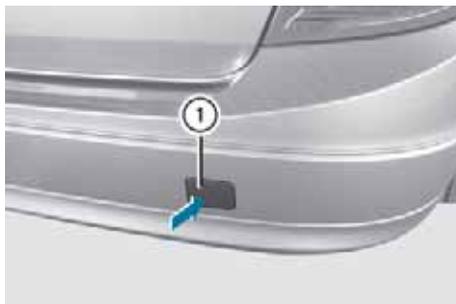
取り付け位置（リア）

セダン

リアバンパーの向かって右側にあります。

▶ カバー ① のマーク部を押して、カバーを外します。

※ 車種や仕様により、カバー ① の形状は異なります。

ステーションワゴン

リアバンパーの向かって右側にあります。

▶ カバー ① のマーク部を押して、カバーを外します。

※ 車種や仕様により、カバー ① の形状は異なります。

けん引フックを取り付ける

▶ 車載工具（▷287 ページ）からけん引フックを取り出します。

▶ 内部のネジ穴に、けん引フックを時計回りにまわしてねじ込み、止まるまで手で締め込みます。

▶ さらに、ホイールレンチ * の柄の部分などを使用して確実に締め付けます。

けん引する

エンジンを始動できるとき

▶ エンジンを始動して、セレクターレバーを N に入れます。

エンジンを始動できないとき

▶ イグニッション位置を **2** にして、ブレーキペダルを踏みながらセレクターレバーを N に入れます。

フロントまたはリアをつり上げてけん引するとき

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ セレクターレバーを N に入れてから、イグニッション位置を **0** にします。

ℹ セレクターレバーを P から動かすことができないときは、手動でパーキングロックを解除してください（▷319 ページ）。

けん引フックを取り外す

▶ ホイールレンチ * の柄の部分などを使用して、けん引フックを反時計回りにまわします。

▶ けん引フックを取り外します。

▶ けん引フックのカバーを取り付けます。

▶ けん引フックを車載工具に収納します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

車を運搬する

けん引フックは、車両運搬車に車を積載するときにも使用できます。

▶ イグニッション位置を **2** にして、ブレーキペダルを踏みながらセレクターレバーを **N** に入れます。

! 車両運搬車に積載して車両を固定するときは、固定ロープをサスペンションなどのメンバー部分にかけないでください。車体を損傷するおそれがあります。

ヒューズ

ヒューズ交換についての注意

電気装備に異常が発生するとヒューズが切れて電気装備への接続が切断されます。これにより電気装備は作動しなくなります。

⚠ **火災のおそれがあります**

規格や容量の異なるヒューズ、改造や修理をしたヒューズを使用しないでください。電気回路に負荷がかかり、火災の原因になります。

ヒューズ切れの原因の点検や修理はメルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

! 以下のようなときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

- ヒューズを交換してもすぐに切れるとき
- ヒューズに異常はないが、電気装備が作動しないとき

! ヒューズボックスのカバーを取り外したときに、ヒューズボックスの内部に水などが入らないようにしてください。

! ヒューズボックスのカバーは、ヒューズボックスに密着するように取り付けてください。ほこりや湿気が入るおそれがあります。

! ヒューズボックスを開くときに、先のとがったものを使用しないでください。カバーやダッシュボードを損傷するおそれがあります。

⚠ **けがのおそれがあります**

エンジンルーム内のヒューズボックスを点検するときは、必ずワイパーを停止して、エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。ワイパーが作動するとけがをするおそれがあります。

ヒューズの位置

ヒューズボックスは以下の場所にあります。

- ランプスイッチ横の側面 *
- エンジンルーム内運転席側
- トランクルーム内右側またはラゲッジルーム内右側

エンジンルーム内のヒューズボックス

左ハンドル車

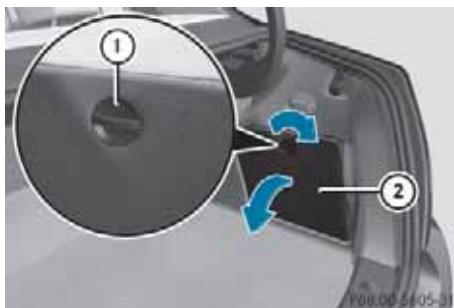
※ 右ハンドル車のヒューズボックスは、エンジンルームに向かって左側にあります。

▶ カバーに水分や汚れが付着しているときは、布などで拭き取ります。

▶ 2 カ所のクリップ ① を外します。

▶ 左ハンドル車は、カバーに取り付けてあるホース ② を取り外します。

▶ 前方に向けてカバーを取り外します。

トランクルーム内のヒューズボックス

▶ クリップ ① を時計回りにまわします。

▶ カバー ② を取り外します。

ラゲッジルーム内のヒューズボックス

▶ ハンドル ① を引き、カバー ② を取り外します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ヒューズを交換する

▶ 停車します。

▶ すべての電気装備を停止します。

▶ イグニッション位置を **0** にして、エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ ヒューズ一覧を参考に、作動しない電気装備に該当するヒューズを確認します。

▶ 該当ヒューズを取り外します。

▶ ヒューズを点検し、ヒューズが切れている（溶断）ときは、同じ電流値（色）のヒューズと交換します。

ヒューズ一覧

エンジンルーム内のヒューズボックス

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
1	25A	ABS / ASR / BAS / ESP®
2	30A	セントラルロック、乗降用ランプ、ドア赤色灯、ドアミラー、前席パワーウインドウ、前席シート調整、スイッチ照明、方向指示灯
3	30A	セントラルロック、乗降用ランプ、ドア赤色灯、後席パワーウインドウ、スイッチ照明
4	20A	フィルターヒーティング
5	7.5A	ランプスイッチ
6	10A	ABS / ASR / BAS / ESP®、エンジンエレクトロニクス、燃料ポンプ、スターター
7	20A	スターター
8	7.5A	エアバッグ
9	15A	12V 電源ソケット（前席）
10	30A	フロントワイパー
11	7.5A	COMAND ディスプレイ
12	7.5A	エアコンディショナー、ADS、パークトロニック、シートヒーター、スイッチ照明、パークトロニック
13	7.5A	ABS / ASR / BAS / ESP®、ホーン、ヘッドランプ、マルチファンクションステアリング、方向指示灯、ウインドウウォッシャー、ワイパー、ステアリング調整
14	7.5A	ABS / ASR / BAS / ESP®
15	7.5A	エアバッグ
16	5A	ABS / ASR / BAS / ESP®、オートマチックトランスミッション、電話、スイッチ照明
17	30A	自動防眩機能、ルームランプ、バニティミラー照明、レインセンサー、ライトセンサー、読書灯、スイッチ照明、スライディングルーフ
18	7.5A	非常点滅灯、スイッチ照明

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
19	20A	エンジンエレクトロニクス、燃料ポンプ、イグニッションロック、スターター、ステアリングロック
20	40A	ABS / ASR / BAS / ESP®
21	7.5A	ABS / ASR / BAS / ESP®、エアバッグ、ブレーキランプ、グローブボックスランプ
22	15A	エンジンエレクトロニクス
23	20A	エンジンエレクトロニクス、燃料ポンプ
24	15A	エンジンエレクトロニクス
25	15A	エンジンエレクトロニクス
26	20A	ラジオ、ナビ、スイッチ照明
27	7.5A	エンジンエレクトロニクス、燃料ポンプ、イグニッションロック、スターター、ステアリングロック
28	7.5A	メーターパネル
29	10A	ヘッドランプ照射角度調整
30	10A	ヘッドランプ照射角度調整
31	15A	ホーン
32	40A	エンジンエレクトロニクス
33	10A	オートマチックトランスミッション
34	7.5A	燃料ポンプ
35	7.5A	オプション
36	7.5A	オプション

トランクルーム / ラゲッジルーム内のヒューズボックス

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
37	5A	エアバッグ、NECK PRO アクティブヘッドレスト
38	15A	リアウインドウウォッシャー、リアワイパー
39	30A	セントラルロック、乗降用ランプ、ドア赤色灯、後席パワーウインドウ、スイッチ照明
40	–	未使用
41	30A	ドアミラー、セントラルロック、乗降用ランプ、ドア赤色灯、前席パワーウインドウ、スイッチ照明、前席シート調整、方向指示灯
42	20A	燃料ポンプ
43	5A	エアコンディショナー、リアエアコンディショナー
44	30A	前席シート調整
45	30A	前席シート調整
46	7.5A	アンテナモジュール、盗難防止警報システム、室内センサー、けん引防止警報機能
47	–	未使用
48	–	未使用
49	40A	リアデフォッガー
50	50A	PRE-SAFE®
51	50A	PRE-SAFE®
52	–	未使用
53	–	未使用
54	15A	オプション
55	–	未使用
56	5A	オプション
57	–	未使用
58	–	未使用
59	5A	パークトロニック
60	–	未使用
61	40A	自動開閉テールゲート

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
62	30A	ランバーサポート、前席シート調整、ステアリング調整
63	–	未使用
64	30A	前席シート調整
65	15A	ADS
66	–	未使用
67	–	未使用
68	–	未使用
69	–	未使用
70	–	未使用
71	15A	ライター、12V 電源ソケット（前席）
72	15A	12V 電源ソケット（ラゲッジルーム）
73	7.5A	診断ソケット
74	15A	キーレスゴー
75	–	未使用
76	15A	12V 電源ソケット（後席）
77	–	エアバッグ
78	–	未使用
79	–	未使用
80	–	未使用
81	5A	ラジオ、電話
82	–	未使用
83	7.5A	電話、パーキングアシストリアビューカメラ
84	7.5A	ラジオ
85	7.5A	テレビ
86	–	未使用
87	–	未使用
88	–	未使用
89	20A	オプション
90	–	未使用

ランプスイッチ横のヒューズボックス *

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
116	30A	前席シート調整、ステアリング調整
117	15A	オプション
118	–	未使用
119	–	未使用
120	–	未使用
121	–	未使用
122	–	未使用
123	–	未使用
124	–	未使用
125	–	未使用
126	30A	前席シート調整

(2009-12-07 · A204 584 29 82)

i ヒューズ配置表（英文）は、車載工具にも収納されています。ヒューズ配置表にはヒューズ容量も記載されています。

i 記載の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

純正部品 / 純正アクセサリー

Daimler AG では、点検や整備に必要な純正部品を豊富に用意しています。

純正部品は厳格な基準により品質管理されています。点検や整備、修理のときは、必ず純正部品を使用してください。

アクセサリーについても、Daimler AG またはメルセデス・ベンツ日本株式会社が指定する製品だけを使用してください。

⚠ 事故のおそれがあります

どんな場合でも、ブレーキ関連部品などの重要保安部品や走行系統に使用する部品には、純正部品以外のものを使用しないでください。事故や故障の原因になります。

環　境

Daimler AG では、資源の有効利用を促進するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

ℹ 純正部品以外の部品を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

車両の電子制御部品について

⚠ 事故のおそれがあります

電子制御部品やその構成部品にかかわる作業は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

特に、安全装備や安全に関わるシステムについての作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。車両との適合性に影響を与えるおそれがあります。

! 電子制御部品およびそれに関わるコントロールユニットやセンサー、配線類などのメンテナンス作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。車両の構成部品が通常より早く摩耗したり、保証を適用できないことがあります。

! 車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。事故や故障の原因になります。また、関連する他の装備にも悪影響を与えるおそれがあります。

! 車載無線機など電装アクセサリーを装着するときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に相談してください。装着方法などが適切でないと、車の電子制御部品に悪影響を与えるおそれがあります。また、電気配線を間違えると、火災や故障の原因になります。

! 以下の場所の周辺には、エアバッグやシートベルトテンショナーの本体、乗員保護装置のコントロールユニットやセンサー類が取り付けられています。これらの部位にオーディオなどを追加装備したり、修理や鈑金作業などを行なうと、乗員保護装置の作動に悪影響を与えるおそれがあります。

- エアバッグ収納部
- シートベルト
- インストルメントパネル
- センターコンソール
- ドア
- シート
- ピラー付近
- サイドシル付近

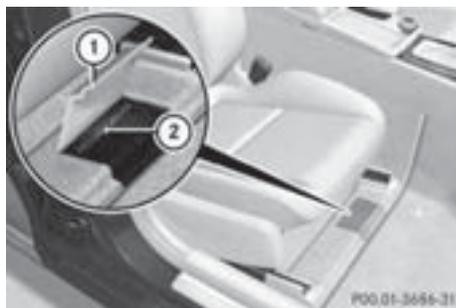
詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ビークルプレート

純正部品を注文するときに車台番号やエンジン番号などが必要になることがあります。車台番号やエンジン番号などは図の箇所に記されています。

ニューカープレート

運転席側または助手席側のセンターピラー下部に、車台番号およびカラーコードなどを記載したニューカープレート ① が貼付されています。

車台番号

右側前席下部のフレームに車台番号 ② が打刻されています。

車台番号を確認する

▶ 右側前席をもっとも後方の位置にして、シートクッション前端部を上げます。

▶ カーペット ① をめくり上げます。

車台番号 ② が確認できます。

オプションコードプレート

ボンネット裏側にオプションコードを記載したオプションコードプレート ① が貼付されています。

エンジン番号

エンジンブロックのクランクケースにエンジン番号が打刻されています。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

オイル・液類 / バッテリー

オイル・液類に関する注意

オイル・液類には以下のものが含まれます。

- 燃料
- 冷却水
- ブレーキ液
- 油脂類（エンジンオイル、オートマチックトランスミッションオイル、パワーステアリングオイルなど）
- ウォッシャー液

点検や整備、修理のときは、必ず Daimler AG またはメルセデス・ベンツ日本株式会社の指定品のみを使用してください。

詳しくは、メルセデス･ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ⓘ 指定品以外のオイル・液類を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

⚠ **けがのおそれがあります**

オイル・液類は子供の手の届かない場所に保管してください。また、火気の近くには保管しないでください。

オイル・液類が目や粘膜、傷に触れないようにしてください。万一目に入ったり皮膚に付着したときは、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

環　境

オイル・液類は、環境に配慮して廃棄してください。

燃料

⚠ **爆発のおそれがあります**

燃料は可燃性の高い物質です。燃料を取り扱うときは、火を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。

燃料を給油する前に、エンジンを停止してください。

⚠ **けがのおそれがあります**

燃料が皮膚や衣類に触れないように注意してください。

燃料が皮膚に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康に悪影響を与えます。

燃料タンク容量

燃料タンク容量	約 66 ℓ
警告灯点灯時の残量	約 8 ℓ （C 63 AMG は約 14 ℓ）

! 軽油を給油しないでください。また、軽油を混ぜたガソリンを給油しないでください。ガソリンに軽油が混じると、燃料噴射システムを損傷するおそれがあります。誤って軽油を給油して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! 指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用すると、燃料系部品の腐食や損傷などによりエンジンを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。指定以外の燃料を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! 燃料に添加剤を使用しないでください。エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。添加剤を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

燃料消費について

以下のような状況では、燃料をより消費します。

- 気温が非常に低いとき
- 市街地を走行するとき
- 短い距離を走行するとき
- 山道や坂道を走行しているとき

環　境

CO_2（二酸化炭素）の排出は、地球温暖化の大きな原因となります。

緩やかな運転を心がけ、定期的に点検・整備を行なうことにより、CO_2 排出量を最小限に抑えることができます。

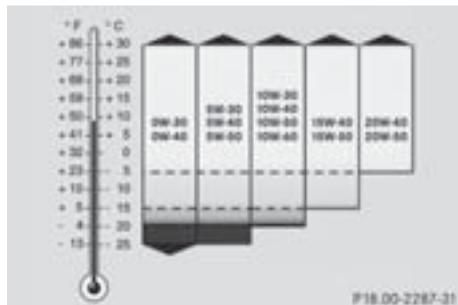
エンジンオイル

! エンジンオイルに添加剤を使用しないでください。エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。添加剤を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! エンジンオイルは、使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給もしくは交換してください。

使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

グレードと粘度は、下図を参考にして、使用する場所の外気温度に合わせて選択してください。

エンジンオイル容量

車種	容量
C 200 CGI C 250 CGI	約 5.5 ℓ
C 300	約 8.0 ℓ
C 63 AMG	約 8.5 ℓ （オイルクーラー分を含む）

ℹ 容量は、オイルフィルター分を含む交換時の数値です。

オートマチックトランスミッションオイル

オートマチックトランスミッションオイルの交換については、別冊「整備手帳」を参照してください。

❗ オートマチックトランスミッションオイルは専用品のみを使用してください。

❗ オートマチックトランスミッションオイルに添加剤を使用しないでください。トランスミッション内部の摩耗が進んだり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。添加剤を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

❗ オートマチックトランスミッションオイルの漏れを見つけたり、トランスミッションの作動に異常を感じたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ **火災のおそれがあります**

冷却水をエンジンルームにこぼさないでください。発火するおそれがあります。

不凍液の濃度

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域の最低気温によって濃度を変えます。

不凍液混合率	凍結温度
約 50%	− 37℃
約 55%	− 45℃

ブレーキ液

定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換をしてください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

指定品目	純正ブレーキ液
規格	DOT 4 プラス規格

⚠ **事故のおそれがあります**

ブレーキ液を補給するときは、ゴミや水分がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、過酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

ベーパーロックとは、長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰して気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ウォッシャー液

! ウォッシャー液は、リザーブタンクに補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。

i ウォッシャー液には夏用と冬用があります。夏用には油膜を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

ウインドウウォッシャー液とヘッドランプウォッシャー液 * のリザーブタンクは兼用です。

⚠ **けがのおそれがあります**

ウォッシャー液は可燃性の高い液体です。ウォッシャー液を取り扱うときは、火気を近付けたり、近くで喫煙しないでください。

バッテリー

車載バッテリーの電圧 / 容量

電圧	12V
容量	62Ah / 74Ah / 84Ah / 95Ah

※ バッテリーの容量は、予告なく変更されることがあります。

ビークルデータ

積載荷物の制限重量

ルーフ	100kg
トランク / ラゲッジルーム	100kg

ℹ ルーフの制限重量には、ルーフラックやアタッチメントの重量も含まれます。

トランク / テールゲートを開いたときの高さ

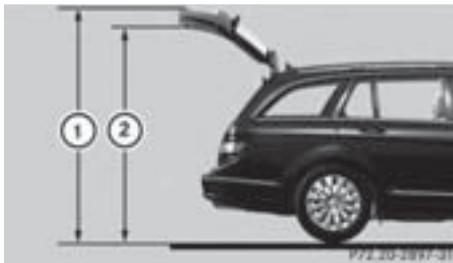
トランクまたはテールゲートをいっぱいまで開いたときの高さは、以下のようになります。

※ 車種や仕様により、数値が異なります。

セダン

① トランクを開いたときの高さ（外側）

①	1740 ～ 1763mm

ステーションワゴン

① テールゲートを開いたときの高さ（外側）
② テールゲートを開いたときの高さ（内側）

①	1984 ～ 1994mm
②	1871 ～ 1881mm

タイヤとホイール

! タイヤとホイールは必ず純正品および承認された製品を使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ABS や ESP® などの装備は、純正品および承認された製品を使用することで効果が発揮されます。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイールを装着した場合は、安全性の保証はできません。

! 純正品および承認された製品以外のタイヤやホイールを装着した場合は、操縦性や騒音、燃料消費などに影響を与えるおそれがあります。また、指定されたサイズ以外のタイヤやホイールを装着すると、フェンダーの内側やサスペンションなどに接触し、車やタイヤを損傷するおそれがあります。

i 燃料給油フラップの裏側に、規定のタイヤ空気圧を記載したラベルが貼付してあります（▷259 ページ）。

i タイヤやホイールに関して、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

標準タイヤ

! タイヤまたはホイールのサイズが前後で異なる車種は、タイヤローテーションを行なわないでください。

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
C 200 CGI ライト C 200 CGI C 200 CGI エレガンス	205/55R16	7J × 16	43mm
C 200 CGI アバンギャルド C 250 CGI アバンギャルド C 300 アバンギャルド	225/45R17	7.5J × 17	47mm
C 200 CGI アバンギャルド AMG スポーツパッケージ C 250 CGI アバンギャルド AMG スポーツパッケージ	前輪 225/45R17 後輪 245/40R17	前輪 7.5J × 17 後輪 8.5J × 17	前輪 47mm 後輪 58mm
C 300 アバンギャルド AMG スポーツパッケージ	前輪 225/40R18 後輪 255/35R18	前輪 8J × 18 後輪 8.5J × 18	前輪 50mm 後輪 54mm
C 63 AMG	前輪 235/40R18 後輪 255/35R18	前輪 8J × 18 後輪 9J × 18	前輪 45mm 後輪 54mm
C 63 AMG パフォーマンスパッケージプラス	前輪 235/35R19 後輪 255/30R19	前輪 8J × 19 後輪 9J × 19	前輪 45mm 後輪 54mm

! タイヤサイズ 245/40R17、255/35R18、255/30R19 の標準タイヤには、スノーチェーンを装着できません。

オプションまたは仕様により、以下のタイヤ / ホイールが装着される場合があります。

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
16 インチホイール	205/55R16	7J × 16	43mm
	225/50R16	7.5J × 16	53mm
17 インチホイール	225/45R17	7.5J × 17	47mm
	前輪 225/45R17 後輪 245/40R17	前輪 7.5J × 17 後輪 8.5J × 17	前輪 47mm 後輪 58mm
18 インチホイール	225/40R18	7.5J × 18	47mm
18 インチホイール	前輪 225/40R18 後輪 245/35R18	前輪 7.5J × 18 後輪 8.5J × 18	47mm 58mm
18 インチホイール	前輪 225/40R18 後輪 255/35R18	前輪 7.5J × 18 後輪 8.5J × 18	47mm 54mm
18 インチホイール	前輪 225/40R18 後輪 255/35R18	前輪 8J × 18 後輪 8.5J × 18	50mm 54mm

! タイヤサイズ 255/35R18 の標準タイヤには、スノーチェーンを装着できません。

応急用スペアタイヤ *

! 応急用スペアタイヤにスノーチェーンを装着しないでください。

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット	空気圧
C 200 CGI C 250 CGI C 300	T 125/90R16	3.5B × 16	20mm	4.2bar/ 61psi/ 420KPA
	T 125/80R17	3.5B × 17		

車種や仕様により、上記のどちらかが装備されます。

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット	空気圧
C 63 AMG	T125/70R 18	3.5B × 18	20mm	4.2bar/61psi /420KPA

ウィンタータイヤ

i ウィンタータイヤのサイズは Daimler AG が指定するもので、日本国内で発売されているスタッドレスタイヤは、表記のサイズに対応していないことがあります。

i スノーチェーンはウィンタータイヤの後輪に装着することができます。

i ウィンタータイヤやスノーチェーンについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
C 200 CGI ライト C 200 CGI C 200 CGI エレガンス	205/55R16 M+S	7J × 16	43mm
C 200 CGI アバンギャルド C 250 CGI アバンギャルド C 300 アバンギャルド	225/45R17 M+S	7.5J × 17	47mm
C 200 CGI アバンギャルド AMG スポーツパッケージ C 250 CGI アバンギャルド AMG スポーツパッケージ	225/45R17 M+S	7.5J × 17	47mm
C 300 アバンギャルド AMG スポーツパッケージ	225/40R18 M+S	8J × 18	50mm

* オプションや仕様により、異なる装備です。

C 63 AMG	225/40R18 M+S	8J × 18	45mm
	235/40R18 M+S	8J × 18	45mm
	前輪 235/40R18 M+S 後輪 255/35R18 M+S	前輪 8J × 18 後輪 9J × 18	前輪45mm 後輪54mm

! C 63 AMG の後輪に、タイヤサイズ 235/40R18 M+S または 255/35R18 M+S のウィンタータイヤを装着したときは、スノーチェーンを装着しないでください。

i C 63 AMG パフォーマンスパッケージ プラスのウィンタータイヤについてはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

対象モデル

セダン

C 200 CGI BlueEFFICIENCY
C 250 CGI BlueEFFICIENCY
C 300
C 63 AMG

ステーションワゴン

C 200 CGI BlueEFFICIENCY STATIONWAGON
C 250 CGI BlueEFFICIENCY STATIONWAGON
C 300 STATIONWAGON
C 63 AMG STATIONWAGON

"ESP®" は Daimler AG の登録商標です。

※この取扱説明書の内容は、2011 年 1 月現在のものです。